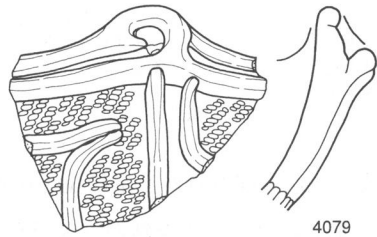


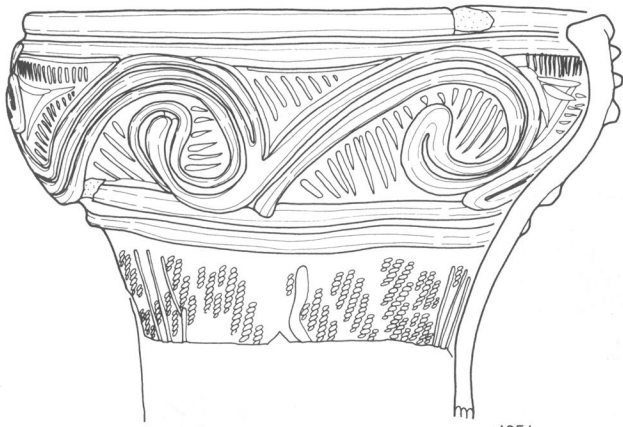
4078



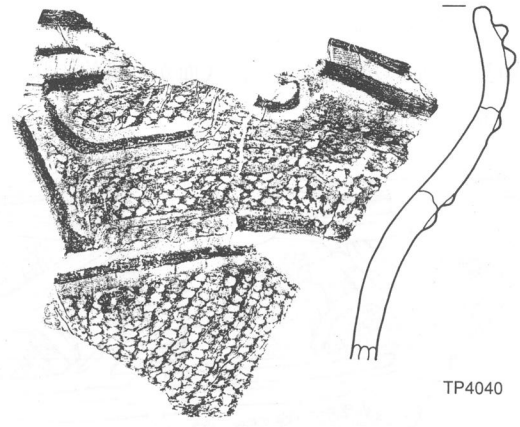
4079



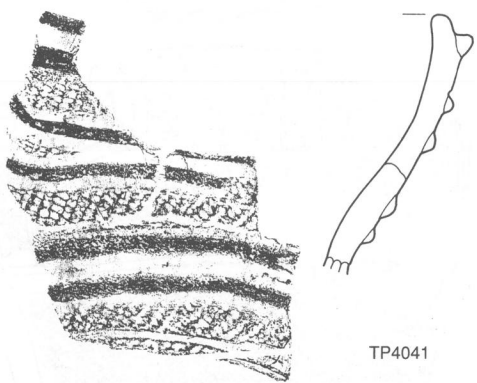
4053



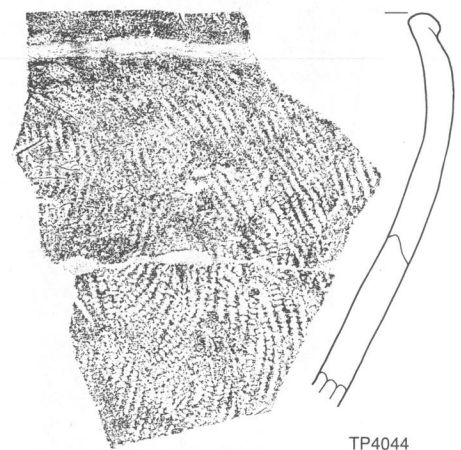
4051



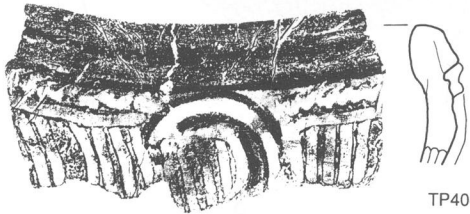
TP4040



TP4041



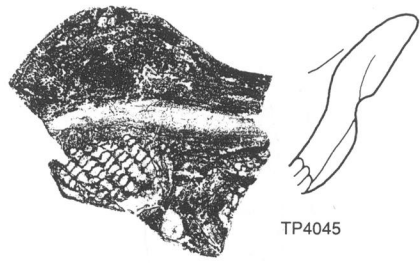
TP4044



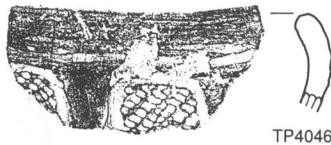
TP4042



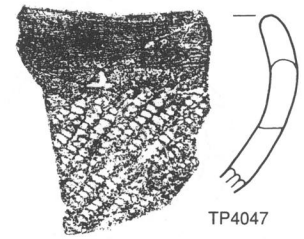
第154图 第1036号土坑出土遗物实测图 (2)



TP4045



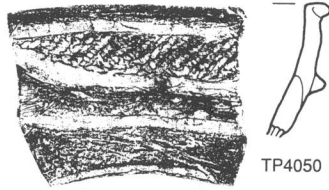
TP4046



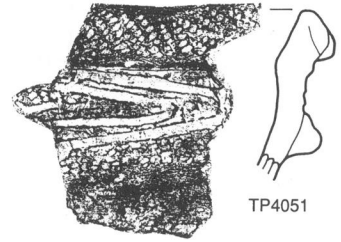
TP4047



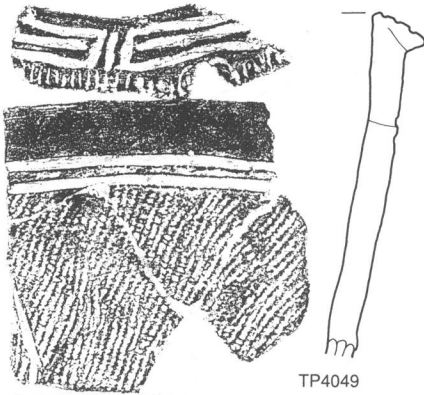
TP4048



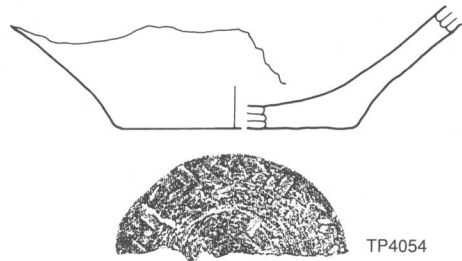
TP4050



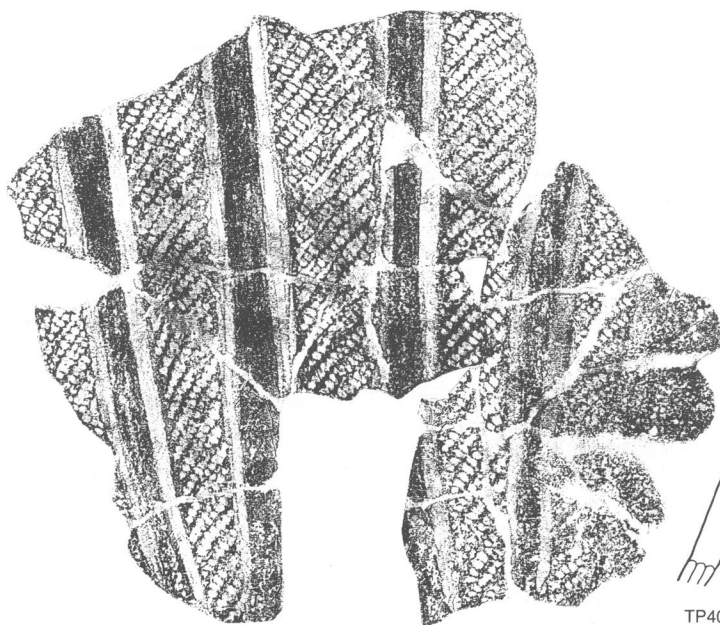
TP4051



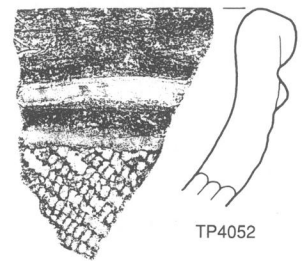
TP4049



TP4054



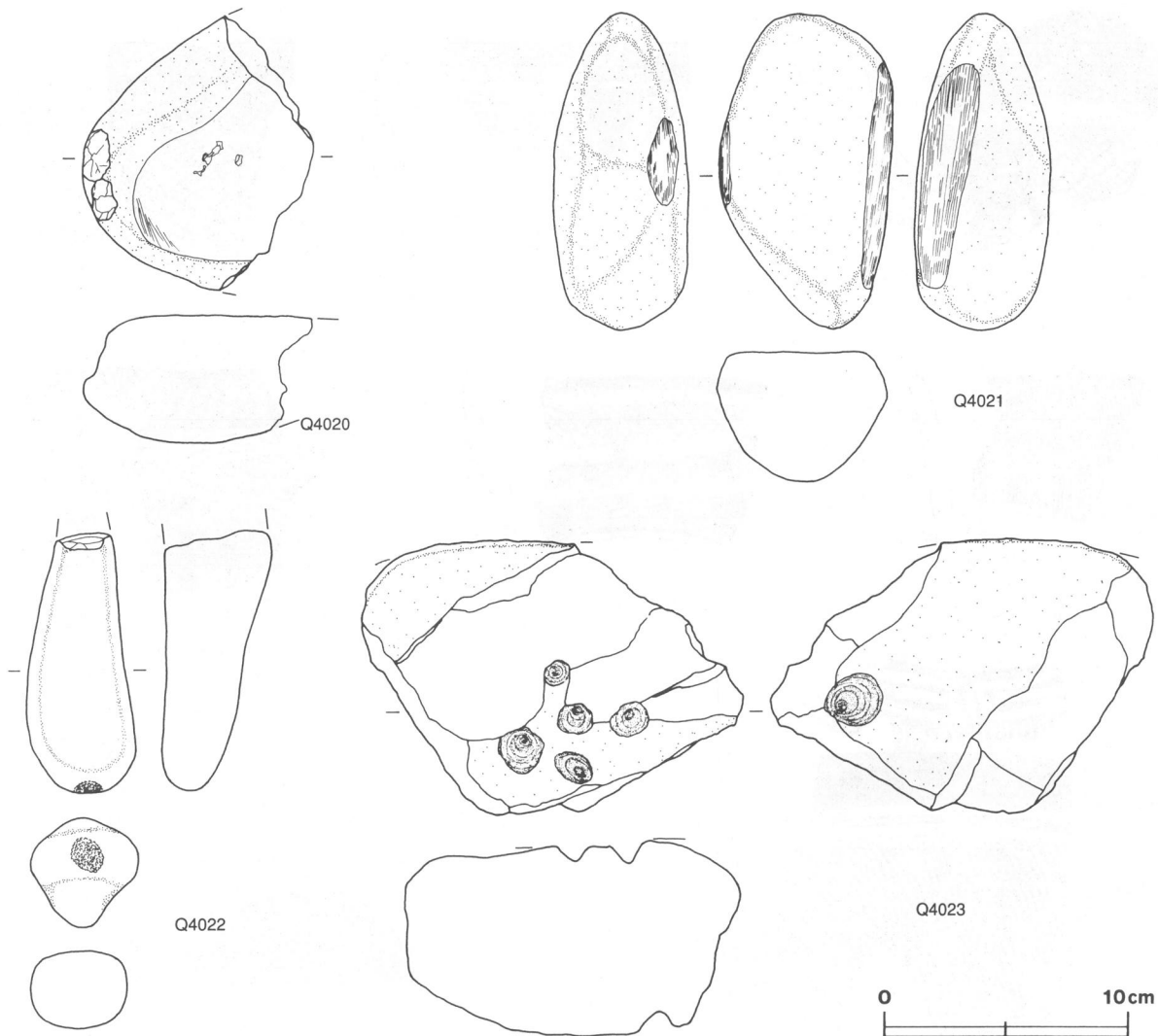
TP4053



TP4052



第155图 第1036号土坑出土遺物实测图 (3)



第156図 第1036号土坑出土遺物実測図(4)

第1036号土坑出土遺物観察表(第153~156図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
4050	縄文土器	深鉢	25.1	(35.3)	10.0	口縁部は2本単位の隆帯で区画、渦巻・弧状・刺状モチーフを施す。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	PL42
4051	縄文土器	深鉢	23.0	(16.4)	—	口縁部は2・3本の隆帯で渦巻モチーフを施し、隙間を短沈線で充填する。胴部は平行・蛇行沈線が垂下する。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	PL42
4052	縄文土器	深鉢	20.9	(16.8)	—	口縁部に2本単位の隆帯でS字状モチーフの突起、クランク状・杵状モチーフを施す。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土下層	
4053	縄文土器	ミニチュア	—	(1.1)	2.8	無文、指頭による整形痕あり。	石英	普通	橙	覆土中層	
4078	縄文土器	深鉢	[38.2]	(14.9)	—	隆帯で渦巻・クランク状・杵状モチーフを施す。地文はLR単節縄文を縦位に施文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
4079	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	2本単位の隆帯で渦巻・クランク状・杵状モチーフを施す。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP4040	縄文土器	深鉢	—	(13.9)	—	口縁部は沈線を沿わせた隆帯でクランク状モチーフを描出する。地文はRL単節縄文を施文。	石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP4041	縄文土器	深鉢	—	(10.1)	—	口縁部は沈線を沿わせた隆帯でクランク状モチーフを描出する。地文はRL単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP4042	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	背に沈線を伴う隆帯で渦巻モチーフを施し、隙間を沈線で充填する。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP4044	縄文土器	深鉢	—	(15.4)	—	口縁部端に1条の沈線を巡らす。地文はRL単節縄文を多方向に施文。	長石・雲母	普通	橙	覆土上層	
TP4045	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	沈線を伴う隆帯で楕円区画、地文はRL単節縄文を横位に施文。	石英・雲母	普通	黄橙	覆土下層	
TP4046	縄文土器	深鉢	—	(3.9)	—	沈線で楕円区画し、内部にRL単節縄文を縦位に施文。	長石・雲母	普通	黒褐	覆土中層	
TP4047	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	地文はRL単節縄文を縦位に施文。	石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	
TP4048	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	蛇行する集合沈線文を施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP4049	縄文土器	深鉢	—	(13.5)	—	口唇部上面は沈線で杵状モチーフや刻み列を施し、胴部は2条の沈線を巡らす。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP4050	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	沈線を沿わせた隆帯でモチーフを描出する。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・雲母	普通	黒褐	覆土中層	
TP4051	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	隆帯で区画、内部に沈線で弧状のモチーフを描出する。地文はRL単節縄文を横位に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中層	
TP4052	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	沈線を沿わせた無文帯が垂下する。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP4053	縄文土器	深鉢	—	(22.5)	—	沈線を伴う隆帯で楕円区画、地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	浅黄橙	覆土上層	
TP4054	縄文土器	浅鉢	—	(4.5)	—	内外面丁寧な磨き。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	底部網代痕

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)				
Q4020	磨石	(11.0)	(9.3)	5.2	(580.3)	石英斑岩	片面に細かい擦痕あり。	覆土中層	
Q4021	磨石	12.8	7.0	5.6	624.7	安山岩	両側縁部に明瞭な研磨痕あり。	覆土中層	
Q4022	敲石	(10.5)	5.5	3.1	239.5	砂岩	下端に敲打痕あり。	覆土中層	
Q4023	凹石	(15.5)	(11.3)	(8.1)	(1517.1)	砂岩	両面に断面V字状のくぼみを複数有する。	覆土中層	

第1046号土坑 (第136・157・158図)

位置 調査2区の北西部、C2b9区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。本跡の南東部は撓乱により破壊されている。

重複関係 西側で第1068号土坑及び第1080号土坑、南側で第1047号土坑、下位で第1063号土坑を掘り込み、第1009号土坑に北壁及び西壁の上部を掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.62m、短径1.96m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.50m、短径1.92m程度の楕円形と推定される。確認面からの深さは86cmで、壁は全体的に直立する。しかし、土層観察からは、西壁では下位から中位にかけて内傾して立ち上がり、上位で外傾して立ち上がることが確認されている。なお、底面からくびれ部までの高さは、平均63cmである。ピットは5か所で、P1～P3・P5は壁際及び壁寄りに、P4は中央部に位置している。P1は深さ31cm、P2は深さ28cm、P3は深さ35cm、P4は深さ52cm、P5は深さ21cmである。

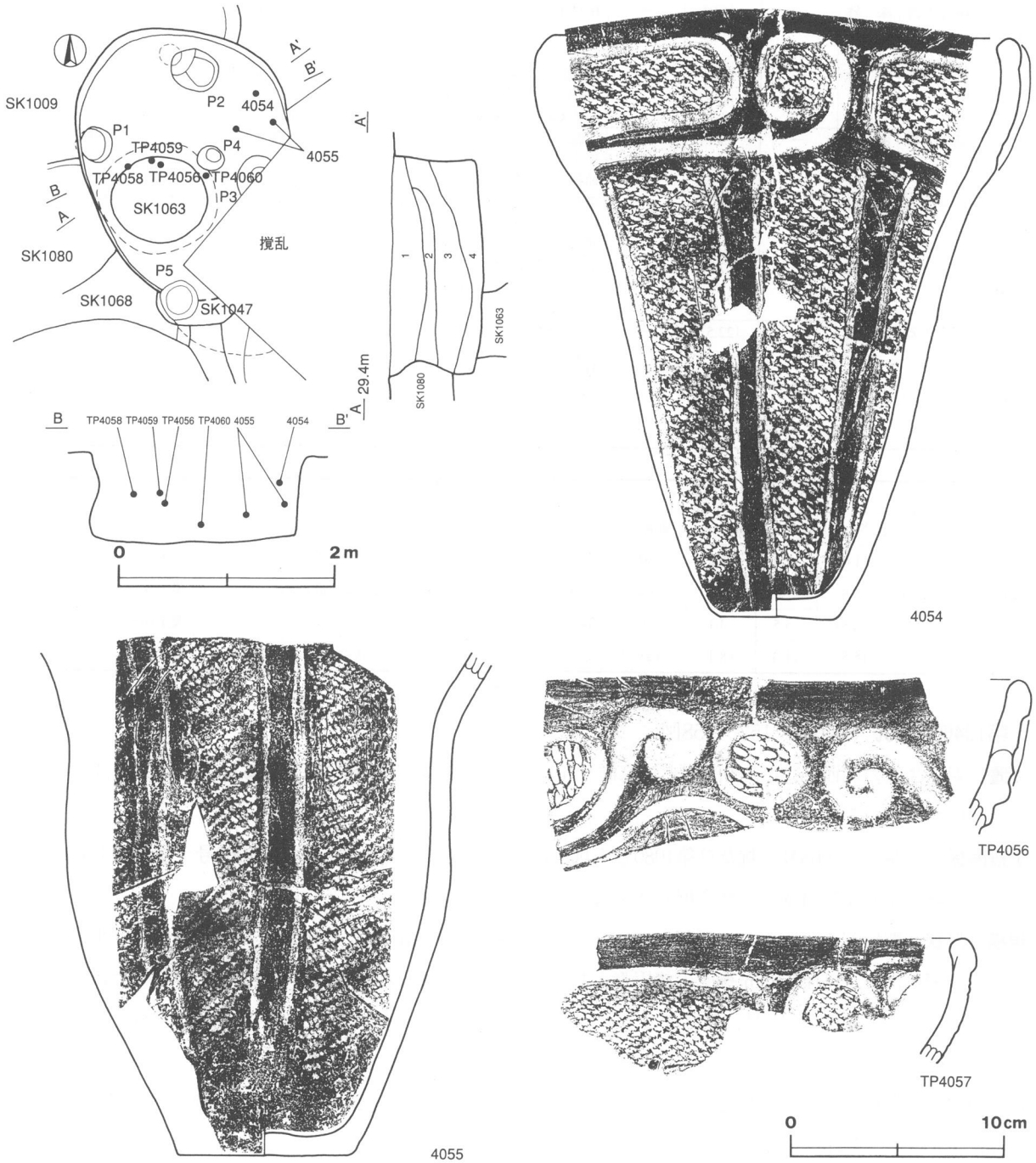
覆土 4層に分層される。堆積状況に乱れなどもないため、自然堆積と考えられる。

土層解説

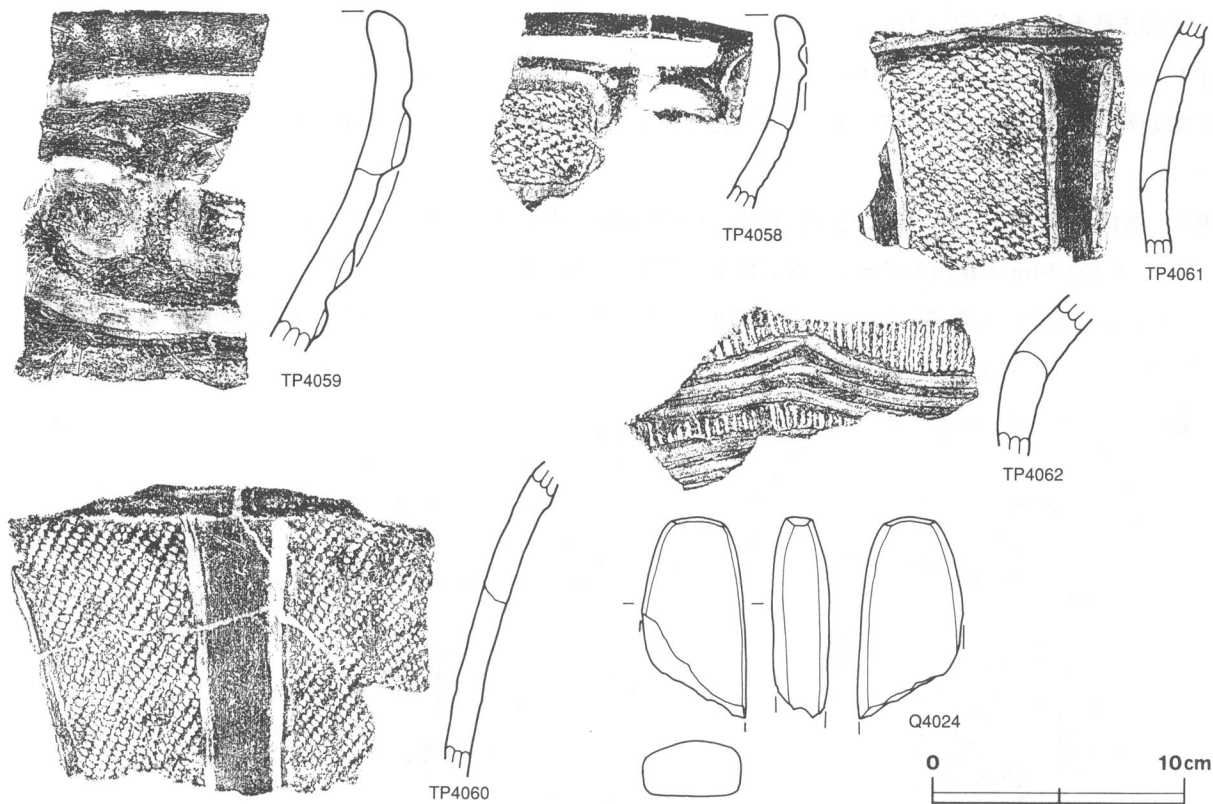
- | | | | |
|-------|--------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, ローム粒子少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片277点, 磨製石斧1点, 礫18点が, 覆土中層から下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。全体的には覆土中層の第3層に遺物の集中が見られ, 特に, 縄文土器の大形破片は東壁寄りの位置から出土している。

所見 本跡が廃絶され, ある程度埋まりかけた時点で, 縄文土器の大形破片などが廃棄されたと考えられるため, 本跡の廃絶時期を出土遺物から判断することは困難であるが, 覆土中層の堆積時期は, 縄文時代中期後葉(加曽利EⅡ式期)と判断される。



第157図 第1046号土坑・出土遺物実測図



第158図 第1046号土坑出土遺物実測図

第1046号土坑出土遺物観察表 (第157・158図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
4054	縄文土器	深鉢	—	27.0	5.7	口縁部に沈線と隆帯で、渦巻モチーフと隅丸長方形の枠状モチーフを施す。胴部は沈線を伴う無文帯が垂下する。	長石・石英	普通	浅黄橙	覆土中層	
4055	縄文土器	深鉢	—	(28.8)	8.0	胴部に沈線を伴う無文帯を垂下させる。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP4056	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	口縁部に沈線と隆帯で、渦巻モチーフと棒状工具による連続刺突文を配した楕円形の枠状モチーフを施す。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	
TP4057	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	口縁部に沈線で楕円形の枠状モチーフを施す。内部にLR複節縄文を縦位に施文。	石英・雲母	普通	褐	覆土中層	
TP4058	縄文土器	深鉢	—	(6.7)	—	口縁部に沈線で隅丸長方形の枠状モチーフを施す。内部にLR複節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土中層	
TP4059	縄文土器	深鉢	—	(13.4)	—	口縁部に沈線と隆帯で渦巻・枠状モチーフを施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP4060	縄文土器	深鉢	—	(11.5)	—	胴部に沈線を沿わせた無文帯を垂下させる。地文はRL単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP4061	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	胴部に沈線を沿わせた無文帯を垂下させる。地文はLRL複節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土中層	
TP4062	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	胴部に3本単位の沈線を巡らす。地文は撚糸文を施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土中層	

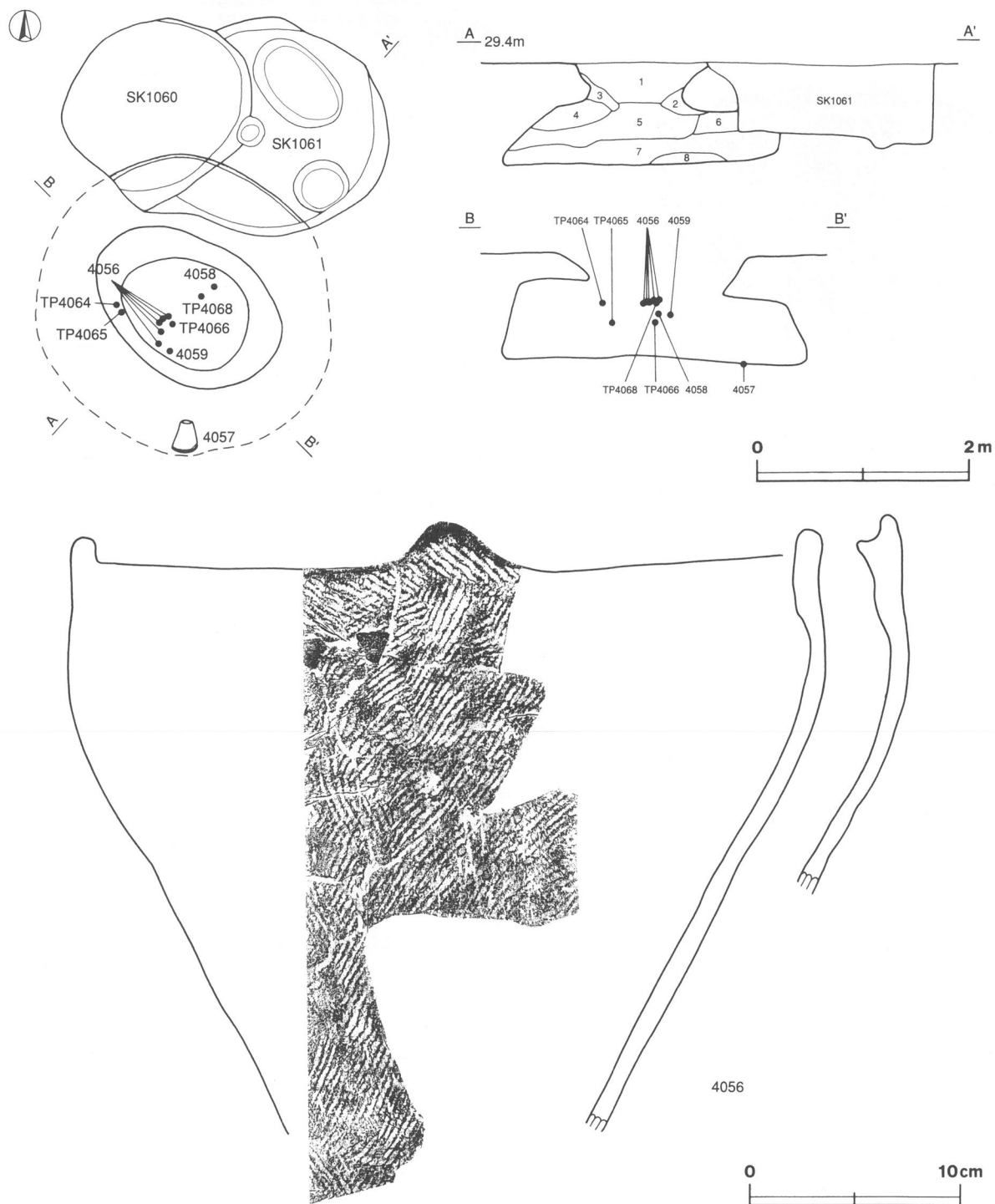
番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q4024	磨製石斧	(8.0)	4.2	(2.3)	(120.2)	閃緑岩	定角式, 全面を研磨し, 刃部を欠損する。	覆土中層	

第1065号土坑（第159～161図）

位置 調査2区の北西部，C2a0区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

重複関係 第1061号土坑に北壁の中位を掘り込まれている。また，北側で第1060号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，長径1.92m，短径1.14mの楕円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.92m，短径2.64mの楕円形である。確認面からの深さは101cmで，壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，ほぼ水平の天井部に至る。くびれ部から壁の上位は緩やかに立ち上がる。また，底面からくびれ部までの高さは，平均57cmである。



第159図 第1065号土坑・出土遺物実測図

覆土 8層に分層される。第1～6層は開口部からの土砂の流入による自然堆積である。遺物は中層の第5層を主体に、縄文土器や大形破片などが廃棄されたような状態で出土している。下層の第7層は出土遺物がほとんどなく、短期間に堆積したと推定され、堆積範囲の狭い最下層の第8層とともに、人為堆積の可能性が考えられる。

土層解説

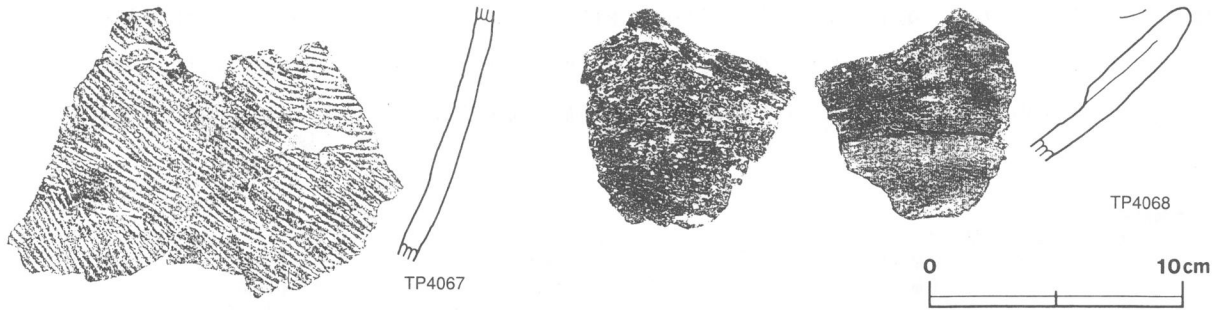
- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量，ロームブロック微量 | 5 黒褐色 炭化材・鹿沼パミス少量，ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | 7 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片164点，剥片4点，礫8点が，主に覆土中層の第5層から廃棄されたような状態で出土している。また，完形の縄文土器の深鉢が，南壁際の底面直上から斜位の状態で出土している。

所見 本跡の廃絶時期は，南壁際の床面直上から斜位の状態で出土している4057などから，縄文時代中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と判断される。



第160図 第1065号土坑出土遺物実測図（1）



第161図 第1065号土坑出土遺物実測図（2）

第1065号土坑出土遺物観察表（第159～161図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
4056	縄文土器	深鉢	[34.4]	(29.0)	—	口縁部は内側に円形のくぼみを付けた突起が配され、外面はR無節縄文を多方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
4057	縄文土器	深鉢	22.7	(29.8)	9.9	口縁部は緩やかな波状を呈し、口唇部端に刻みを施す。外面はRL単節縄文を疎らに施文。	石英・雲母	普通	橙	底面	PL42 底部網 代痕
4058	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	—	口縁部に3本の隆帯を巡らし、環状把手やX字状の隆帯で楕円形の棒状モチーフを施し、内部に連続爪形文を横位に施す。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	
4059	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	9.6	無文、底部網代痕あり。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP4063	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	口縁部は隆帯で連続する弧状モチーフを描出する。地文はL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP4064	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	頸部下端に隆帯を巡らし、胴部に隆帯を垂下させる。地文はL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土中層	
TP4065	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	口縁部に半截竹管状工具による平行沈線を沿わせた隆帯で楕円形の棒状モチーフを施す。地文はR単節縄文を横位に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土中層	
TP4066	縄文土器	深鉢	—	(3.5)	—	口縁部内面に稜を巡らし、外面は撚糸文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土中層	
TP4067	縄文土器	深鉢	—	(10.8)	—	胴部に半截竹管状工具による平行沈線を蛇行させる。地文はL単節縄文を斜位・縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP4068	縄文土器	浅鉢	—	(6.2)	—	口縁部は波状を呈し、内面に稜を巡らす。無文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土中層	

第1072号土坑（第162・163図）

位置 調査2区の北西部、C2e8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第145号住居跡の南西部を掘り込んでいる。南側で第1117号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は、長径2.90m、短径2.08mの楕円形である。確認面からの深さは45cmで、壁は外傾して立ち上がる。底面は皿状を呈している。ピットは6か所で、中央部から北側に位置する。P1は深さ75cm、P2は深さ69cm、P3は深さ26cm、P4は深さ51cm、P5は深さ67cm、P6は深さ36cmである。

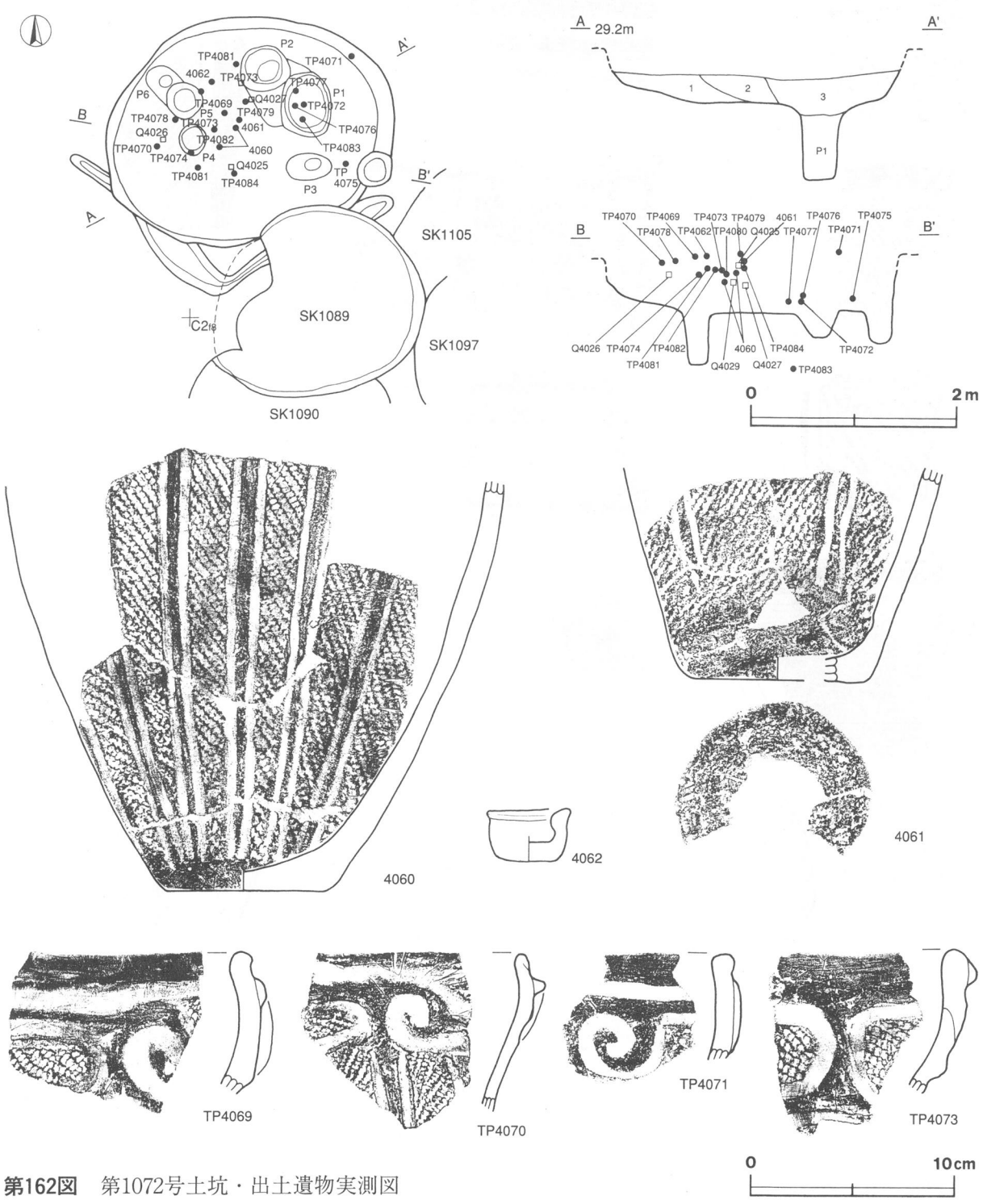
覆土 3層に分層される。堆積状況に乱れなどもないため、自然堆積と思われる。

土層解説

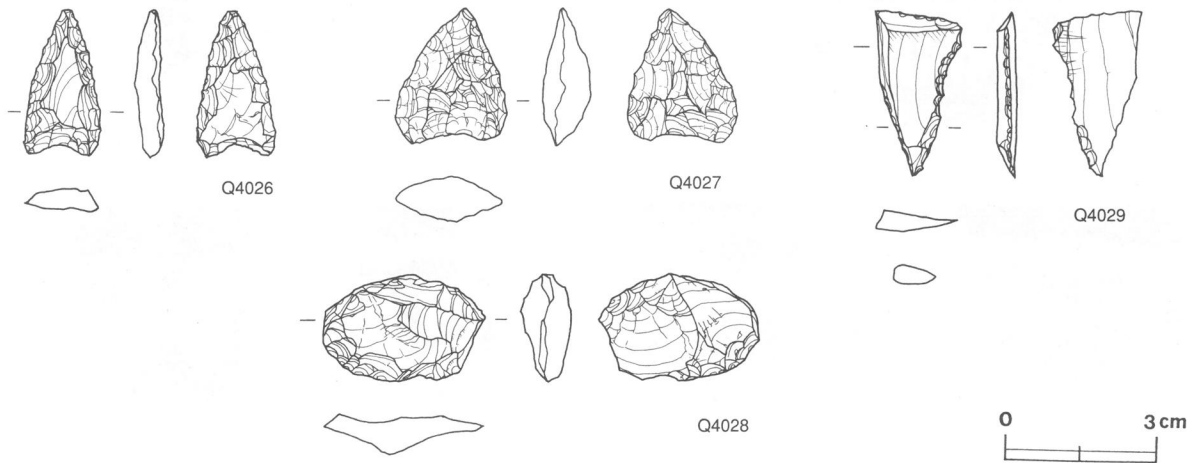
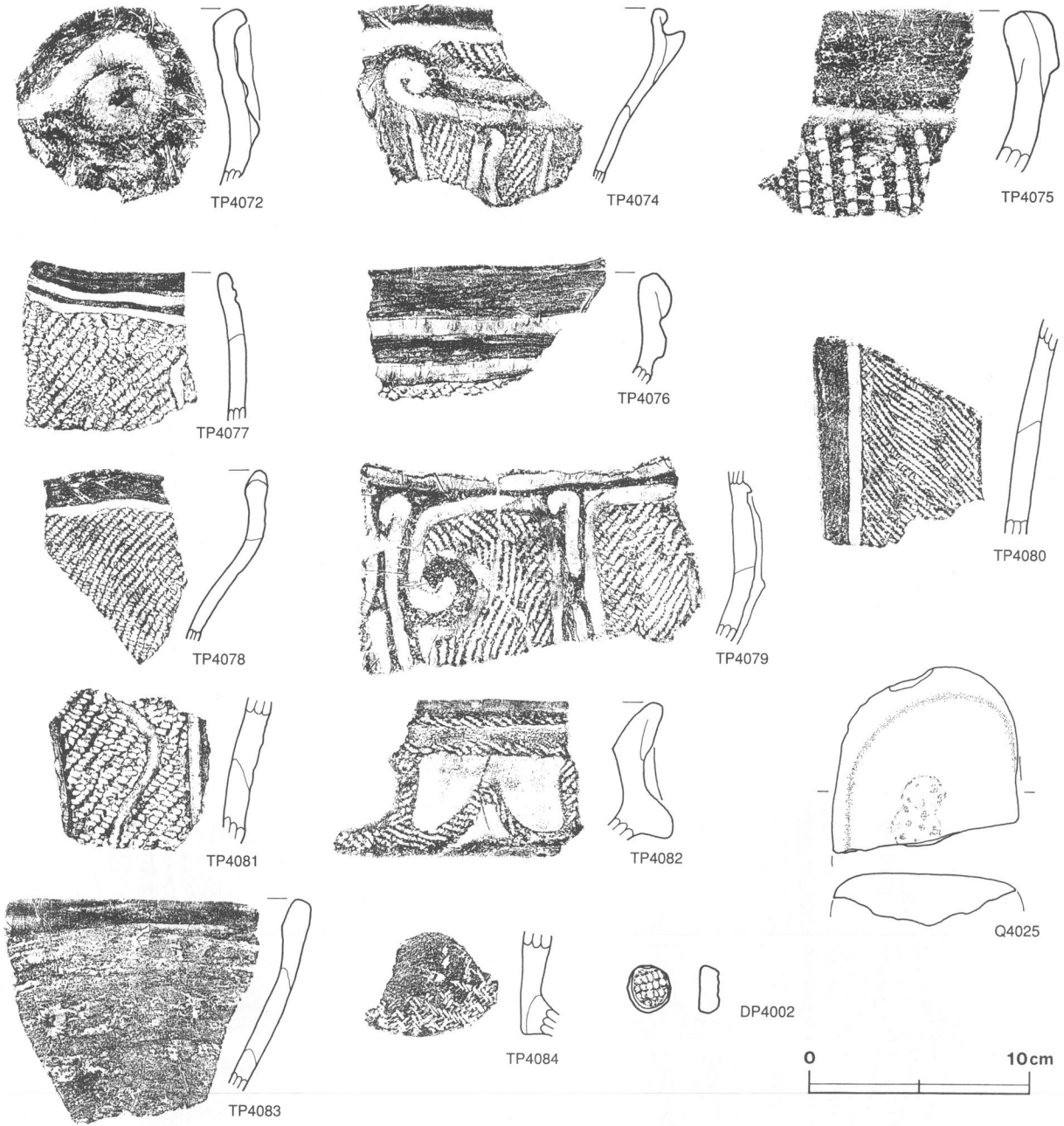
- 1 極暗褐色 ロームブロック・粘土粒子・鹿沼パミス少量、炭化物・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物・粘土粒子・焼土粒子・鹿沼パミス少量、ロームブロック微量
- 3 黒褐色 炭化物・焼土粒子・粘土粒子少量、ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片608点, 土器片円盤1点, 石鏃2点, 搔器1点, 削器1点, 磨石1点, 剥片7点, 礫19点が, 覆土上層から下層にかけて満遍なく出土している。縄文土器片に混じって, 石器類が多く出土している。

所見 遺物は, 全体的に縄文土器片などが周りから流れ込んだような状態で出土している。しかし, 石器類の出土が目立ち, また, 第145号住居跡の廃絶時期よりも新しい縄文土器片などが出土しているため, 流れ込みによるものだけではなく, 廃棄されたものも含んでいると考えられる。本跡の廃絶時期は, その出土遺物などから, 縄文時代中期後葉(加曾利EⅡ式期)と判断される。



第162図 第1072号土坑・出土遺物実測図



第163图 第1072号土坑出土遗物实测图

第1072号土坑出土遺物観察表（第162・163図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
4060	縄文土器	深鉢	—	(20.0)	8.0	沈線を沿わせた無文帯が垂下する。地文はLR単節縄文を縦位に施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中層	
4061	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	8.7	2本単位の沈線が蛇行しながら垂下する。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英	普通	明赤褐	覆土上層	底部網代痕
4062	縄文土器	ミニチュア	4.1	2.6	2.7	口縁部内面に稜を巡らす。無文。	石英	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP4069	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	口縁部に沈線を沿わせた隆帯で渦巻・楕円形の棒状モチーフを施す。地文はLR単節縄文を斜位に施文。	長石・雲母	普通	暗褐	覆土上層	
TP4070	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	口縁部は沈線を沿わせた隆帯で渦巻・楕円形の棒状モチーフを施し、胴部は沈線を沿わせた無文帯を垂下させる。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土上層	
TP4071	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	口縁部に沈線を沿わせた隆帯で渦巻・楕円形の棒状モチーフを施す。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土上層	
TP4072	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	波状口縁部、指頭による沈線で渦巻モチーフを施す。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土下層	
TP4073	縄文土器	深鉢	—	(7.0)	—	口縁部に沈線を沿わせた隆帯で楕円形の棒状モチーフを施す。地文はLR単節縄文を縦位に施す。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土上層	
TP4074	縄文土器	深鉢	—	(9.0)	—	口縁部は沈線で渦巻・楕円形の棒状モチーフを施し、胴部は沈線を沿わせた無文帯を垂下させる。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	
TP4075	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	口縁部に棒状工具の押し引きによる結節沈線文を縦位に施す。	長石・石英・雲母	普通	黄橙	覆土下層	
TP4076	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	口縁部に沈線を沿わせた隆帯を巡らす。	長石・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP4077	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	口縁部端に2本単位の沈線を巡らす。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP4078	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	口縁部端に沈線を巡らす。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	石英・雲母	普通	暗褐	覆土上層	
TP4079	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	胴部は沈線を沿わせた隆帯に渦巻モチーフを加飾して垂下し、棒状の区画を形成する。地文はRL単節縄文を多方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	
TP4080	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	胴部に沈線を沿わせた無文帯を垂下させる。地文はLR単節縄文を縦位に施文。	長石・雲母	普通	黒	覆土中層	
TP4081	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	口唇部上面は沈線で棒状モチーフや刻み列を施し、胴部は2条の沈線を巡らす。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土中層	
TP4082	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	口縁部に隆帯で棒状モチーフを形成し、隆帯上にR単節縄文を施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP4083	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	口縁部内面に稜を巡らす。無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	P1	
TP4084	縄文土器	深鉢	—	(1.5)	—	底部に網代痕を有する。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP4002	土器片円盤	2.0	2.2	0.9	4.7	長石・石英・雲母、暗褐	完形、全周研磨。	覆土中層	

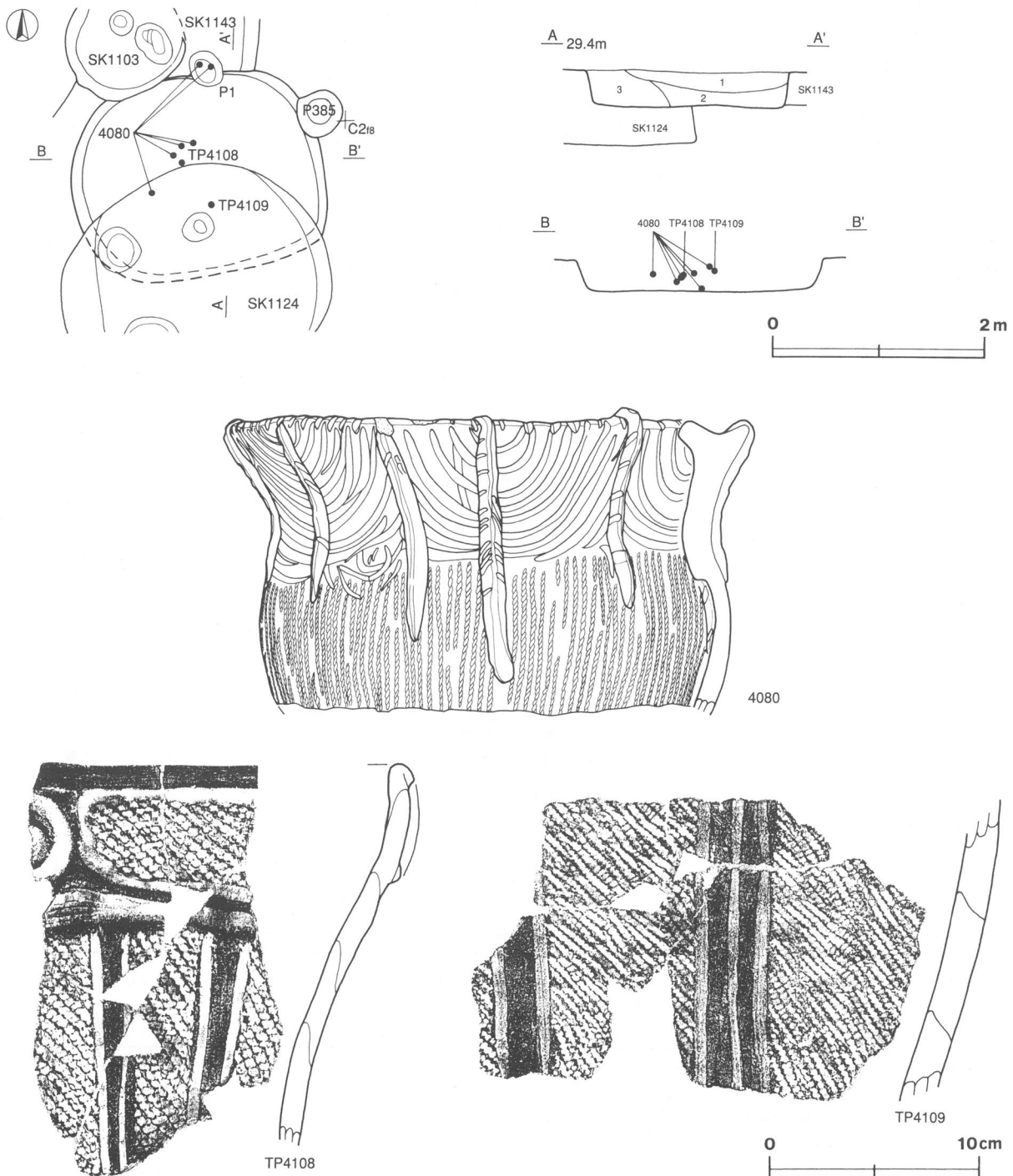
番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q4025	磨石	(8.5)	(8.4)	(2.4)	(230.7)	閃緑岩	中央部に敲打痕あり。	覆土中層	
Q4026	石鏃	2.9	1.5	0.6	2.4	チャート	凹基無茎鏃、両面調整。	覆土中層	

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q4027	石 鏃	2.2	2.7	0.9	3.7	流紋岩	凹基無茎鏃, 両面調整。	覆土中層	
Q4028	搔 器	2.1	3.2	1.1	5.6	チャート	側縁部に両面から調整を施す。	覆土中層	
Q4029	削 器	1.7	3.3	0.4	2.1	チャート	2側縁に主要剥離面側から細かい調整を施し, 尖頭状を呈する。	覆土中層	

第1079号土坑 (第164図)

位置 調査2区の北西部, C2f7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 北側で第1143号土坑, 南側で第1124号土坑を掘り込んでいる。



第164図 第1079号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.42m、短径1.89mの楕円形である。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは33cmで、壁は全体的に直立する。ピットは1か所で、北壁に位置する。P1は深さ21cmである。

覆土 3層に分層される。レンズ状堆積から自然堆積である可能性が高いと思われる。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗黒色 ロームロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片50点、礫8点が、覆土中層から下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。

所見 本跡の廃絶時期は、覆土中層から下層にかけて廃棄されたような状態で出土した4080や大形破片などから、縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ～Ⅲ式期）と判断される。

第1079号土坑出土遺物観察表（第164図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
4080	縄文土器	深鉢	24.3	(14.4)	—	口唇部内面に隆帯を貼付。口縁部は沈線で重弧状文を描き、隆帯を口唇部から胴部にかけて等間隔に垂下させる。地文は燃り糸文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	P L43
TP4108	縄文土器	深鉢	—	(18.0)	—	口縁部は沈線を沿わせた隆帯で渦巻・楕円形の枠状モチーフを施し、胴部は沈線を沿わせた無文帯を垂下させる。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中層	
TP4109	縄文土器	深鉢	—	(13.6)	—	胴部に沈線を沿わせた無文帯を垂下させる。地文はLR単節縄文を縦位に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	

第1081号土坑（第165図）

位置 調査2区の北西部、C2e8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 北側で第1112号土坑、南側で第1077号土坑を掘り込み、東側で第1078号土坑及び第145号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.38m、短径1.90m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦である。確認面からの深さは50cmで、西壁は内傾して立ち上がり、その他の部分で直立する。

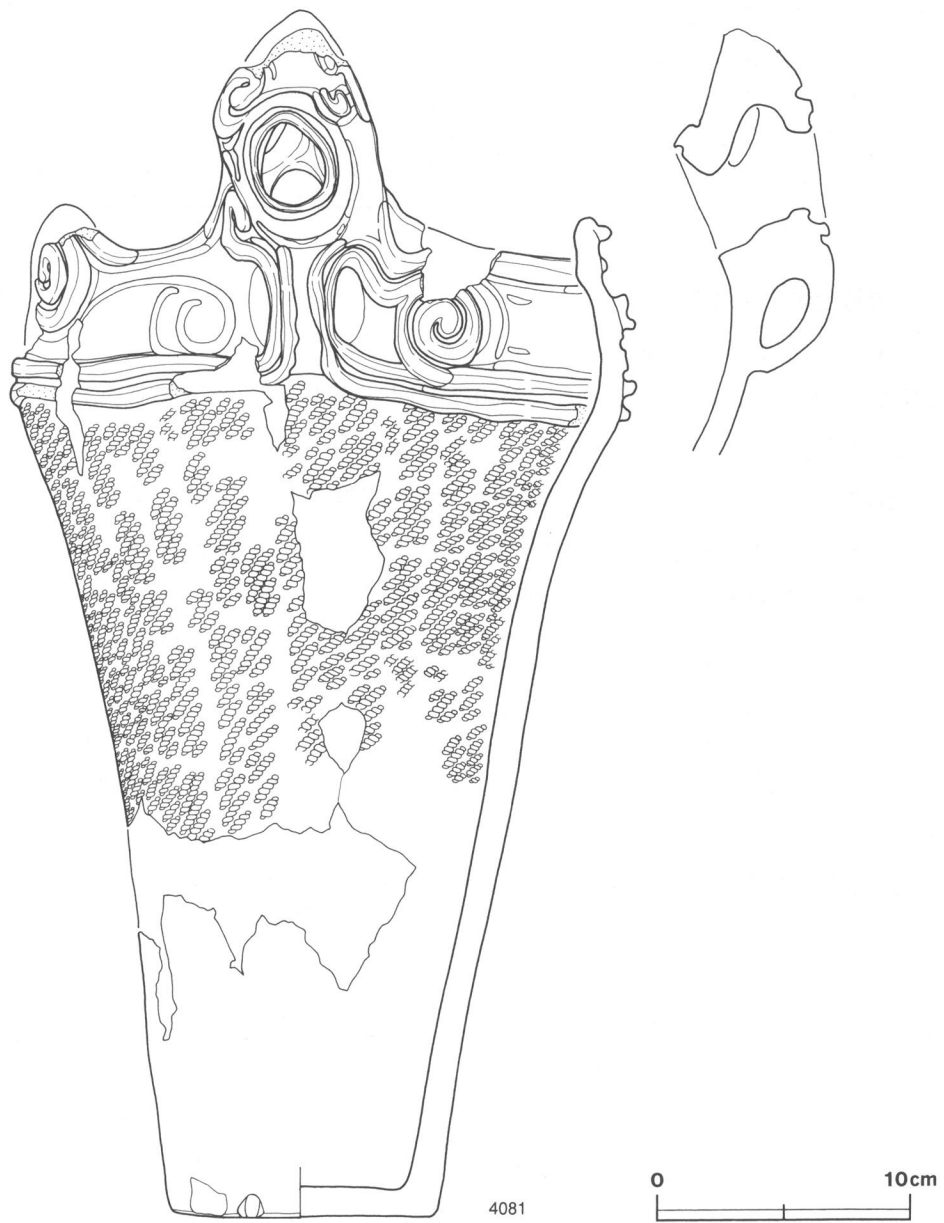
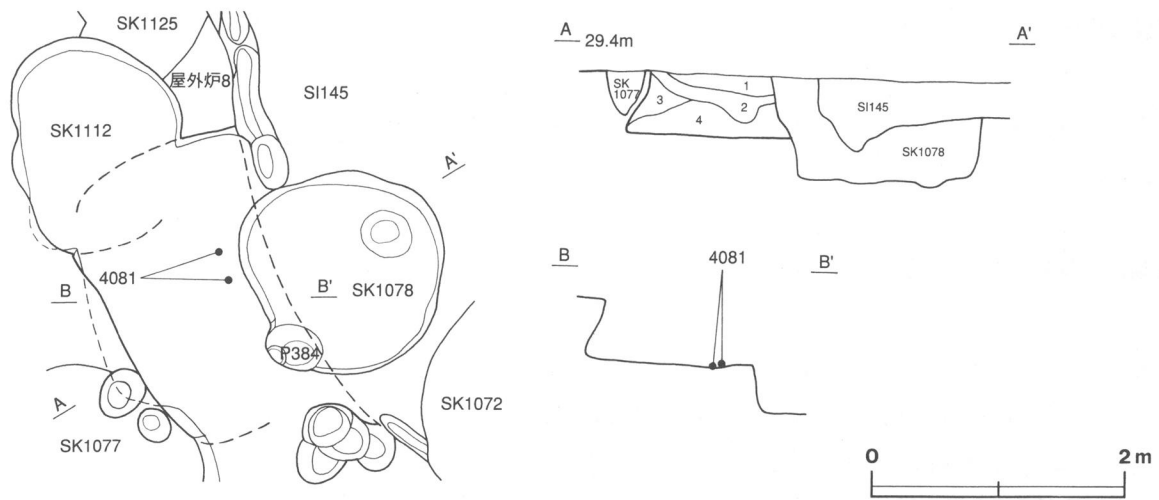
覆土 4層に分層される。第4層は底面に凸状に堆積し、ロームブロックを多量に含んでいるため、人為的に埋め戻された可能性が考えられる。他層は含有物が均質で、レンズ状堆積のため、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒黒色 ロームロック少量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片23点、礫15点が、覆土中層から下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。

所見 本跡の廃絶時期は、底面から廃棄されたような状態で出土した4081などから、縄文時代中期後葉（加曾利EⅠ式期）と判断される。



第165図 第1081号土坑・出土遺物実測図

第1081号土坑出土遺物観察表（第165図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
4081	縄文土器	深鉢	(20.8)	(47.2)	10.5	把手は隆帯と沈線で渦巻モチーフの加飾を施し、4方に開口する。口縁部は沈線と隆帯による渦巻文。地文はRL単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	底面	PL43

第1091号土坑（第166・167図）

位置 調査2区の北部、C3d1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 北側で第1095号土坑を掘り込んでいる。南西側で第1151号土坑及び第1152号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は、長径1.94m、短径1.76mの楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.80m、短径1.44mの楕円形である。確認面からの深さは85cmで、壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり、上位は外傾して立ち上がる。

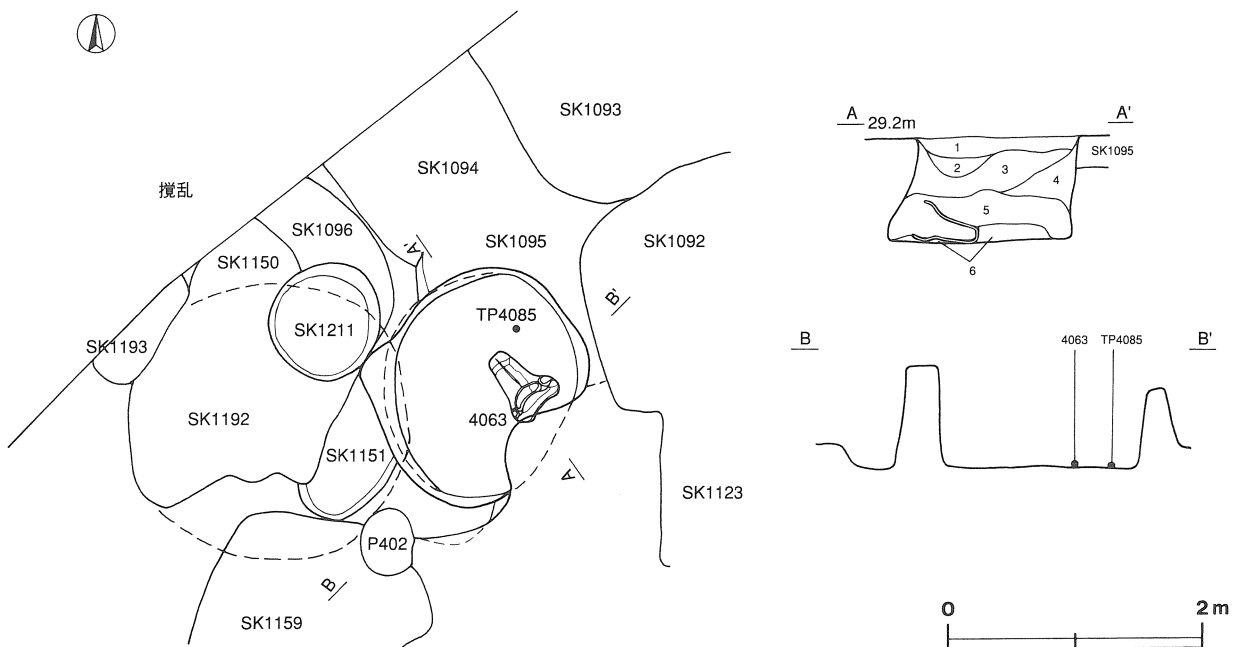
覆土 6層に分層される。最下層の第6層は、ロームブロックやローム粒子、鹿沼パミス、焼土粒子を比較的多く含み、完形の縄文土器の深鉢が横位の状態で出土していることなどから、人為堆積と考えられる。

土層解説

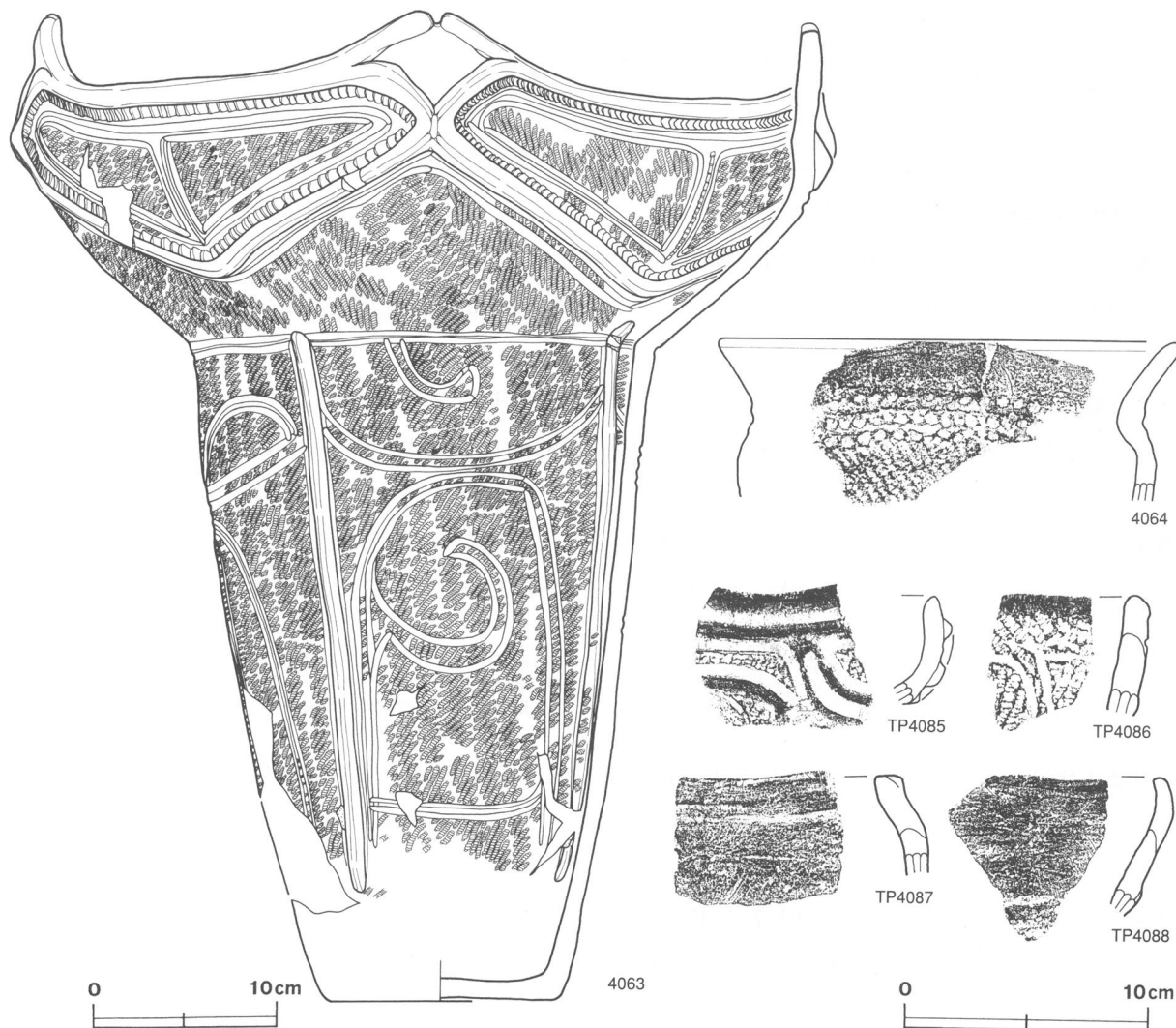
- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・粘土粒子・鹿沼パミス少量 |

遺物出土状況 縄文土器片204点、剥片1点、礫9点が、覆土上層から中にかけて廃棄されたような状態で出土している。また、底面からは完形の縄文土器の深鉢が、口縁部を南東壁に向けた横位の状態で出土している。

所見 4063は、床面から口縁部を南東壁に向けた横位の状態で出土しているが、正位に起こした場合、底面中央に位置することになる。本跡の廃絶時期は、その出土遺物などから、縄文時代中期中葉（阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期）と判断される。



第166図 第1091号土坑実測図



第167図 第1091号土坑出土遺物実測図

第1091号土坑出土遺物観察表（第167図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
4063	縄文土器	深鉢	41.6	54.4	12.4	口縁部は沈線と半截竹管による結節沈線を沿わせた隆帯で逆三角形の枠状モチーフを形成し、内部を2分割するように沈線で三角形の枠状モチーフを描く。胴部は縦位の隆帯区内に2本単位の沈線で渦巻や弧状モチーフを施す。地文はRL単節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	底面	P L 42
4064	縄文土器	深鉢	[19.0]	(6.5)	—	口縁部無文、頸部に棒状工具による連続刺突文を横位に3段施す。地文はLR単節縄文を縦位に施す。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
TP4085	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	口縁部に沈線を沿わせた隆帯でモチーフを施す。	長石・石英・雲母	普通	明褐	底面	
TP4086	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	口縁部に沈線でモチーフを施す。地文はRL単節縄文を羽状構成に施す。	長石・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP4087	縄文土器	深鉢	—	(7.8)	—	口縁部に丁寧なナデを施す。	石英・雲母	普通	褐	覆土下層	
TP4088	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	口縁部に丁寧なナデを施し、下端に隆帯を巡らす。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	

第1097号土坑（第168～170図）

位置 調査2区の北西部，C2f8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 北西側で第1090号土坑の下位に存在する第1089号土坑と接し，北側で第1105号土坑を掘り込んでい
る。また，北西側で第1090号土坑，東側で第404号ピットと重複し，第152号住居跡及び第153号住居跡の推定
範囲の中に位置するが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，長径2.22m，短径2mの楕円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は径
2.08mの円形である。確認面からの深さは64cmで，北壁は直立し，東壁及び南壁は外傾して立ち上がり，西
壁は内傾して立ち上がる。ピットは3か所で，いずれも壁寄りに位置する。P1は深さ56cm，P2は深さ
18cm，P3は深さ15cmである。

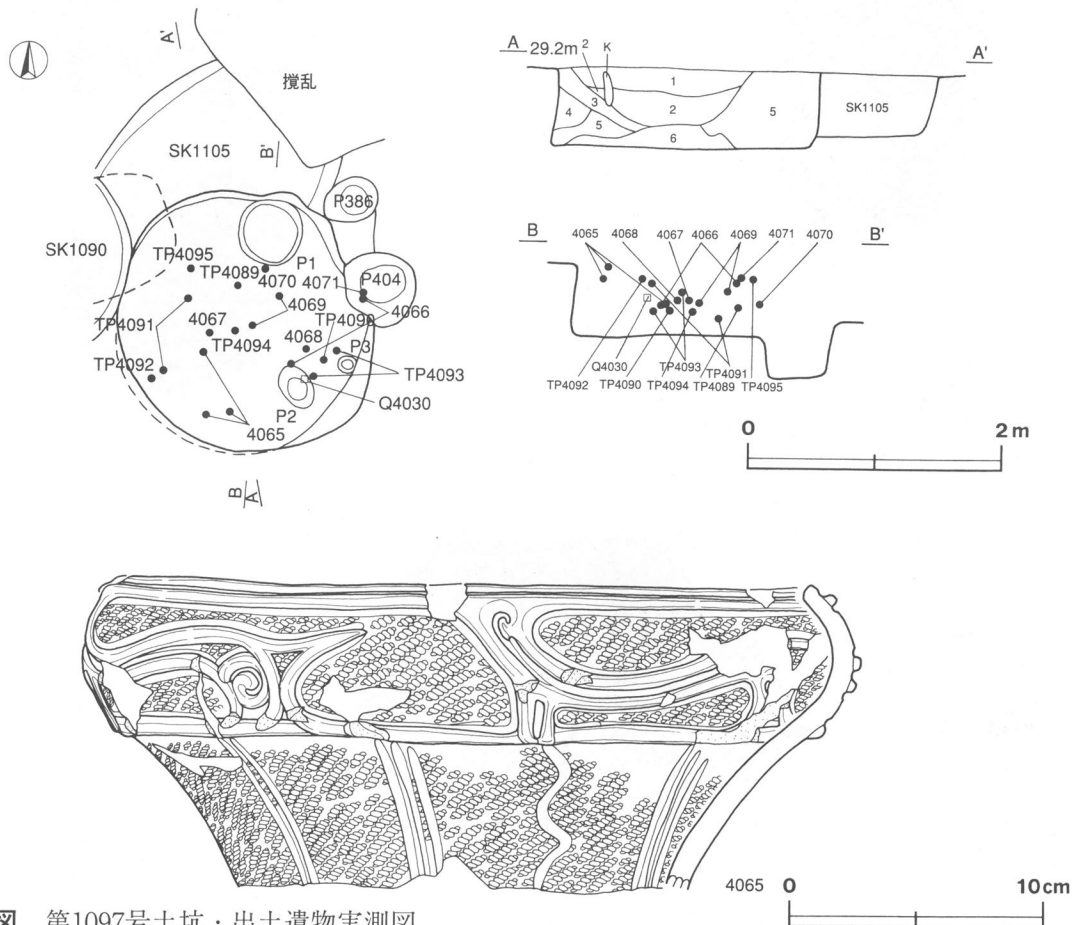
覆土 6層に分層される。レンズ状堆積の第1・2層を除き，他の層は全体的に不自然な堆積状況を呈してい
るため，人為堆積である可能性が高いと思われる。

土層解説

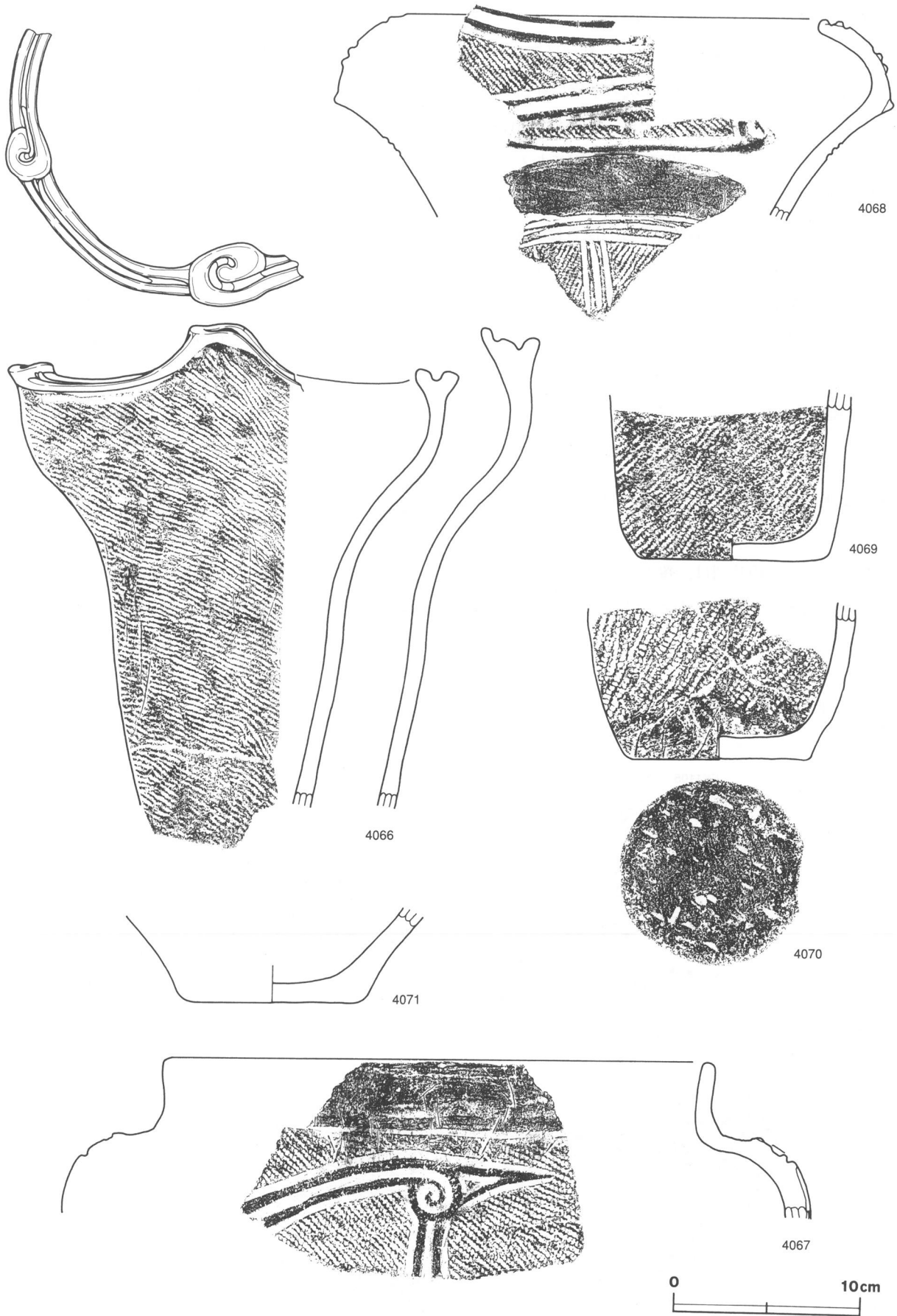
- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | 炭化粒子少量，ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片202点，打製石斧1点，礫10点が，覆土上層から中層にかけて廃棄されたような状
態で出土している。

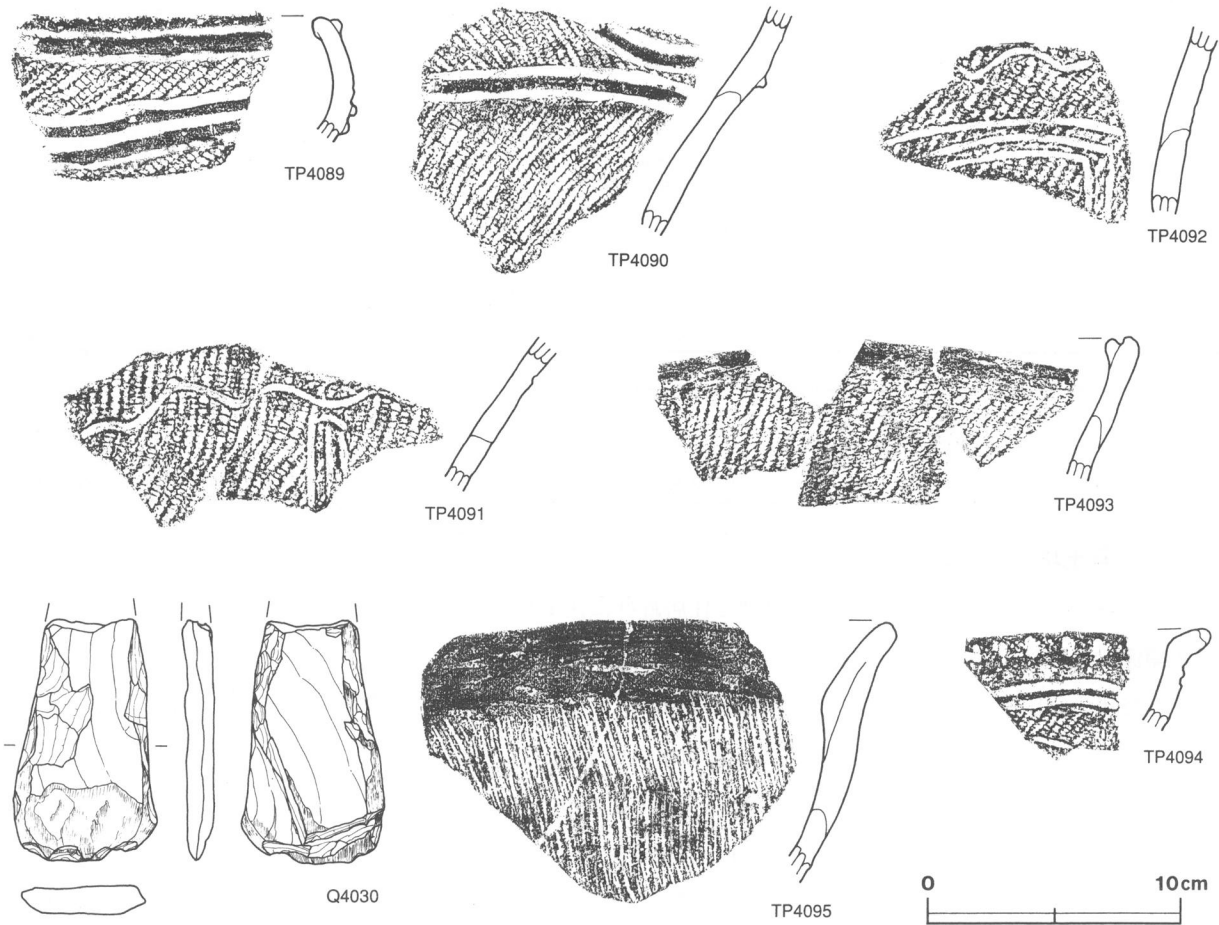
所見 本跡の廃絶時期は，覆土下層が人為堆積と考えられ，縄文土器の大形破片などが廃棄された覆土中層の
堆積時とほとんど時間差がないと考えられるため，出土遺物などから，縄文時代中期後葉（加曾利EⅠ式期）
と判断される。



第168図 第1097号土坑・出土遺物実測図



第169图 第1097号土坑出土遗物实测图（1）



第170図 第1097号土坑出土遺物実測図(2)

第1097号土坑出土遺物観察表(第168~170図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
4065	縄文土器	深鉢	26.9	(12.2)	—	口縁部は沈線を沿う隆帯を巡らし、内部に渦巻・刺状モチーフを施す。胴部は3本単位の沈線を垂下させる。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
4066	縄文土器	深鉢	[26.0]	(25.9)	—	口唇部上面に2本単位の隆帯を巡らし、渦巻モチーフを突起部に配す。地文はL単節縄文を縦位に施文。	長石・石英	普通	明赤褐	覆土上層	P L 42
4067	縄文土器	深鉢	[29.6]	(8.4)	—	口縁部無文、胴部は沈線を沿わせた2本単位の隆帯で渦巻・刺状のモチーフを描く。地文はRL単節縄文を横位に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
4068	縄文土器	深鉢	[22.6]	(10.8)	—	口縁部に沈線を沿わせた2本単位の隆帯、頸部は無文帯、胴部は3本単位の沈線を縦横に施す。地文はRL単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土中層	
4069	縄文土器	深鉢	—	(9.2)	9.7	胴部にRL単節縄文を縦位に施す。	長石・石英	普通	暗褐	覆土上層	
4070	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	9.6	胴部にRL単節縄文を縦位に施す。	長石・石英	普通	暗褐	覆土中層	底部網代痕
4071	縄文土器	浅鉢	—	(5.1)	10.0	内外面丁寧なナデを施す。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土上層	
TP4089	縄文土器	深鉢	—	(5.0)	—	口縁部に沈線を沿わせた隆帯を巡らす。地文はRL単節縄文を縦位に施す。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	
TP4090	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	胴部に沈線を沿わせた隆帯を巡らす。地文はRL単節縄文を縦横に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土中層	
TP4091	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	胴部に蛇行沈線を巡らし、3本単位の沈線を垂下させる。地文はRL単節縄文を縦位に施文。	長石・雲母	普通	黒褐	覆土上層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP4092	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	胴部に蛇行沈線を巡らし、杵状のモチーフを描く。地文はR L単節縄文を縦位に施文。	長石・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
TP4093	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	口唇部内面に隆帯を貼付し受け口状を呈する。地文はR L単節縄文を縦位に施文。	石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	
TP4094	縄文土器	深鉢	—	(4.0)	—	口唇部に棒状工具による刻みを施し、口縁部に2本単位の沈線を巡らす。地文はR L単節縄文を縦位に施文。	長石・雲母	普通	褐	覆土中層	
TP4095	縄文土器	深鉢	—	(10.3)	—	口縁部は無文、胴部は櫛歯状工具による集合沈線を縦位に施す。	石英・雲母	普通	暗褐	覆土上層	

番号	器種	計測値				石質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q4030	打製石斧	(9.6)	5.7	1.4	(101.6)	緑泥片岩	板状剥片を素材とし、側縁部に両面から調整を施す。	覆土中層	刃部に研磨痕あり。

第1102号土坑 (第171・172図)

位置 調査2区の北部，C2b0区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

重複関係 第1098，1100号土坑に掘り込まれている。

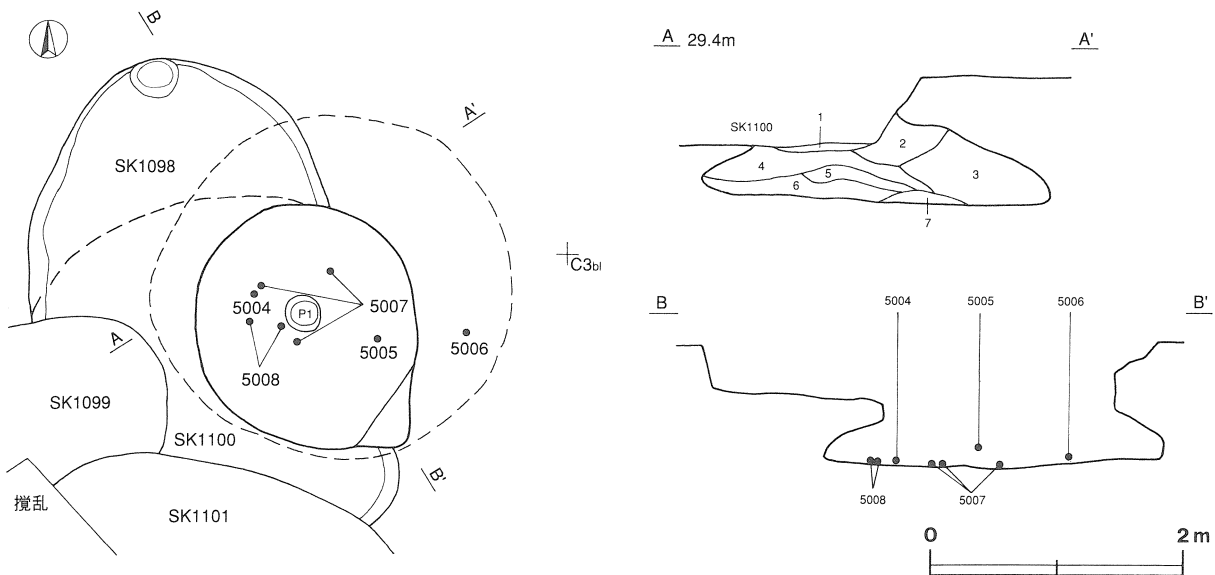
規模と形状 第1098，1100号土坑に上部を掘り込まれているため，開口部の形状は明瞭でないが，現状では長径2.00m，短径1.73m程度の楕円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.87m，短径2.70m程度のほぼ円形である。壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，上位は不明である。底面からくびれ部までの高さは平均71cmである。ピットは1か所で，P1は深さは32cmである。

覆土 7層に分層される。第5・6層は粘性の強い土層である。全体的にロームブロックや鹿沼パミス粒子を多量に含み，遺物の出土状況などから，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

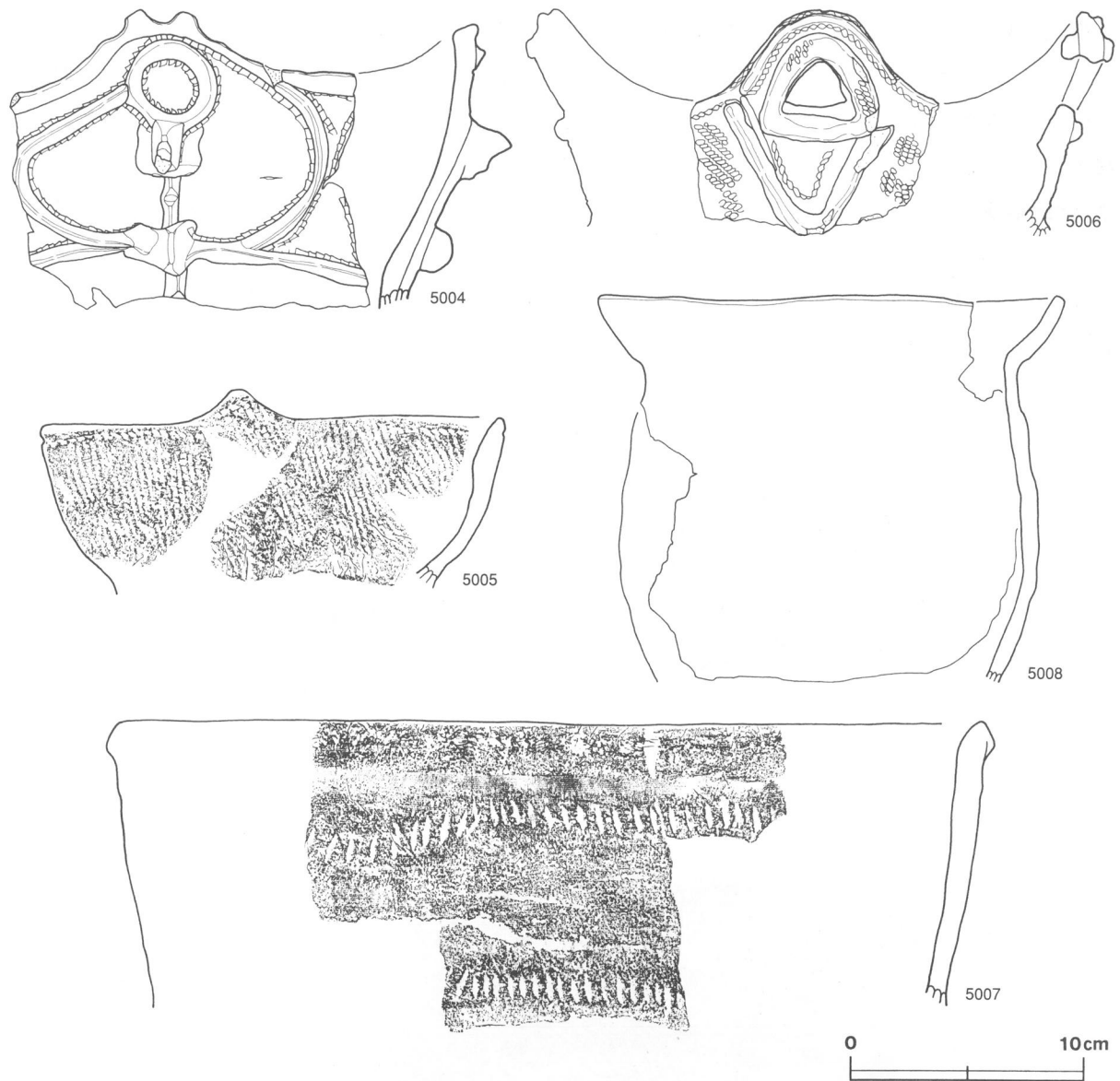
- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子・鹿沼パミス粒子・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子・粘土粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片255点が覆土から出土している。遺物は覆土下層から底面にかけて，廃棄されたような状態で満遍なく出土している。



第171図 第1102号土坑実測図

所見 縄文土器の破片が、覆土下層から底面にかけて、一括して廃棄されたよう出土している。出土遺物と本跡の廃絶時期は同時期と考えられるので、時期は、出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第172図 第1102号土坑出土遺物実測図

第1102号土坑出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5004	縄文土器	深鉢	—	(12.8)	—	断面三角形の隆帯で文様を描出。隆帯に沿って半截竹管による結節沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	
5005	縄文土器	深鉢	[19.8]	(8.8)	—	口唇部直下に縄原体圧痕文が巡る。胴部にはLRの単節縄文を斜方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	スス付着
5006	縄文土器	深鉢	[22.5]	(9.5)	—	波底部にV字文描出。口唇部に縄原体圧痕文が巡る。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	底面	
5007	縄文土器	深鉢	[36.8]	(12.3)	—	口唇部には隆帯を貼り付け肥厚。胴部にはキザミ目列が巡る。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄	底面	
5008	縄文土器	深鉢	[19.6]	(16.5)	—	口縁部から胴部にかけて無文。胴部はよく研磨。	長石・雲母	普通	にぶい黄橙	底面	スス付着

第1106号土坑（第173・174図）

位置 調査2区の北部，C2f8区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

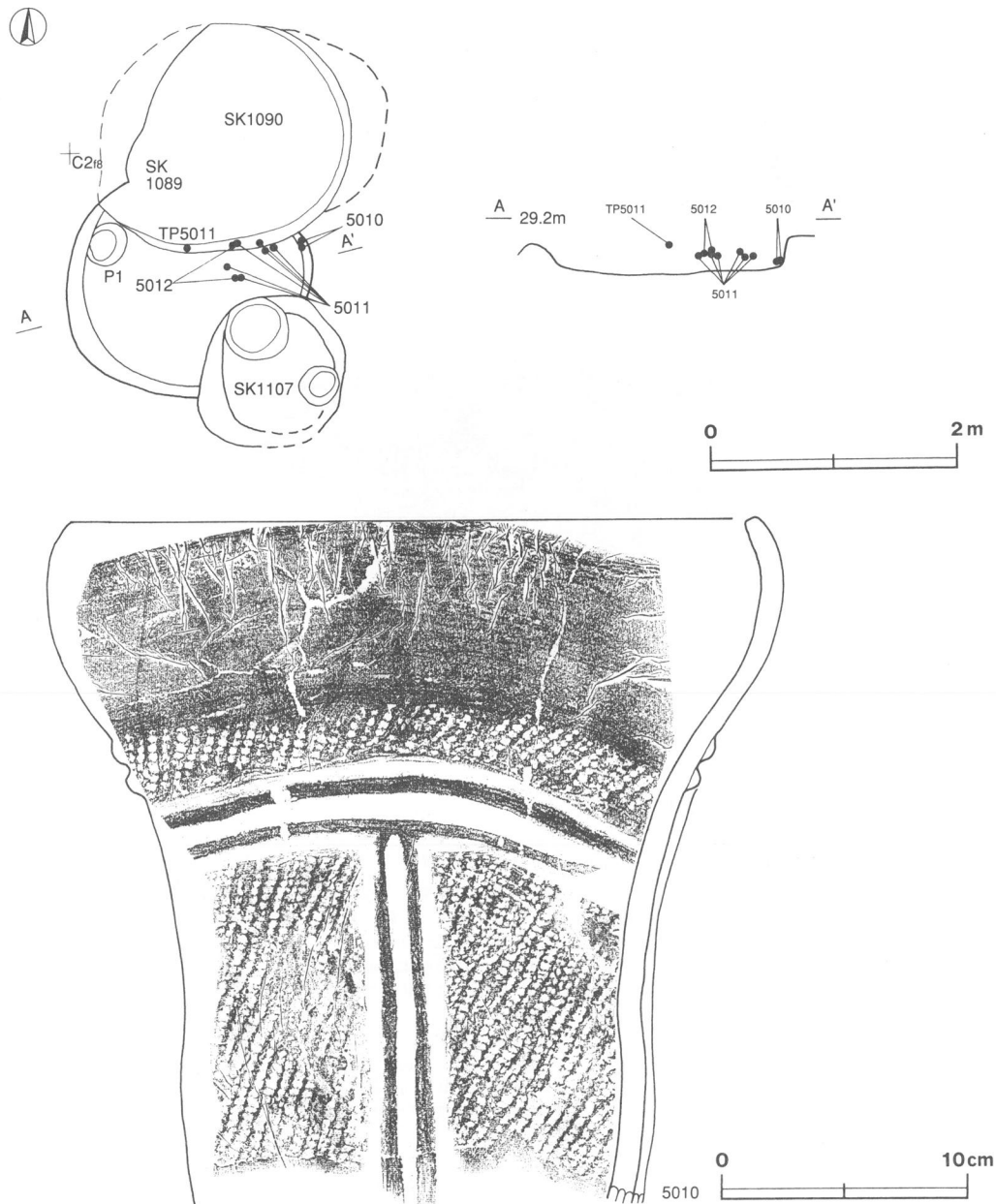
重複関係 第1089，1107号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径2.04m，短径1.70mの楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは43cmである。壁は一部内傾するが，確認された大半の部分で外傾する。ピットは1か所で，P1は北西壁際に位置し，深さ44cmである。

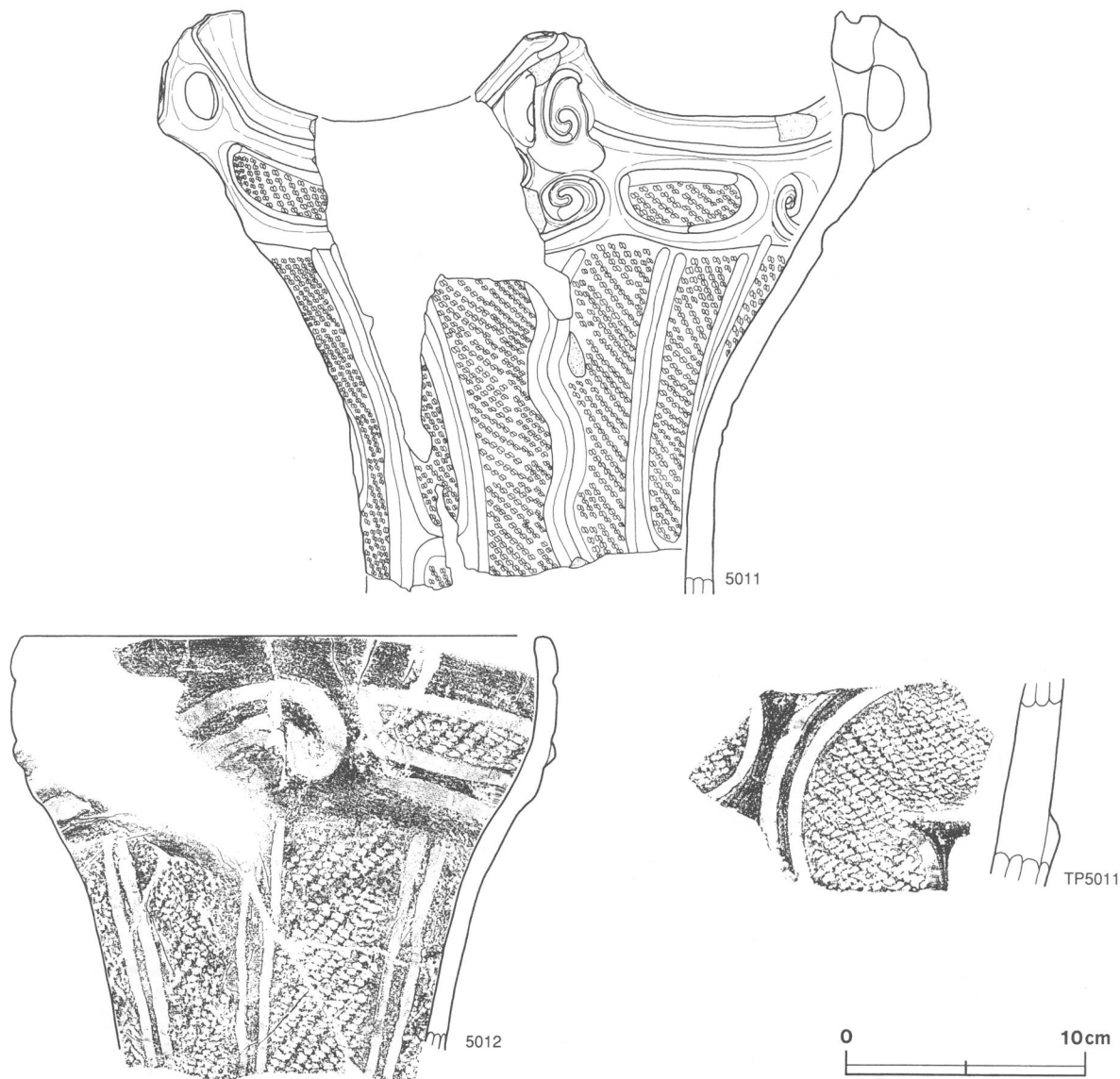
覆土 土層観察用ベルトの設定位置が本跡からはずれたため，観察ができなかった。

遺物出土状況 縄文土器片69点が覆土から出土している。土器片は大形の破片で，北部から北東部にかけて廃棄された状態で出土している。

所見 大形の破片が覆土中層から下層にかけて出土しているので，時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第173図 第1106号土坑・出土遺物実測図



第174図 第1106号土坑出土遺物実測図

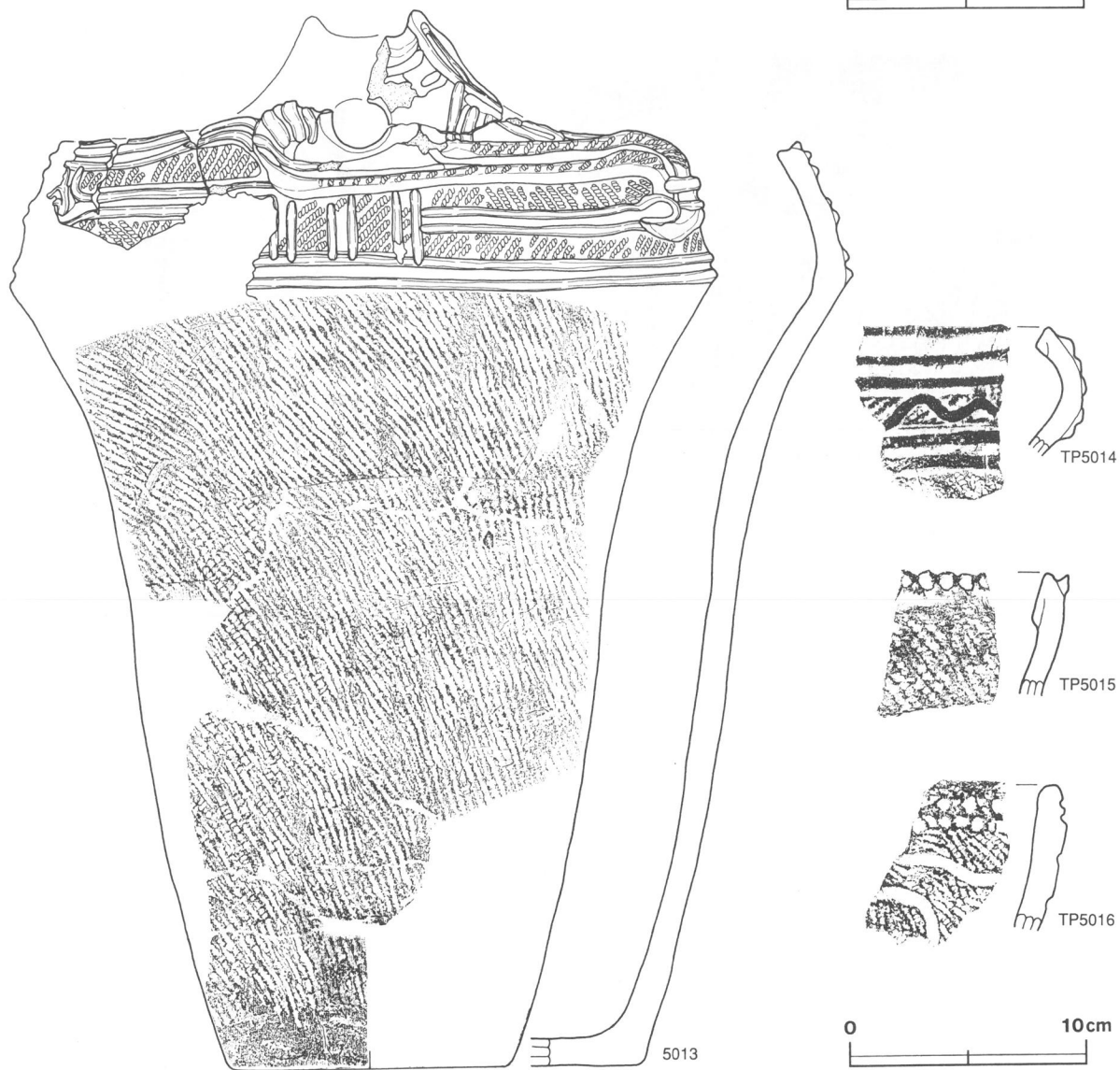
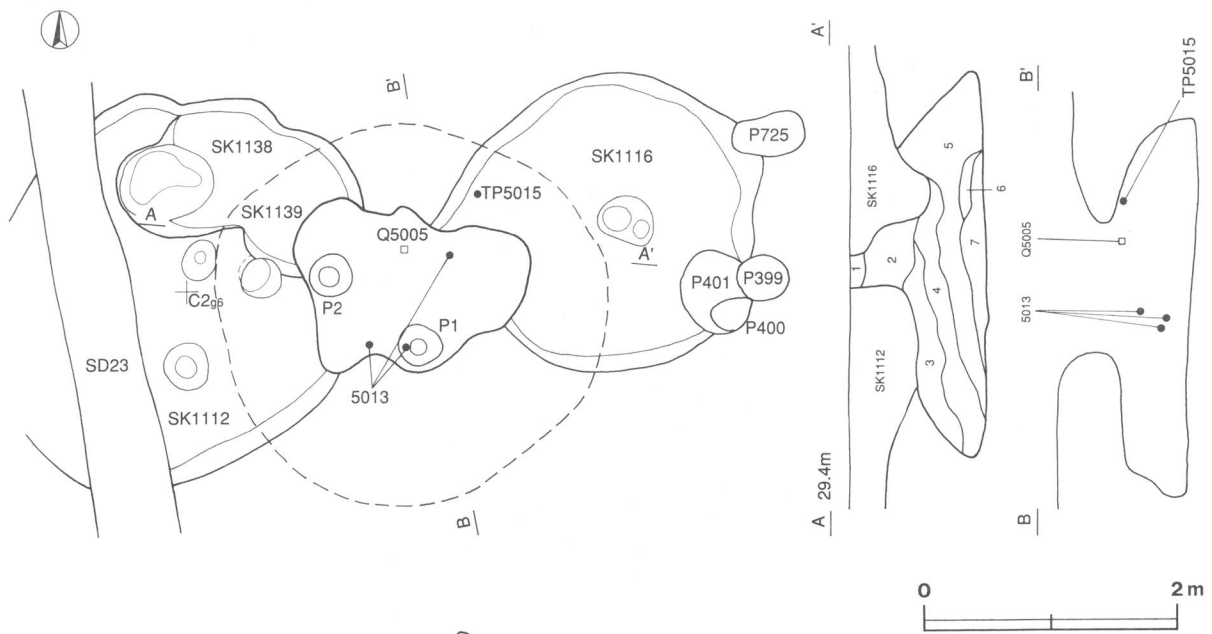
第1106号土坑出土遺物観察表 (第173・174図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5010	縄文土器	深鉢	[27.8]	(28.0)	—	胴部には沈線に沿う2本の隆帯文と縦位隆帯文。胴部はRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土下層	スス付着
5011	縄文土器	深鉢	25.0	(23.8)	—	沈線に沿う隆帯で渦巻文や区画文描出。懸垂文間を磨り消す。LRLの複節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐色	覆土中層	
5012	縄文土器	深鉢	[21.8]	(17.3)	—	隆帯と沈線で渦巻文や区画文描出。胴部は懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい褐色	覆土中層	
TP5011	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	胴部は沈線により文様を描出。沈線間を磨り消す。文様内にLRの単節縄文を充填。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	

第1115号土坑 (第175・176図)

位置 調査2区の北部, C2g6区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1112・1116号土坑に掘り込まれている。また第1139号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。



第175图 第1115号土坑·出土遺物実測図

規模と形状 第1112・1116号土坑に掘り込まれているため開口部の平面形は明瞭ではないが、現状では長径1.83m、短径1.40m程度の不整楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は径3.05m程度の円形である。確認面からの深さは108cmで、壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、上位で緩やかに立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均66cmである。ピットは2か所で中央部に位置する。深さは、P1が22cm、P2が37cmである。

覆土 7層に分層される。全体的にロームを多量に含んでいる。第2～4層にかけてのロームブロックは、内傾する壁が崩落したものと考えられる。遺物は中層に集中しているの、崩落とともに廃棄され、その後一気に埋め戻されたものと考えられる。そのため土層に締まりがなく、その後に構築された第1112・1116号土坑の底面が下がっているものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片252点、石皿1点、石鏃1点が覆土から出土している。大形破片を含め、遺物は覆土中層に集中し、廃棄されたような状態で出土している。5013は深鉢で、覆土中層から下層にかけて出土している。

所見 本跡が廃絶され、壁などの崩落後に土器片が廃棄されたと考えられるため、時期を出土土器から判断することは困難であるが、覆土中層の堆積時期は、中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。



第176図 第1115号土坑出土遺物実測図

第1115号土坑出土遺物観察表（第175・176図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5013	縄文土器	深鉢	25.2	44.7	[11.8]	沈線を有する隆帯で横S字文描出。2本一組の隆帯で文様描出。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土下層	スス付着 P L 43
TP5014	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	口縁部には隆帯が巡る。隆帯間にはLRの単節縄文を施文し、波状隆帯が巡る。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5015	縄文土器	深鉢	—	(5.1)	—	口唇部直下に押圧文を有する隆帯が巡る。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP5016	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	口唇部直下に交互刺突文が巡る。沈線で文様を描出。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	橙	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5005	石皿	(17.5)	(20.8)	(11.1)	(1040.3)	砂岩	両面に摩擦による皿状のくぼみを有する。凹石に併用。	覆土中層	P L 61

第1124号土坑 (第177・178図)

位置 調査2区の北部, C2f7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1079号土坑, 第387号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は, 楕円形と推定され, 現状では長径2.55m, 短径2.25m程度である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.48m, 短径2.32m程度の円形である。確認面からの深さは82cmである。壁は一部外傾して立ち上がっているが, 土層からは, 南西側で下位から中位にかけて内傾して立ち上がり, 上位で外傾して立ち上がることが確認されている。底面からくびれ部までの高さは, 平均54cmである。ピットは4か所で, 深さは, P1が40cm, P2が38cm, P3が41cm, P4が19cmである。

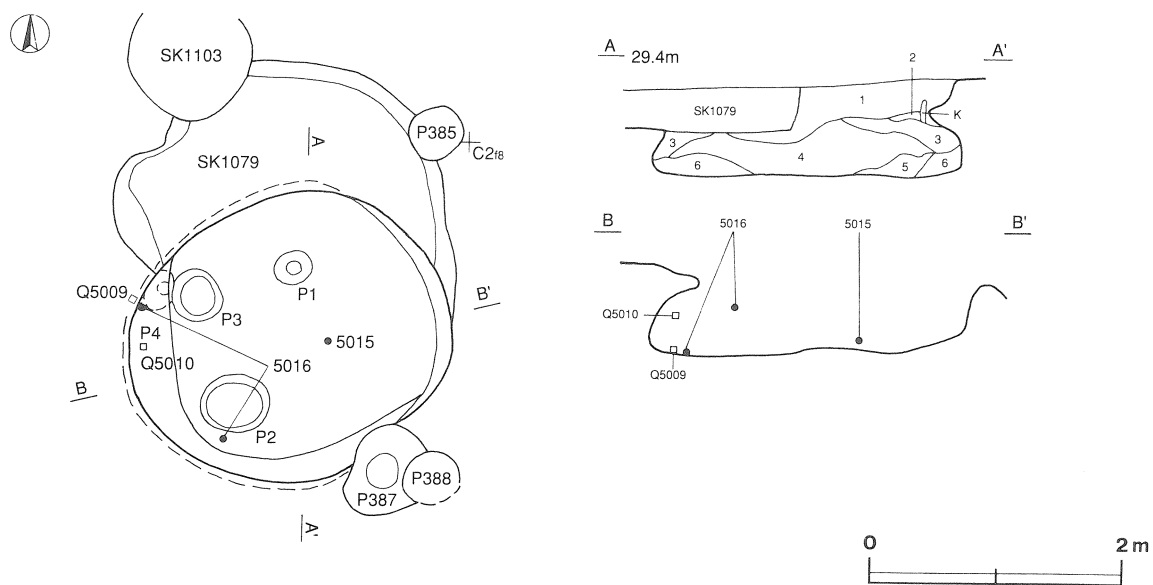
覆土 6層に分層される。第2・3・6層はロームブロックが多いため, 内傾する壁が崩落したものと考えられる。遺物は覆土中層から下層にかけて出土しているので, 土器の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

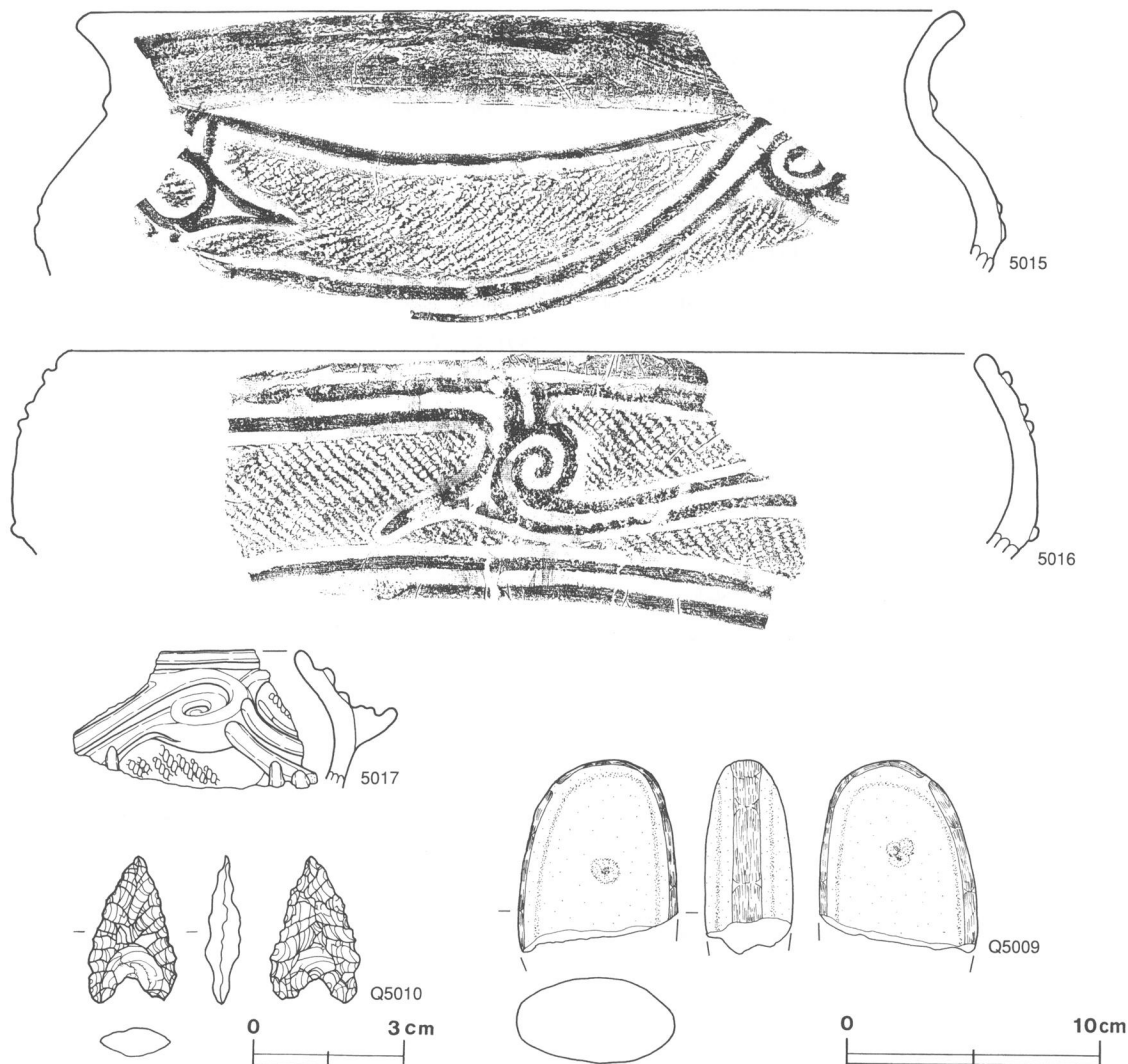
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 4 黒色 | 炭化粒子中量, ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片416点, 磨石1点, 石鏃1点が覆土から出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて満遍なく出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第177図 第1124号土坑実測図



第178図 第1124号土坑出土遺物実測図

第1124号土坑出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5015	縄文土器	鉢	[34.2]	(10.4)	—	口縁部に沈線に沿う2本一組の隆帯で文様を描出。LRの単節縄文を横方向に施文。	長石・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土下層	
5016	縄文土器	深鉢	[36.0]	(8.0)	—	口縁部に沈線に沿う隆帯による渦巻文や剣先状文を施す。RLの単節縄文を施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	灰褐	底面	
5017	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	口唇部直下に渦巻状の突起を有する。2本の隆帯により区画文。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土	

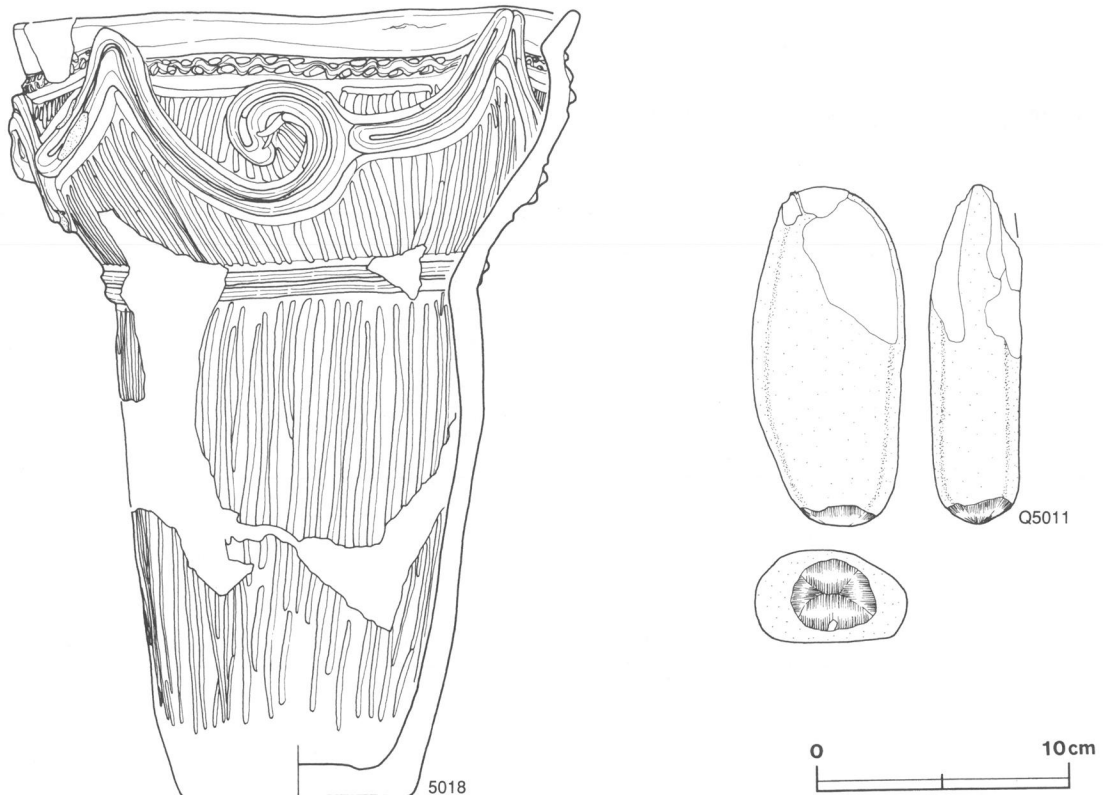
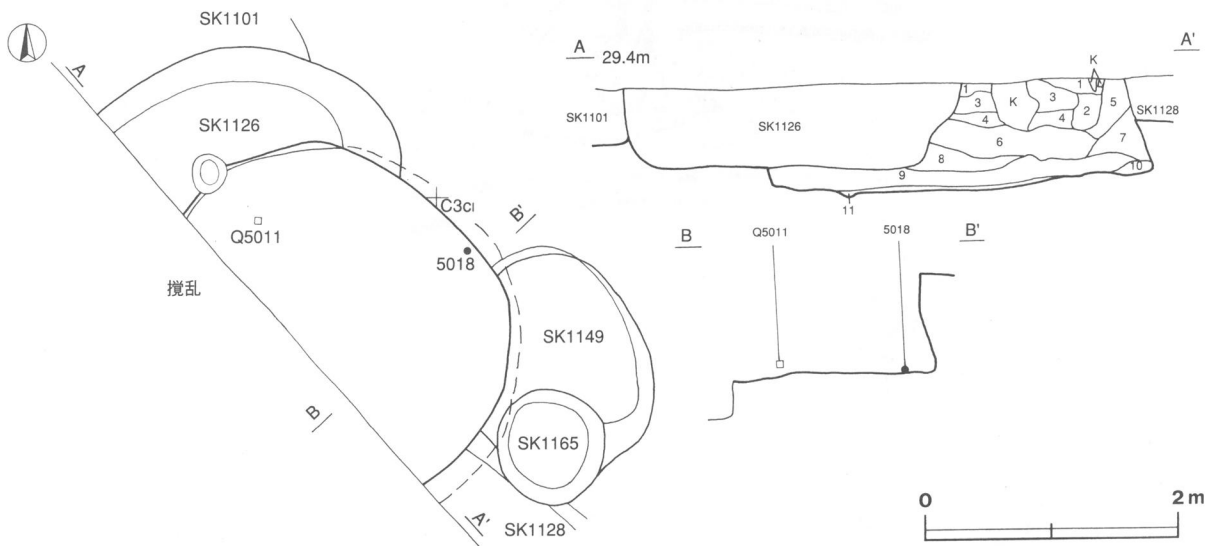
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5009	磨石	(7.6)	6.2	3.4	(247.0)	安山岩	全側縁に使用痕。凹石に併用。一部欠損。	底面	
Q5010	石鏃	2.9	1.7	0.7	2.1	チャート	基部中央が大きく湾入。器体調整入念。	覆土中層	P L 59

第1127号土坑（第179図）

位置 調査2区の北部，C2c0区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

重複関係 第1128・1149号土坑を掘り込み，第1126号土坑に掘り込まれている。本跡の南西側は現代の攪乱により破壊されている。

規模と形状 開口部の平面形は，円形と推定されるが，現状では長径2.92m，短径1.58m程度の半円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は開口部と同様，円形と推定されるが，現状では長径3.08m，短径1.65m程度の半円形である。確認面からの深さは83cmである。壁は一部外傾しているが，土層観察からは下位から上位にかけて内傾して立ち上がることが確認されている。くびれ部は存在しない。



第179図 第1127号土坑・出土遺物実測図

覆土 11層に分層される。全体的にロームブロックや鹿沼パミスが目立つ土層である。下層は堆積状況に乱れないので自然堆積と考えられる。中層から上層は、不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。最下層の第11層は締まりの強い土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|--------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量 | 11 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片111点, 磨石1点が覆土から出土している。5018は深鉢で, 壁際の底面から横位で出土している。

所見 時期は, 覆土下層が自然堆積と考えられることや底面直上から出土した5018などから, 中期後葉(加曾利EⅠ式期)と考えられる。

第1127号土坑出土遺物観察表(第179図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5018	縄文土器	深鉢	21.9	31.0	8.8	口唇部直下に交互刺突文が巡る。口縁部に沈線を有する隆帯で文様描出。地文は沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	PL43

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5011	磨石	(13.4)	6.0	3.6	(438.1)	蛇紋岩	原礫を素材とし,長軸側の一端に使用痕。一部欠損。	覆土下層	

第1132号土坑(第180図)

位置 調査2区の北部, C2g7区。住居跡群域に位置する。

確認状況 第152号住居の掘り方調査中に検出した。

重複関係 第152号住居, 第1134号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は, 第152号住居, 第1134号土坑に掘り込まれているため不明である。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径2.65m, 短径2.45m程度の円形である。確認面からの深さは84cmであり, 壁は下からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり, くびれ部から上位は緩やかに立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均75cmである。

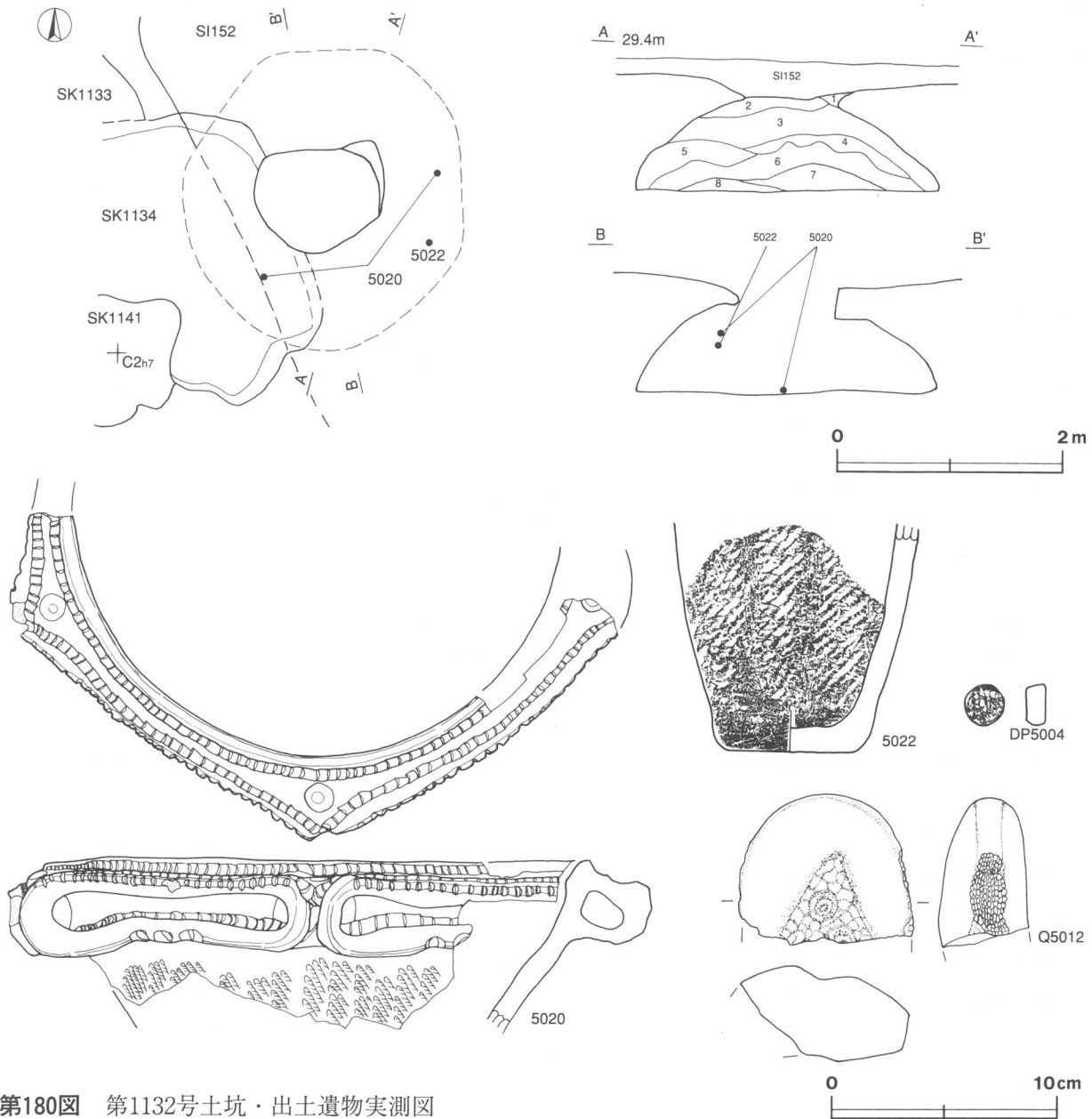
覆土 8層に分層される。各層は凸状に盛り上がった堆積状況で, 開口部からの土砂の流入によるものと考えられるため, 全体的にロームブロックや鹿沼パミスを多く含んでいるが, 自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|----------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミスブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミスブロック中量 |
| 4 黒色 | ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミスブロック少量 | 8 黒褐色 | 鹿沼パミスブロック多量, ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片107点, 敲石1点, 土器片円盤1点が覆土から出土している。土器は小破片が多い。5020は深鉢で底面から出土している。

所見 本跡は土器片円盤が出土していることに特徴がある。土器が小破片で詳細が分かりづらいが, 5020の深鉢が底面の壁際から出土していることなどから, 時期は, 中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第180図 第1132号土坑・出土遺物実測図

第1132号土坑出土遺物観察表（第180図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5020	縄文土器	深鉢	[23.4]	(7.7)	—	隆帯による5単位の区画文。口唇部直下の隆帯上部には爪形文。Lの無節縄文。	長石・雲母	普通	灰褐	底面	
5022	縄文土器	深鉢	—	(10.1)	6.2	胴部はRの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP5004	土器片円盤	(1.8)	(1.8)	(0.9)	(3.6)	長石・石英 明赤褐	R Lの単節縄文を施し、周縁部は部分的に研磨。	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5012	敲石	(6.7)	(7.9)	4.0	(263.5)	砂岩	両面と側縁に敲打痕。凹石に併用。一部欠損。	覆土	

第1160号土坑（第181～183図）

位置 調査2区の北部，C2h6区。住居跡群域に位置する。

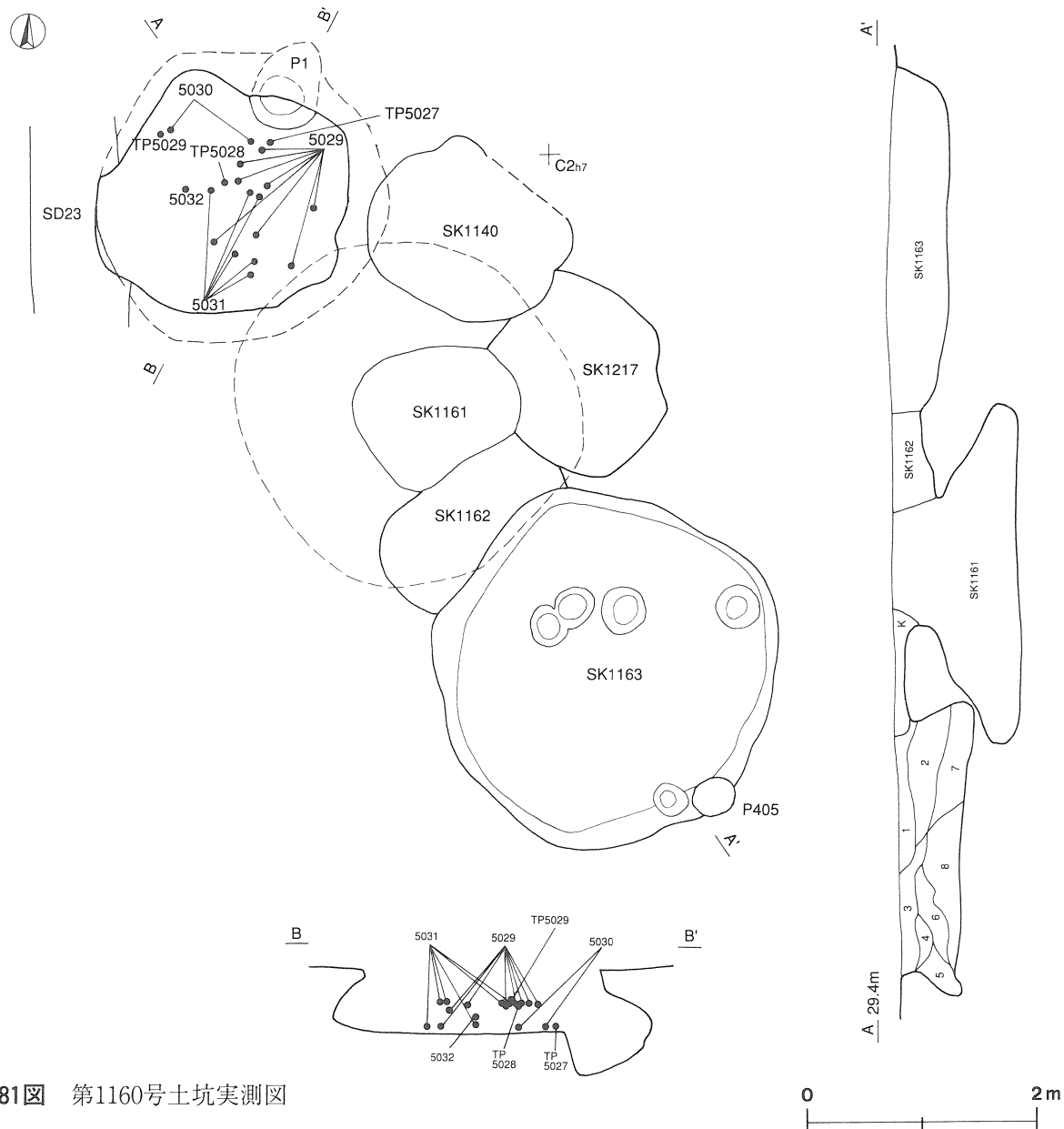
重複関係 第23号溝に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，円形と推定され，現状では長径2.17m，短径2.05m程度である。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.52m程度の円形である。確認面からの深さは68cmであり，壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり，くびれ部から上位は外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均43cmである。ピットは1か所で，P1は深さ38cmである。

覆土 8層に分層される。中層から下層にかけて大形破片が廃棄されたような状態で重なるように出土している。このことから，土器片などの廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

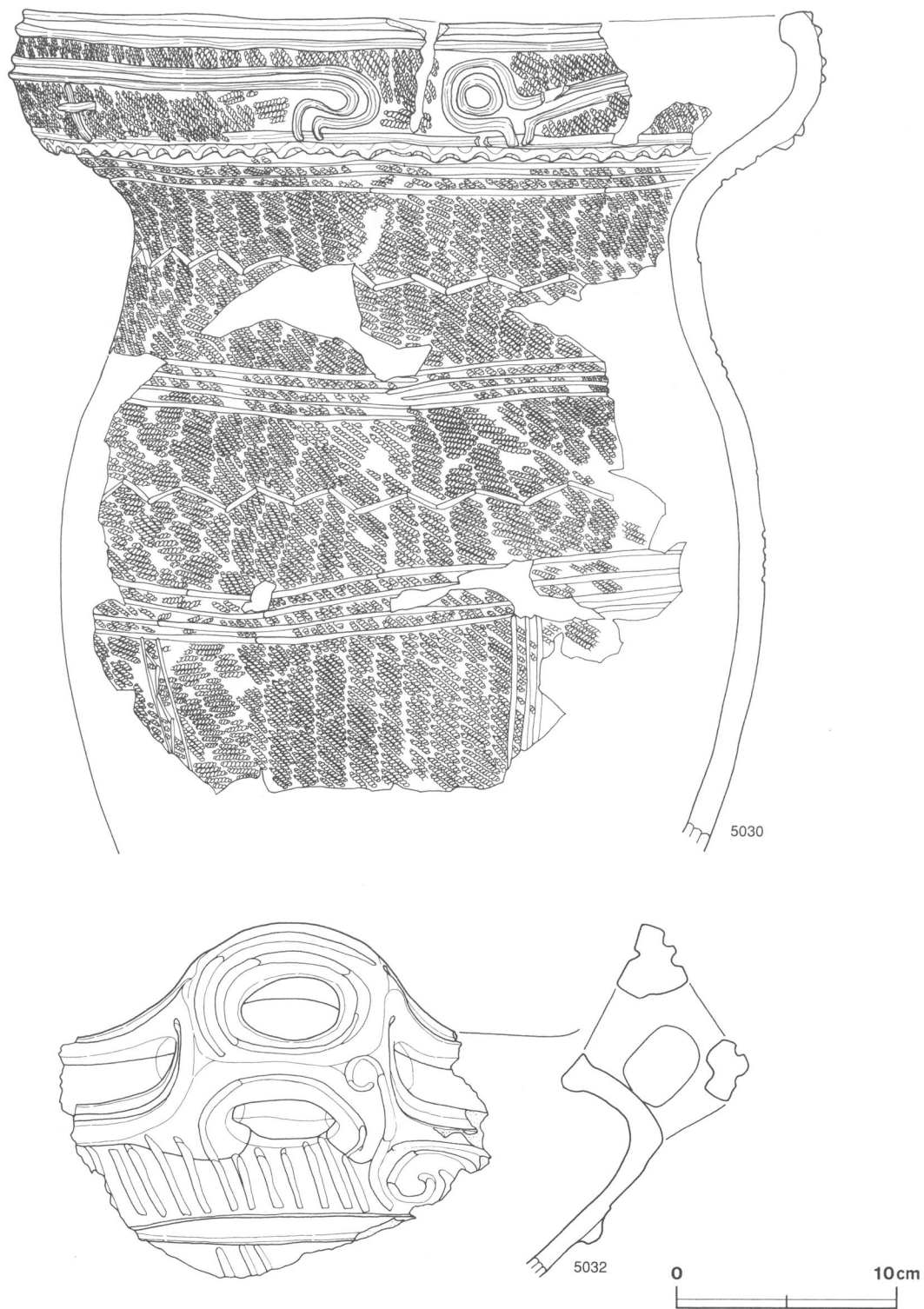
- | | | | |
|-------|--------------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | 鹿沼パミス粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 褐色 | ロームブロック少量 |



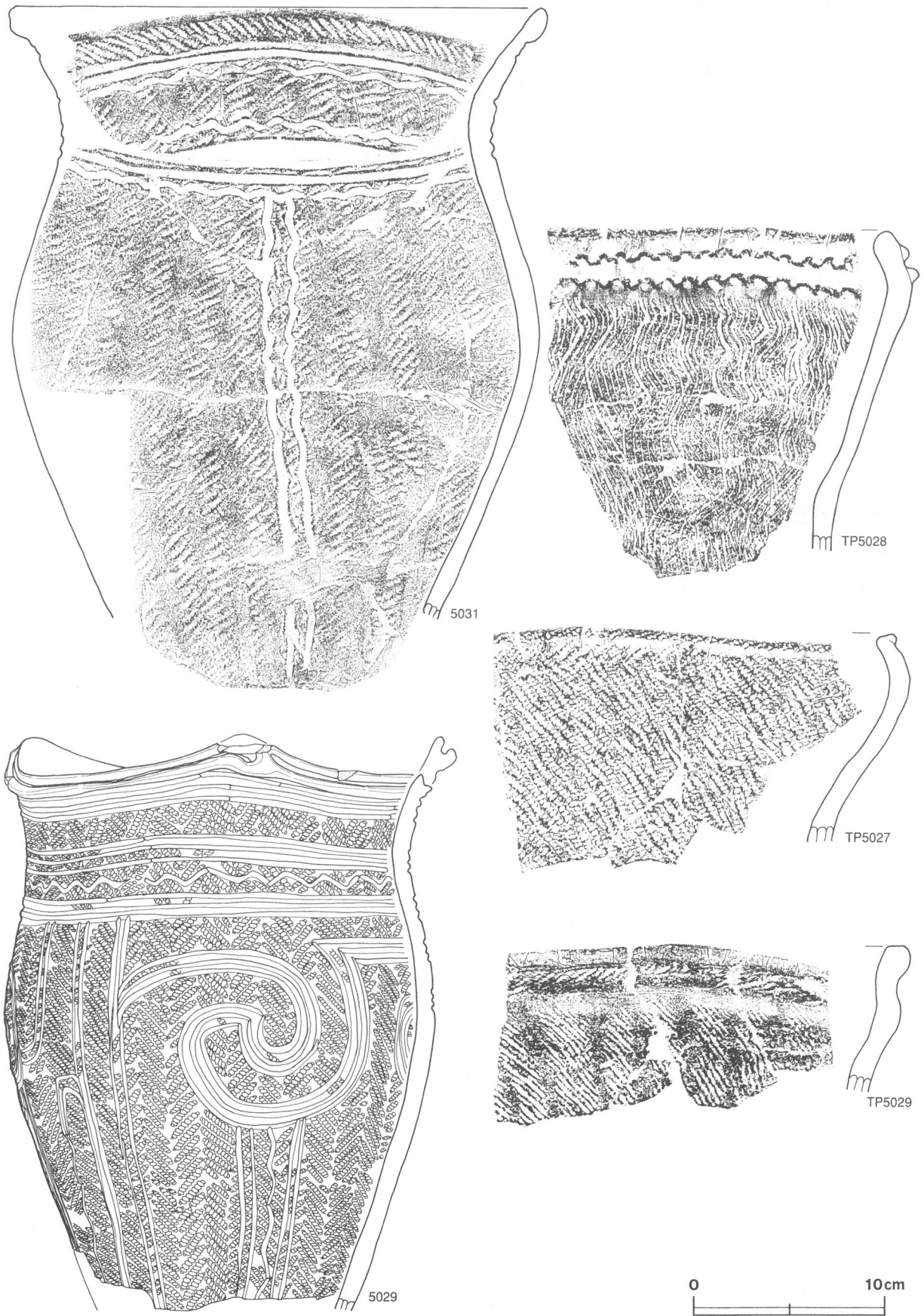
第181図 第1160号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片275点、打製石斧1点が覆土から出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて集中して出土している。5029の深鉢は覆土中層から底面にかけて出土している。5030の深鉢は底面から、5031の甕は覆土中層から横位で出土している。

所見 本跡は、5029・5030・5031の深鉢のように、口径が広く、胴部が張っているという類似した土器が出土していることに特徴がある。時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第182図 第1160号土坑出土遺物実測図（1）



第183图 第1160号土坑出土遺物实测图(2)

第1160号土坑出土遺物観察表（第182・183図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5029	縄文土器	深鉢	21.9	(30.0)	—	胴部には沈線で文様描出。地文はR LとL Rの単節縄文を交互に縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	P L 43
5030	縄文土器	深鉢	[31.7]	(37.8)	—	口縁部は2本の隆帯で文様描出。胴部は沈線文。口縁部や胴部にR LとL Rの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	P L 44
5031	縄文土器	深鉢	[27.5]	(32.1)	—	口縁部には波状・平行沈線文が巡る。2本一組の縦位波状沈線文。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層～下層	P L 44
5032	縄文土器	深鉢	—	(16.0)	—	円孔部を渦巻きと隆沈線で加飾した箱状把手。口縁部には沈線文や渦巻文を描出。	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土中層	
TP5027	縄文土器	深鉢	—	(10.8)	—	口唇部直下に隆帯が巡る。口縁部から胴部にかけてL Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	
TP5028	縄文土器	深鉢	—	(16.7)	—	押圧文を有する2本の隆帯が巡る。胴部には櫛歯状工具による縦位波状沈線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP5029	縄文土器	深鉢	—	(7.7)	—	胴部にはL Rの単節縄文を縦方向に施文。口唇部直下には横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	

第1161号土坑（第184～186図）

位置 調査2区の北西部、C2h6区。住居跡群域に位置する。

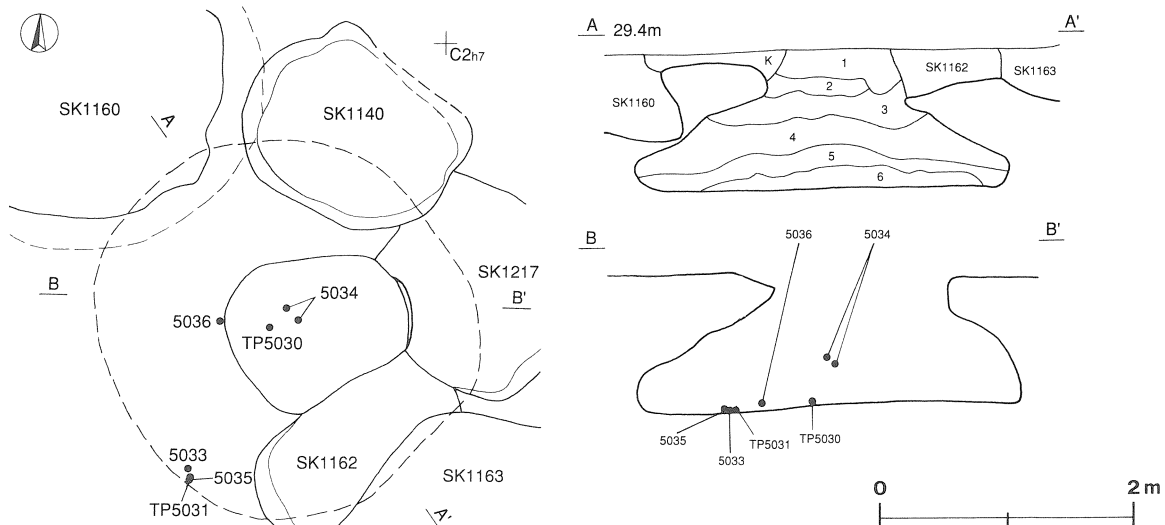
重複関係 第1162号土坑に掘り込まれている。第1217号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は楕円形と推定されるが、現状では長径1.45m、短径1.30m程度である。底面はほぼ平坦で、北部がやや硬くしまっている。底面の平面形は長径3.08m、短径2.78m程度の楕円形である。確認面からの深さは110cmであり、壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、くびれ部から上位にかけて緩やかに立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均76cmである。

覆土 6層に分層される。第5・6層は凸状に盛り上がった堆積状態で、開口部からの土砂の流入によるものと考えられるが、これらの層から遺物が集中して出土しているのが人為堆積と考えられる。上層は堆積状況にあまり乱れがないので自然堆積と考えられる。

土層解説

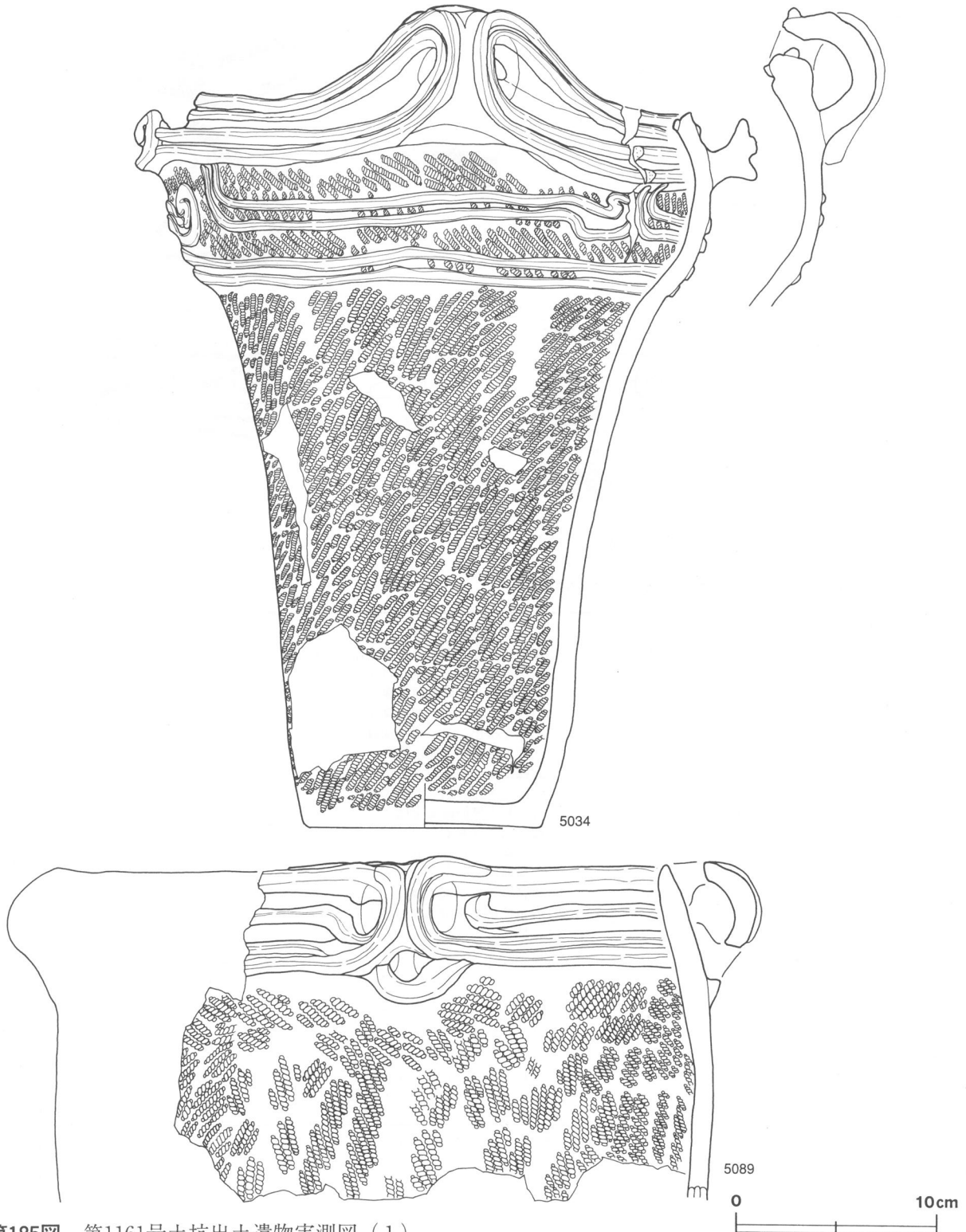
- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化物・粘土粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量 |



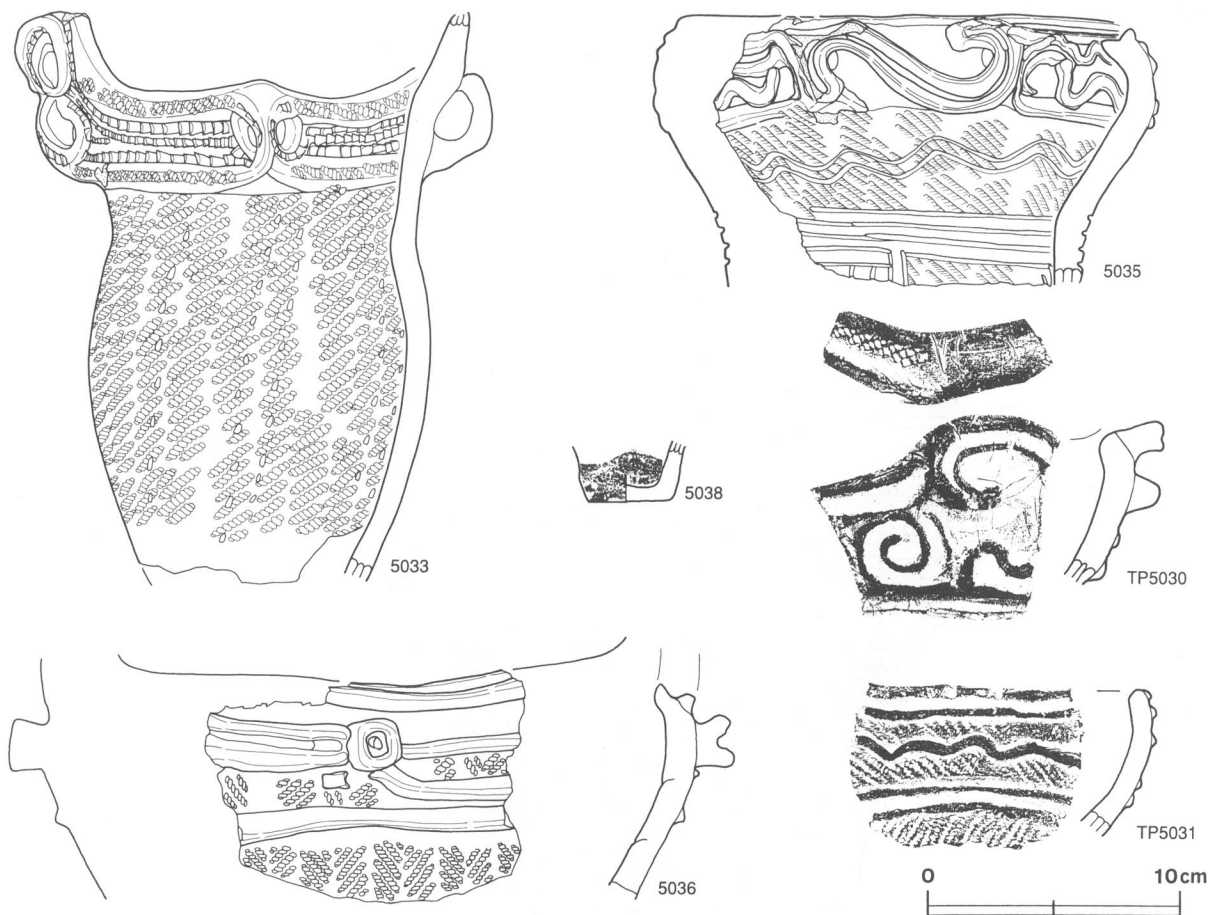
第184図 第1161号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片369点が覆土から出土している。遺物は中央部の覆土下層から底面にかけて集中して出土している。5033は深鉢で底面から横位で出土し、5034の深鉢は覆土中層から出土している。5038はミニチュア土器片で、覆土から出土している。

所見 本跡はミニチュア土器片が出土している点に特徴がある。時期は、底面から出土している5033、5035、TP5030・TP5031や覆土中層から出土している5034などから中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第185図 第1161号土坑出土遺物実測図（1）



第186図 第1161号土坑出土遺物実測図(2)

第1161号土坑出土遺物観察表(第185・186図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5033	縄文土器	深鉢	—	(22.5)	—	隆帯により区画内に3条の結節沈線文を施文。胴部はRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	スス付着 P L43
5034	縄文土器	深鉢	24.2	40.7	11.4	口縁部には2本一組の隆帯で文様を描出。RLの単節縄文を縦方向や横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	P L44
5035	縄文土器	深鉢	[17.6]	(10.8)	—	口縁部に沈線を有する横S字状文。区画内には波状隆帯文。Lの無節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	
5036	縄文土器	深鉢	[22.8]	(8.5)	—	環状の突起を有し、沈線を有する隆帯が巡る。LRとRLの単節縄文を交互に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土下層	
5089	縄文土器	深鉢	[28.0]	(16.9)	—	隆帯により文様を描出。LRの単節縄文を縦方向・横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐	覆土	
5038	縄文土器	ミニチュア	—	(2.4)	3.2	無文。	長石	普通	明赤褐	覆土	
TP5030	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	口縁部には隆帯による横S字状文・渦巻文を描出。口唇部にはLRの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	
TP5031	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	口縁部には隆帯や波状隆帯が巡る。RLの単節縄文を胴部は縦、口縁部は横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	底面	

第1163号土坑 (第187図)

位置 調査2区の北部, C217区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1162号土坑を掘り込み, 第401号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径3.16m, 短径2.98m程度のはほぼ円形と推定される。底面は平坦で, 確認面からの深さは52cmである。壁は外傾して立ち上がる。ピットは5か所で, 深さは, P1が23cm, P2が17cm, P3が42cm, P4が87cm, P5が66cmである。

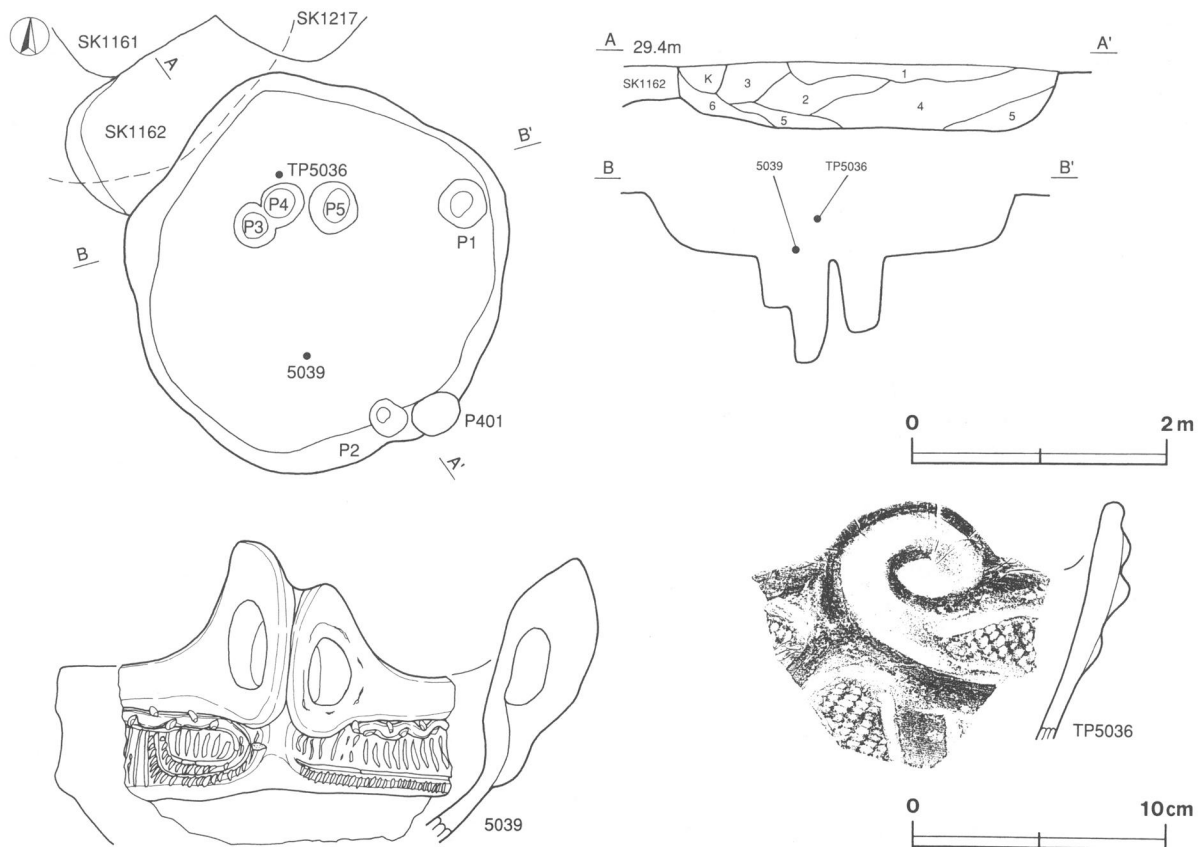
覆土 6層に分層される。遺物が覆土中層から下層にかけて廃棄された状態で出土していることから, 土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片260点が覆土から出土している。土器片の大部分は, 覆土中層から下層にかけて廃棄された状態で出土している。5039は深鉢で, 底面から出土している。覆土から出土した土器が, 第1209号土坑から出土した5092と接合している。

所見 時期は, 底面から出土している5039から中期後葉(加曽利E I 式期)と考えられる。覆土中層から出土したTP5036は中期後葉(加曽利E II 式期)のもので混入したものと考えられる。



第187図 第1163号土坑・出土遺物実測図

第1163号土坑出土遺物観察表 (第187図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5039	縄文土器	深鉢	[20.4]	(11.9)	—	口唇部直下に連続コの字状文が巡る。キザミ入りの隆帯による区画文を描出。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	底面	
TP5036	縄文土器	深鉢	—	(9.4)	—	隆帯による渦巻文や区画文。胴部は懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文を施文。	長石・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	

第1166号土坑（第188・189図）

位置 調査2区の北部，C3e1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1146号土坑を掘り込み，第149号住居の炉に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，楕円形と推定され，規模は，現状では長径1.02m，短径0.72m程度である。底面はほぼ平坦で，平面形は径1.65m程度の円形である。確認面からの深さは82cmであり，壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり，くびれ部から上位は直立する。底面からくびれ部までの高さは，平均68cmである。

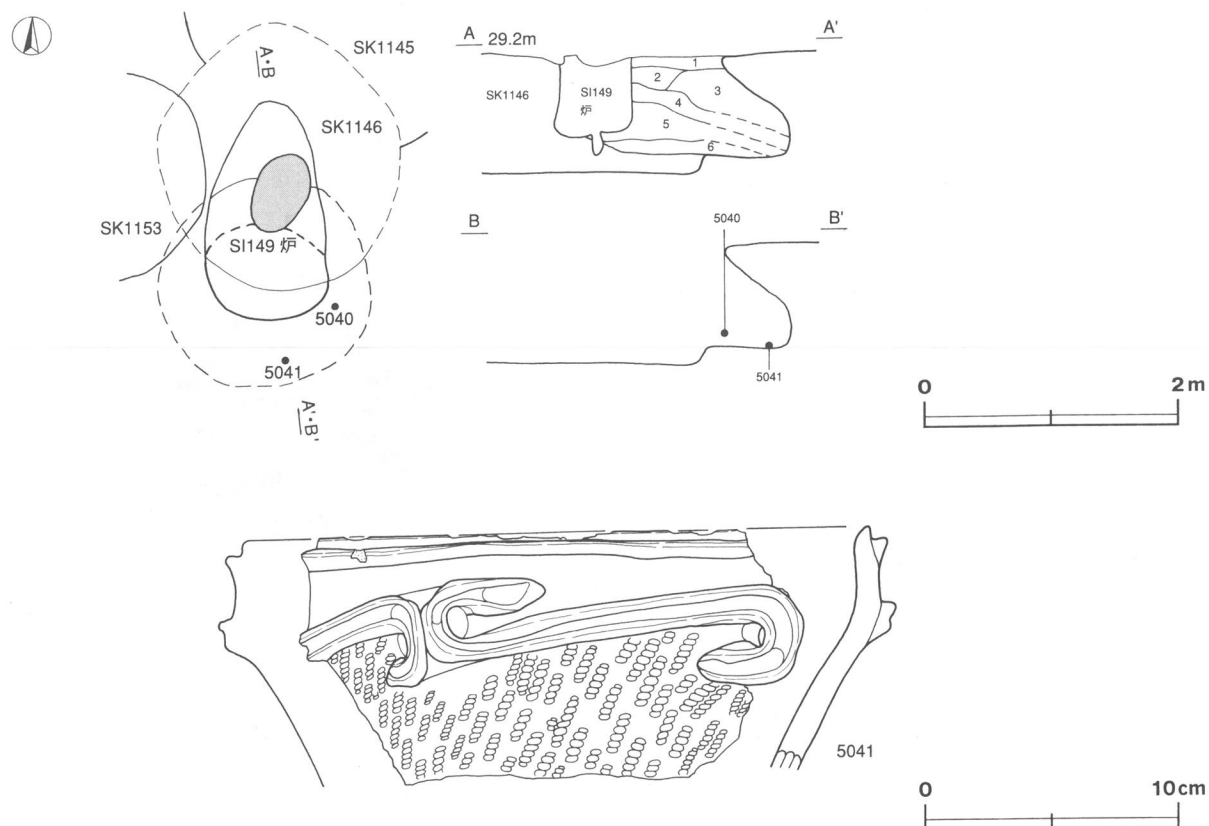
覆土 6層に分層される。第149号住居の炉との重複から，全体的に炭化粒子や焼土粒子を多量に含んでいる。第5・6層はロームブロックが多く壁の崩落土と考えられるが，遺物が集中して出土しているため，土器片の廃棄に伴う人為堆積と考えられる。第4層以上は凸状に盛り上がった堆積状況で，開口部からの土砂の流入によるもので自然堆積と考えられる。

土層解説

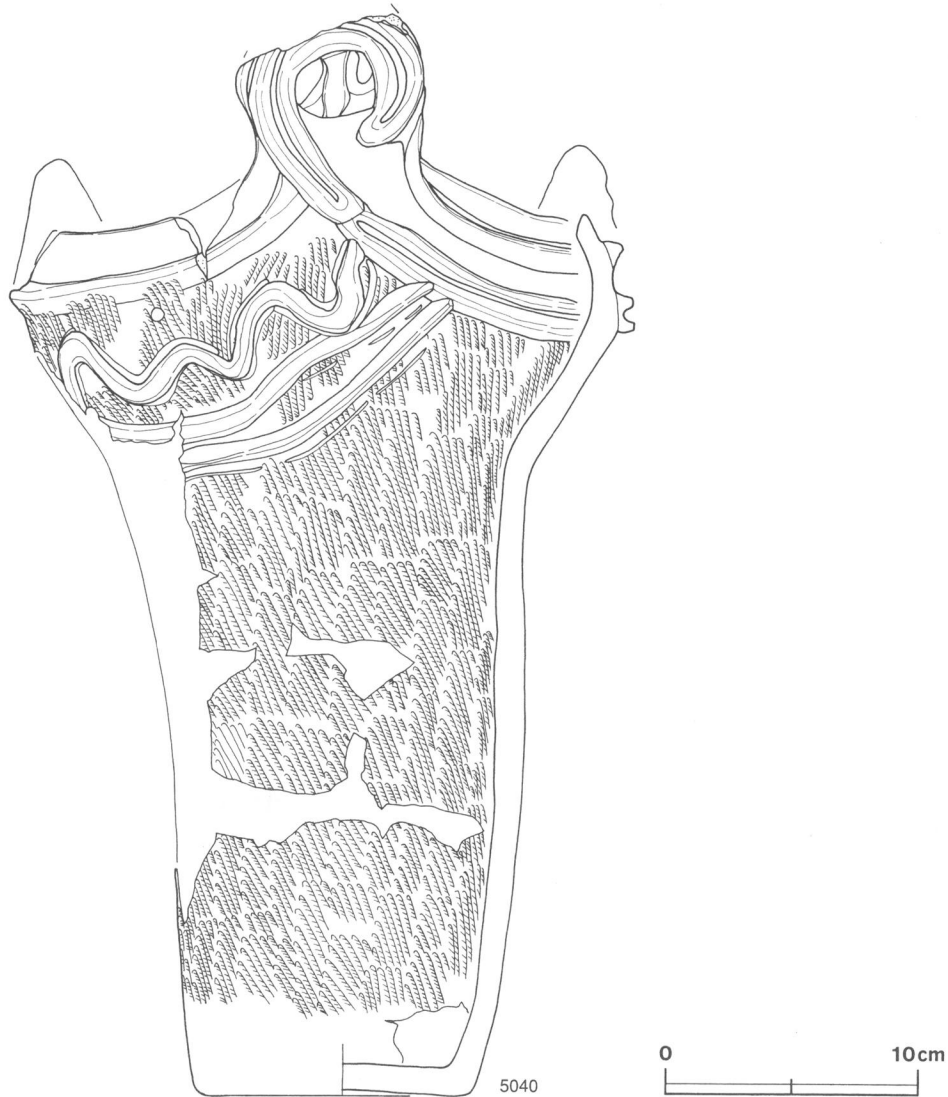
- | | | | |
|--------|---------------------|-------|---------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミス粒子・粘土粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片110点が覆土から出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて出土している。5040の深鉢は覆土下層から，5041の深鉢は底面から出土している。

所見 時期は，覆土下層から底面にかけて出土している5040・5041などから，中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第188図 第1166号土坑・出土遺物実測図



第189図 第1166号土坑出土遺物実測図

第1166号土坑出土遺物観察表（第188・189図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5040	縄文土器	深鉢	20.8	(42.6)	[10.4]	沈線を有する隆帯で渦巻状の把手を作出。口縁部には隆帯で文様描出。Lの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	P L44
5041	縄文土器	深鉢	[24.5]	(9.6)	—	沈線を有する5単位の横S字状文を描出。胴部はRLの単節縄文を斜方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	

第1167号土坑（第190・191図）

位置 調査2区の北部，C2e0区。住居跡群域に位置する。

確認状況 第146号住居の掘り方調査中に検出した。

重複関係 第146号住居，第1255号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，掘り込まれているため明瞭ではないが，現状では長径2.48m，短径2.24m程度の楕円形である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.62m，短径2.03m程度の楕円形と推定される。確認面からの深さは43cmである。壁は下位から中位にかけて内傾する。中位から上位にかけては掘り込まれているため不明である。ピットは2か所で，南東部に位置している。深さは，P1が17cm，P2が20cmである。

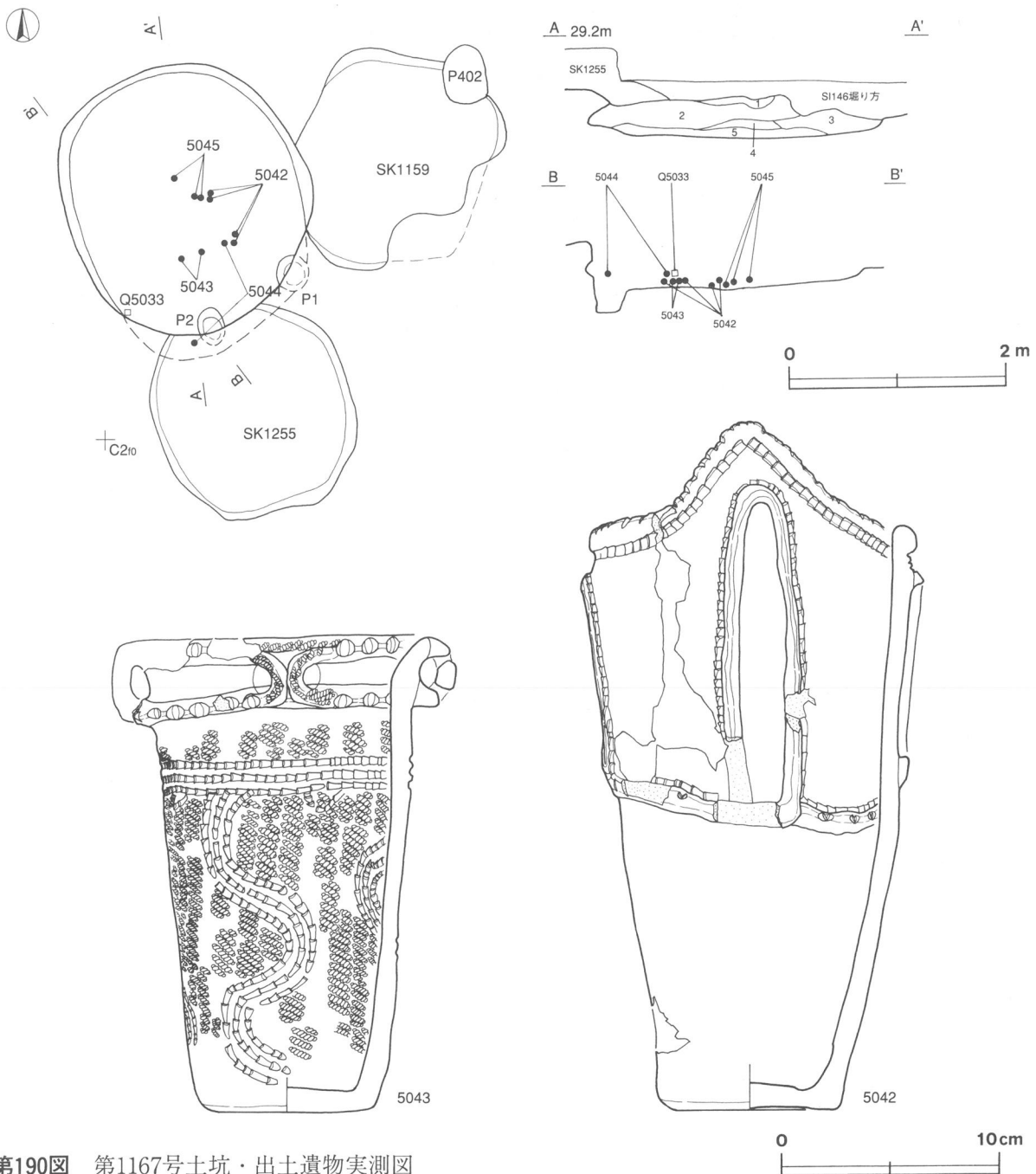
覆土 上層は掘り込まれているため、確認できた覆土は5層である。遺物は第5層に廃棄されたような状態で出土している。不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

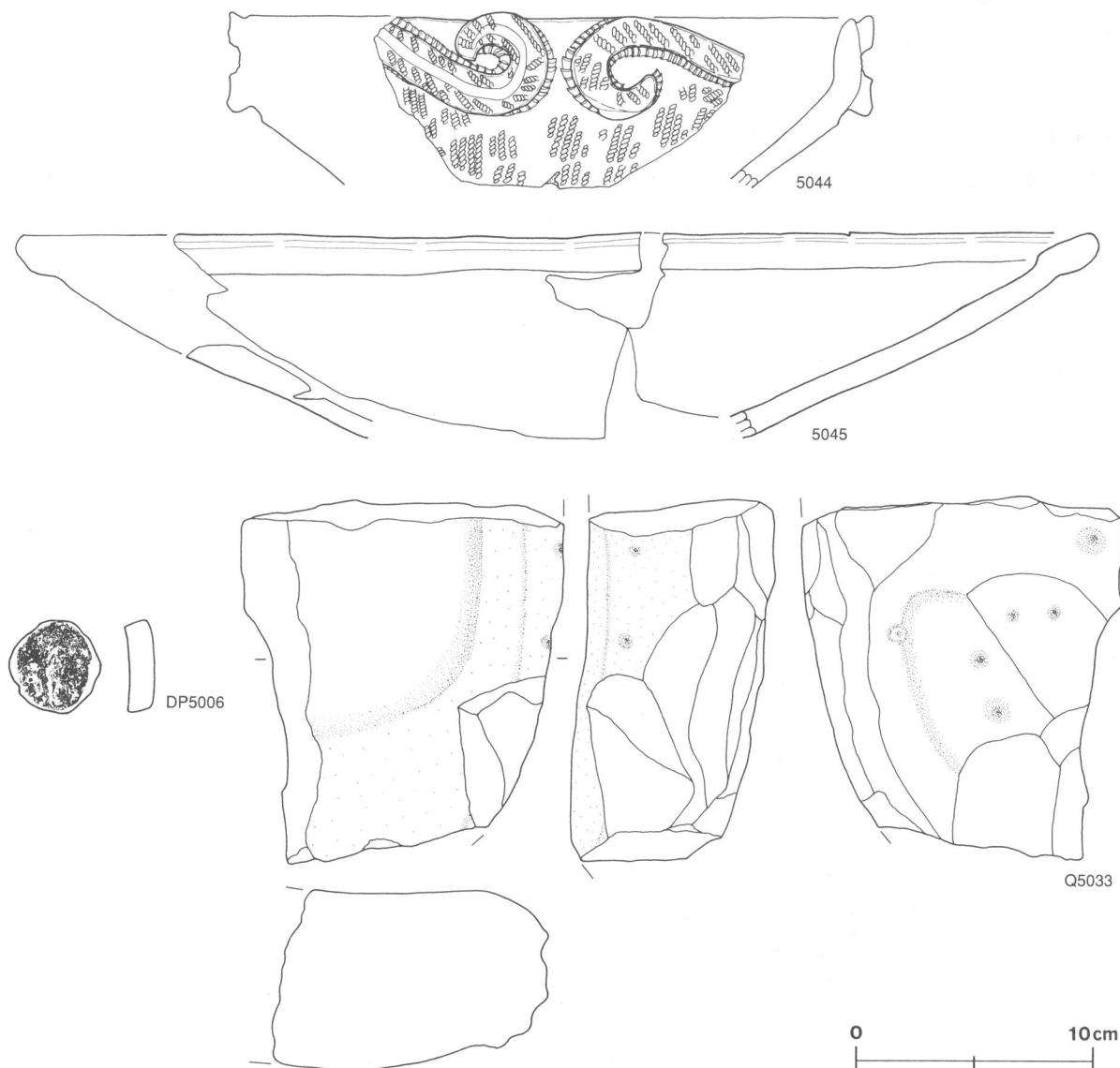
- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片299点，石皿1点，土器片円盤1点が覆土から出土している。遺物は中央部の覆土下層から廃棄されたような状態で集中して出土している。5042の深鉢は底面から，5043の深鉢は覆土下層から出土している。

所見 時期は，覆土下層から底面にかけて出土している5042・5043などから，中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第190図 第1167号土坑・出土遺物実測図



第191図 第1167号土坑出土遺物実測図

第1167号土坑出土遺物観察表 (第190・191図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5042	縄文土器	深鉢	14.3	31.3	7.7	口唇部にキザミを有し、口唇部直下に結節沈線文。隆帯による長楕円形の区画文を描出。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	底面	P L43
5043	縄文土器	深鉢	13.8	21.8	7.5	押圧を加えた隆帯が巡り、X字状文を描出。結節沈線文で文様描出。LRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	P L43
5044	縄文土器	深鉢	[25.2]	(7.3)	—	半截竹管による結節沈線を伴う隆帯で横S字状文。胴部や隆帯上にRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
5045	縄文土器	浅鉢	44.8	(8.7)	—	器面は無文で研磨。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	
番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)						
DP5006	土器片円盤	(3.9)	(3.8)	(1.3)	(19.9)	長石・石英・雲母 橙	半截竹管による平行沈線文。周縁部は荒割り。	覆土	P L59		
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)						
Q5033	石皿	(15.3)	(13.5)	8.6	(2312.6)	砂岩	両面に摩擦による皿状のくぼみを有する。凹石に併用。	覆土下層			

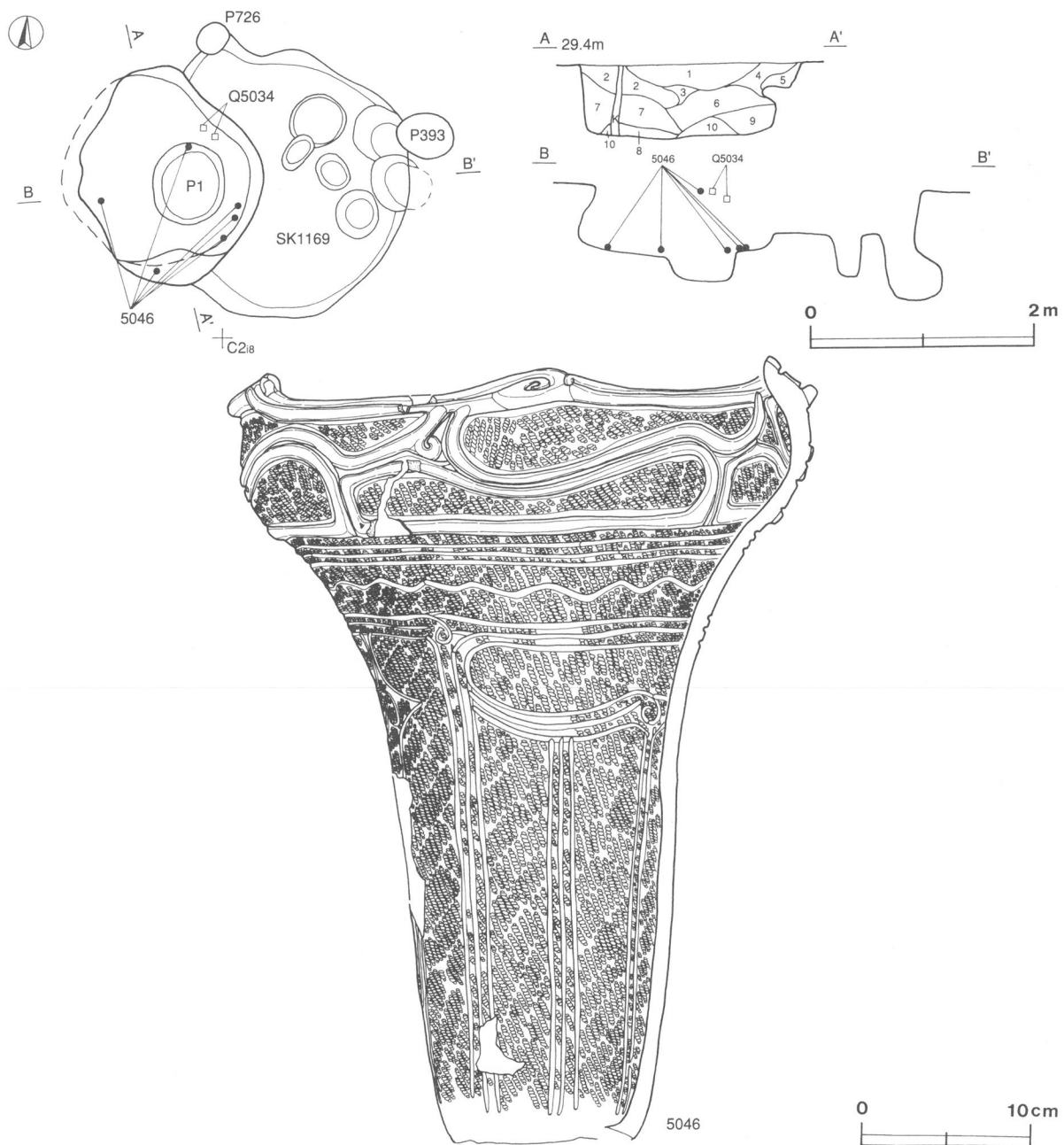
第1168号土坑（第192・193図）

位置 調査2区の北部，C2h7区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1169号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，現状では長径1.98m，短径1.62m程度で，不整楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.74m，短径1.65m程度の円形である。確認面からの深さは66cmである。壁は西側は下位から上位にかけて内傾し，東側は外傾する。南側は下位からくびれ部にかけて直立し，くびれ部を経て上位にかけては外傾する。ピットは1か所で中央部に位置し，P1は深さ27cmである。

覆土 10層に分層される。全体的に炭化粒子やロームブロックを多量に含んでいる。ほぼ東西の壁際の底面から同一の深鉢の大形破片が出土しており，土坑廃絶時に廃棄し埋め戻されたと考えられる。以上のことと，不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。



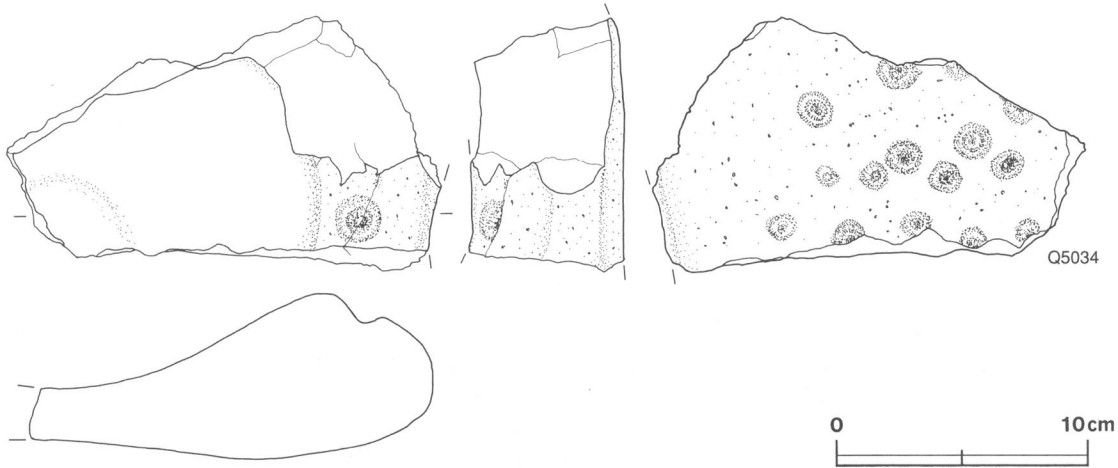
第192図 第1168号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | 炭化物少量, ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 炭化物中量, ロームブロック少量 | 7 褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 8 極暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量, 鹿沼パミス粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子中量 | 10 褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |

遺物出土状況 縄文土器片129点, 石皿1点が出土している。5046は深鉢で, 底面から逆位で出土している。

所見 時期は, 底面直上から逆位の状態で出土している5046などから, 中期後葉(加曾利 E I 式期中段階)と考えられる。



第193図 第1168号土坑出土遺物実測図

第1168号土坑出土遺物観察表 (第192・193図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5046	縄文土器	深鉢	30.1	47.0	[10.2]	波頂部に渦巻文。沈線を有する隆帯と沈線で文様描出。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	底面	PL44

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5034	石皿	(10.0)	(17.0)	(6.1)	(887.4)	安山岩	表面に摩耗による皿状のくぼみを有する。凹石に併用。	覆土上層	PL61

第1169号土坑 (第194・195図)

位置 調査2区の北部, C2h8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1168号土坑を掘り込み, 第393号, 726号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 西側で第1168号土坑と重複しているため, 平面形は, 径2.36m程度の円形と推定される。底面はほぼ平坦で, 確認面からの深さは56cmである。壁は外傾する。ピットは6か所で, 中央部から東部に集中して位置する。深さは, P1が49cm, P2が44cm, P3が58cm, P4が13cm, P5が35cm, P6が54cmである。

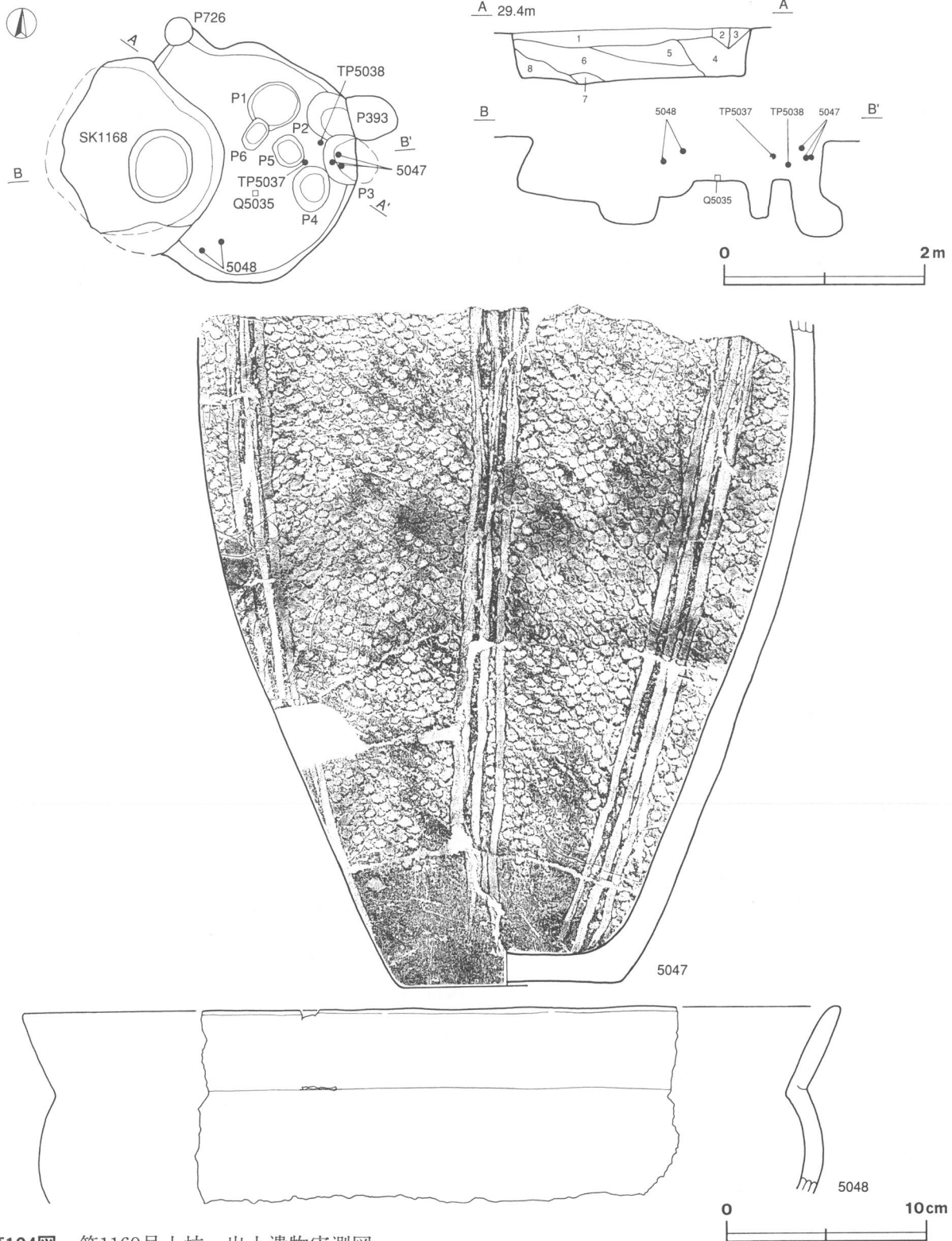
覆土 8層に分層される。東側の第4層付近から遺物が集中して出土している。第5～8層の覆土下層はレンズ状に堆積しているので自然堆積と考えられるが, 第4層から上層は土器片の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

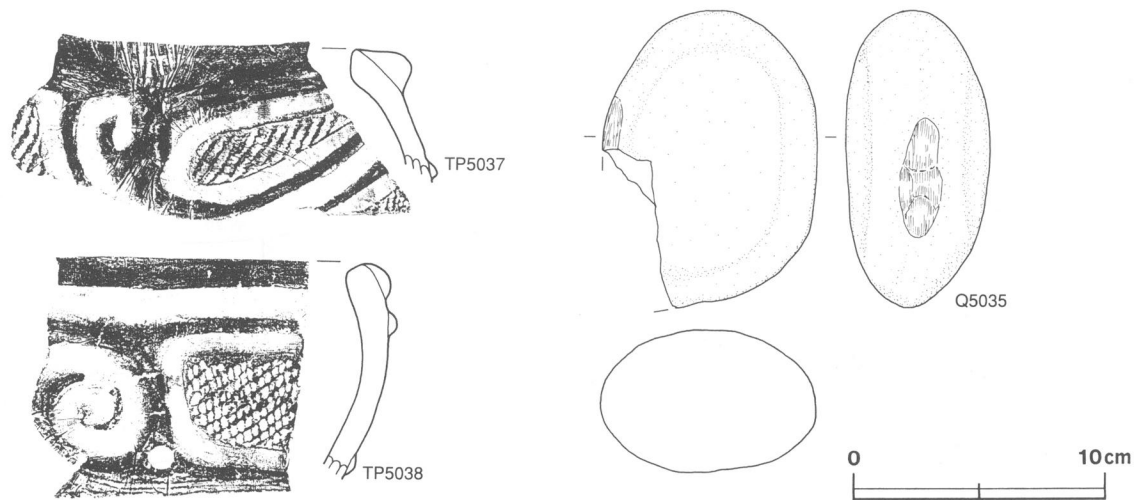
- | | | | |
|--------|----------------------|--------|---------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子多量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量 | 7 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量 | 8 褐色 | 炭化粒子多量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片415点、磨石1点が出土している。遺物は東側の覆土中層に廃棄されたような状態で出土している。

所見 覆土中層に縄文土器の大形破片などが、廃棄されたような状態で出土している。本跡が廃絶され、ある程度埋まりかけた時点で廃棄されものと考えられる。そのため、本跡の廃絶時期を出土土器から判断することは困難であるが、時期は、遺構の新旧関係や出土土器から中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第194図 第1169号土坑・出土遺物実測図



第195図 第1169号土坑出土遺物実測図

第1169号土坑出土遺物観察表（第194・195図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5047	縄文土器	深鉢	—	(32.9)	10.9	胴部には棒状工具による3本の沈線を垂下。胴部にはL R Lの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黄橙	覆土中層	
5048	縄文土器	鉢	[40.6]	(9.4)	—	器面は無文でよく研磨。	石英・赤色 粒子	普通	橙	覆土中層	
TP5037	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	沈線に沿う隆帯による渦巻文と区画文。区画内にはL R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英 ・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP5038	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	沈線に沿う隆帯による渦巻文と区画文。区画内にはL R Lの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英 ・雲母	普通	褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5035	磨石	11.8	8.5	5.6	(728.6)	安山岩	両側縁に使用痕。一部欠損。	底面	

第1179号土坑（第196図）

位置 調査2区の北部，C2f9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第152号住居，第1183・1215号土坑，第408号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，不整楕円形と推定され，現状では長径2.51m，短径2.23m程度である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.38m，短径1.88mの不整楕円形と推定される。確認面からの深さは58cmである。壁は一部外傾して立ち上がるが，全体的にはほぼ直立する。しかし，土層観察からは，北壁・東壁では，下位から中位にかけて内傾して立ち上がることが確認されている。底面からくびれ部までの高さは，平均22cmである。ピットは2か所で東側に位置している。深さは，P1が30cm，P2が42cmである。

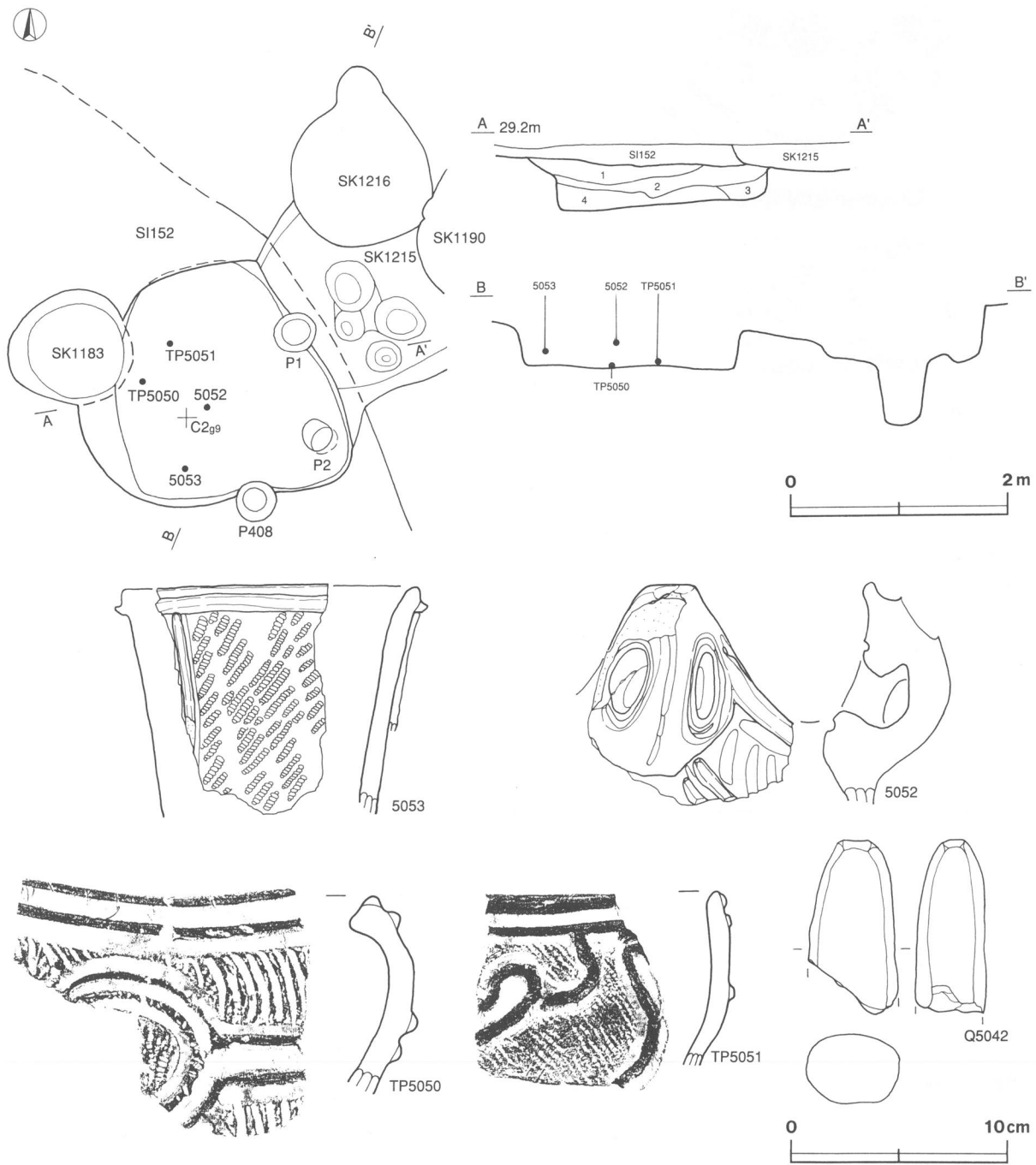
覆土 4層に分層される。第3層以下から大形破片が廃棄されたような状態で出土していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片477点，磨製石斧1点，打製石斧1点，石鏃1点が覆土から出土している。遺物は，北部から北西部にかけての覆土中層から底面にかけて廃棄されたような状態で出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。



第196図 第1179号土坑・出土遺物実測図

第1179号土坑出土遺物観察表（第196図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5052	縄文土器	深鉢	—	(10.2)	—	沈線を有する隆帯により眼鏡状把手を作出。沈線と隆帯により文様を描出。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
5053	縄文土器	深鉢	[13.6]	(10.7)	—	口唇部直下に隆帯が巡る。胴部には隆帯が垂下。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP5050	縄文土器	深鉢	—	(9.2)	—	口縁部は隆帯により文様を描出。区画内にはR Lの単節縄文, 区画外には条線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	
TP5051	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	口縁部は隆帯により文様を描出。口縁部にはLの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	

番 号	器 種	計 測 値				材 質	特 徴	出土位置	備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5042	磨製石斧	(8.0)	(4.2)	3.2	(170.4)	斑劔岩	定角式。器体研磨入念。刃部欠損。	覆 土	

第1183号土坑（第197・198図）

位置 調査2区の北部，C2f8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第152号住居跡，第1179号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は，径1.14m程度の円形である。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは62cmである。壁は外傾する。

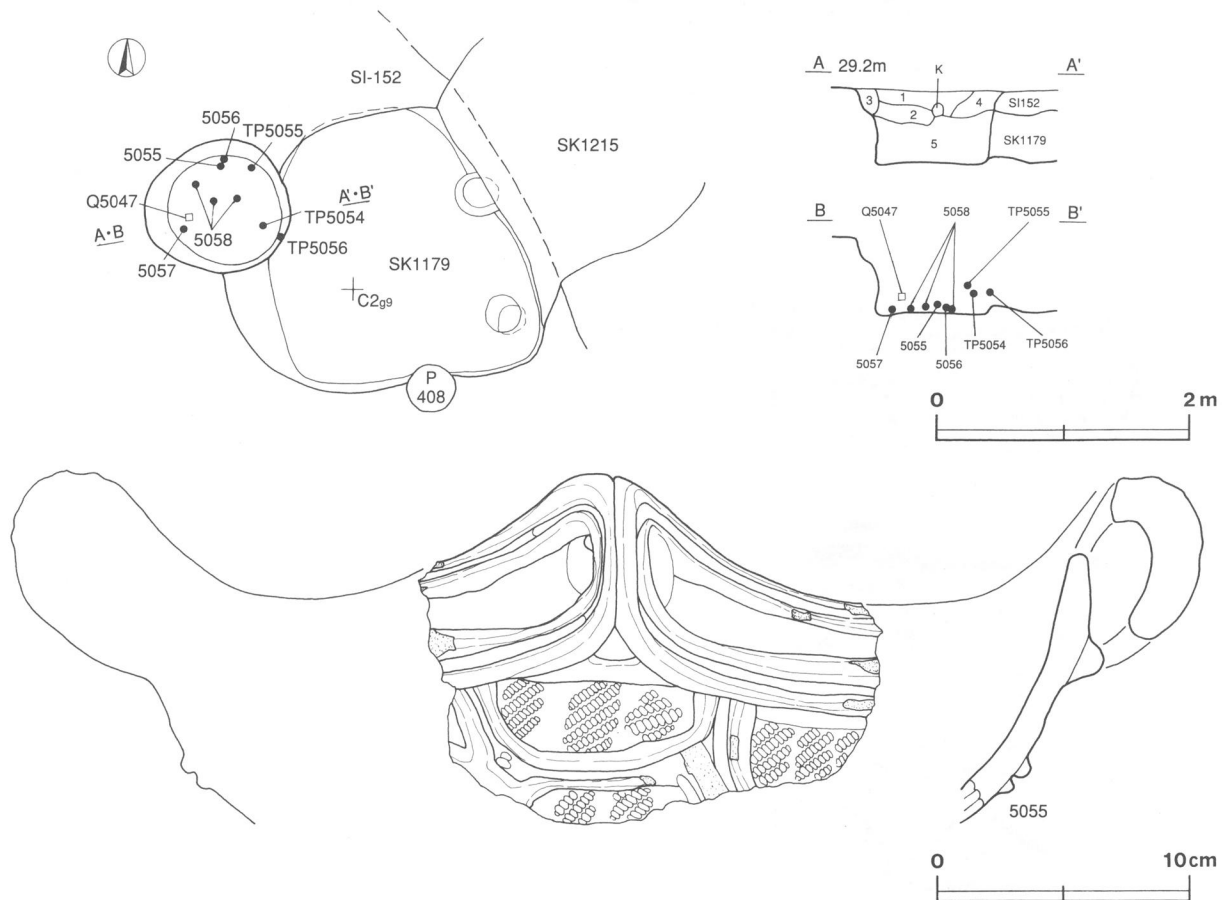
覆土 5層に分層される。遺物は最下層の第5層から集中して出土している。第5層から上層も不自然な堆積状況から，土器片の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

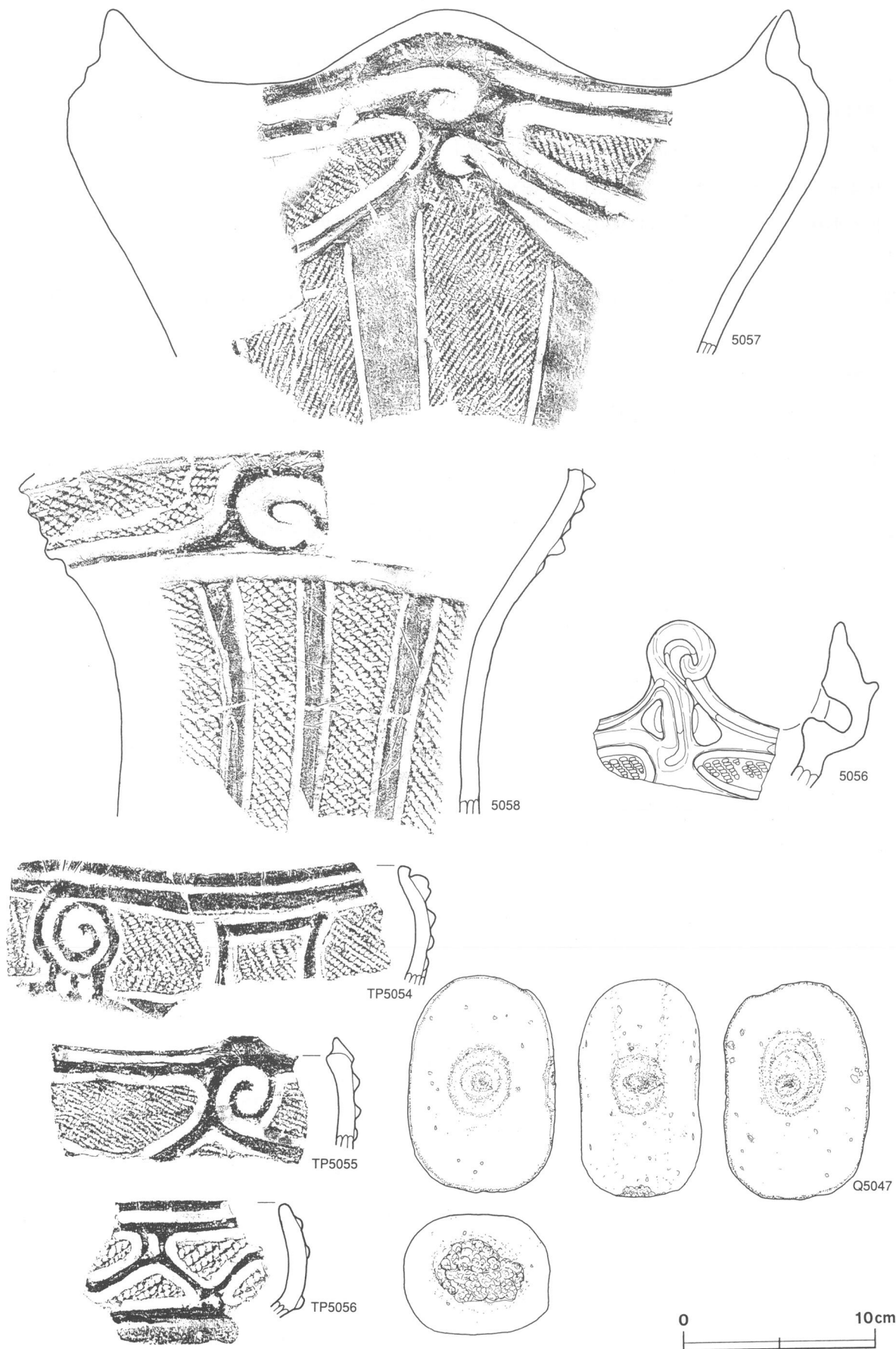
- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片272点，磨製石斧1点，凹石1点，石皿1点，磨石1点が覆土から出土している。遺物は覆土下層から底面にかけて集中して出土している。小破片が多いため廃棄されたものと考えられる。5055は深鉢で，覆土下層から出土している。これは，第1426号土坑の覆土中層から出土した5223と同一個体である。

所見 時期は，底面から出土している5057・5058などから中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。



第197図 第1183号土坑・出土遺物実測図



第198图 第1183号土坑出土遗物实测图

第1183号土坑出土遺物観察表（第197・198図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5055	縄文土器	深鉢	[40.3]	(13.8)	—	沈線を有する隆帯による眼鏡状把手。口縁部は2本の隆帯で文様描出。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土下層	
5056	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	波頂部に隆帯による渦巻文。口縁部には隆帯による楕円区画文。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
5057	縄文土器	深鉢	[35.2]	(18.1)	—	沈線に沿う隆帯で渦巻文や区画文を描出。懸垂文間を磨り消す。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	底面	
5058	縄文土器	深鉢	—	(17.9)	—	沈線に沿う隆帯で渦巻文を描出。区画内や胴部はLRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	底面	
TP5054	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	口縁部には隆帯による渦巻文と区画文を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP5055	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	口縁部には隆帯による渦巻文と区画文。口唇部に突起。RLの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP5056	縄文土器	深鉢	—	(6.1)	—	口縁部には隆帯による区画文を描出。口縁部にはLRの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5047	凹石	11.3	7.7	6.5	616.5	安山岩	両面及び側縁にくぼみを有する。長軸の一端に敲打痕。	覆土下層	P L 61

第1190号土坑（第199図）

位置 調査2区の北部，C2f9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1191土坑に掘り込まれている。第1215，1216，1311号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，現状では長径3.02m，短径2.38m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径3.21m，短径2.55m程度の楕円形である。確認面からの深さは58cmである。壁は一部外傾しているが，下位からくびれ部にかけて内傾し，くびれ部から上位にかけては直立する。底面からくびれ部までの高さは，平均21cmである。ピットは3か所で北西側に集中している。深さは，P1が45cm，P2が10cm，P3が13cmである。

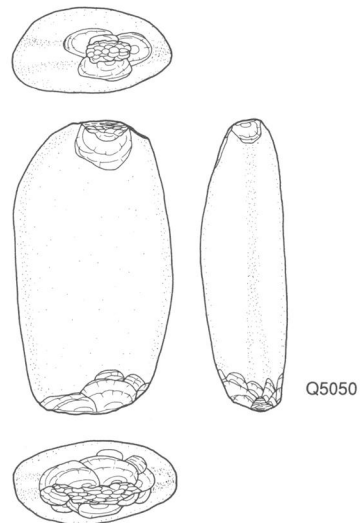
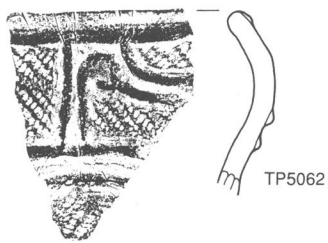
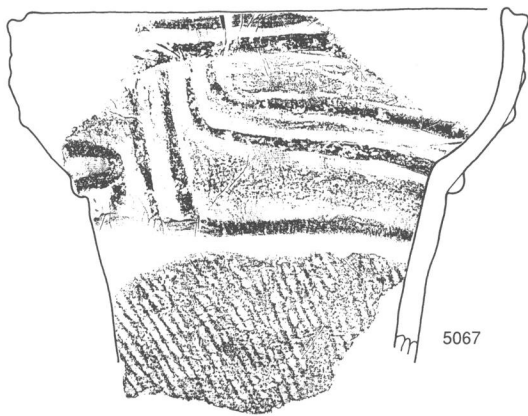
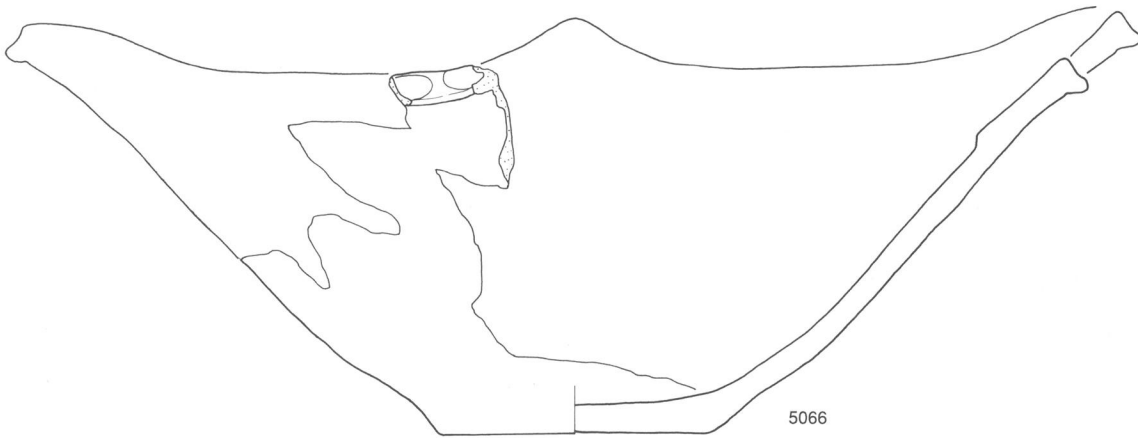
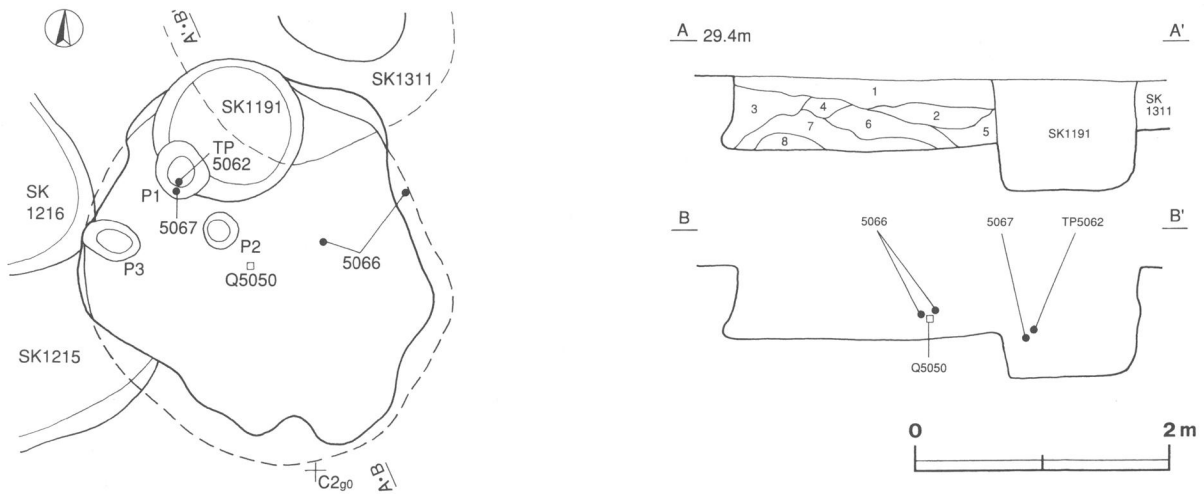
覆土 8層に分層される。全体的に炭化粒子やロームブロックを多量に含み，短期間に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量，炭化物少量 | 7 黒褐色 | ロームブロック多量，炭化物少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片438点，敲石1点，打製石斧1点が覆土から出土している。遺物は，覆土下層から廃棄されたような状態で出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第199图 第1190号土坑·出土遺物実測図

第1190号土坑出土遺物観察表（第199図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5066	縄文土器	浅鉢	[43.2]	[16.5]	10.6	無文。良く研磨している。口唇部に隆帯を貼り付け、指頭により押圧。	長石・石英・赤色粒子	普通	褐	覆土下層	胴部下半スス付着
5067	縄文土器	深鉢	[19.0]	(13.8)	—	口縁部には2本の隆帯による隆帯文とクランク文を描出。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	橙	底面	
TP5062	縄文土器	深鉢	—	(7.2)	—	口縁部は隆帯により渦巻文と区画文を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	床面	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5050	蔽石	11.7	6.4	3.5	361.1	砂岩	長軸側の両端部に敲打痕。	覆土下層	

第1192号土坑（第200・201図）

位置 調査2区の北部，C2d9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1096・1150・1151号土坑に掘り込まれている。第1193・1211号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，楕円形と推定される。北西部が崩落しているため，規模は不明である。底面はほぼ平坦で，平面形は径2.32m程度の円形である。確認面からの深さは105cmである。壁は半分崩落しているが，土層観察からは，下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり，くびれ部から上位にかけては外傾する。底面からくびれ部までの高さは平均76cmである。

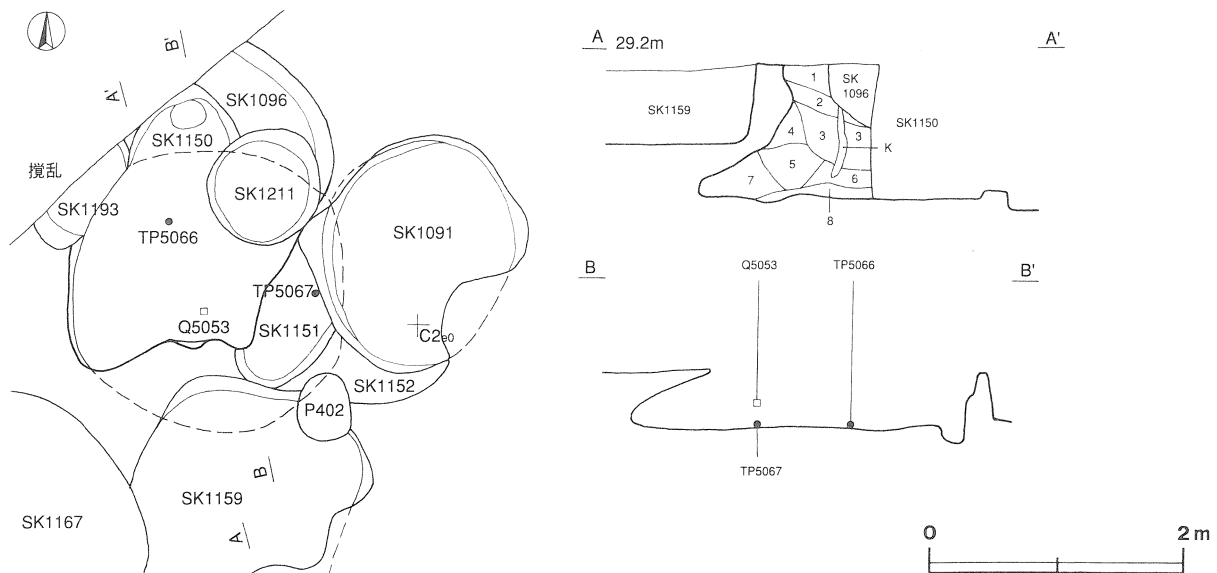
覆土 8層に分層される。8層はロームを多量に含む粘性の強い土層で，壁の崩落土と考えられる。その他は不自然な堆積状況などから人為堆積と考えられる。

土層解説

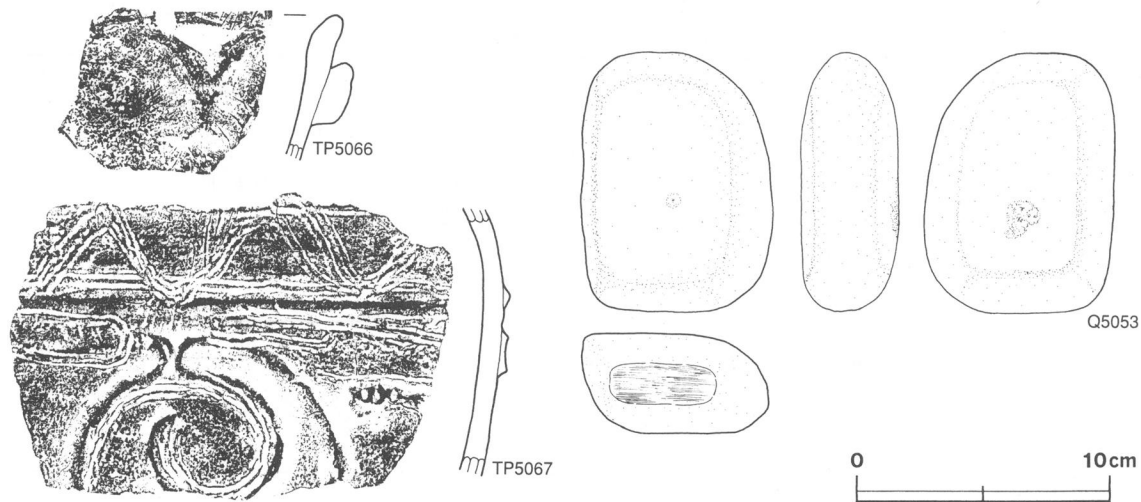
- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片26点，磨石1点が覆土から出土している。遺物は主に覆土下層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第200図 第1192号土坑実測図



第201図 第1192号土坑出土遺物実測図

第1192号土坑出土遺物観察表（第201図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5066	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	—	口縁部に隆帯によるV字状文を描出。口唇部に押圧文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	底面	
TP5067	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	—	隆帯による渦巻文。隆帯に沿って複列の結節沈線文。結節沈線文により文様を描出。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5053	磨石	10.2	7.5	3.9	466.4	砂岩	長軸側の一端に使用痕。凹石に併用。	覆土下層	

第1196号土坑（第202・203図）

位置 調査2区の北部，C2j8区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.88m，短径1.52m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.33m，短径2.04m程度の楕円形である。確認面からの深さは67cmである。壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がる。中位から上位にかけてはほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは平均41cmである。ピットは1か所で，P1は南東部に位置し，深さ8cmである。

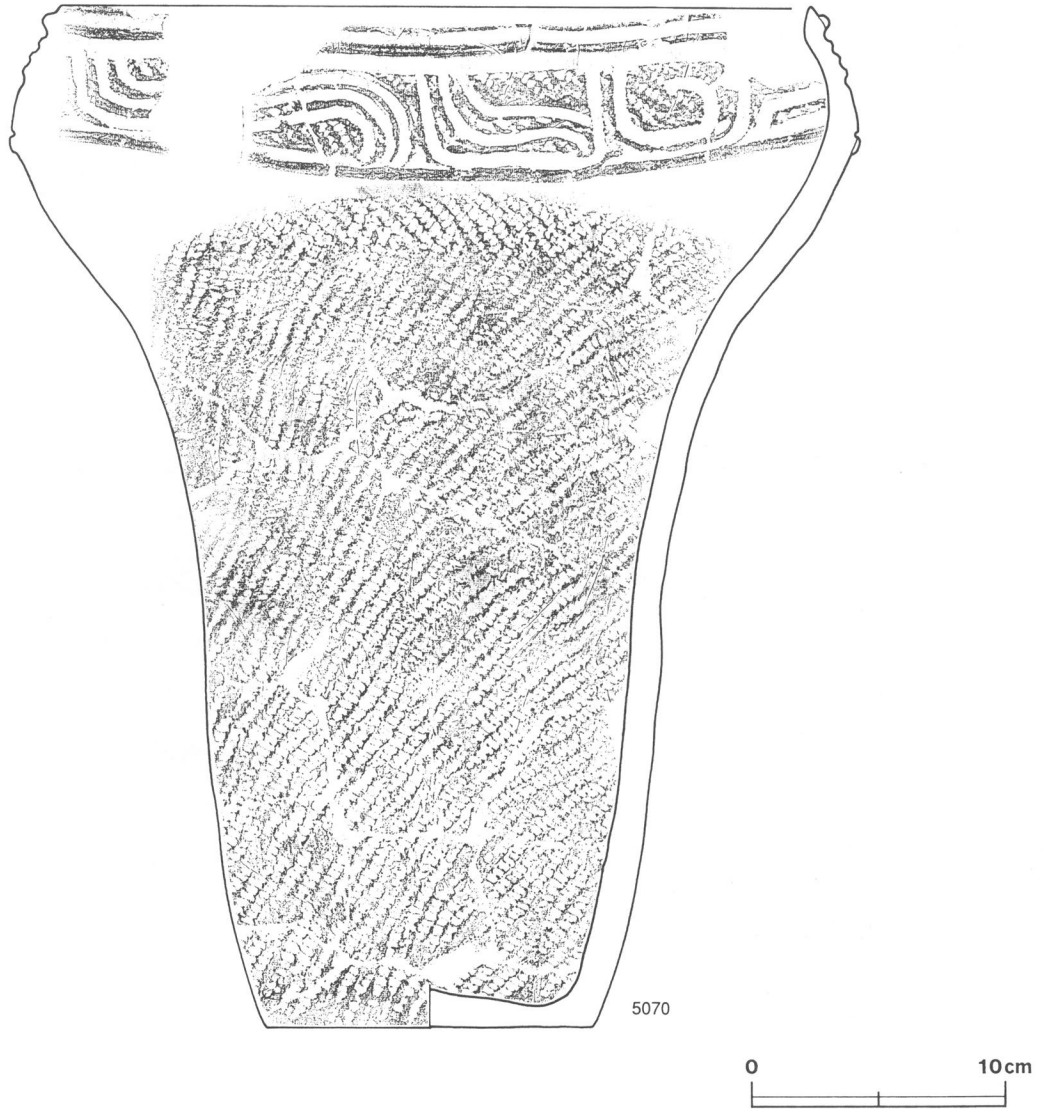
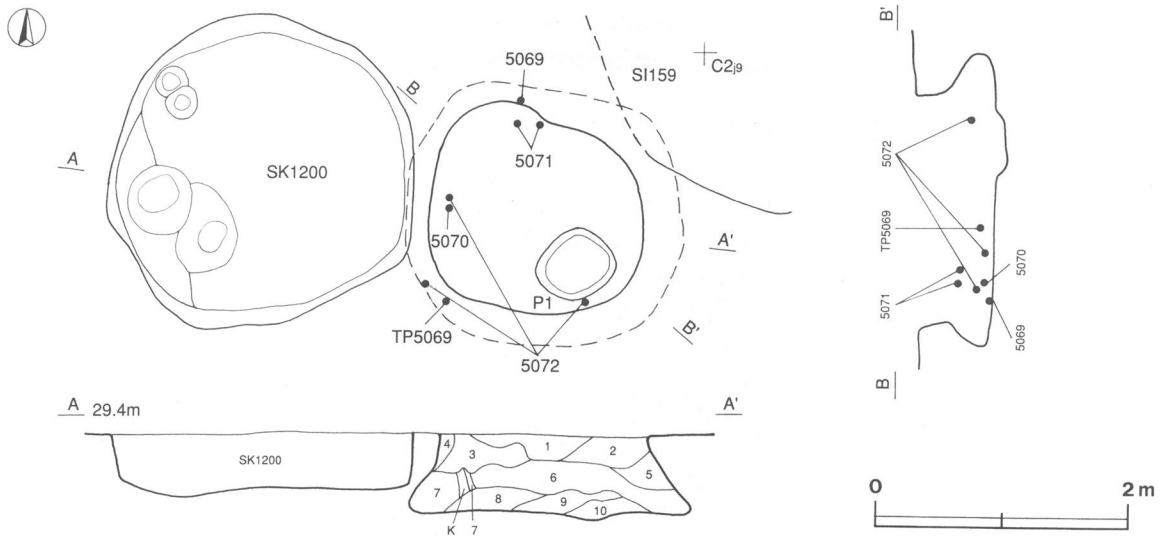
覆土 10層に分層される。第8～10層は，ロームブロックや粘土粒子が多く含まれ，壁の崩落土と考えられる。土器の大形片が覆土下層に廃棄された状態で出土していることから，第7層から上層は人為堆積と考えられる。

土層解説

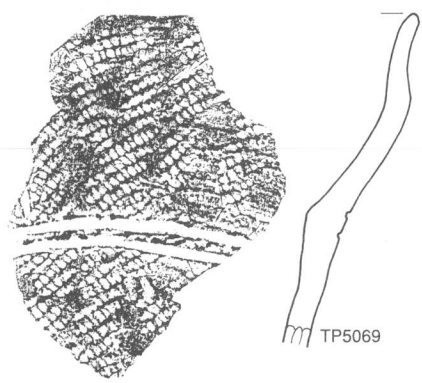
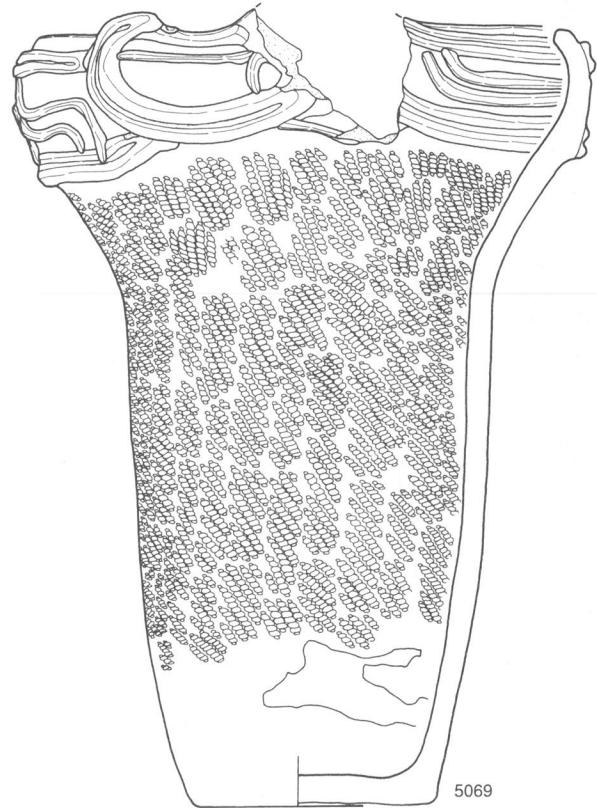
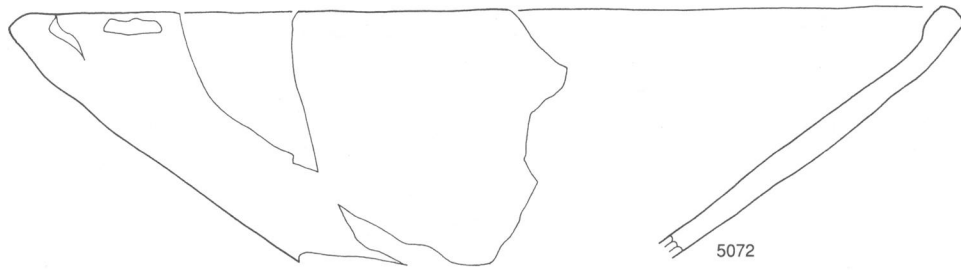
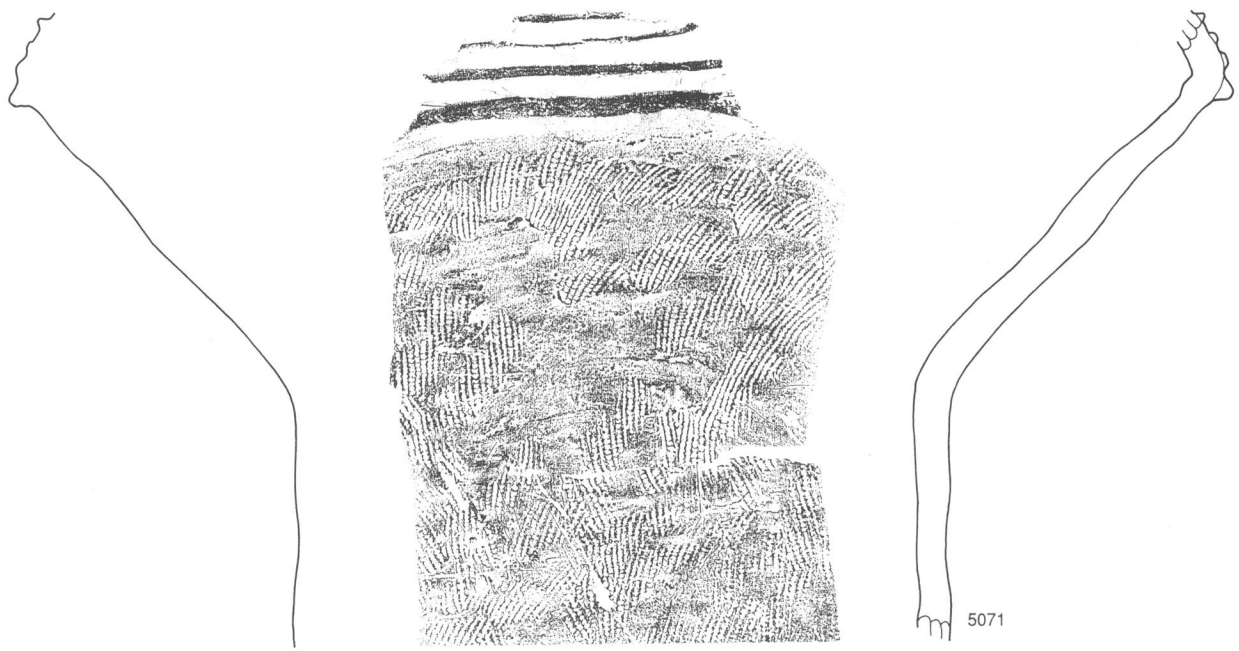
- | | | | |
|-------|----------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物少量，ロームブロック微量 | 8 極暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 |
| 3 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・炭化物・粘土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子・粘土粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック微量 | | |
| 6 黒色 | 炭化物少量，ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片223点，石鏃1点が覆土から出土している。遺物は壁際の覆土下層から底面にかけて集中して出土している。5069の深鉢は底面から横位で，5070の深鉢は下層から横位で出土している。

所見 時期は，5069，5070が下層から底面にかけて出土していることから，中期後葉（加曾利EⅠ式期）と考えられる。



第202图 第1196号土坑·出土遺物実測図



第203图 第1196号土坑出土遺物实测图

第1196号土坑出土遺物観察表（第202・203図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5069	縄文土器	深鉢	20.4	31.6	9.6	沈線を有する隆帯で波状部を作出。2本の隆帯によるクランク文。LRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	P L44
5070	縄文土器	深鉢	[29.6]	40.3	12.8	口縁部に隆帯が巡り、地文施文後、沈線でクランク文、渦巻文を描出。RLの単節縄文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
5071	縄文土器	深鉢	—	(25.1)	—	口縁部に4本の隆帯が巡る。胴部にはRLの単節縄文を縦方向や横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
5072	縄文土器	浅鉢	[36.0]	(9.8)	—	胴部無文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP5069	縄文土器	深鉢	—	(13.0)	—	胴部上位に2本の沈線が巡る。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	

第1200号土坑（第204～206図）

位置 調査2区の北部、C2j8区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 平面形は、長径2.50m、短径2.40m程度のほぼ円形である。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは48cmである。壁は外傾する。ピットは4か所で西側に位置する。深さは、P1が8cm、P2が14cm、P4が10cmである。P3の深さは不明である。

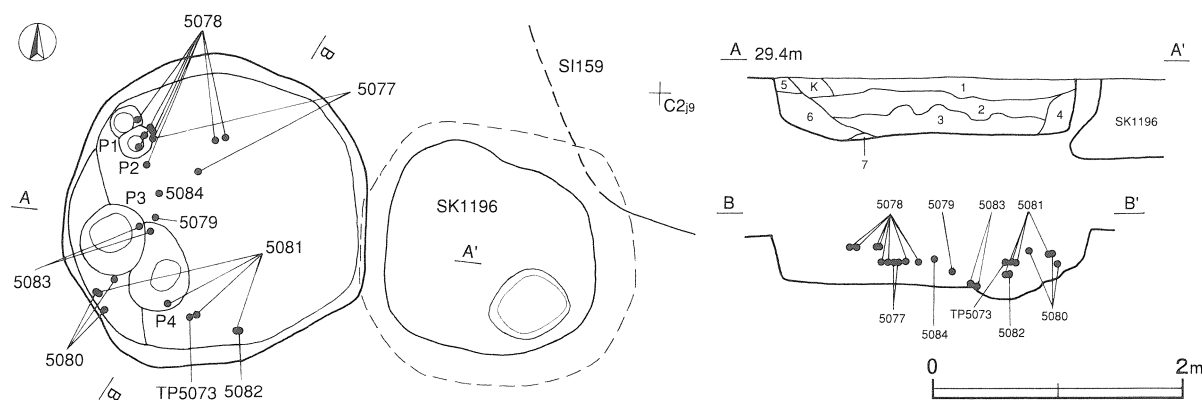
覆土 7層に分層される。レンズ状に堆積しているが、西側の覆土中層から下層にかけて円礫が集中して出土していることから人為堆積と考えられる。上層は平坦に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

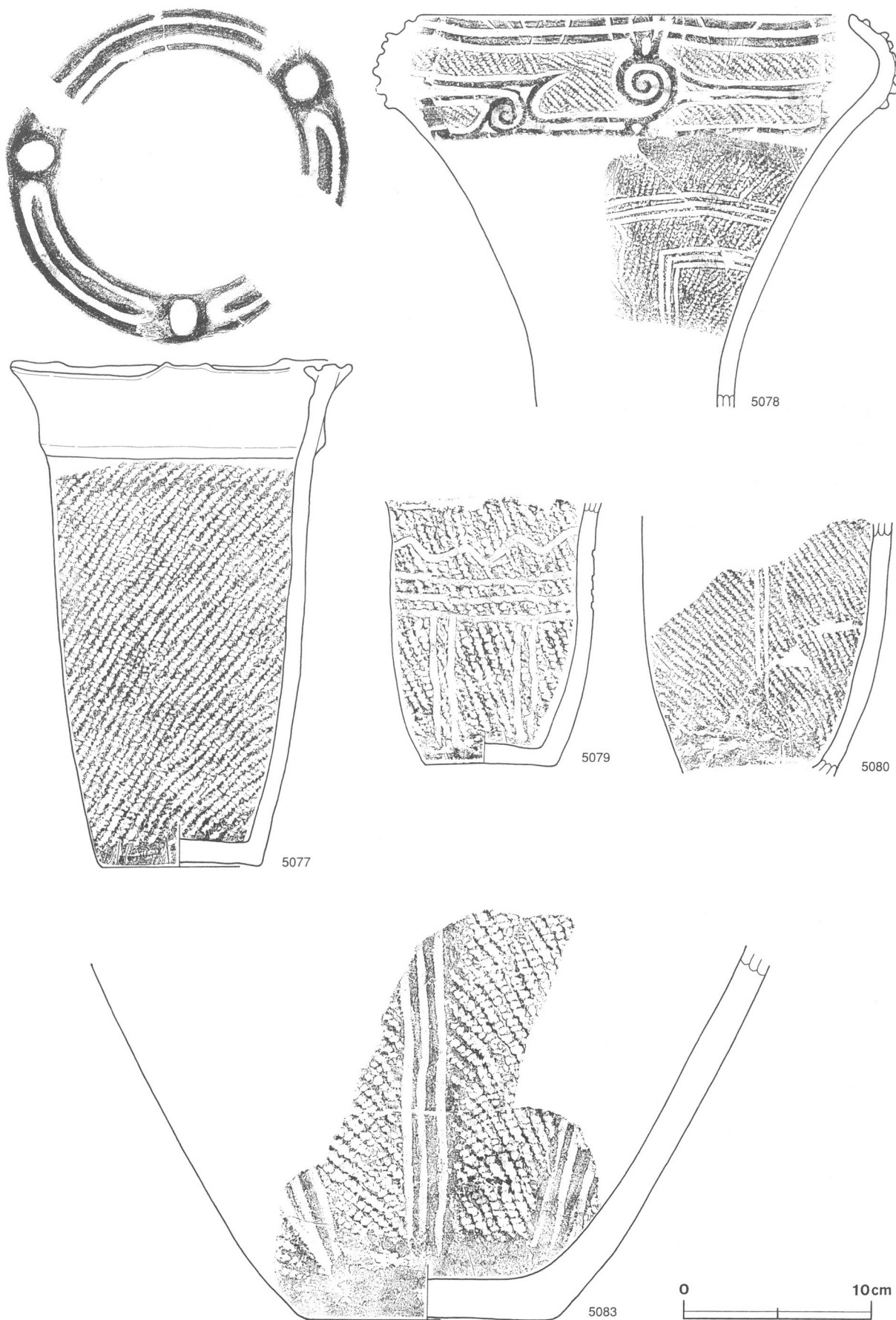
- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 7 褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片194点、打製石斧1点、礫71点が覆土から出土している。西側の覆土中層から下層にかけて円礫が集中して出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて集中して出土しており、土坑廃絶時に廃棄されたものと考えられる。5077は深鉢で、下層から横位で出土している。5084はミニチュア土器で覆土中層から出土している。

所見 覆土中層から下層にかけて多量に出土している円礫は、土坑廃絶時に土器片と共に廃棄されたと考えられる。本跡はミニチュア土器が出土している点に特徴がある。時期は、出土土器から中期後葉（加曾利EⅠ～EⅡ式期）と考えられる。



第204図 第1200号土坑実測図



第205图 第1200号土坑出土遗物实测图(1)



第206図 第1200号土坑出土遺物実測図(2)

第1200号土坑出土遺物観察表(第205・206図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5077	縄文土器	深鉢	17.9	27.1	8.5	口唇部に隆帯による円形の突起。突起間に沈線による区画文。胴部はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	P L45
5078	縄文土器	深鉢	[22.8]	(21.0)	—	口縁部に隆帯による渦巻文と剣先状文を有する渦巻文を4単位描出。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
5079	縄文土器	深鉢	—	(14.0)	6.8	胴部には棒状工具による沈線文が巡る。沈線文を7単位垂下。胴部はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土下層	
5080	縄文土器	深鉢	—	(13.6)	—	胴部には棒状工具による2条の沈線文を4単位垂下。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	
5081	縄文土器	深鉢	[21.4]	(12.1)	—	口縁部に隆帯による渦巻文と区画文を描出。懸垂文間を磨り消す。地文はRの無節縄文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	
5082	縄文土器	深鉢	—	(14.3)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯により文様を描出。胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
5083	縄文土器	鉢	—	(20.0)	14.0	胴部には3本の沈線を垂下し、その間を磨り消す。RLRの複節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母	普通	浅黄橙	底面	
5084	縄文土器	ミニチュア	3.9	4.2	2.4	粘土ひもで巻き上げ後、ナデ。	長石・雲母	普通	橙	覆土中層	P L45
TP5073	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	口縁部には2条の沈線が巡る。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土中層	
TP5074	縄文土器	深鉢	—	(5.7)	—	口縁部には隆帯による渦巻文や隆帯文を描出。	長石	普通	褐	覆土	

第1209号土坑（第207・208図）

位置 調査2区の北部，C2i8区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第150号住居に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は不整楕円形と推定され，現状では長径2.28m，短径2.08m程度である。底面はほぼ平坦で，平面形は径3.23m程度の円形である。確認面からの深さは114cmで，壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり，くびれ部から上位にかけては外傾する。底面からくびれ部までの高さは平均67cmである。

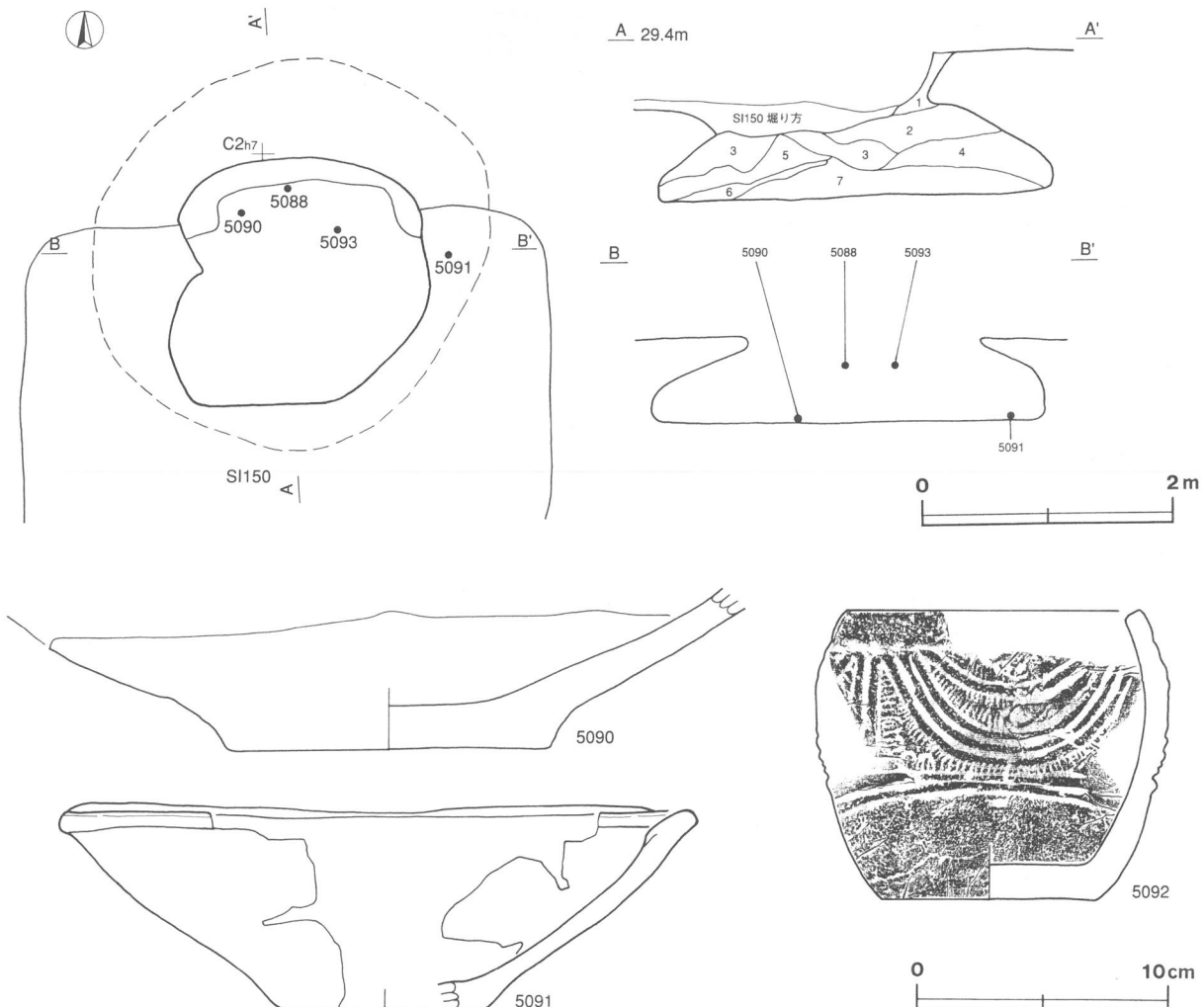
覆土 7層に分層される。第7層はロームブロックや鹿沼パミスを多量に含むしまりの強い土層で，壁などの崩落土と考えられる。他の層も全体的にロームブロックや鹿沼パミスを多量に含み，覆土中層から下層にかけて遺物が集中していることから，土器片の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

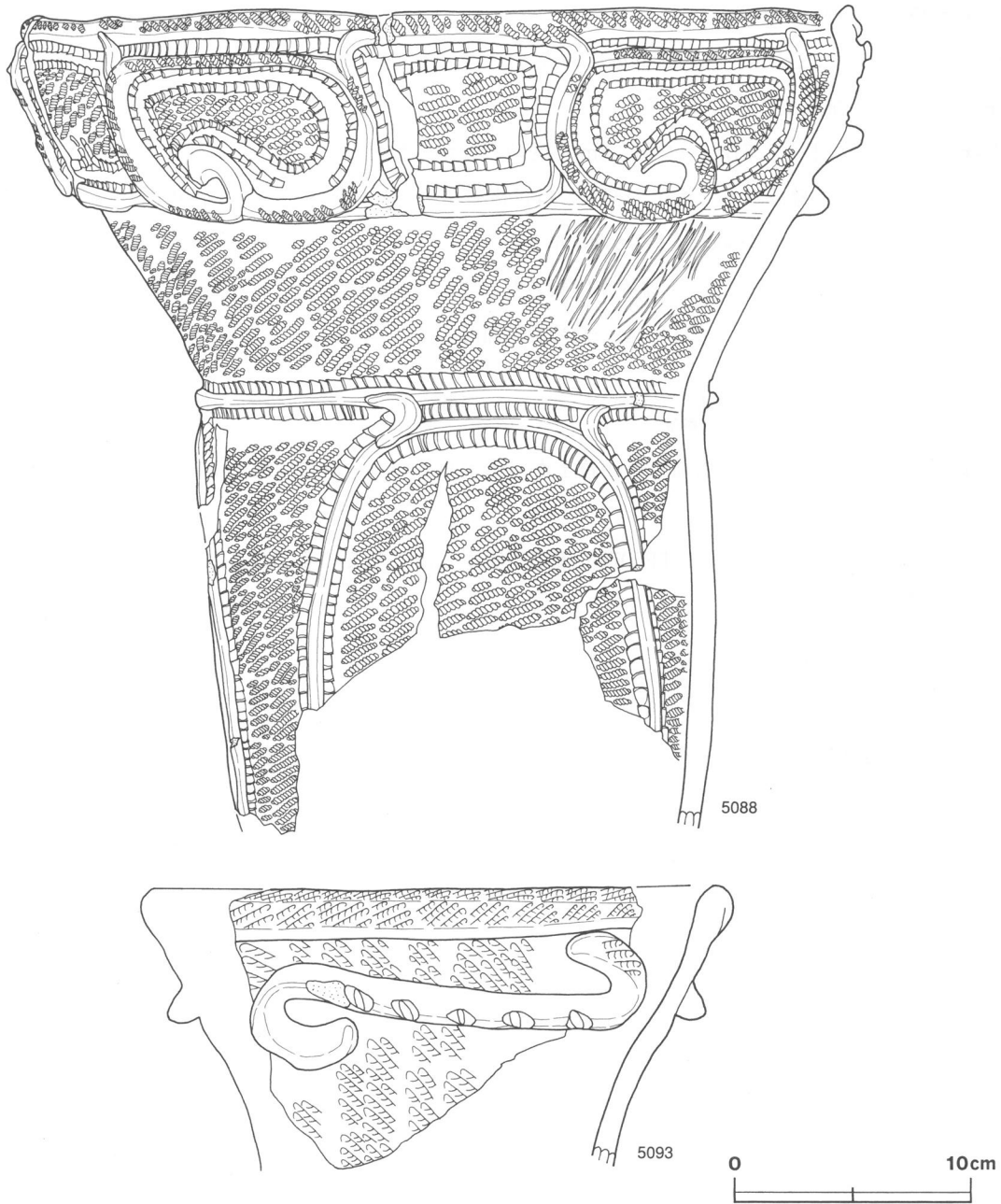
- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 黒色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミス粒子中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片144点が覆土中層から底面にかけて，廃棄されたような状態で出土している。5090・5091の浅鉢は，底面から出土している。5088の深鉢は，覆土中層から横位の状態で出土している。

所見 縄文土器の破片が，覆土中層から底面にかけて廃棄されたように出土していることから，一括廃棄されたと考えられる。時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第207図 第1209号土坑・出土遺物実測図



第208図 第1209号土坑出土遺物実測図

第1209号土坑出土遺物観察表（第207・208図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5088	縄文土器	深鉢	34.2	(34.8)	—	結節沈線が沿う隆帯と爪形文が沿う隆帯により文様を描出。RLの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	P L45
5090	縄文土器	浅鉢	—	(6.3)	12.6	無文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	
5091	縄文土器	浅鉢	24.8	8.0	[8.0]	無文。	長石・雲母	普通	褐灰	底面	P L45
5092	縄文土器	鉢	[11.6]	11.6	8.6	胴部には半截竹管による平行沈線で文様を描出。区画内には結節沈線文で文様描出。	長石・石英・赤色粒子	普通	淡黄	覆土	P L45
5093	縄文土器	深鉢	[23.8]	(11.9)	—	口縁部には指頭押圧を施した横S字状文を描出。Lの無節縄文を縦や横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	

第1216号土坑（第209・210図）

位置 調査2区の北部，C2f9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1215号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は，長径1.61m，短径1.28m程度の不整楕円形である。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは53cmである。壁は確認された大半の部分でほぼ直立する。ピットは2か所で，P1は北壁際に，P2は北部に位置する。深さは，P1が50cm，P2が60cmである。

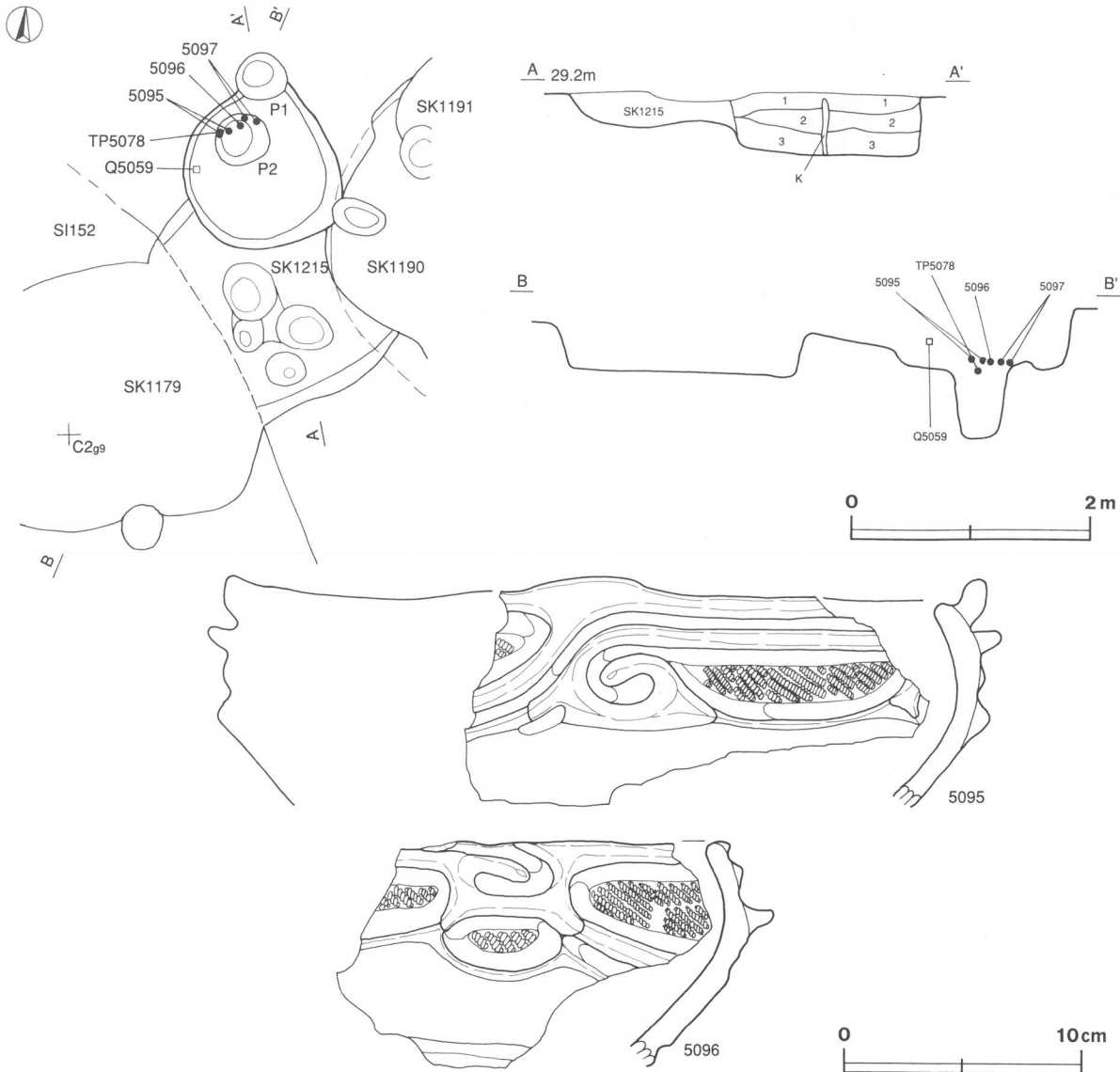
覆土 3層に分層される。第3層は，土器片が廃棄されたような状態で出土していることから人為堆積と考えられる。第1・2層は，堆積状況に乱れがないため自然堆積と考えられる。

土層解説

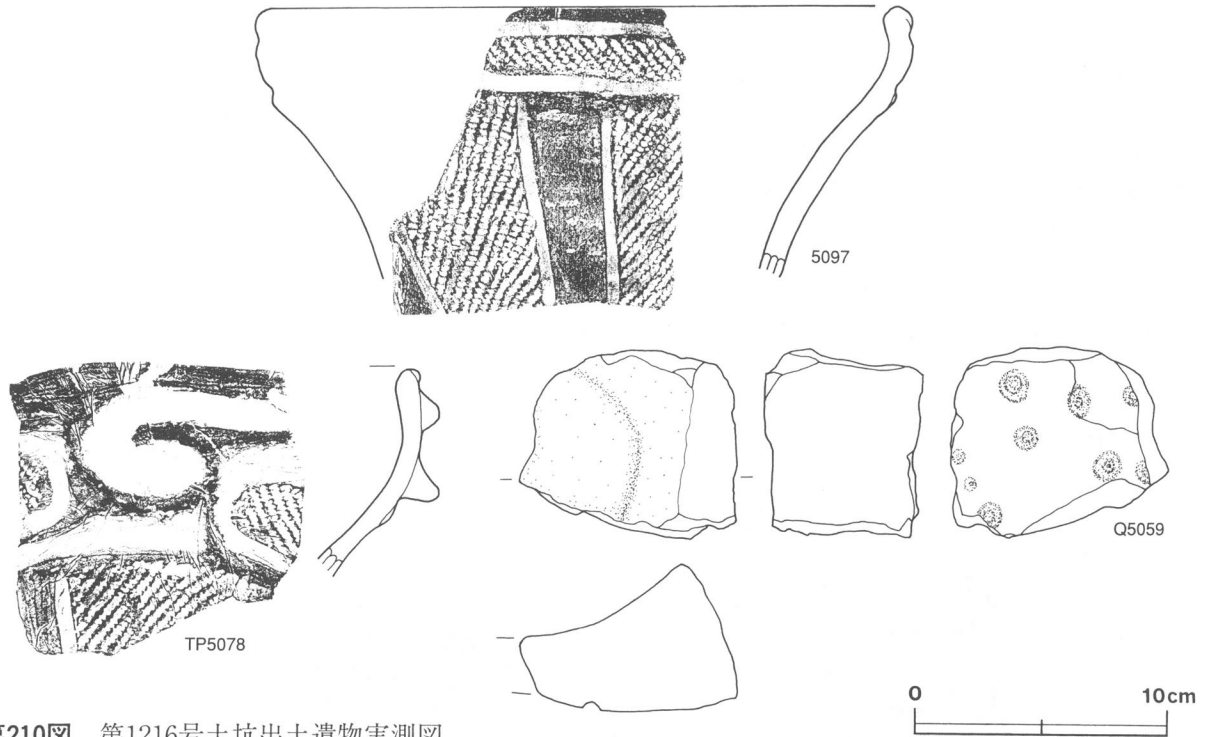
- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片232点，石皿1点が覆土から出土している。遺物は覆土下層から満遍なく廃棄されたような状態で出土している

所見 時期は，底面から出土している TP5078や覆土下層から出土している5097などから，中期後葉（加曽利EⅡ～Ⅲ式期）と考えられる。



第209図 第1216号土坑・出土遺物実測図



第210図 第1216号土坑出土遺物実測図

第1216号土坑出土遺物観察表（第209・210図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5095	縄文土器	深鉢	[31.3]	(9.7)	—	隆帯や沈線で渦巻文や区画文を描出。区画内にはR Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	5096と同一
5096	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	隆帯や沈線で渦巻文や区画文を描出。口縁部下半は無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	5095と同一
5097	縄文土器	深鉢	[24.6]	(10.7)	—	口縁部には隆帯が巡り、地文はR Lの単節縄文。胴部は幅広の懸垂文間を磨り消す。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい黄橙	覆土下層	
TP5078	縄文土器	深鉢	—	(8.1)	—	口縁部は隆帯による渦巻文を描出。胴部は懸垂文間を磨り消す。地文はR Lの単節縄文。	長石・石英	普通	橙	底面	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5059	石皿	(7.5)	(8.6)	(6.3)	(344.8)	砂岩	表面に摩耗による皿状のくぼみを有する。凹石に併用。	覆土中層	

第1218号土坑（第211～213図）

位置 調査2区の北部，D2 a9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1235号土坑に掘り込まれている。また第1346号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，現状では長径2.38m，短径2.22m程度の円形であるが，第1235号土坑に掘り込まれているため詳細は不明である。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.53m，短径2.28m程度の楕円形である。確認面からの深さは57cmで，壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，上位で外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均43cmである。ピットは1か所で北東側に位置し，P1は深さ39cmである。

覆土 6層に分層される。第4～6層はロームブロックを多量に含む層で，開口部や壁などの崩落土とも考えられるが，堆積状況が不自然であるので人為堆積と考えられる。その崩落とともに土器が廃棄され，その後の

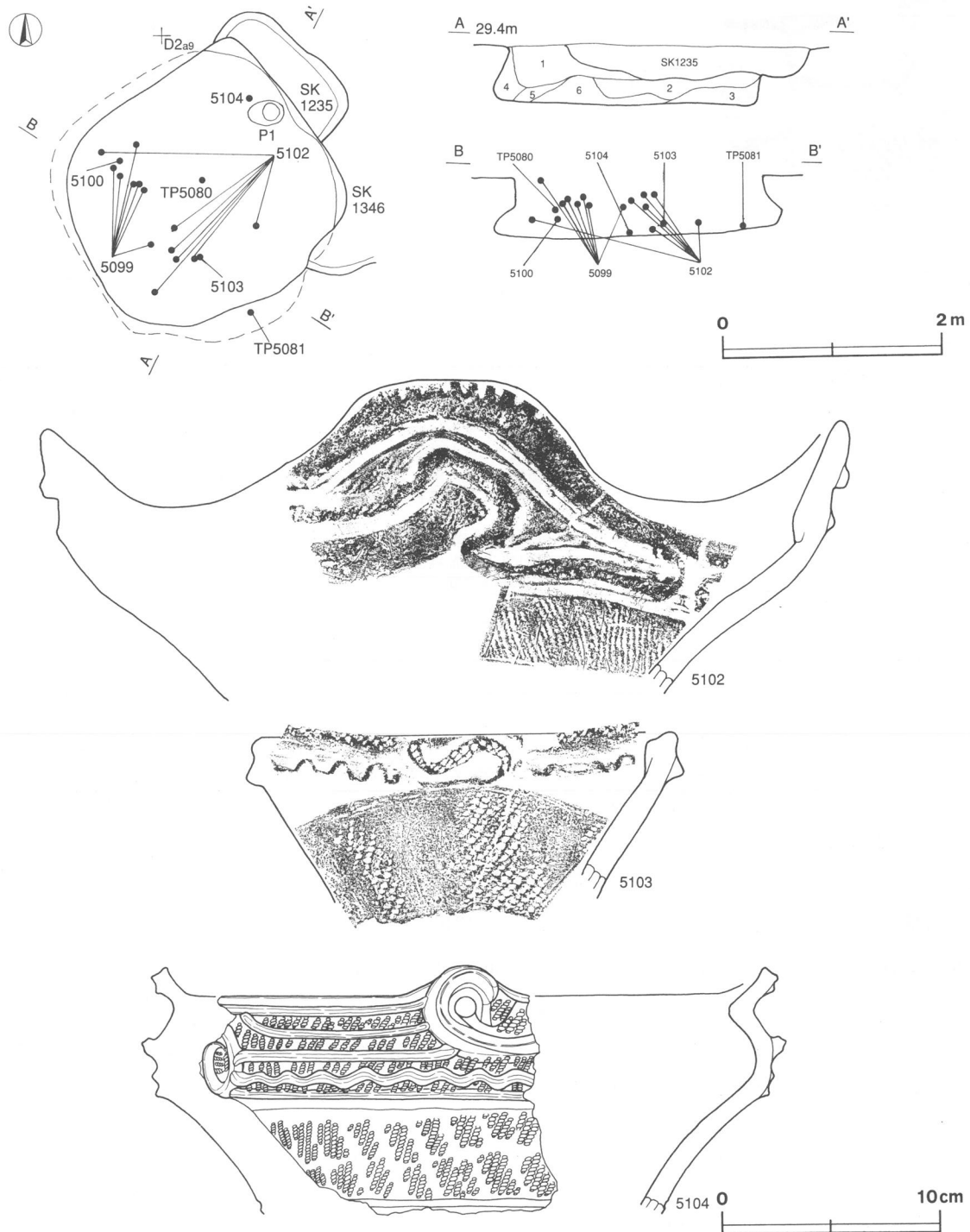
第1～3層は、堆積状況に乱れがないため自然堆積と考えられる。

土層解説

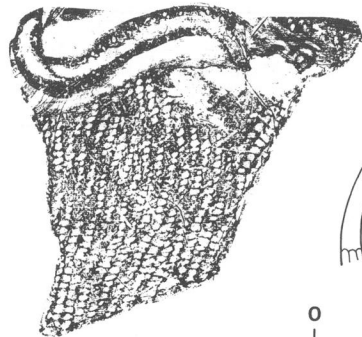
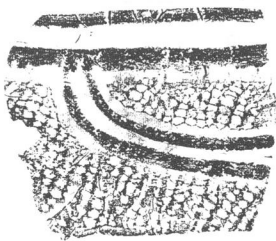
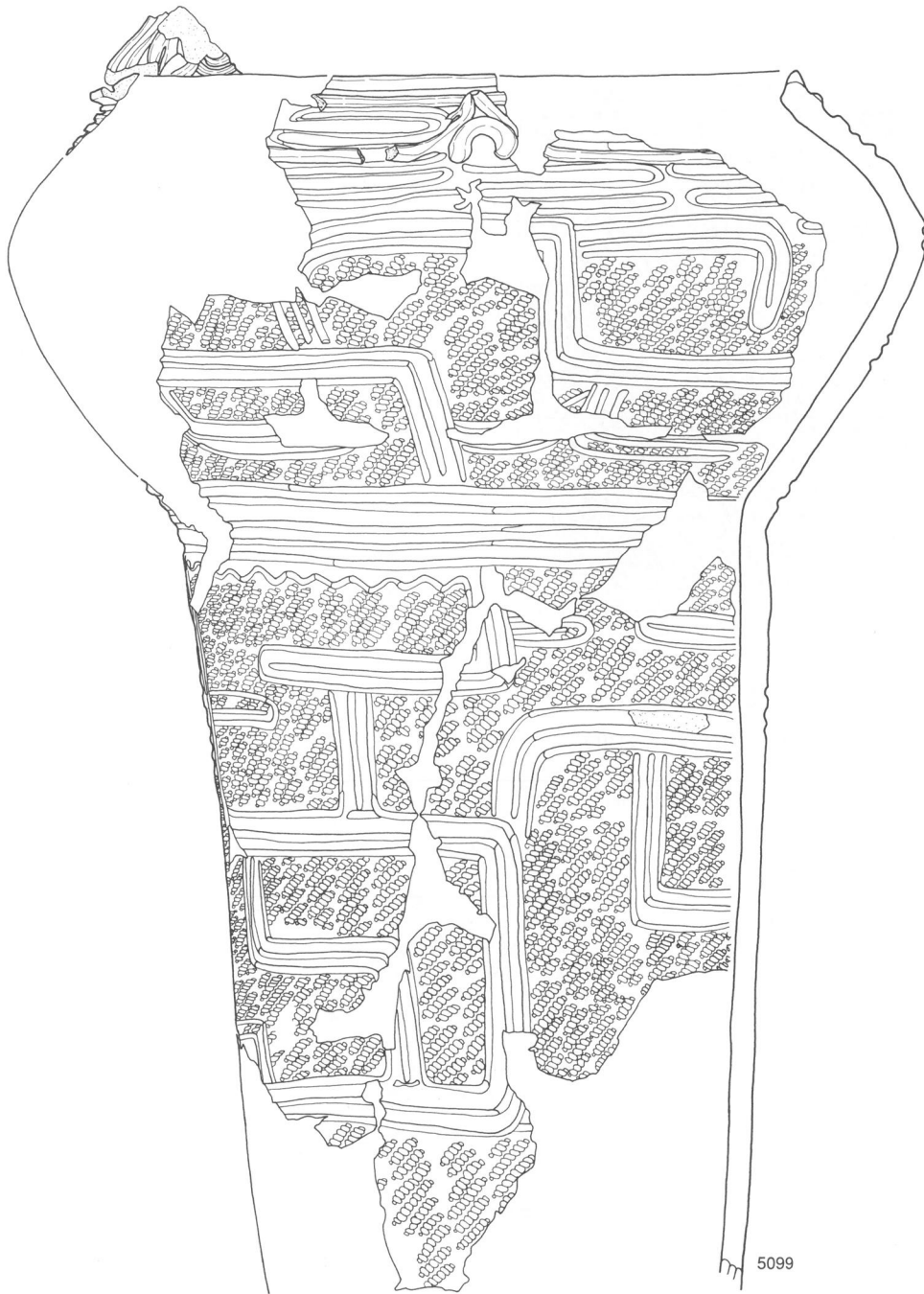
- | | | | |
|--------|----------------------|-------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片314点, 磨製石斧2点, 剥片3点が覆土から出土している。遺物は覆土下層から底面にかけて廃棄された状態で出土している。5099は深鉢で覆土中層から潰れたような状態で出土している。5104は第1230号土坑の覆土から出土している TP5097と同一個体である。

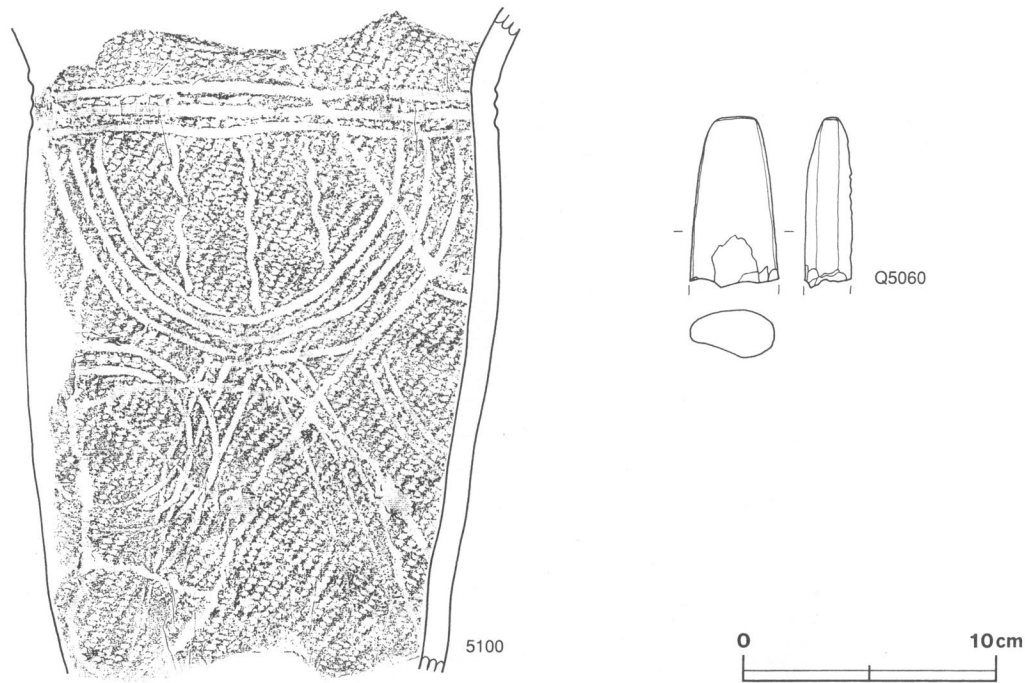
所見 本跡が廃絶され, 壁などの崩落と共に遺物が廃棄され, その後埋没したと考えられるため, 時期は出土土器から中期中葉から後葉(阿玉台Ⅳ式～加曾利EⅠ式期)と考えられる。



第211図 第1218号土坑・出土遺物実測図



第212图 第1218号土坑出土遗物实测图（1）



第213図 第1218号土坑出土遺物実測図(2)

第1218号土坑出土遺物観察表(第211~213図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5099	縄文土器	深鉢	[26.2]	(50.1)	—	口縁部は沈線で、胴部は3条の沈線で文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	浅黄橙	覆土中層	P L45
5100	縄文土器	深鉢	—	(26.4)	—	2あるいは3本の沈線、波状沈線で文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
5102	縄文土器	深鉢	[36.6]	(14.6)	—	波頂部にキザミ。口縁部は沈線を有する隆帯で文様を描出。LRの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
5103	縄文土器	深鉢	[18.8]	(7.6)	—	口縁部に押圧文を有する隆帯が巡る。その上部には横S字状文。RLの単節縄文を施文。	長石・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
5104	縄文土器	深鉢	[27.2]	(11.3)	—	口縁部は隆帯による渦巻文を描出し、隆帯や蛇行隆帯が巡る。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	
TP5080	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	口縁部には隆帯が巡り、2本一組の隆帯で文様を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰黄褐	覆土中層	
TP5081	縄文土器	深鉢	—	(9.9)	—	口唇部直下に隆帯による横S字状文を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5060	磨製石斧	(6.7)	(3.5)	(1.9)	(75.6)	粘板岩	定角式。器体研磨入念。刃部欠損。	覆土	

第1221号土坑(第214・215図)

位置 調査2区の北部、C2j9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第160号住居跡の炉、第1238号土坑を掘り込み、第1222号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は、径2.08m程度の円形である。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは102cmである。壁は東壁が外傾するが、他の壁はほぼ直立する。ピットは1か所、P1は中央部に位置し、深さ60cmである。

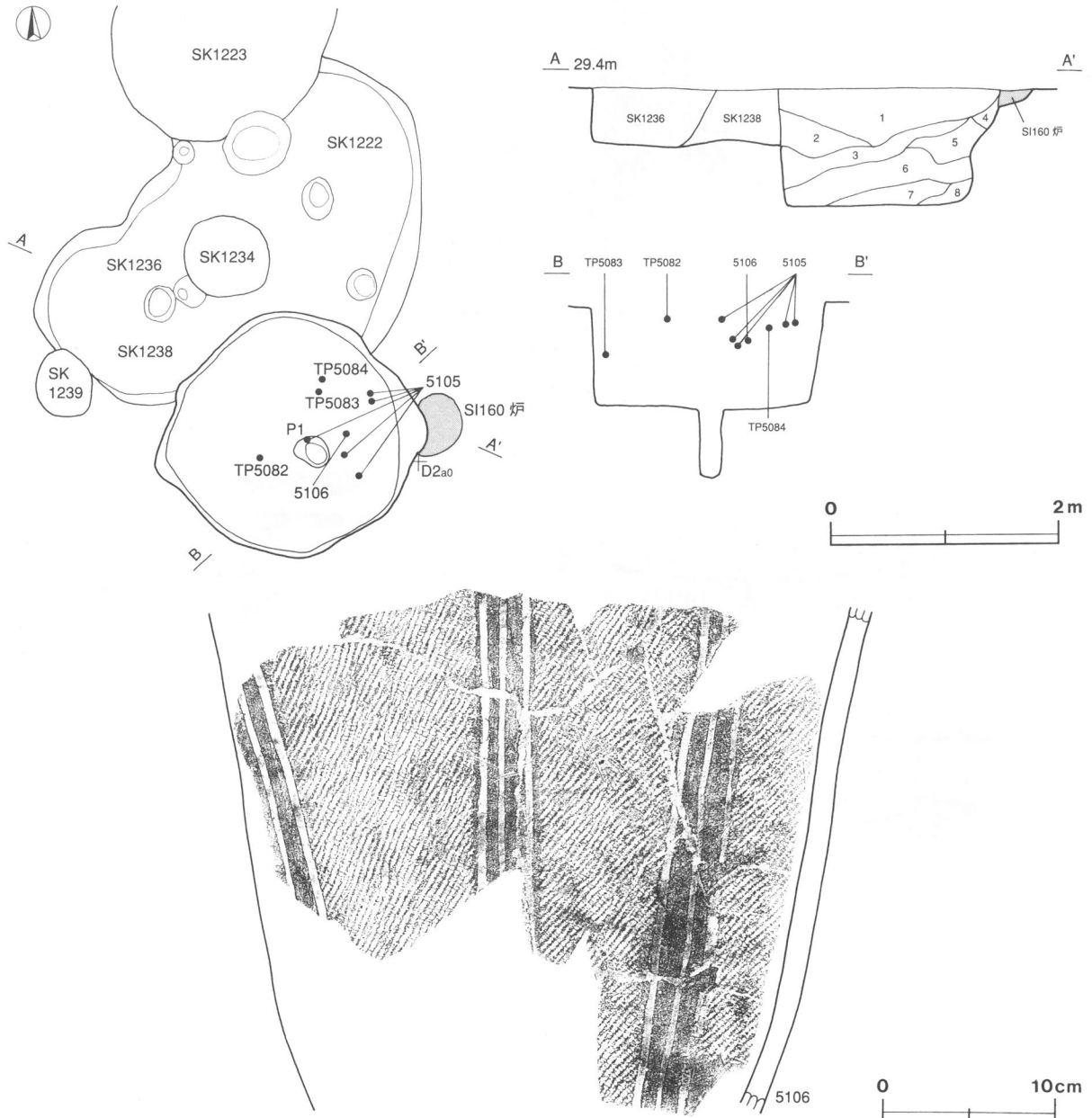
覆土 8層に分層される。第3層より下層は北西からの土砂の自然流入を示していることから自然堆積と考えられる。第4・5・6層より上層に土器片が廃棄されたような状態で出土していることから、第1・2・3層は土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

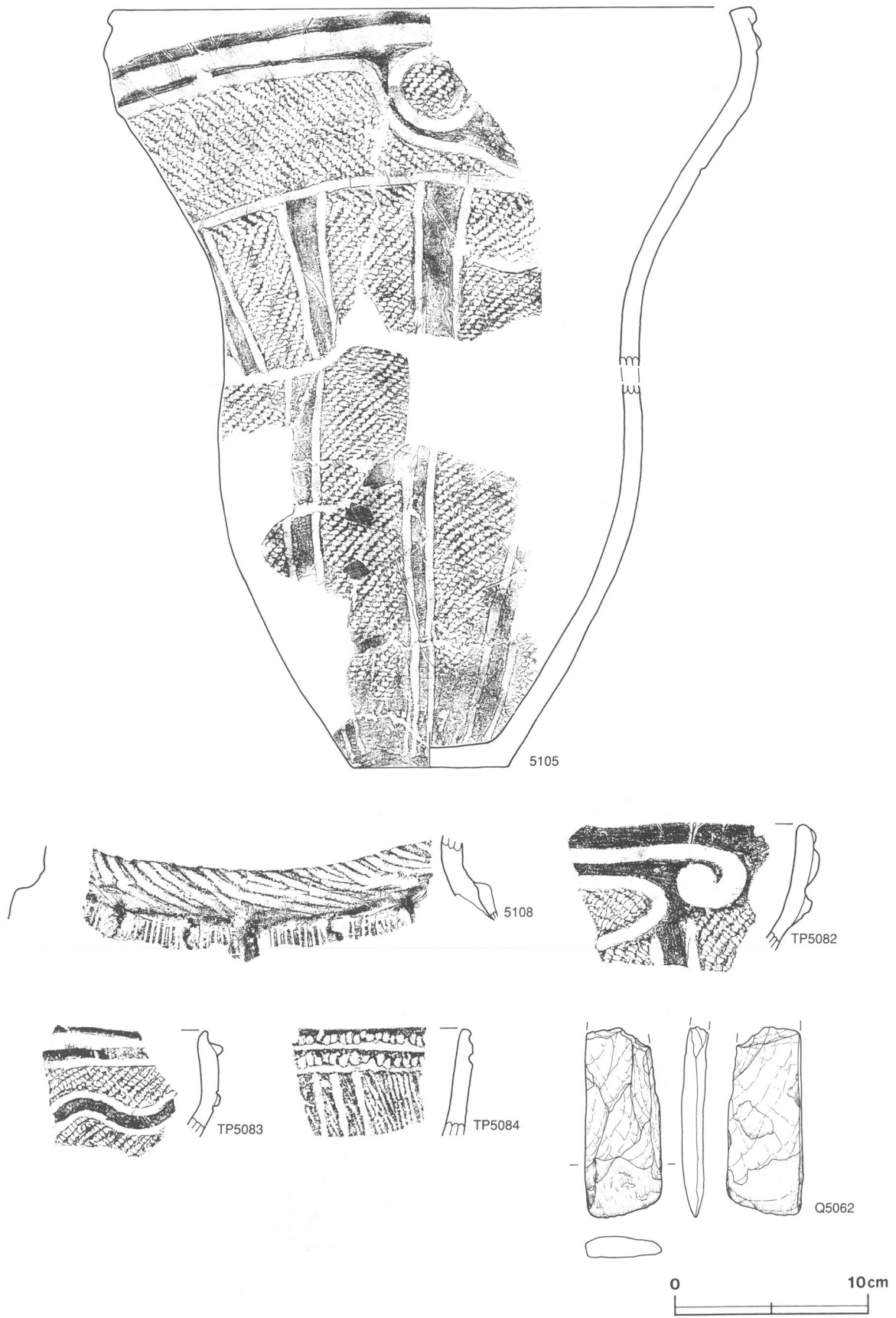
- | | | | |
|-------|--------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス粒子少量, 炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼パミス粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片693点, 磨製石斧1点, 凹石2点, 石皿1点, 剥片5点が覆土から出土している。遺物は覆土中層の堆積後, その傾斜に沿って出土しているので, ある程度埋まってから一括廃棄されたものと考えられる。

所見 本跡が廃絶され, ある程度埋まりかけた時点で, 縄文土器の大形破片などが廃棄されたと考えられるため, 本跡の廃絶時期を出土土器から判断することは困難であるが, 覆土中層の堆積時期は中期後葉(加曾利EⅢ式期)と考えられる。



第214図 第1221号土坑・出土遺物実測図



第215图 第1221号土坑出土遺物实测图

第1221号土坑出土遺物観察表（第214・215図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5105	縄文土器	深鉢	[32.8]	39.2	8.2	沈線に沿う隆帯で渦巻文と区画文。胴部は懸垂文間を磨り消す。R Lの単節縄文を施文。	長石・石英	普通	褐灰	覆土中層	
5106	縄文土器	深鉢	—	(29.7)	—	胴部は3本の沈線が垂下し、その間を磨り消す。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	
5108	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	頸部には隆帯が巡り、胴部には蛇行隆帯を垂下。地文は沈線と条線で縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	
TP5082	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	口縁部は隆帯で渦巻文と区画文。胴部は懸垂文間を磨り消す。R Lの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐赤褐	覆土上層	
TP5083	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	口縁部には沈線に沿う隆帯と波状隆帯が巡る。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP5084	縄文土器	深鉢	—	(5.4)	—	口縁部には刺突文が巡る。胴部には3条の沈線が垂下。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土上層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5062	磨製石斧	(9.8)	3.9	1.4	(75.7)	緑泥片岩	剥離による両面調整後、刃部付近を局部研磨。	覆土	P L 60

第1224号土坑（第216・217図）

位置 調査2区の北部，C2i9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第159号住居，第1225号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，長径1.98m，短径1.82m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.69m，短径2.29m程度の楕円形である。確認面からの深さは65cmである。壁は東壁が崩落しているため外傾して立ち上がるが，他の壁は下位から上位にかけて内傾して立ち上がる。ピットは4か所で壁際に位置している。深さは，P1が39cm，P2が36cm，P3が27cm，P4が10cmである。

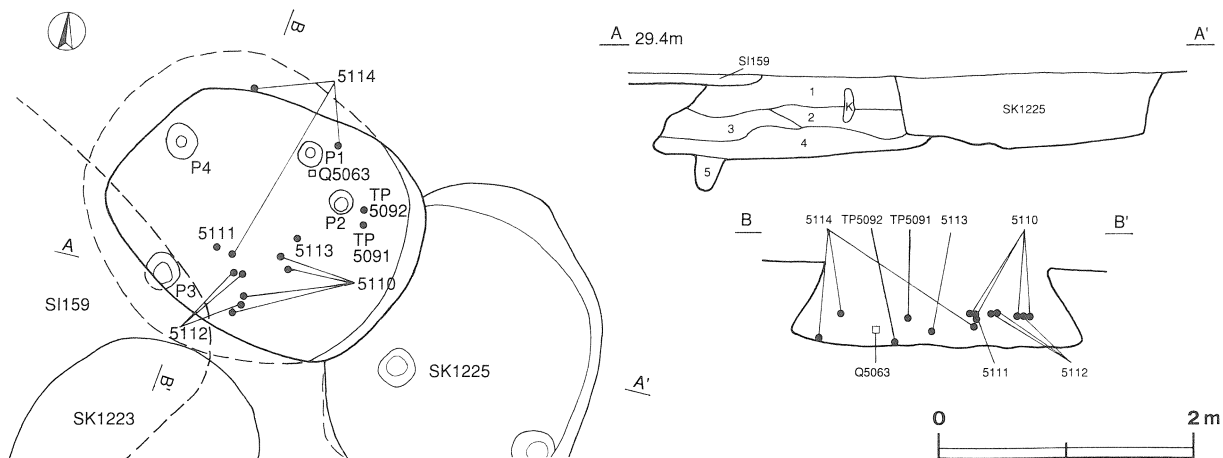
覆土 5層に分層される。堆積状況に乱れないため自然堆積と考えられる。第5層はP3の覆土である。

土層解説

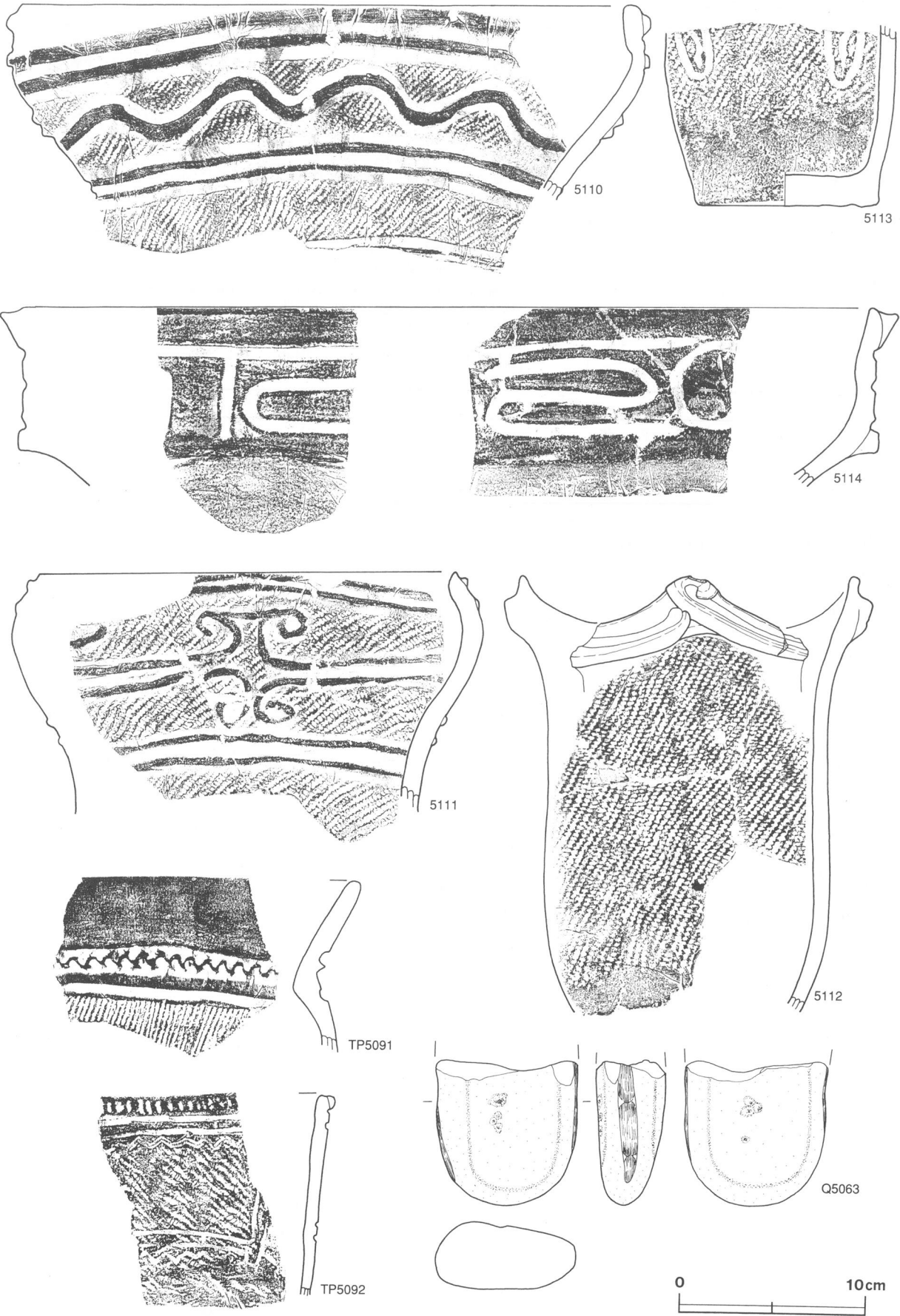
- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物少量，ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片368点，磨石1点，剥片2点が覆土から出土している。土器は破片が多く，覆土中層から下層にかけて出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第216図 第1224号土坑実測図



第217图 第1224号土坑出土遗物实测图

第1224号土坑出土遺物観察表（第217図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5110	縄文土器	深鉢	[32.8]	(10.6)	—	口縁部には沈線に沿う波状隆帯と沈線を有する隆帯が巡る。RLの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	
5111	縄文土器	深鉢	[22.0]	(12.8)	—	口縁部には2本の隆帯が巡る。その端部に渦巻文を描出。縦方向のRLの単節縄文。	長石・石英	普通	灰褐	覆土中層	
5112	縄文土器	深鉢	[17.7]	(23.2)	—	2本の隆帯で突起を作出。その隆帯の背に緩い渦巻文を描出。RLの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
5113	縄文土器	深鉢	—	(9.7)	9.5	胴部には下方を閉じた3本一組の沈線が5単位垂下。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	底部網代痕
5114	縄文土器	鉢	[45.0]	(9.6)	—	口縁部には棒状工具や半截竹管による沈線でS字文や区画文を描出。胴部無文。	長石・石英・赤色粒子	普通	浅黄橙	底面	内外面赤彩
TP5091	縄文土器	鉢	—	(9.2)	—	口縁部下位に交互刺突文と沈線が巡る。胴部には燃糸文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土中層	
TP5092	縄文土器	深鉢	—	(10.8)	—	口縁部にキザミを有する隆帯が巡る。胴部には沈線で文様を描出。LRの単節縄文を施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	底面	

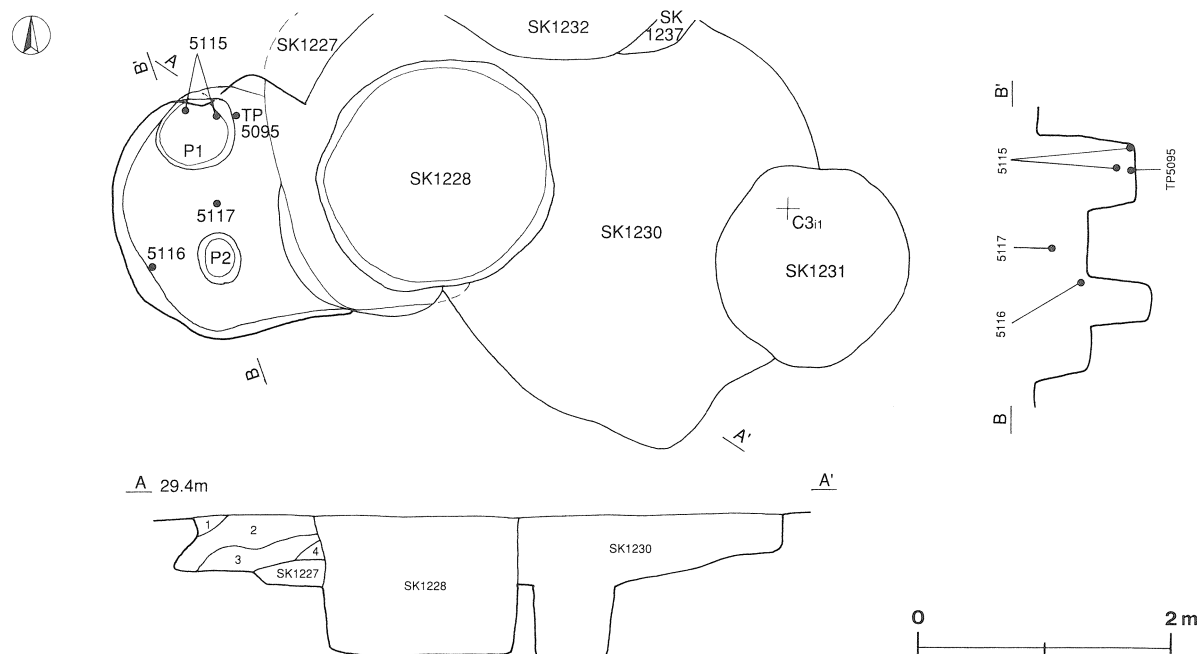
番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5063	磨石	(7.7)	(7.6)	(3.7)	(285.7)	砂岩	両側縁に使用痕。凹石に併用。一部欠損。	覆土下層	

第1229号土坑（第218・219図）

位置 調査2区の北部，C2i9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1227号土坑を掘り込み，第1228号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，長径2.08m，短径1.92m程度の不整形円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.98m，短径1.58m程度の不整形楕円形である。確認面からの深さは44cmである。壁は，北壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，中位から上位は外傾して立ち上がるが，他の壁は外傾して立ち上がる。ピットは2か所で，北壁際と南部に位置する。深さは，P1が40cm，P2が48cmである。



第218図 第1229号土坑実測図

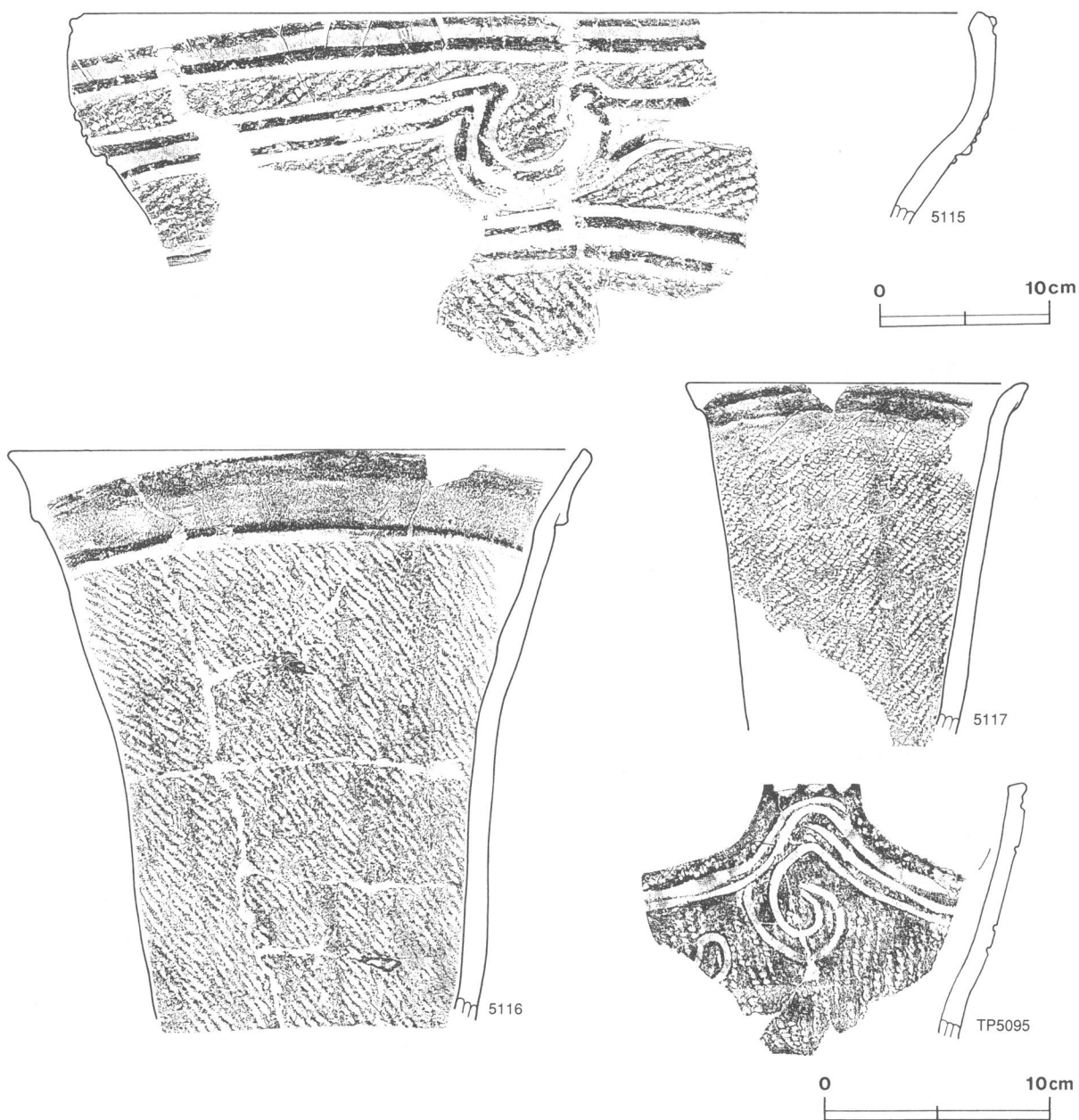
覆土 4層に分層される。遺物がピット内や底面から廃棄されたような状態で出土していることから土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片236点が覆土から出土している。遺物はピット内や覆土下層から底面にかけて廃棄されたような状態で出土している。5115の深鉢は、底面からピット内にかけて出土している。5116の深鉢は、底面から横位で出土している。

所見 時期は、底面から出土している5115, 5116から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第219図 第1229号土坑出土遺物実測図

第1229号土坑出土遺物観察表（第219図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5115	縄文土器	深鉢	[53.0]	(12.6)	—	口縁部には沈線を有する2本の隆帯で文様を描出。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	暗赤褐	P1覆土	
5116	縄文土器	深鉢	25.5	(25.4)	—	口唇部直下に隆帯が巡り肥厚。胴部にはLの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	底面	胴部上半スス附着
5117	縄文土器	深鉢	[15.0]	(15.5)	—	口縁部は無文。胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・パミス	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP5095	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	口縁部は沈線により渦巻文などの文様を描出。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	P1覆土	

第1230号土坑（第220・221図）

位置 調査2区の北部，C2h0区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1228・1232号土坑に掘り込まれている。第1227・1231・1237・1344号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は，径3.15m程度の円形と推定される。底面は中央部を中心に皿状である。確認面からの深さは58cmである。壁は外傾して立ち上がる。ピットは6か所で，深さは，P1が39cm，P2が44cm，P3が99cm，P4が71cm，P5が8cm，P6が29cmである。

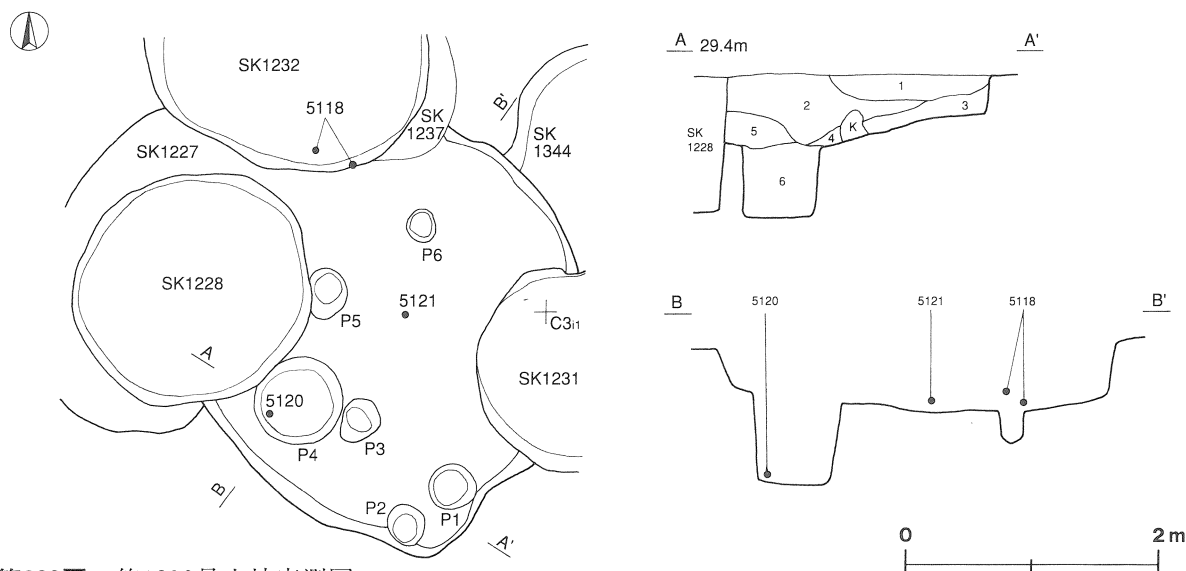
覆土 6層に分層される。遺物がピット内や底面から廃棄されたような状態で出土していることから，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。第6層はP4の覆土である。

土層解説

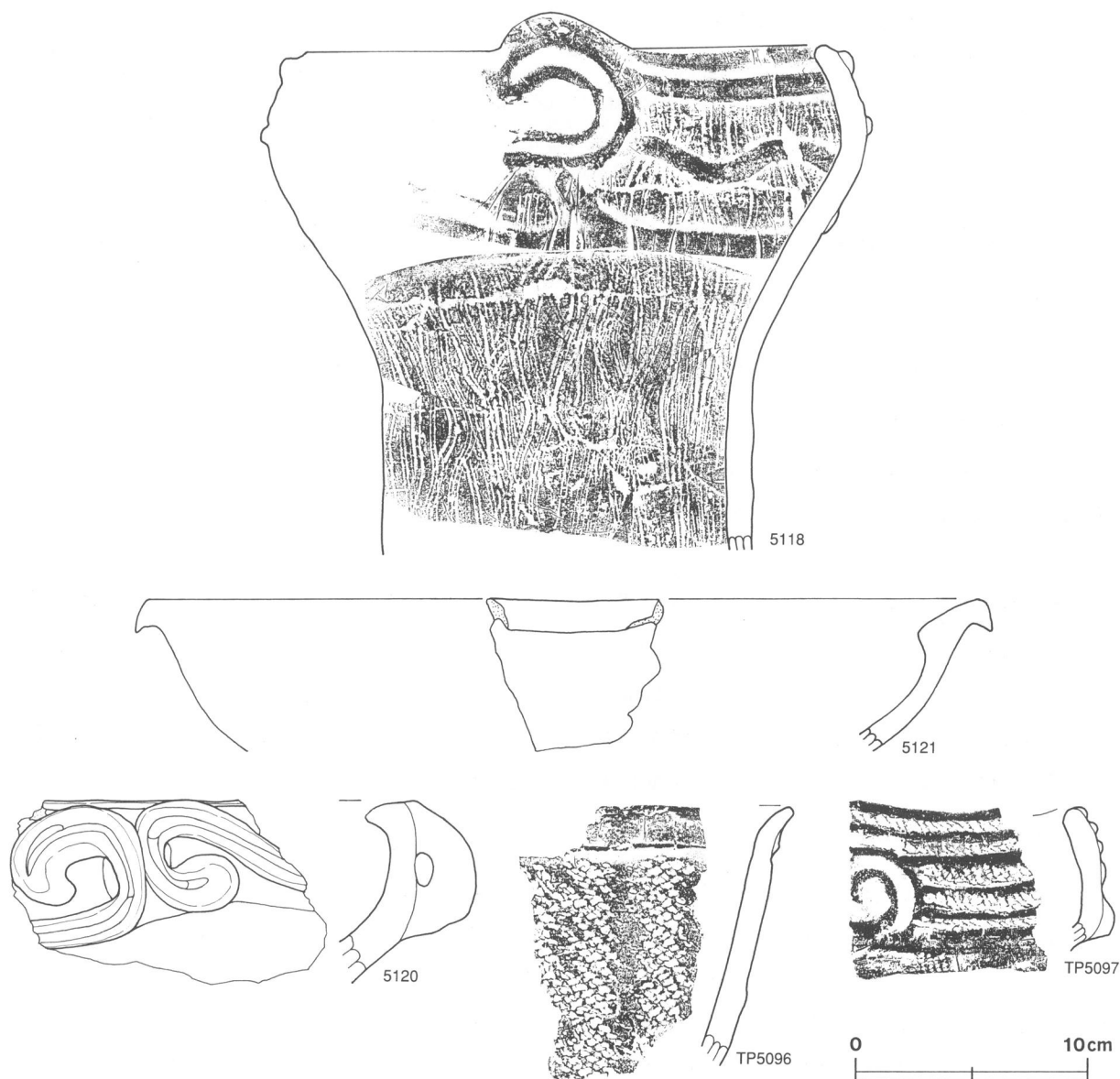
- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片149点，剥片4点が覆土から出土している。遺物はピット内や底面から廃棄された状態で出土している。5118は深鉢で覆土下層から出土している。また，5118の深鉢付近に焼土塊が長軸80cm，短軸30cm，厚さ20cm程堆積していた。5120の浅鉢はP4内から出土している。

所見 焼土塊の中に埋設されたように出土した5118の深鉢は，火熱を受けた痕が無く，土器内にも焼土が無いため，焼土と深鉢とは無関係であると考えられる。また焼土の性格も不明である。時期は，出土土器から中期後葉（加曽利EⅠ式期）と考えられる。



第220図 第1230号土坑実測図



第221図 第1230号土坑出土遺物実測図

第1230号土坑出土遺物観察表（第221図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5118	縄文土器	深鉢	[22.4]	(23.3)	—	沈線を有する隆帯で渦巻文を描出。波状隆帯が巡る。地文は櫛歯状工具による条線文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
5120	縄文土器	浅鉢	—	(8.0)	—	沈線を有する隆帯で横S字状文を描出し、眼鏡状把手を作成。胴部無文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい黄褐	P4覆土	内外面赤彩
5121	縄文土器	浅鉢	[36.6]	(7.6)	—	口唇部には断面三角形の隆帯が巡る。胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	内外面赤彩
TP5096	縄文土器	深鉢	—	(11.1)	—	口唇部直下に隆帯が巡り肥厚。胴部にはLRLの複節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母	普通	にぶい褐	覆土	
TP5097	縄文土器	深鉢	—	(5.9)	—	口縁部には隆帯が巡り、渦巻文を描出。隆帯間にLRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母	普通	にぶい褐	覆土	

第1231号土坑（第222・223図）

位置 調査2区の北部，C3i1区。住居跡群域に位置する。

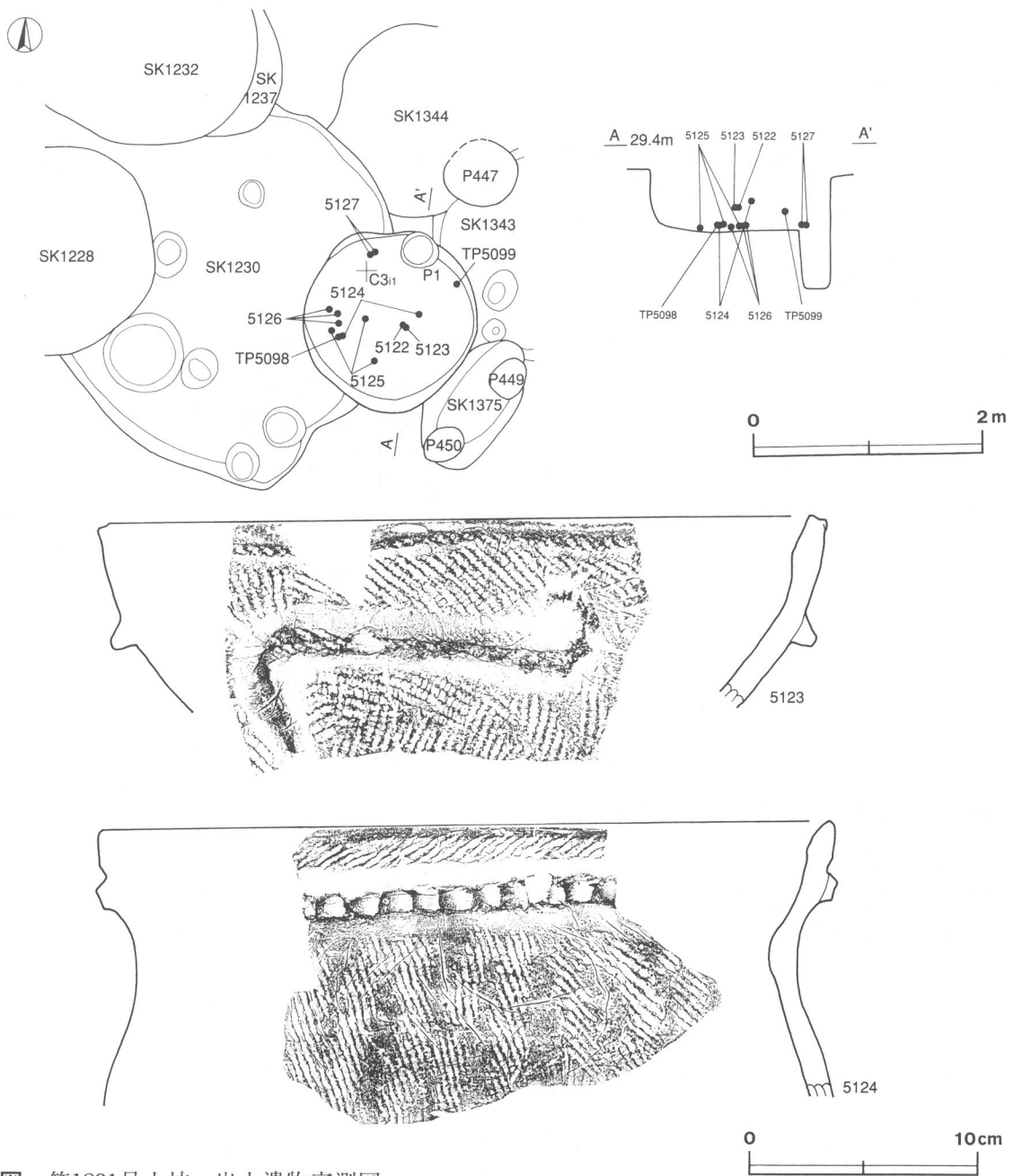
重複関係 第1230号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は，径1.55m程度の円形と推定される。底面は平坦で，確認面からの深さは55cmである。壁は外傾して立ち上がる。ピットは1か所で，P1は深さ51cmである。

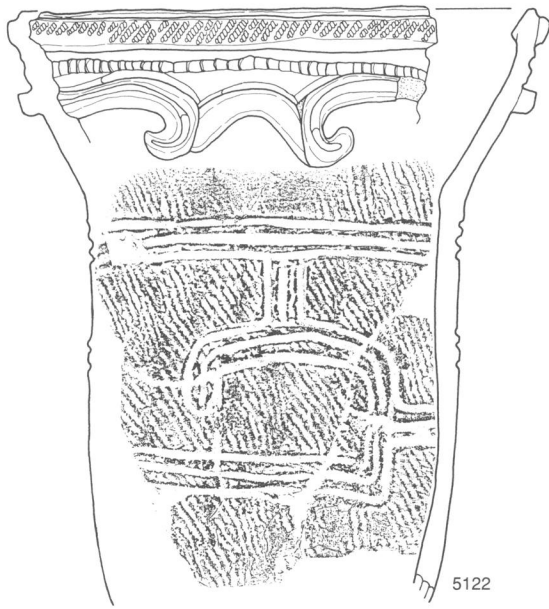
覆土 土層観察用ベルトの設定位置が中心からはずれたため，観察ができなかった。

遺物出土状況 縄文土器片318点が覆土から出土している。遺物は覆土中層から底面にかけて廃棄されたような状態で出土している。5122，5123は深鉢で覆土中層から出土している。5127は浅鉢で底面から出土している。5123は第1283号土坑の底面から出土したTP5117と同一個体である。

所見 時期は，出土土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。

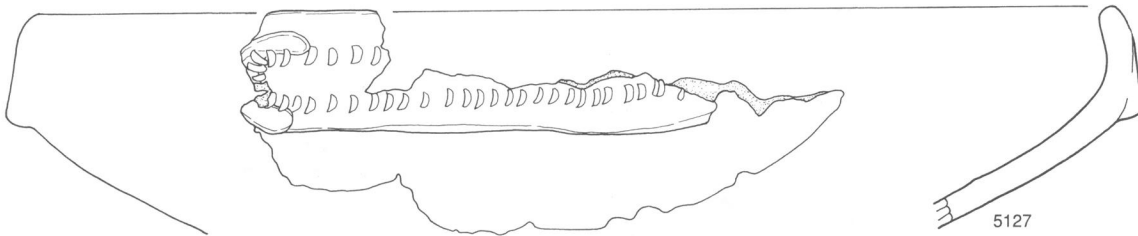


第222図 第1231号土坑・出土遺物実測図

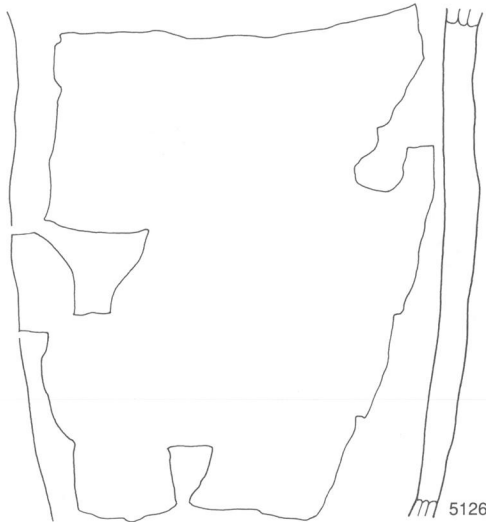


5125

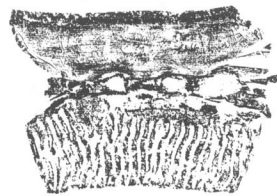
5122



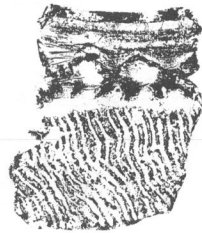
5127



5126



TP5098



TP5099



第223図 第1231号土坑出土遺物実測図

第1231号土坑出土遺物観察表 (第222・223図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5122	縄文土器	深鉢	[20.2]	(23.4)	—	口縁部には結節沈線文が巡る。沈線を有する横S字状文を描出。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土中層	
5123	縄文土器	深鉢	[31.0]	(8.3)	—	口唇部直下には隆帯が巡る。口縁部には隆帯で文様を描出。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	
5124	縄文土器	深鉢	[31.8]	(12.1)	—	口縁部には指頭押圧を加えた隆帯が巡る。地文はLの無節縄文。	長石・雲母・赤色粒子	普通	黒褐	覆土下層	
5125	縄文土器	深鉢	—	(10.8)	10.4	地文はLの無節縄文を縦方向に施文。胴部下位は無文。	長石・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	底部網代痕

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5126	縄文土器	深鉢	—	(20.3)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	
5127	縄文土器	浅鉢	[43.0]	(8.7)	—	口縁部には隆帯による区画文。区画内には隆帯に沿って爪形文。胴部無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	底面	
TP5098	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	口縁部には押圧文を施した隆帯が巡る。胴部は歯状工具による条線文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土下層	
TP5099	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	口縁部には押圧文を施した隆帯が巡る。胴部は歯状工具による波状条線文を施文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土中層	

第1244号土坑（第224～226図）

位置 調査2区の北部，C3e3区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域に位置する。

規模と形状 平面形は，径2.75m程度の円形である。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは113cmである。壁はほぼ直立する。ピットは5か所で，P1・P2・P3・P5は壁際に位置し，P4は中央部に位置する。深さは，P1が51cm，P2が18cm，P3が19cm，P4が51cm，P5が50cmである。

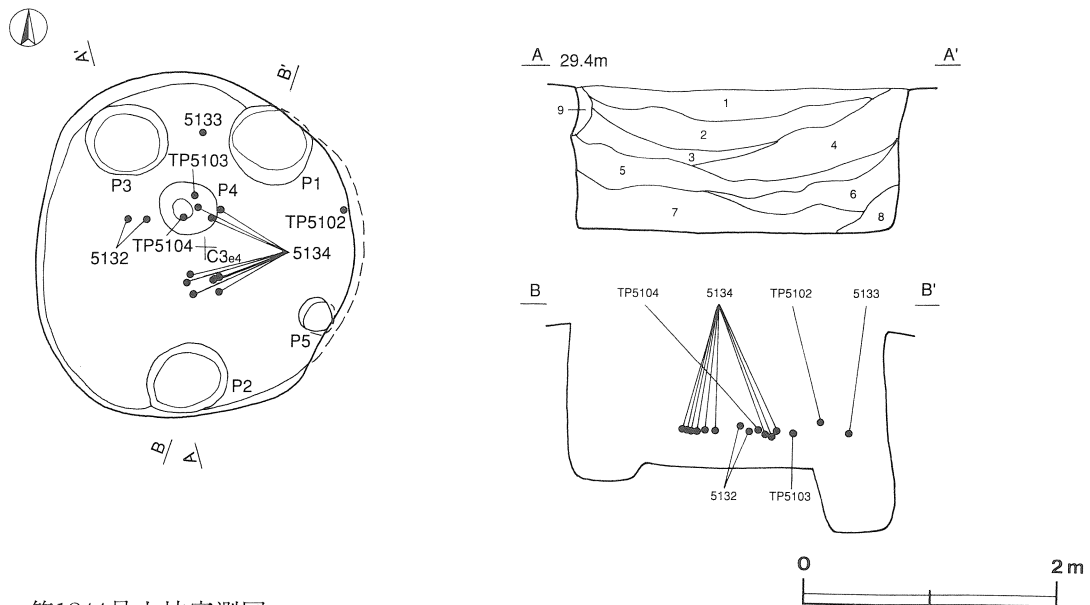
覆土 9層に分層される。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。遺物は覆土下層の第5・6層に集中して出土している。

土層解説

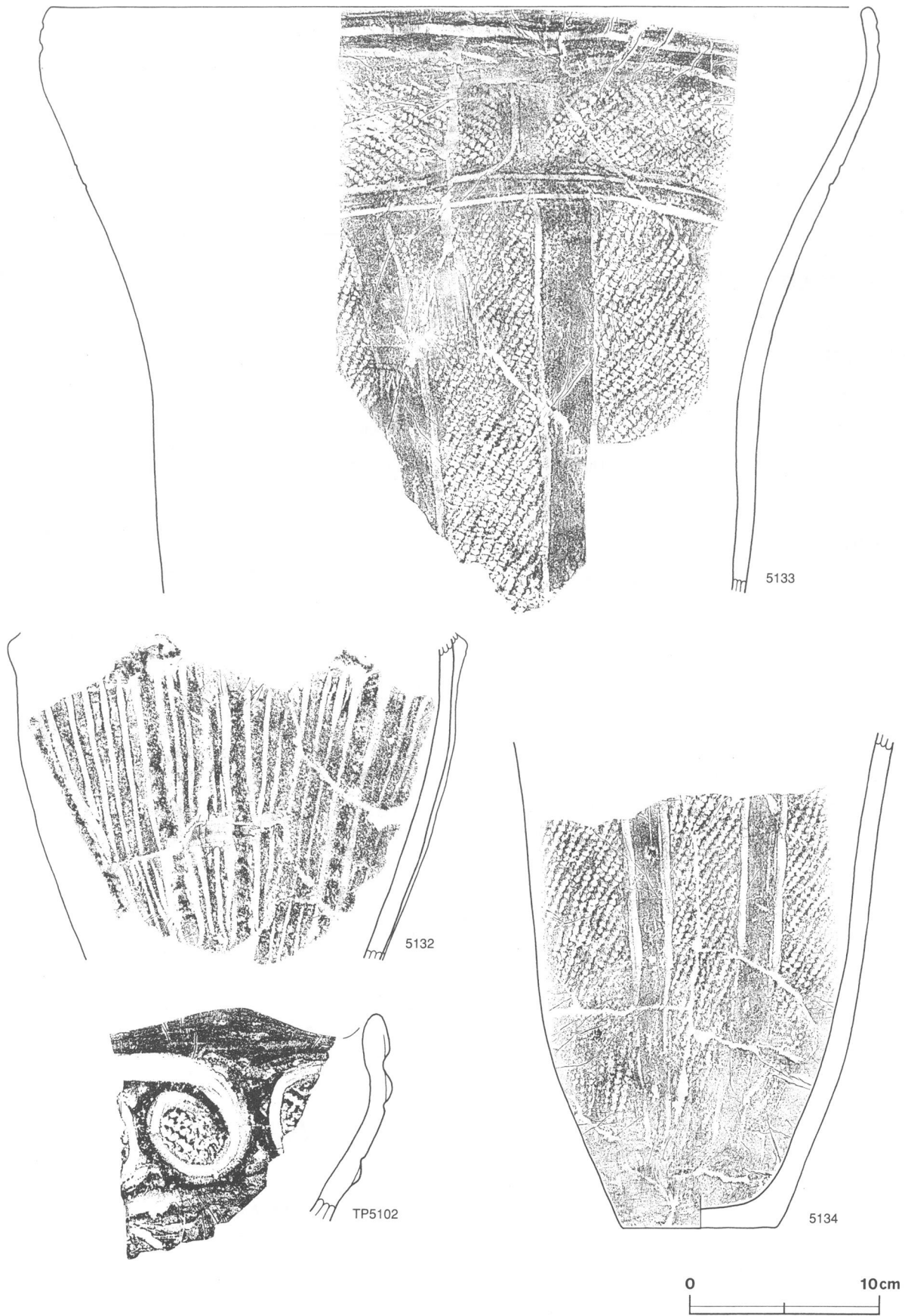
- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | 炭化物少量，ローム粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片681点，磨石1点，剥片3点が覆土から出土している。遺物は第5・6層から集中して出土しているが，接合できた土器は少ない。5132・5134は深鉢で，覆土下層から出土している。Q5067の磨石はP4内から出土している。

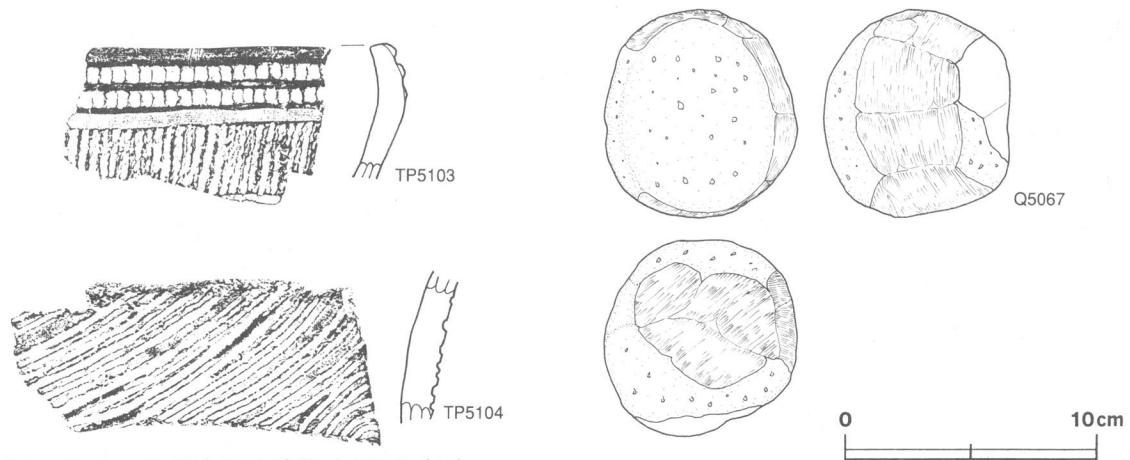
所見 遺物が第5・6層から集中して出土しているため，土坑の廃絶時期と土器片の廃棄の時期に時間差があると考えられる。遺物の廃棄時期は，覆土下層から出土している5132・5134などから，中期後葉（加曾利EⅢ式期）と考えられるため，土坑廃絶の時期もそれに近い時期と考えられる。



第224図 第1244号土坑実測図



第225图 第1244号土坑出土遗物实测图(1)



第226図 第1244号土坑出土遺物実測図(2)

第1244号土坑出土遺物観察表(第225・226図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5132	縄文土器	深鉢	—	(17.3)	—	頸部に隆帯が巡り、押圧を加えた隆帯が垂下。地文は縦位沈線文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
5133	縄文土器	深鉢	[43.0]	(37.0)	—	口縁部には沈線による区画文。胴部は懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文を施文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
5134	縄文土器	深鉢	—	(26.0)	8.0	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
TP5102	縄文土器	深鉢	—	(10.8)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯で渦巻文を描出。渦巻文内にLRの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	褐	覆土中層	
TP5103	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	口唇部直下に刺突文が巡る。胴部には撚糸文を縦方向に施文。	長石・雲母	普通	褐	覆土下層	炭化物付着
TP5104	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	胴部は細い多数の沈線により文様を描出。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5067	磨石	8.2	7.6	(7.4)	(571.7)	安山岩	全側縁に使用痕。	P4覆土	

第1246号土坑(第227・228図)

位置 調査2区の北部、C3g1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1263号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、長径1.93m、短径1.72m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は、長径2.30m、短径2.20m程度の円形である。確認面からの深さは48cmである。壁は、南壁はやや外傾して立ち上がるが、他の壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がる。中位から上位にかけては不明である。

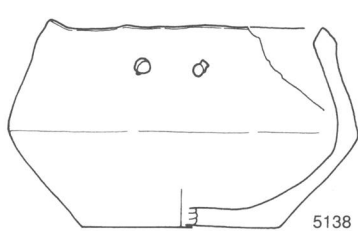
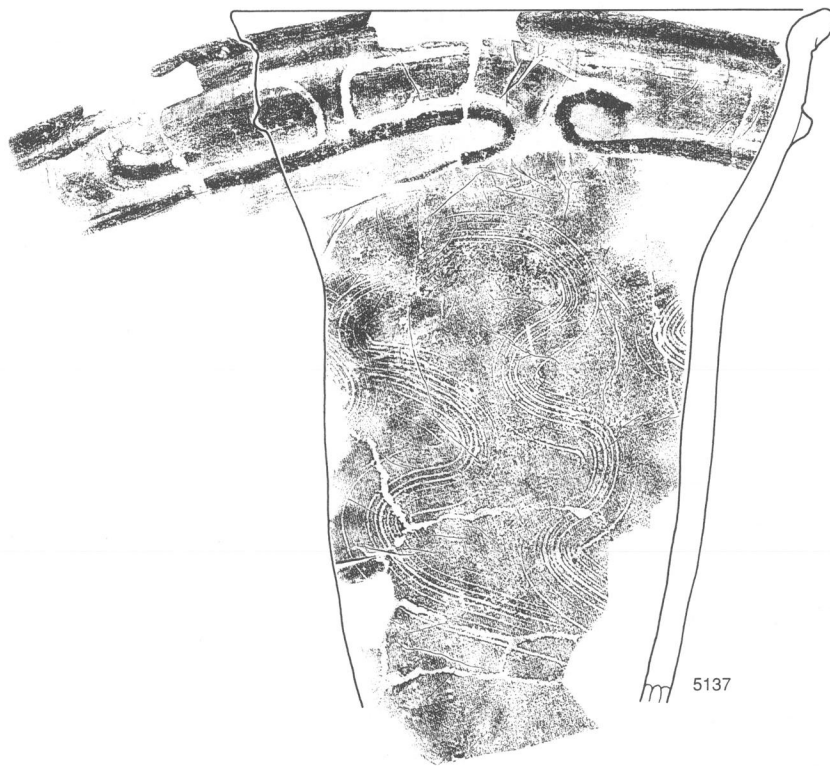
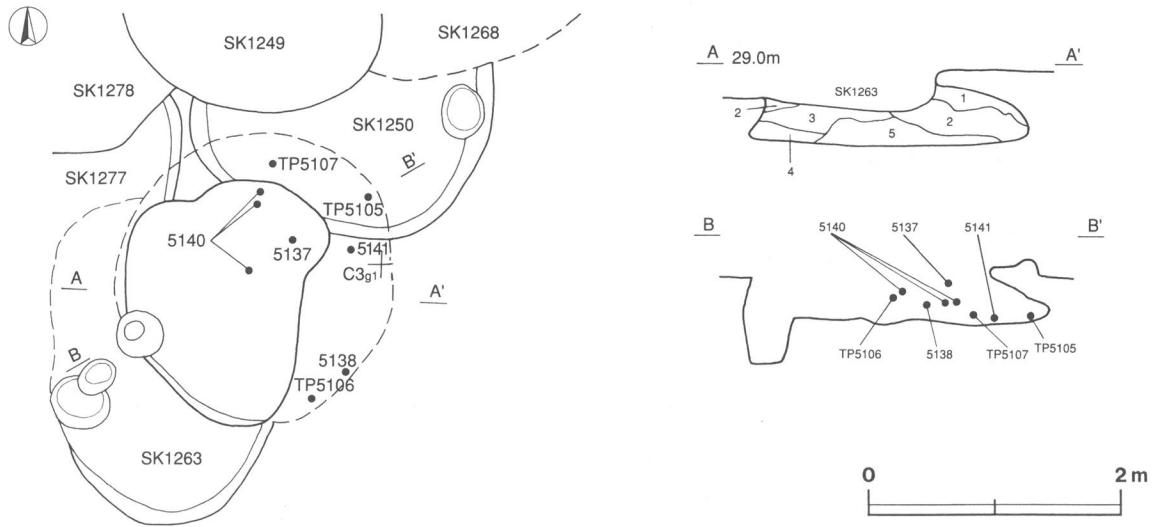
覆土 5層に分層される。第5層はロームブロックが多く、壁の崩落土と考えられる。第5層の上部より上の層は、遺物が廃棄されたような状態で出土していることから、土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

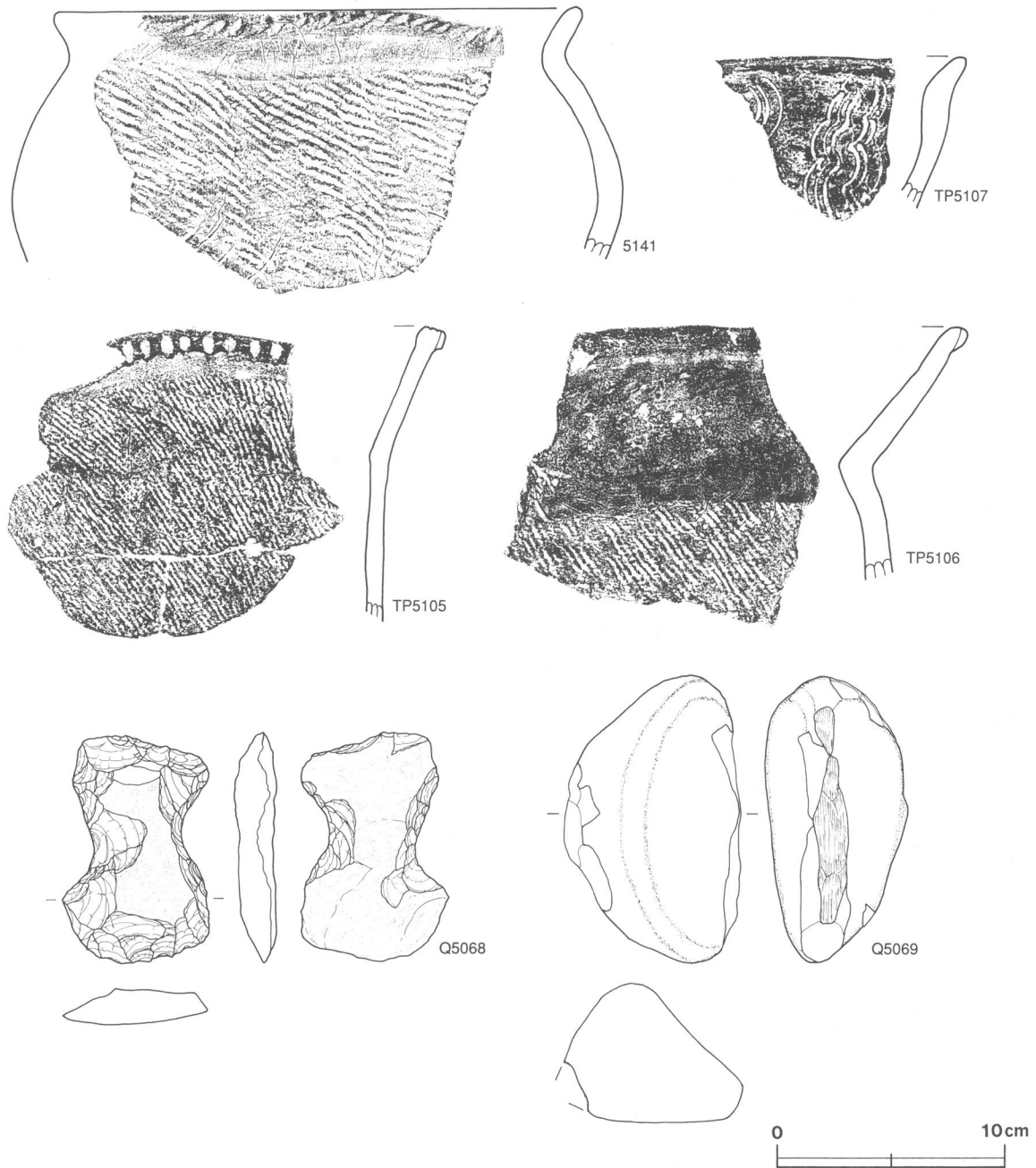
- | | | | |
|--------|--------------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミス粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化物少量、焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片217点、磨石1点、打製石斧1点、剥片1点が覆土から出土している。遺物は、覆土中層から下層にかけて廃棄された状態で出土している。5137は深鉢で、覆土中層から横位で出土している。

所見 遺物が覆土中層から下層にかけて廃棄されたような状態で出土しているため、土坑の廃絶時期と遺物の廃棄時期に時間差があると考えられる。遺物の廃棄の時期は、覆土中層から出土している5137などから中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第227図 第1246号土坑・出土遺物実測図



第228図 第1246号土坑出土遺物実測図

第1246号土坑出土遺物観察表 (第227・228図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5137	縄文土器	深鉢	23.6	(27.5)	—	口縁部には隆帯や結節沈線で文様描出。胴部は櫛歯状工具による多条の波状沈線文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	浅黄橙	覆土中層	P L45
5138	縄文土器	鉢	[10.7]	8.2	[7.8]	円孔を有す。器面は無文でよく研磨。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	赤彩、漆附着
5140	縄文土器	深鉢	[16.2]	(8.7)	—	口唇部直下にはLの無節縄文を横方向に、胴部には縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
5141	縄文土器	深鉢	[22.8]	(11.5)	—	口縁部は無文。Lの無節縄文を口唇部直下は横方向に、胴部は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP5105	縄文土器	深鉢	—	(12.9)	—	口唇部直下に棒状工具による押圧文を有する隆帯が巡る。地文はLの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5106	縄文土器	深鉢	—	(11.1)	—	口縁部無文。胴部にはLの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土中層	
TP5107	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	口縁部は半截竹管による波状沈線文が縦方向に垂下。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q5068	打製石斧	10.1	6.5	1.9	132.5	ホルンフェルス	片面調整。背面に原礫面を残す。	P L 60
Q5069	磨石	12.7	(7.7)	6.3	682.0	砂岩	側縁に使用痕。一部欠損。	

第1250号土坑（第229・230図）

位置 調査2区の北部，C3f1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第154号住居，第1249号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は，径2.45m程度の円形と推定される。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは28cmである。壁は外傾して立ち上がる。ピットは1か所で東壁際に位置し，P1は深さ12cmである。

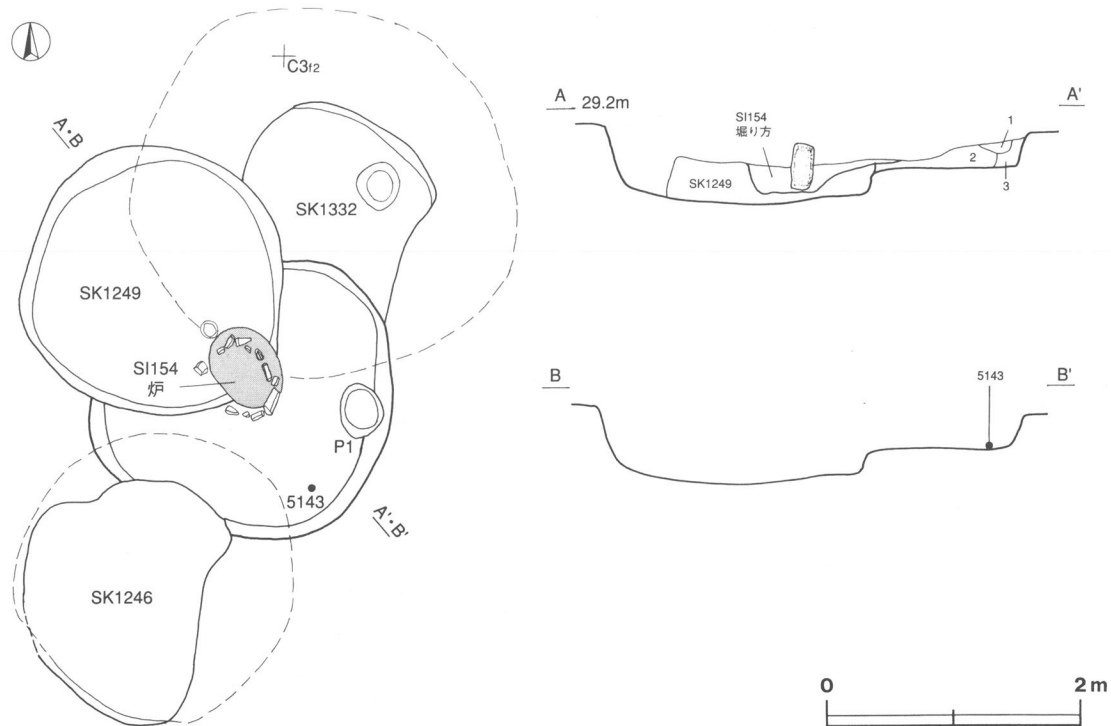
覆土 第154号住居に掘り込まれているため覆土はわずかであるが，3層に分層される。不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

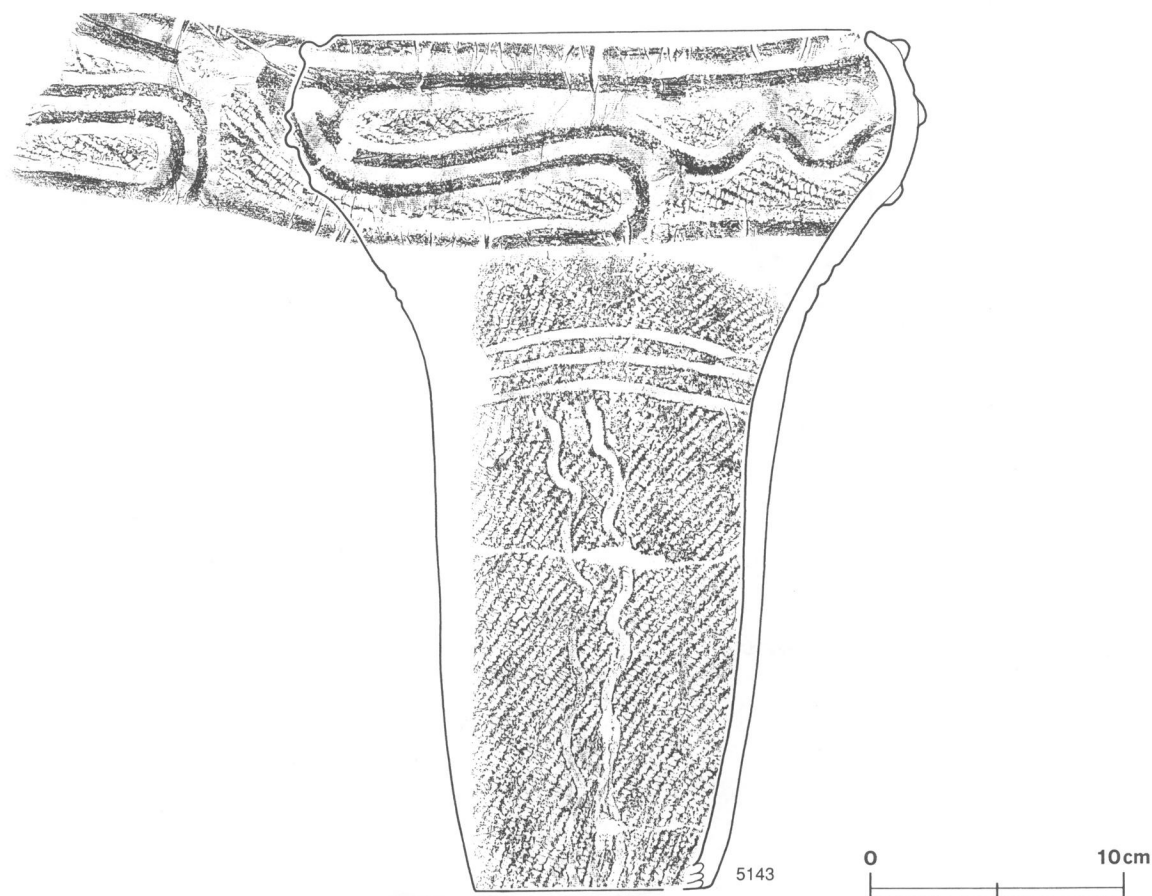
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片14点が出土している。5143は深鉢で，底面から横位で出土している。

所見 時期は，底面から出土している5143から中期後葉（加曾利EI式期）と考えられる。



第229図 第1250号土坑実測図



第230図 第1250号土坑出土遺物実測図

第1250号土坑出土遺物観察表（第230図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5143	縄文土器	深鉢	20.9	33.9	[9.2]	口縁部には横S字状文や波状文を描出。胴部は沈線で文様描出。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	PL46

第1251号土坑（第231図）

位置 調査2区の北部，C3h1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第156号住居に掘り込まれている。第1343・1344号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，長径1.93m，短径1.14m程度の不整楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は，長径2.15m，短径1.83m程度の楕円形である。確認面からの深さは48cmである。壁は，下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，中位から上位にかけては掘り込まれているため不明である。底面からくびれ部までの高さは平均36cmである。ピットは1か所で中央部に位置し，P1は深さ27cmである。

覆土 第156号住居に掘り込まれているため上層は不明である。確認できた層は3層に分層される。堆積状況に乱れがないため自然堆積と考えられる。

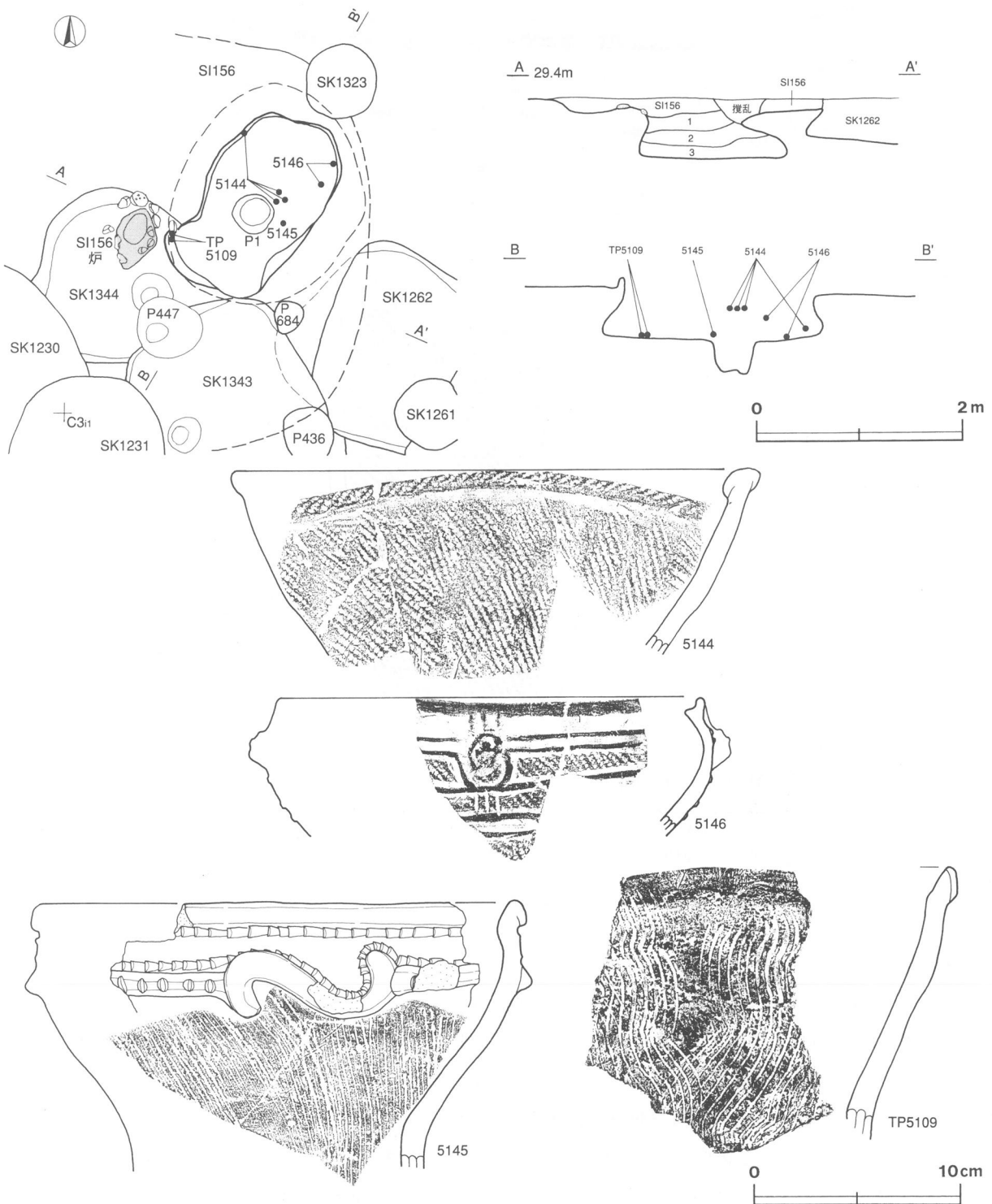
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量，炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片327点が覆土中層から下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。5145，5146は深鉢で覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土している5145・5146から中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



第231図 第1251号土坑・出土遺物実測図

第1251号土坑出土遺物観察表（第231図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5144	縄文土器	深鉢	[25.6]	(9.1)	—	口唇部直下に隆帯が巡る。L Rの単節縄文を横方向や縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
5145	縄文土器	深鉢	[24.0]	(13.0)	—	隆帯による横S字状文。キザミを有する隆帯文と結節沈線文が巡る。地文は条線文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5146	縄文土器	深鉢	[20.4]	(6.8)	—	口縁部には隆帯で文様を描出。渦巻文状の突起を有する。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	炭化物付着
TP5109	縄文土器	深鉢	—	(13.1)	—	口唇部直下に隆帯が巡り肥厚。胴部には櫛歯状工具による波状条線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	底面	

第1253号土坑 (第232・233図)

位置 調査2区の北部, C3g0区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1254号土坑を掘り込んでいる。第416号ピットに掘り込まれている。第1318号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。本跡の東側は攪乱により破壊されている。

規模と形状 開口部の平面形は、長径1.50m, 短径1.20m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は、長径2.13m, 短径1.85m程度の楕円形である。確認面からの深さは55cmである。壁は、下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、くびれ部から上位にかけてはほぼ直立する。北側と西側の壁はほぼ直立している。底面からくびれ部までの高さは平均33cmである。ピットは1か所で、P1は深さ53cmである。

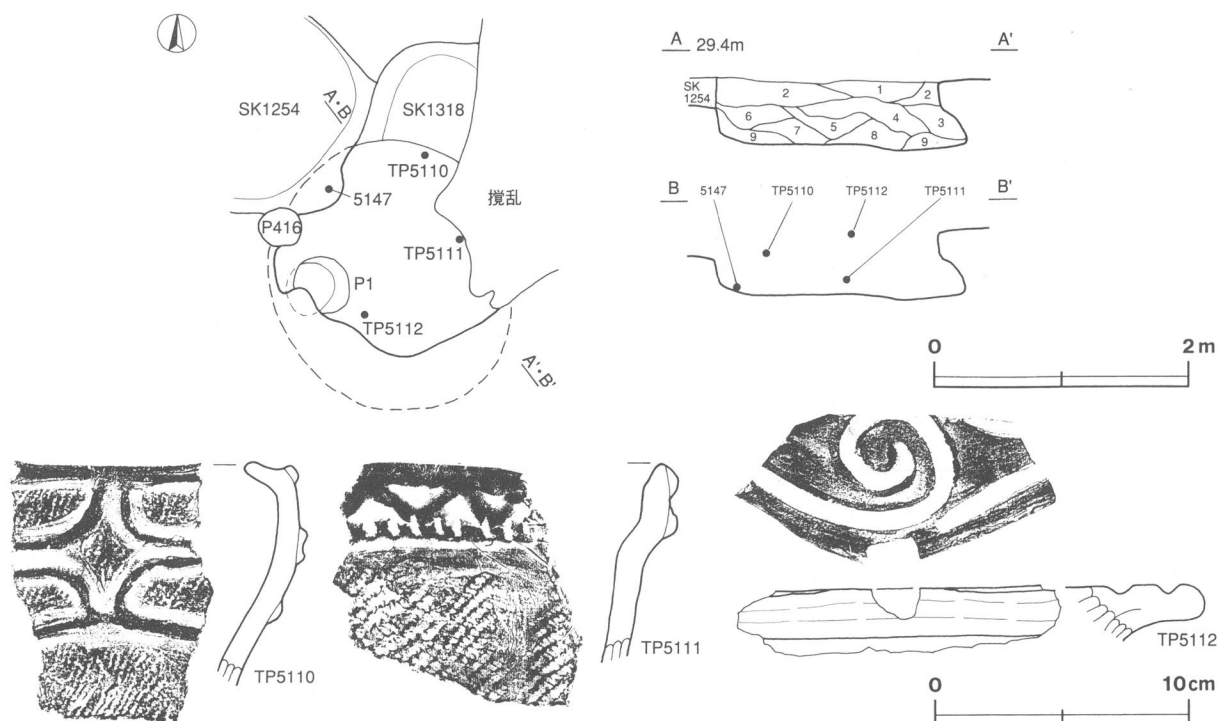
覆土 9層に分層される。全体的にロームブロックを多量に含む土層で、特に、第3・6・8層は壁の崩落土と考えられる。他は不自然な堆積状況と土器が廃棄されたような状態で出土していることから、土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

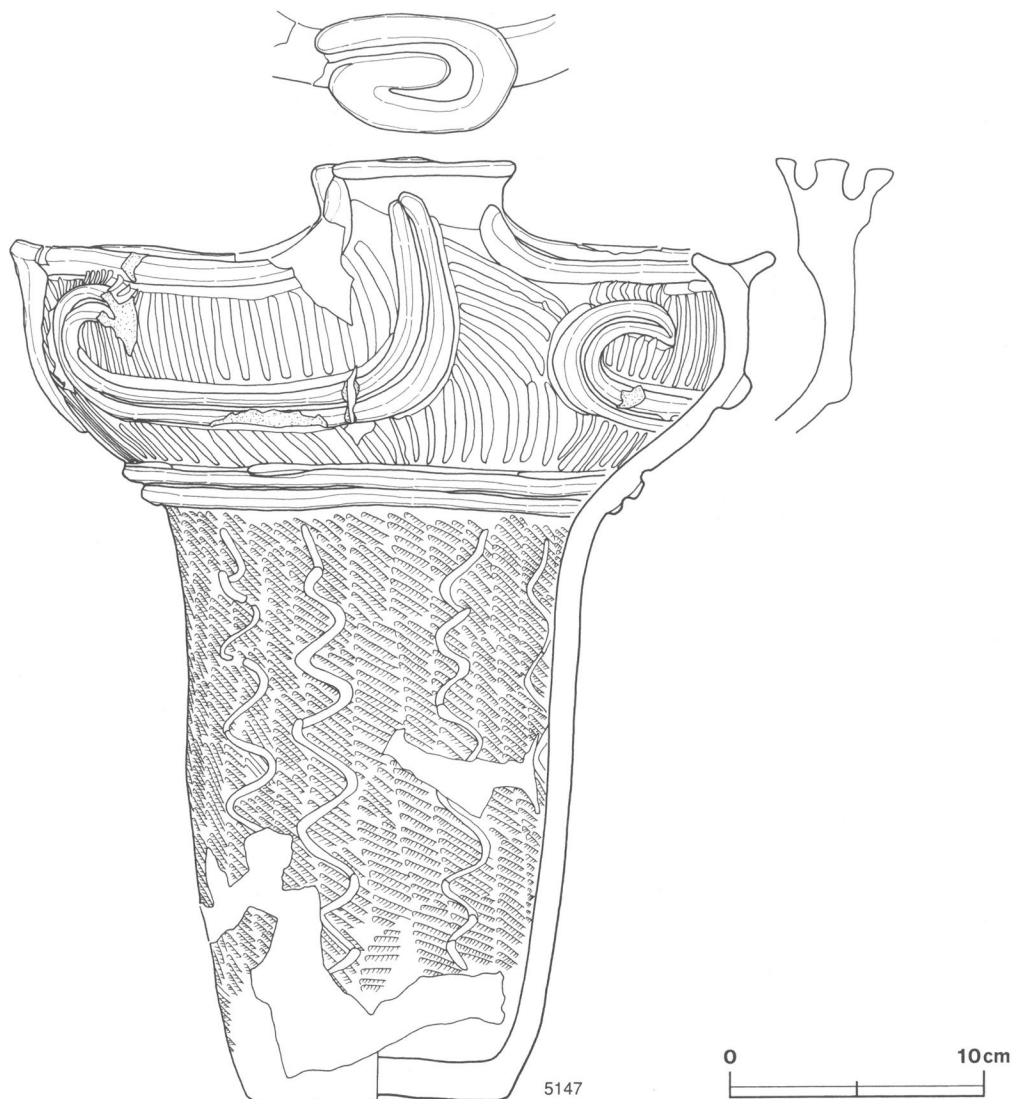
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片86点, 剥片2点が覆土中層から下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。5147は深鉢で底面から横位で出土している。上層から出土したTP5112の浅鉢は、第1856号土坑の覆土から出土したものと同一と考えられる。

所見 時期は、底面から出土している5147などから中期後葉(加曾利EI式期)と考えられる。



第232図 第1253号土坑・出土遺物実測図



第233図 第1253号土坑出土遺物実測図

第1253号土坑出土遺物観察表（第232・233図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5147	縄文土器	深鉢	27.8	37.3	9.8	口縁部は2本の隆帯で区画し、区画内は縦位集合沈線文。地文はLの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	P L46
TP5110	縄文土器	深鉢	—	(8.8)	—	口縁部は隆帯により文様を描出。胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・針状鉱物	普通	明赤褐	覆土中層	TP5112
TP5111	縄文土器	深鉢	—	(7.9)	—	口縁部には波状隆帯とキザミを有する隆帯が巡る。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・針状鉱物	普通	赤褐	覆土下層	
TP5112	縄文土器	浅鉢	—	(2.1)	—	口縁部には沈線で渦巻文を描出。胴部無文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土上層	内外面赤彩

第1258号土坑（第234図）

位置 調査2区の北部，C3 h2区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1257・1259号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は，長径3.39m，短径3.30m程度のほぼ円形と推定される。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは58cmである。壁は，ほぼ直立する。ピットは4か所で，深さは，P1が60cm，P2が61cm，P3が

78cm, P4が59cmである。

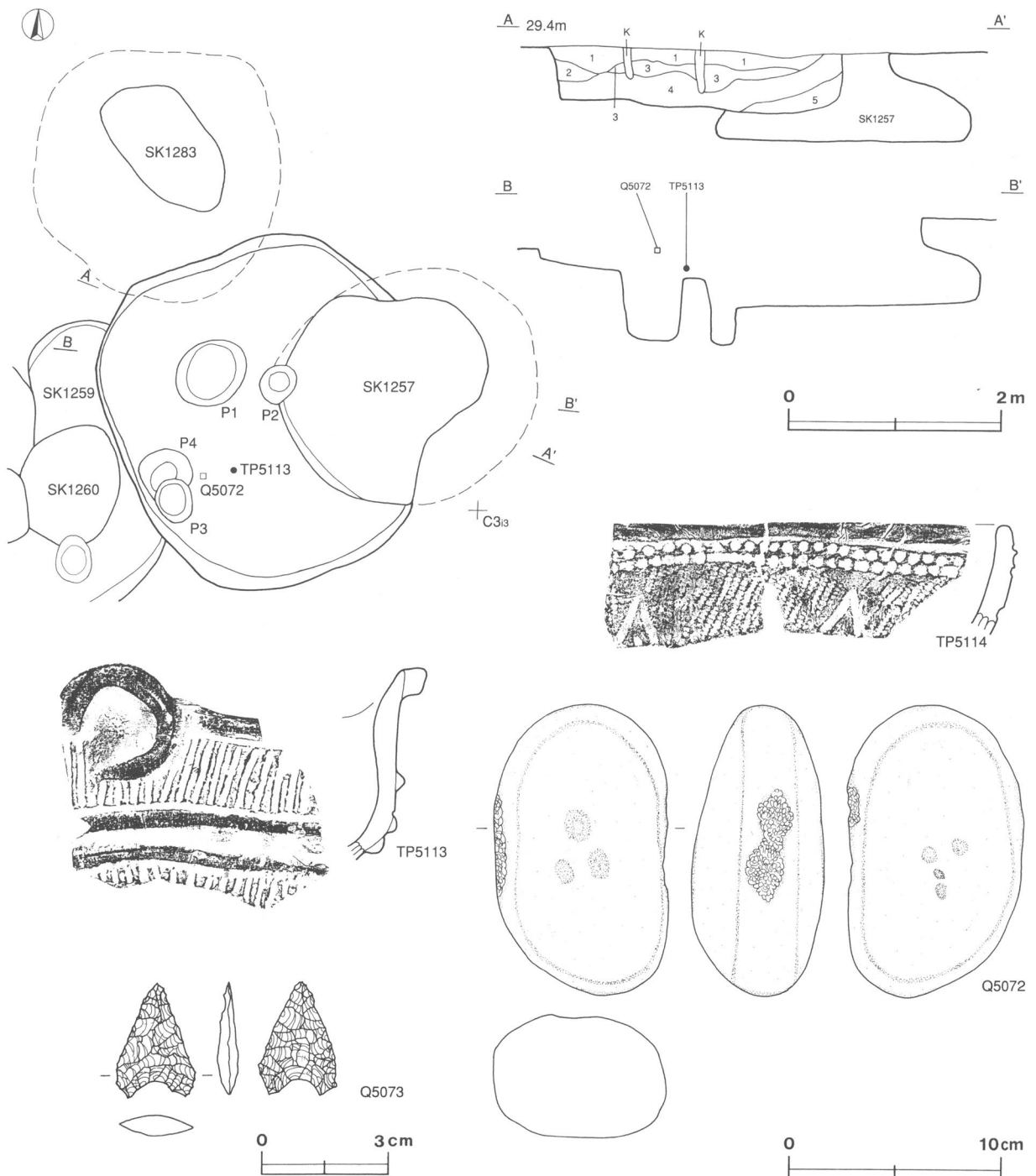
覆土 5層に分層される。第5層の堆積後に、中層から下層にかけて遺物が廃棄された状態で出土していることから、土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片923点, 敲石1点, 石鏃1点が覆土から出土している。遺物は小破片が覆土中層から下層にかけて廃棄された状態で出土している。

所見 時期は, 出土遺物から中期後葉(加曾利E I~II式期)と考えられる。



第234図 第1258号土坑・出土遺物実測図

第1258号土坑出土遺物観察表（第234図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5113	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	口縁部は隆帯により文様を描出。区内に縦位の沈線文。	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土下層	
TP5114	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	—	口縁部には交互刺突文が巡る。胴部は沈線で文様を描出。地文はRLの単節縄文。	長石・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q5072	敲石	13.8	8.3	6.3	993.7	砂岩	短軸側の両側縁に敲打痕。凹石に併用。	
Q5073	石鏃	2.6	1.8	0.5	0.5	黒曜石	基部中央が大きく湾入。器体調整入念。	P L 59

第1262号土坑（第235・236図）

位置 調査2区の北部，C3h1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第156号住居跡を掘り込み，第1260号土坑に掘り込まれている。第1259・1261号土坑，第436・684号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，長径2.04m，短径1.35m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は，長径1.98m，短径1.77m程度の楕円形である。確認面からの深さは46cmである。壁は，西壁以外は外傾して立ち上がるが，西壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，中位から上位にかけては掘り込まれているため不明である。

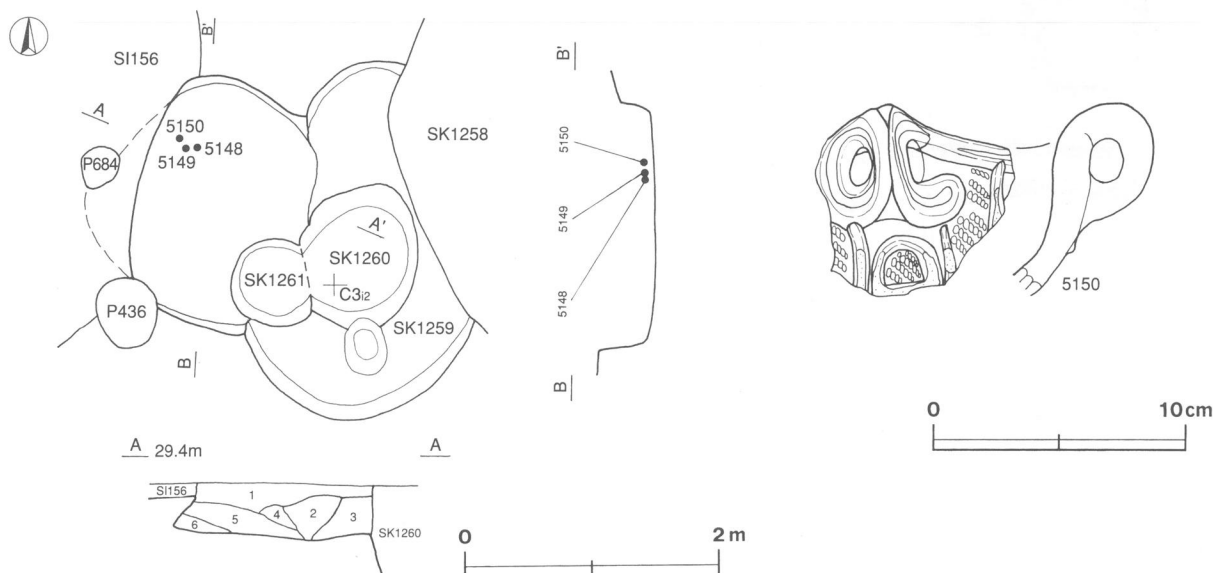
覆土 6層に分層される。第6層はロームブロックを多量に含む粘性のある層で，壁の崩落土と考えられる。他は不自然な堆積状況と土器が廃棄されたような状態で出土していることから，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片56点が，覆土中層から下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。5148～5150は深鉢で覆土下層から出土している。

所見 時期は，覆土下層から出土している5148～5150などから中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第235図 第1262号土坑・出土遺物実測図



第236図 第1262号土坑出土遺物実測図

第1262号土坑出土遺物観察表（第235・236図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5148	縄文土器	深鉢	[21.8]	(19.2)	—	口唇部に突起を有し、口唇部直下は肥厚。胴部に沈線を有する隆帯文。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土下層	
5149	縄文土器	深鉢	[31.5]	(19.3)	—	口縁部は沈線を有する隆帯と2本の隆帯で文様を描出。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土下層	
5150	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	口縁部は沈線を有する隆帯により文様描出。RLの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい赤褐	覆土下層	

第1270号土坑（第237・238図）

位置 調査2区の北部，C2j0区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1271号土坑，第413・414号ピットに掘り込まれている。第160号住居跡と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.76m，短径2.26m程度の不整楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.54m，短径2.17m程度の不整楕円形である。確認面からの深さは57cmである。壁はほぼ外傾するが，北壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，くびれ部から上位にかけては外傾する。底面からくびれ部までの高さは平均30cmである。ピットは1か所で，P1は深さは19cmである。

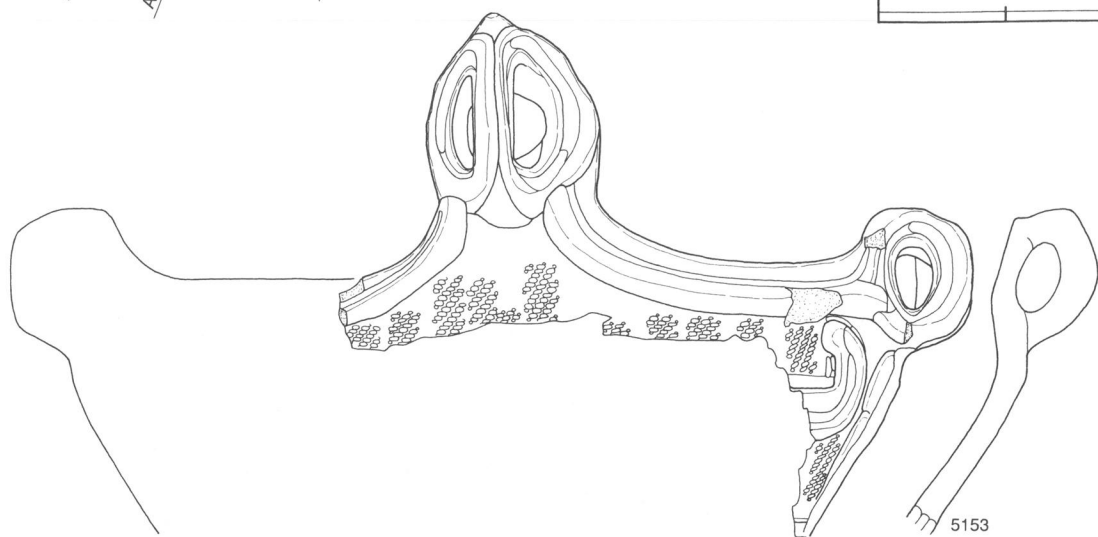
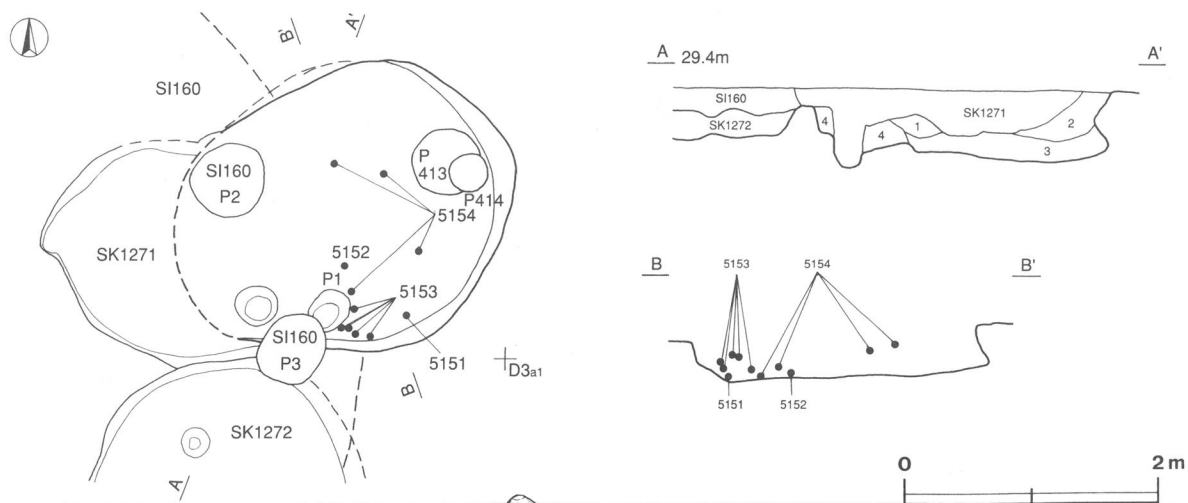
覆土 4層に分層される。第3層はロームブロックを多量に含む土層である。覆土下層は，遺物が廃棄された状態で出土していることから，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

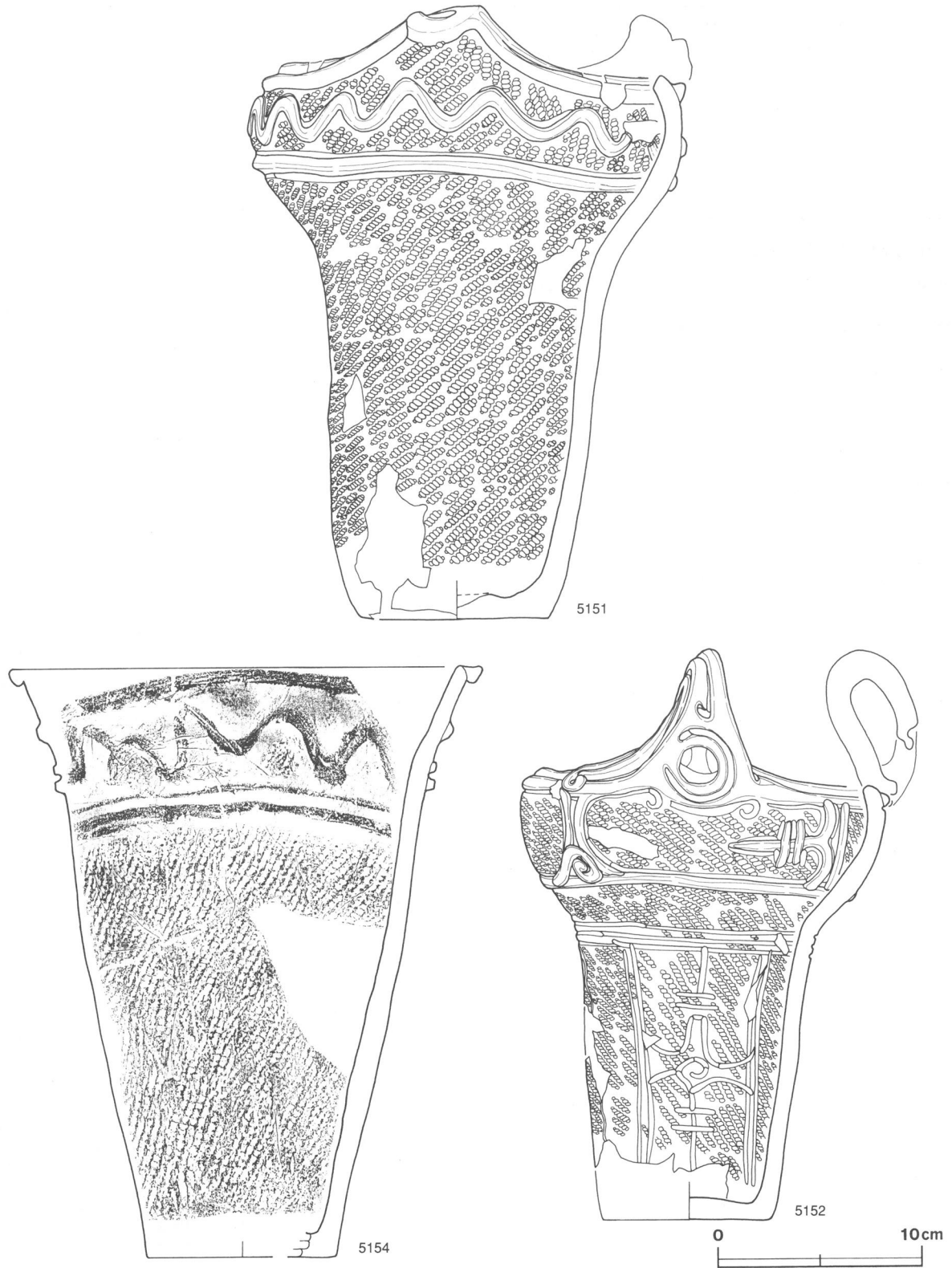
- | | | | |
|-------|----------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子少量，炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片225点が覆土から出土している。遺物は覆土下層から廃棄されたような状態で出土している。5151，5152は深鉢で，底面から横位で出土している。

所見 時期は，底面から横位で出土している5151，5152などから中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第237図 第1270号土坑・出土遺物実測図



第238図 第1270号土坑出土遺物実測図

第1270号土坑出土遺物観察表（第237・238図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5151	縄文土器	深鉢	18.4	30.0	9.2	口唇部に沈線を有する隆帯による渦巻文。口縁部には波状隆帯文。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	上部褐 下部橙	底面	P L46

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5152	縄文土器	深鉢	15.9	28.2	8.2	口縁部は隆帯による区画文と渦巻文。胴部は沈線文とLRの単節縄文を施文。	長石・石英	普通	明赤褐	底面	P L 46
5153	縄文土器	深鉢	[33.0]	(20.7)	—	沈線を有する隆帯で把手を作出。口縁部は隆帯により文様描出。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	
5154	縄文土器	深鉢	[23.0]	29.0	[9.2]	口縁部に隆帯が巡る。隆帯間に隆帯による波状文が巡る。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	明黄褐	底面	

第1273号土坑 (第239・240図)

位置 調査2区の北部, D2a9区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第160号住居に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.24m、短径1.85m程度の不整楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は径2.54m程度のほぼ円形である。確認面からの深さは63cmである。壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、くびれ部から上位にかけては直立する。底面からくびれ部までの高さは平均38cmである。

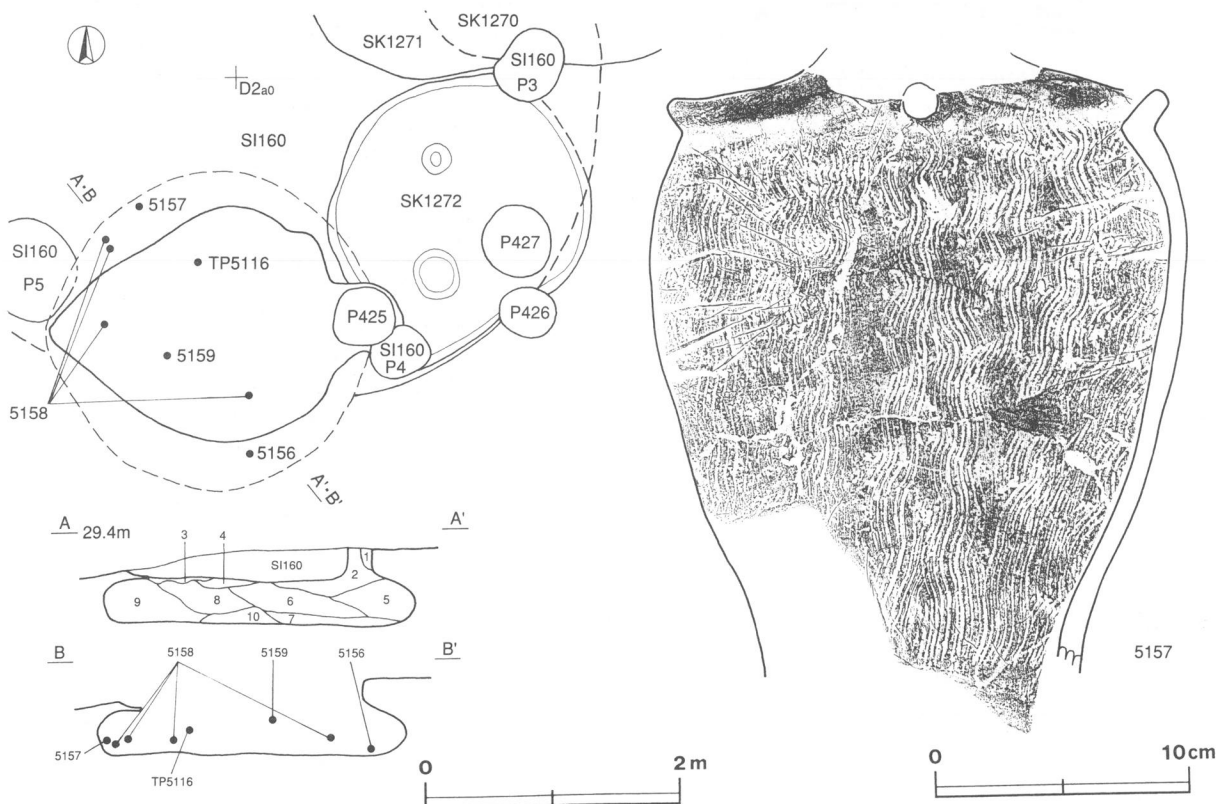
覆土 10層に分層される。第10層はロームブロックを多量に含む粘性のある層で、壁の崩落土と考えられる。全体的にロームブロックを含む土層で、堆積状況も不自然なことから人為堆積と考えられる。

土層解説

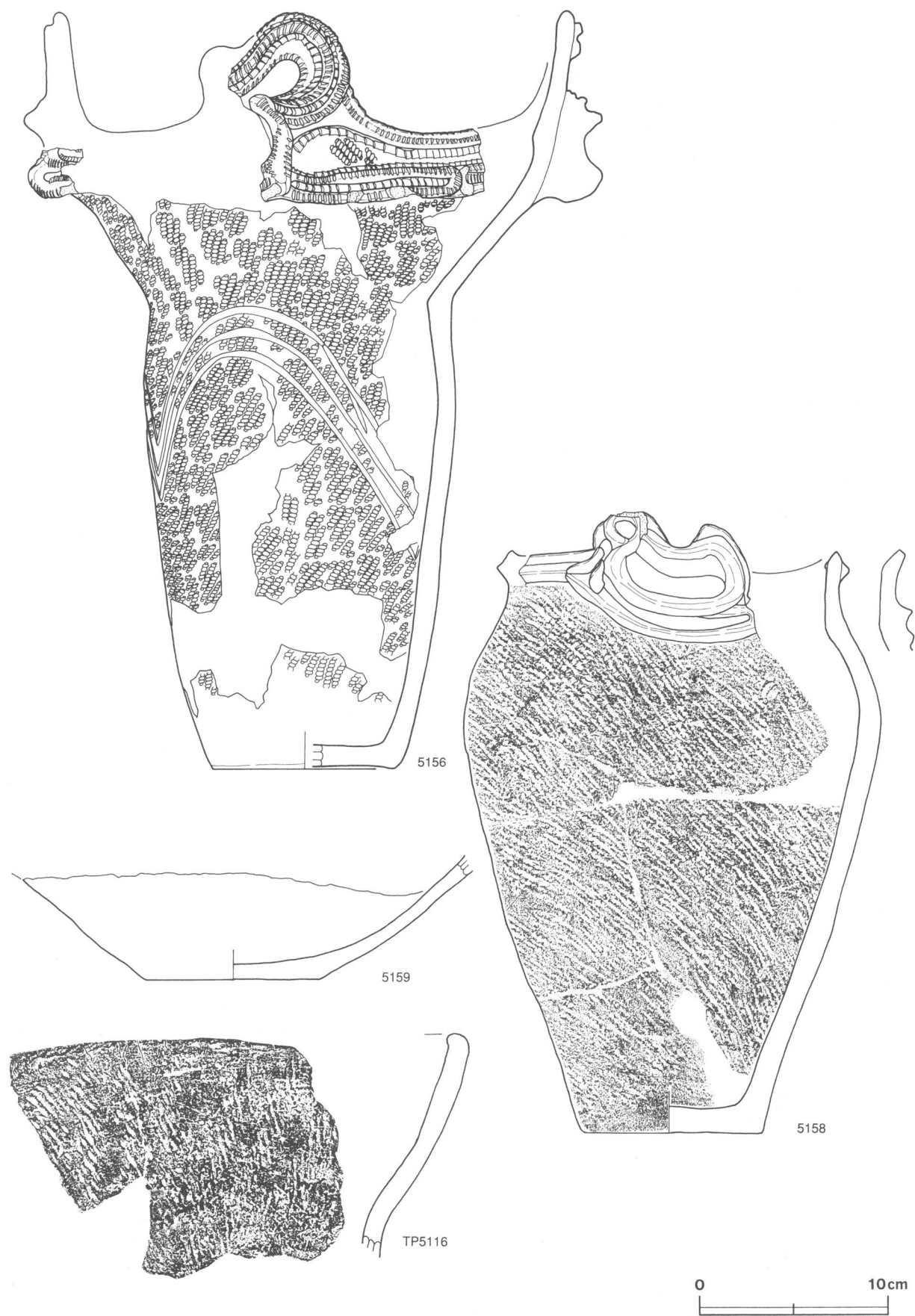
- | | | | |
|-------|--------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片177点が覆土中層から下層にかけて出土している。5156は深鉢で、覆土下層から横位で出土している。

所見 時期は、覆土下層から横位で出土している5156などから中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第239図 第1273号土坑・出土遺物実測図



第240图 第1273号土坑出土遗物实测图

第1273号土坑出土遺物観察表（第239・240図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5156	縄文土器	深鉢	[27.6]	40.1	9.5	口縁部はキザミのある隆帯で文様描出。隆帯に沿う結節沈線文。RLの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	P L 46
5157	縄文土器	深鉢	[19.4]	(23.0)	—	波状部に孔を有す。胴部には櫛歯状工具による波状条線文が垂下。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土下層	
5158	縄文土器	深鉢	—	[32.5]	9.7	口唇部直下に隆帯が巡り、隆帯を連結して波状部を作出。胴部には燃糸文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
5159	縄文土器	浅鉢	—	(8.5)	9.0	器面は無文でよく研磨。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土中層	
TP5116	縄文土器	深鉢	—	(11.7)	—	胴部にはLの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土中層	

第1283号土坑（第241～243図）

位置 調査2区の北部，C3h2区。住居跡群域に位置する。

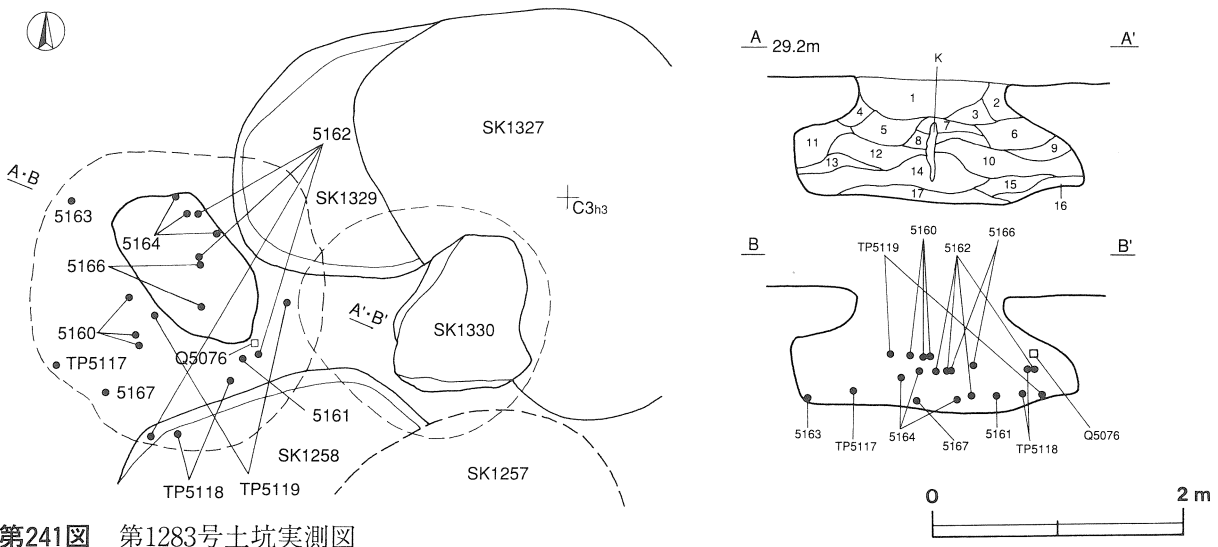
規模と形状 開口部の平面形は、長径1.45m，短径0.75m程度の楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は、径2.48m程度の円形である。確認面からの深さは97cmで、壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり、上位で外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均82cmである。

覆土 17層に分層される。第10・11層はロームブロックを多量に含む層で、開口部や壁などの崩落土と考えられる。覆土中層は炭化物を中量含む黒褐色土である。堆積状況が不自然であるので人為堆積と考えられる。

土層解説

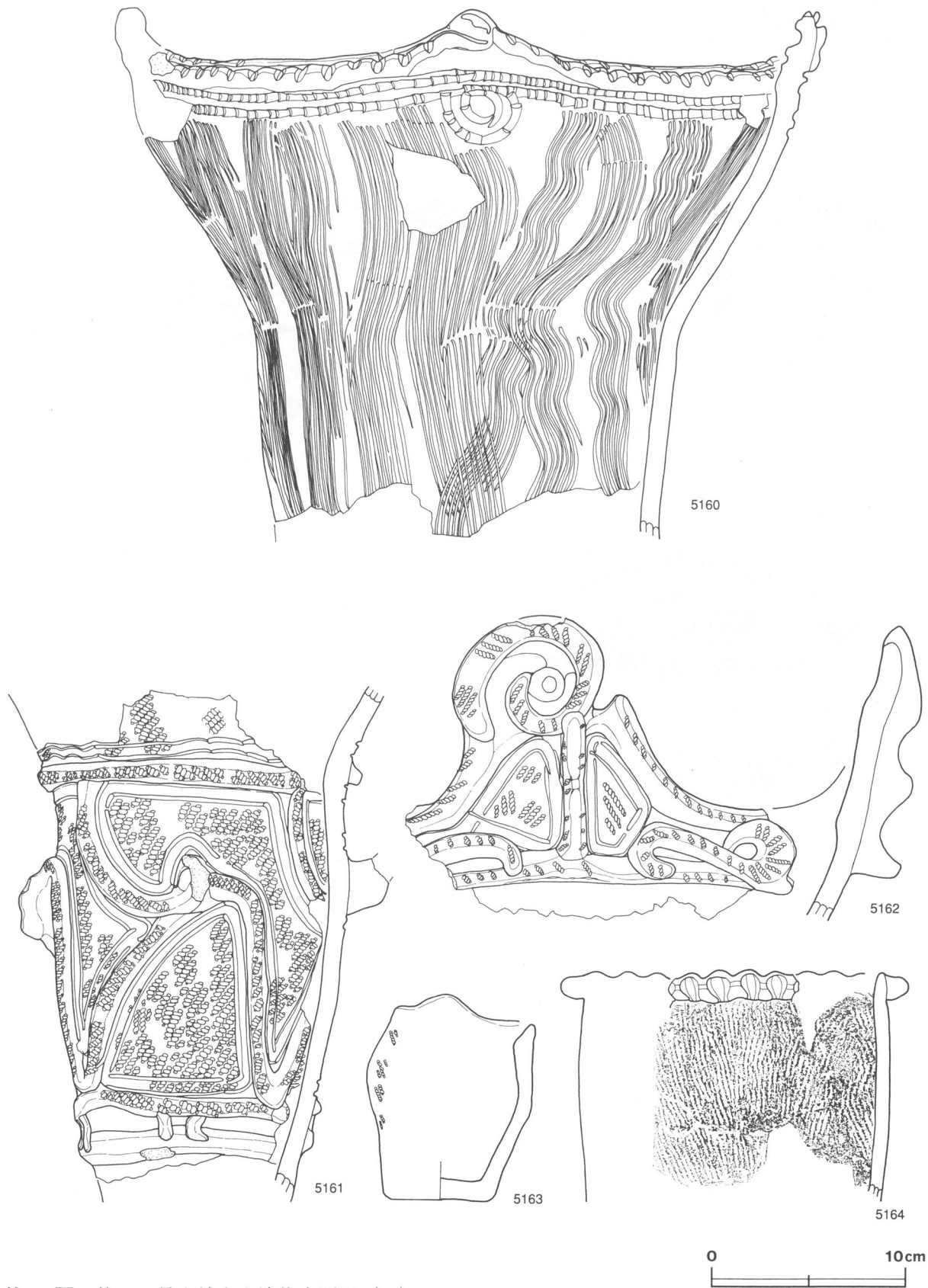
- | | | | |
|-------|------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 12 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量 | 13 黒褐色 | 炭化物中量，ロームブロック少量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 14 黒色 | 炭化物中量，ローム粒子少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 16 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 8 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 17 暗褐色 | ロームブロック中量，鹿沼バミス粒子少量，炭化粒子微量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片753点，磨製石斧1点，磨石1点，剥片4点が覆土から出土している。遺物は覆土中層を中心に廃棄された状態で多量に出土している。深鉢の大形破片が潰れたような状態で出土している。5160，5161は深鉢で，覆土中層と覆土下層からそれぞれ出土している。

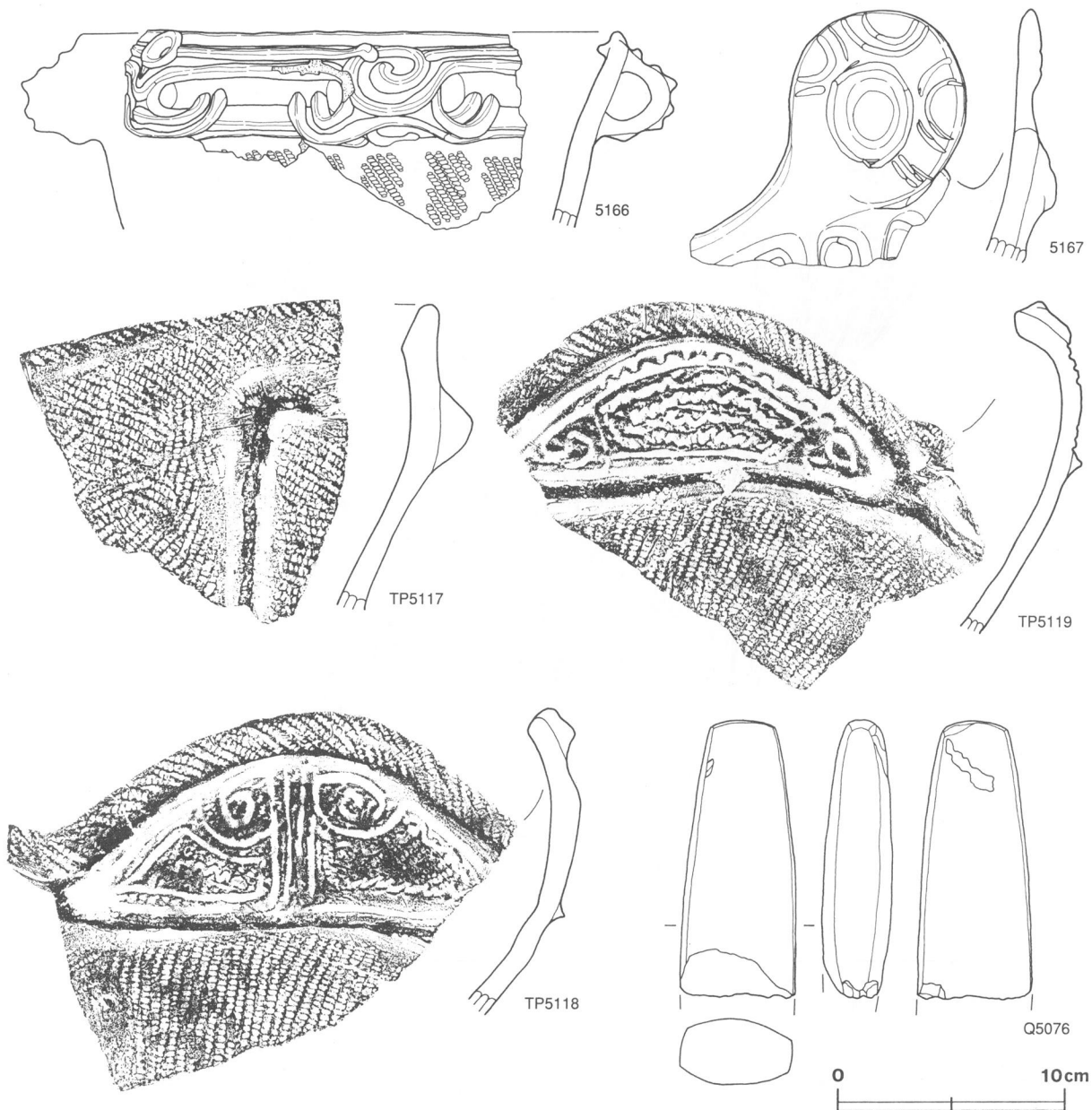


第241図 第1283号土坑実測図

所見 5163のミニチュア土器が底面から横位で出土している点に特徴がある。時期は、覆土中層から出土している5161などから中期中葉（阿玉台Ⅳ式期）と考えられる。



第242図 第1283号土坑出土遺物実測図（1）



第243図 第1283号土坑出土遺物実測図(2)

第1283号土坑出土遺物観察表(第242・243図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5160	縄文土器	深鉢	37.6	(27.2)	—	結節沈線に沿うキザミを有する隆帯が巡る。地文は櫛歯状工具による波状条線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土中層	P L46
5161	縄文土器	深鉢	—	(25.9)	—	胴部は隆帯に沿った平行沈線文。環状の突起を有する。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	
5162	縄文土器	深鉢	—	(15.6)	—	波頂部に渦巻文。波底部に横S字状文。口縁部に鐙状の隆帯が巡る。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
5163	縄文土器	深鉢	6.9	10.7	5.3	胴部は大部分が無文。一部R Lの単節縄文を方向位や斜方向に施文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	にぶい黄橙	底面	P L46
5164	縄文土器	深鉢	—	(11.8)	—	口唇部直下に指頭押圧を加えた隆帯が巡る。L Rの単節縄文を縦方向や斜方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5166	縄文土器	深鉢	[23.6]	(8.6)	—	口縁部に隆帯による渦巻文をモチーフとした眼鏡状把手を有す。LRの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
5167	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	沈線で中央に円、周辺部に弧状モチーフを描出。口縁部は沈線と隆帯で文様描出。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP5117	縄文土器	深鉢	—	(13.4)	—	胴部には断面三角形の隆帯で文様を描出。RLの単節縄文を多方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土下層	
TP5118	縄文土器	深鉢	—	(13.4)	—	波状部は沈線により文様描出。区画内に蛇行沈線文。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	浅黄橙	覆土下層	TP5119と同一
TP5119	縄文土器	深鉢	—	(14.5)	—	波状部は沈線により文様描出。区画上部には連続コの字状文。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	浅黄橙	底面	TP5118と同一

番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q5076	磨製石斧	(12.2)	5.0	3.1	(314.7)	安山岩	定角式。器体研磨入念。刃部欠損。	

第1286号土坑 (第244・245図)

位置 調査2区の北部、C3g3区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1289号土坑を掘り込み、第1285・1287号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.46m、短径2.20m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.55m、短径2.40m程度の円形である。確認面からの深さは87cmで、壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり、上位では外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均54cmである。ピットは4か所で、深さは、P1が19cm、P2が51cm、P3が40cm、P4が19cmである。

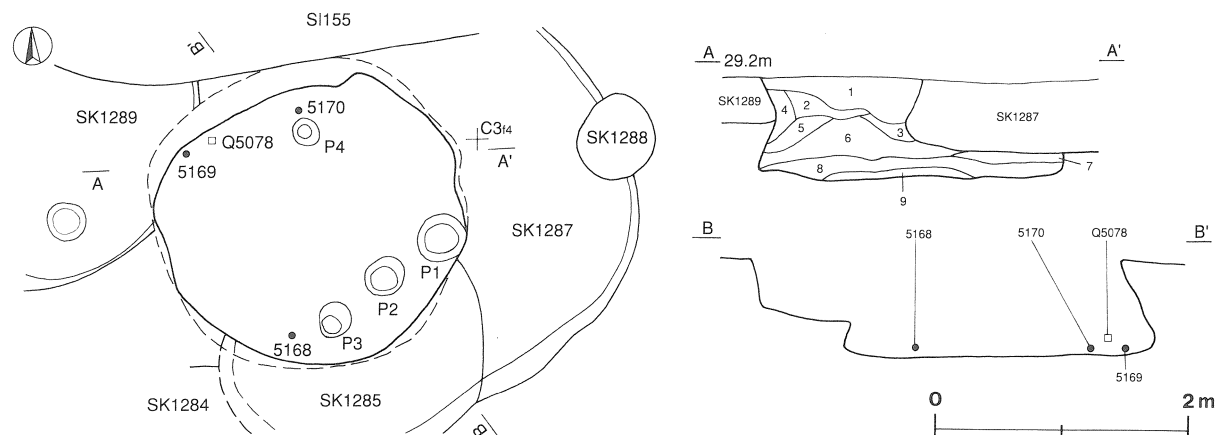
覆土 9層に分層される。第7層～9層はロームブロックを多量に含む粘性のある土層で、壁の崩落土と考えられる。第7層以上の層は、遺物が廃棄されたような状態で出土していることから、土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

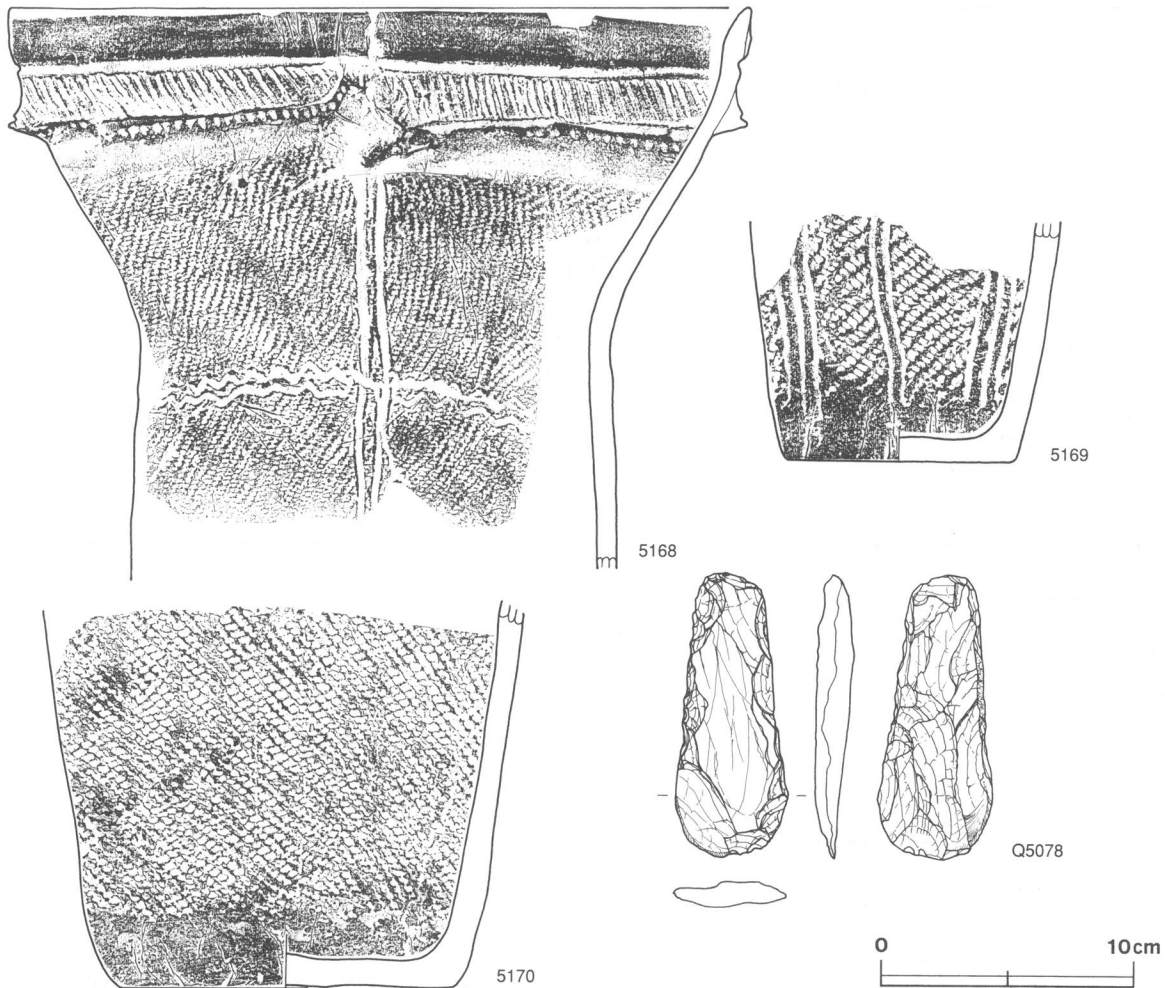
- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量 | 9 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片284点、打製石斧1点、石鏃1点が覆土から出土している。遺物は主に覆土下層から出土している。5168～5170は深鉢で、覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土している5168～5170などから中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第244図 第1286号土坑実測図



第245図 第1286号土坑出土遺物実測図

第1286号土坑出土遺物観察表（第245図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5168	縄文土器	深鉢	[29.2]	(22.3)	—	口縁部にキザミを有する隆帯で横S字状文と沈線文。胴部にはR Lの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土下層	
5169	縄文土器	深鉢	—	(9.5)	8.8	胴部は半截竹管による平行沈線文が1~2条垂下。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	底部網代痕
5170	縄文土器	深鉢	—	(15.4)	13.1	胴部にはL R Lの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	橙	覆土下層	底部網代痕

番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q5078	打製石斧	11.3	4.5	1.5	83.0	粘板岩	両面調整。刃部一部研磨。	P L 60

第1289号土坑（第246図）

位置 調査2区の北部，C3g3区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第155号住居，第1286・1304・1305号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は，長径2.70m，短径2.08m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは36cmである。壁は外傾している。ピットは1か所で，P1は深さ20cmである。

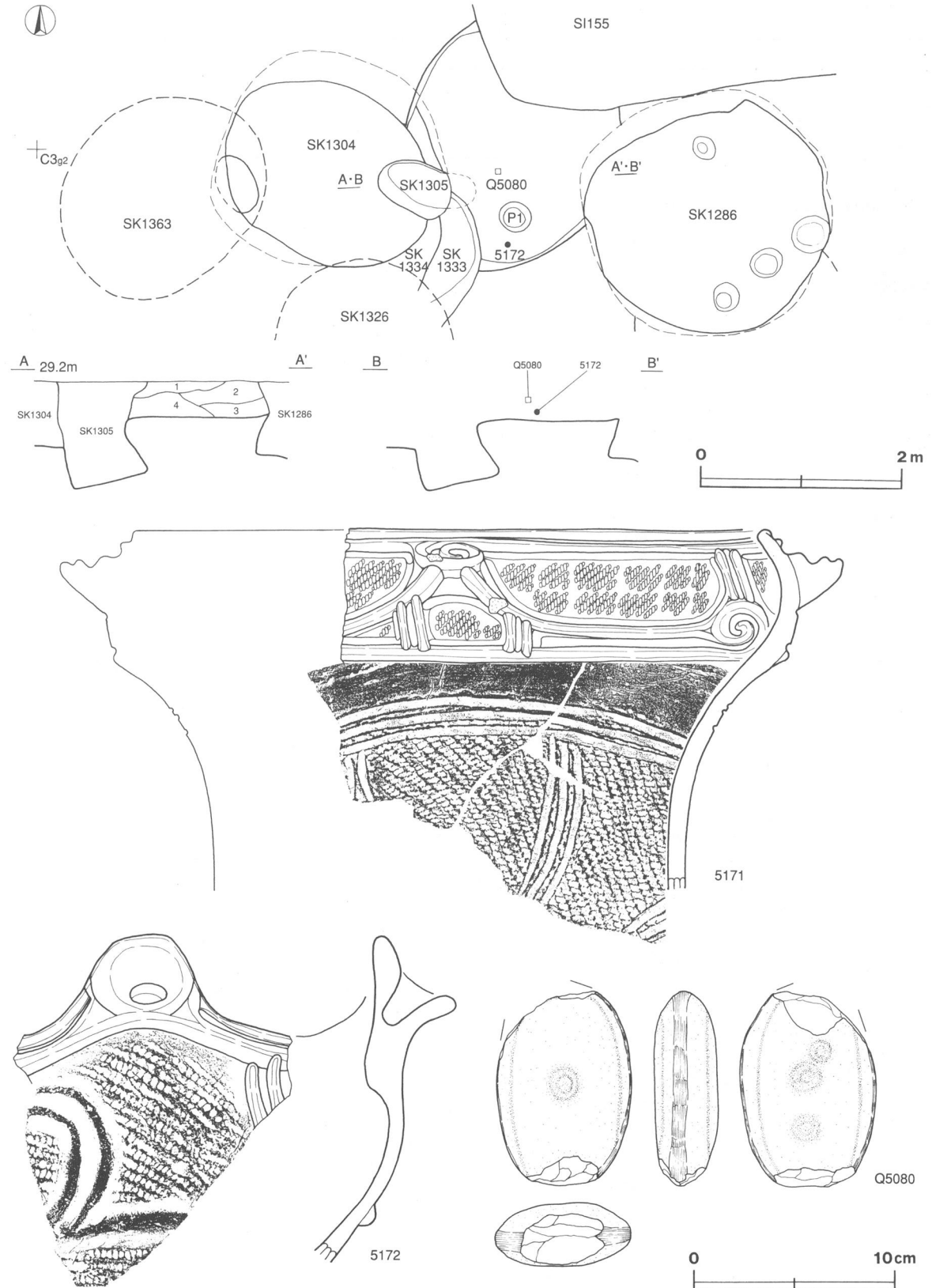
覆土 4層に分層される。不自然な堆積状況のため人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片36点, 磨石1点が覆土から出土している。5172は深鉢で, 覆土下層から出土している。

所見 時期は, 下層から出土している5172の深鉢などから中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第246図 第1289号土坑・出土遺物実測図

第1289号土坑出土遺物観察表（第246図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5171	縄文土器	深鉢	[31.2]	(18.0)	—	沈線が沿う隆帯で渦巻文描出。胴部には3条の沈線文が垂下。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土	
5172	縄文土器	深鉢	—	(16.0)	—	筒状の突起を有し、口縁部は隆帯で文様描出。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q5080	磨石	(9.7)	(6.8)	3.3	(326.4)	石英	側縁全体に使用痕。凹石に併用。一部欠損。	

第1300号土坑（第247～249図）

位置 調査2区の北部，C3i2区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1299号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，長径1.78m，短径1.25m程度の不整楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.58m，短径2.38m程度の円形である。確認面からの深さは87cmである。壁は，下位から上位にかけて内傾して立ち上がる。

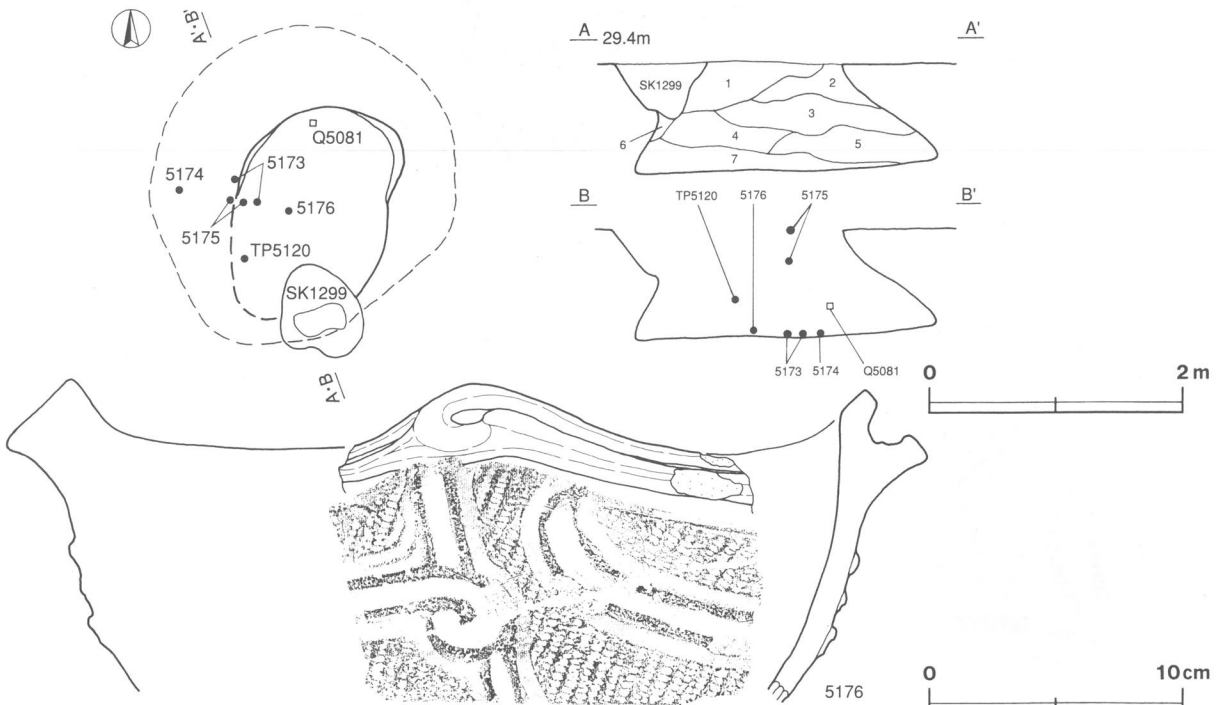
覆土 7層に分層される。遺物が覆土中層から下層にかけて廃棄されたような状態で出土していることから，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

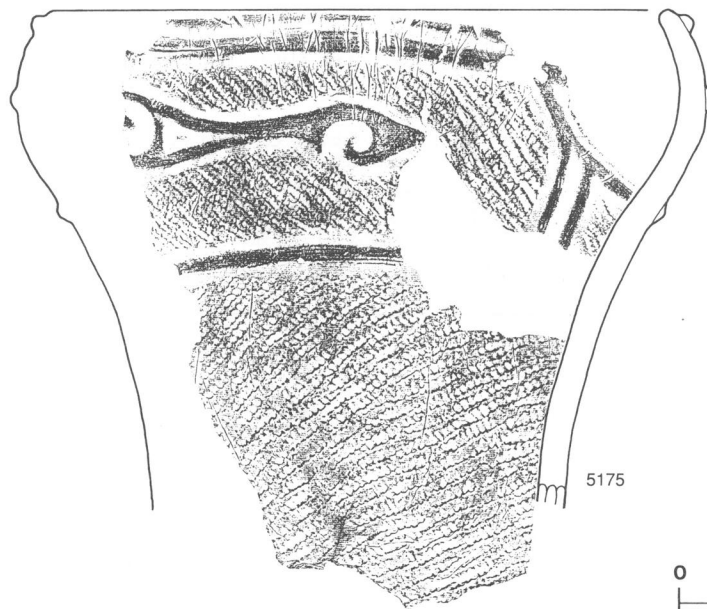
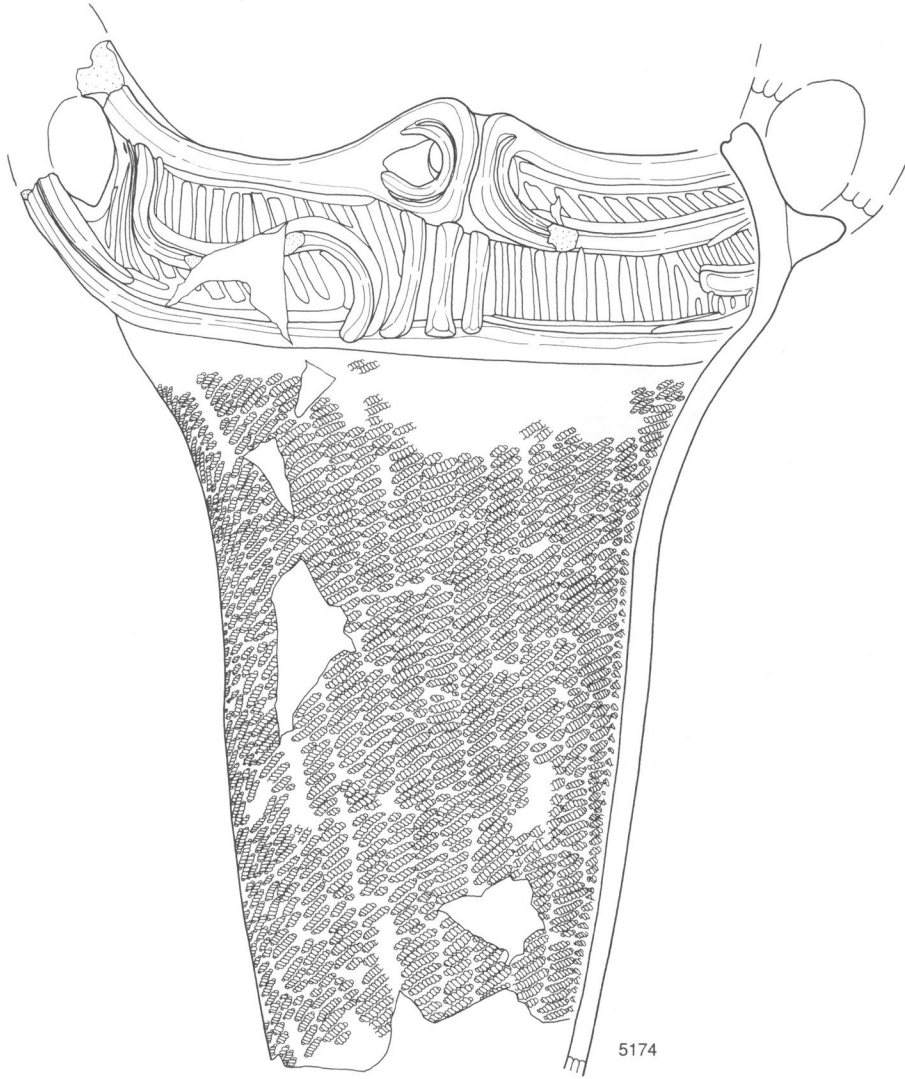
- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック微量，炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片138点，磨製石斧1点，剥片1点が覆土から出土している。遺物は覆土中層から底面にかけて廃棄されたような状態で出土している。5173，5174は深鉢で底面から出土している。

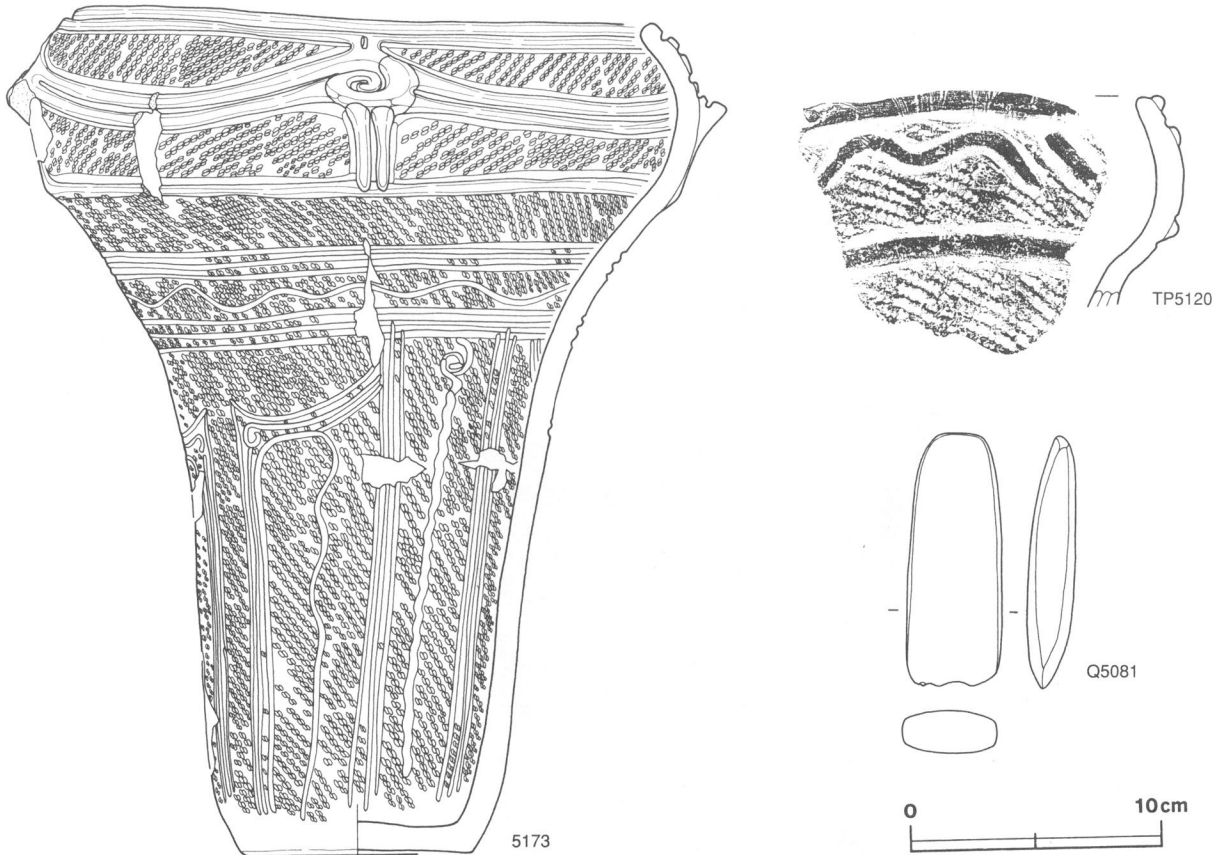
所見 時期は，底面から出土している5173，5174などから，中期後葉（加曾利EⅠ式中段階期）と考えられる。



第247図 第1300号土坑・出土遺物実測図



第248图 第1300号土坑出土遗物实测图 (1)



第249図 第1300号土坑出土遺物実測図(2)

第1300号土坑出土遺物観察表(第247~249図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5173	縄文土器	深鉢	22.4	33.8	9.0	口縁部に渦巻の小突起を有し、沈線に沿う2本の隆帯で文様描出。LRLの複節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	P L 47
5174	縄文土器	深鉢	[24.4]	(40.5)	—	口縁部に隆帯によるS字をモチーフとした文様描出。縦位沈線文とRLの単節縄文。	長石・石英・雲母・赤色粒子	普通	橙	底面	P L 47
5175	縄文土器	深鉢	[24.6]	(19.5)	—	口縁部に隆帯で渦巻と刺状のモチーフを描出。地文はRLの単節縄文。	長石・石英	普通	黒褐	覆土上層	
5176	縄文土器	深鉢	[31.2]	(12.5)	—	口唇部に隆帯による渦巻文。口縁部は2本の隆帯で文様描出。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	
TP5120	縄文土器	深鉢	—	(8.2)	—	口縁部には隆帯文や波状隆帯文が巡る。地文はRLの単節縄文。	長石・雲母	普通	灰褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q5081	磨製石斧	(10.0)	3.8	1.8	(126.7)	粘板岩	定角式。器体研磨入念。刃部欠損。	P L 60

第1304号土坑(第250・251図)

位置 調査2区の北部、C3g2区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1305号土坑に掘り込まれている。また第1289, 1333, 1334号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.18m、短径1.67m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平

面形は、長径2.34m、短径2.13m程度の円形である。確認面からの深さは65cmである。壁は内傾して立ち上がる。ピットは1か所で西壁際に位置し、P1は深さ9cmである。

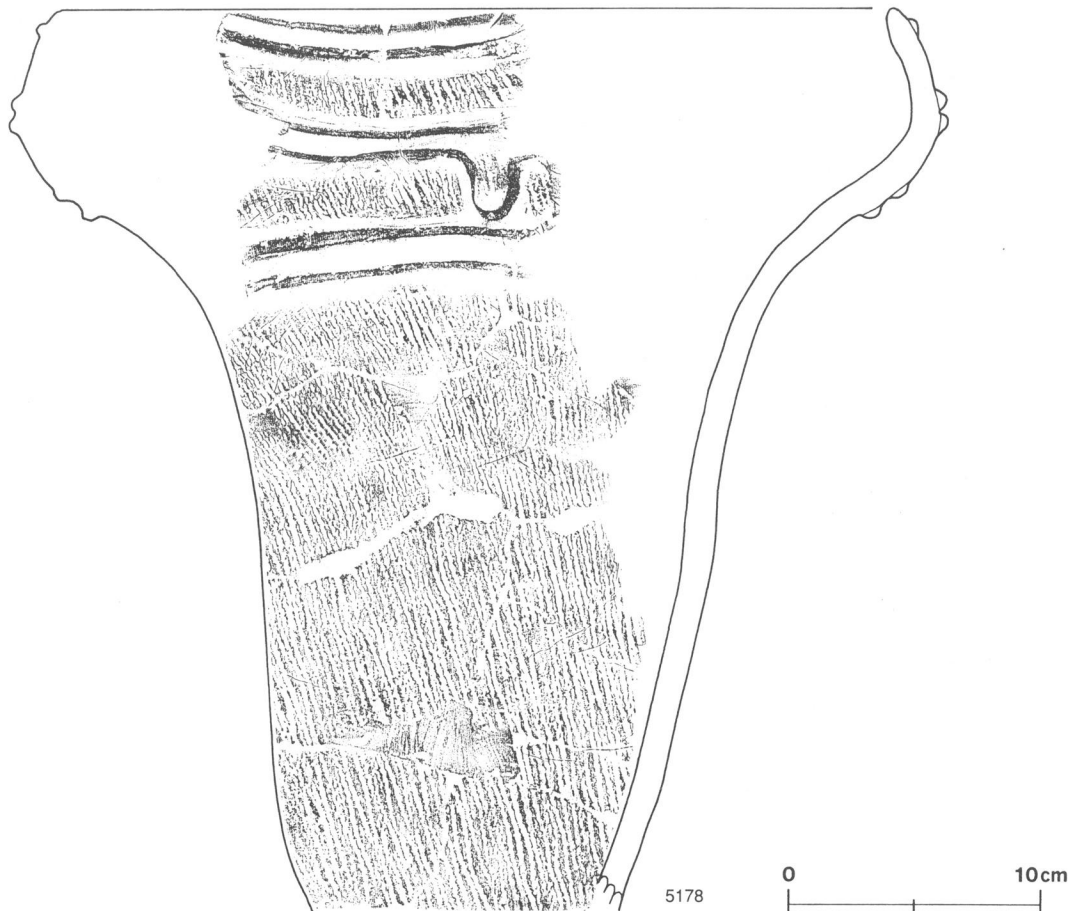
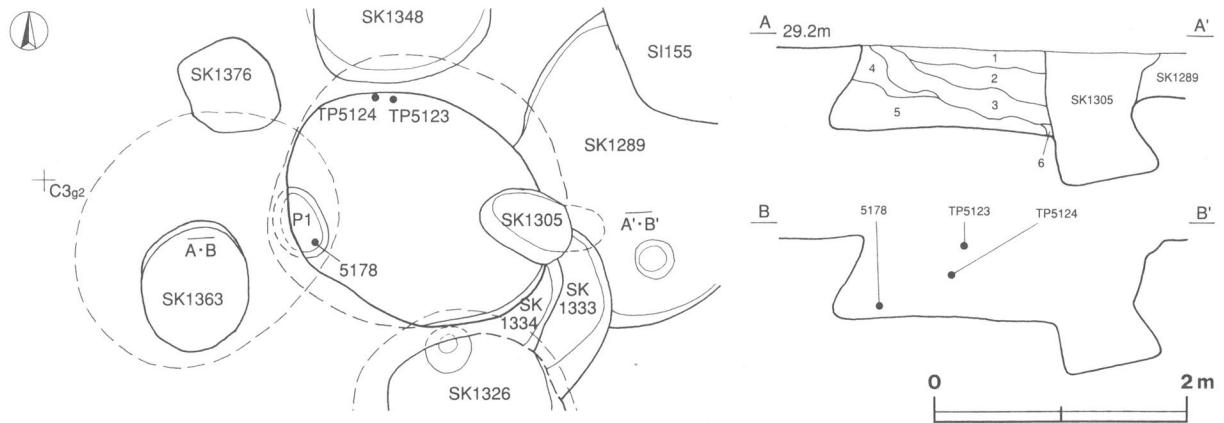
覆土 6層に分層される。第6層はロームブロックを多く含む土層のため、壁の崩落土と考えられる。覆土中層から下層にかけては、遺物が廃棄されたような状態で出土していることから、土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

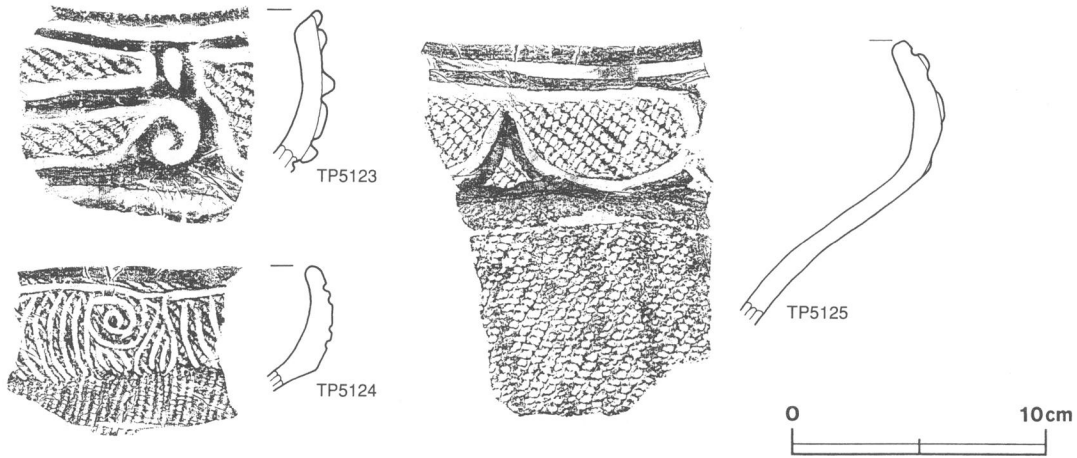
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | 炭化物中量, ロームブロック微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片141点、剥片1点が出土している。5178の深鉢は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、下層から横位で出土している5178の深鉢などから中期後葉（加曽利E I 式期）と考えられる。



第250図 第1304号土坑・出土遺物実測図



第251図 第1304号土坑出土遺物実測図

第1304号土坑出土遺物観察表（第250・251図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5178	縄文土器	深鉢	[32.5]	(35.7)	—	口縁部には隆帯が巡り、2本の隆帯で文様を描出。地文は燃糸文で、縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐橙	覆土下層	
TP5123	縄文土器	深鉢	—	(6.3)	—	口縁部は隆帯による渦巻文や区画文を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土上層	
TP5124	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	口縁部は沈線により渦巻文を描出。縦位条線文を施文。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP5125	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯で文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土	

第1309号土坑（第252・253図）

位置 調査2区の北部，C3j2区。住居跡群域に位置する。

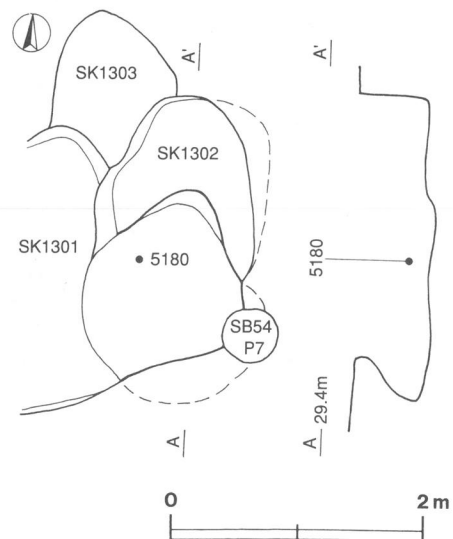
重複関係 第1301・1302号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は，長径1.25m，短径1.20m程度のほぼ円形と推定される。底面は平坦で，平面形は長径1.45m，短径1.25m程度の不整楕円形である。確認面からの深さは55cmである。壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，中位から上位にかけてはほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは，平均45cmである。

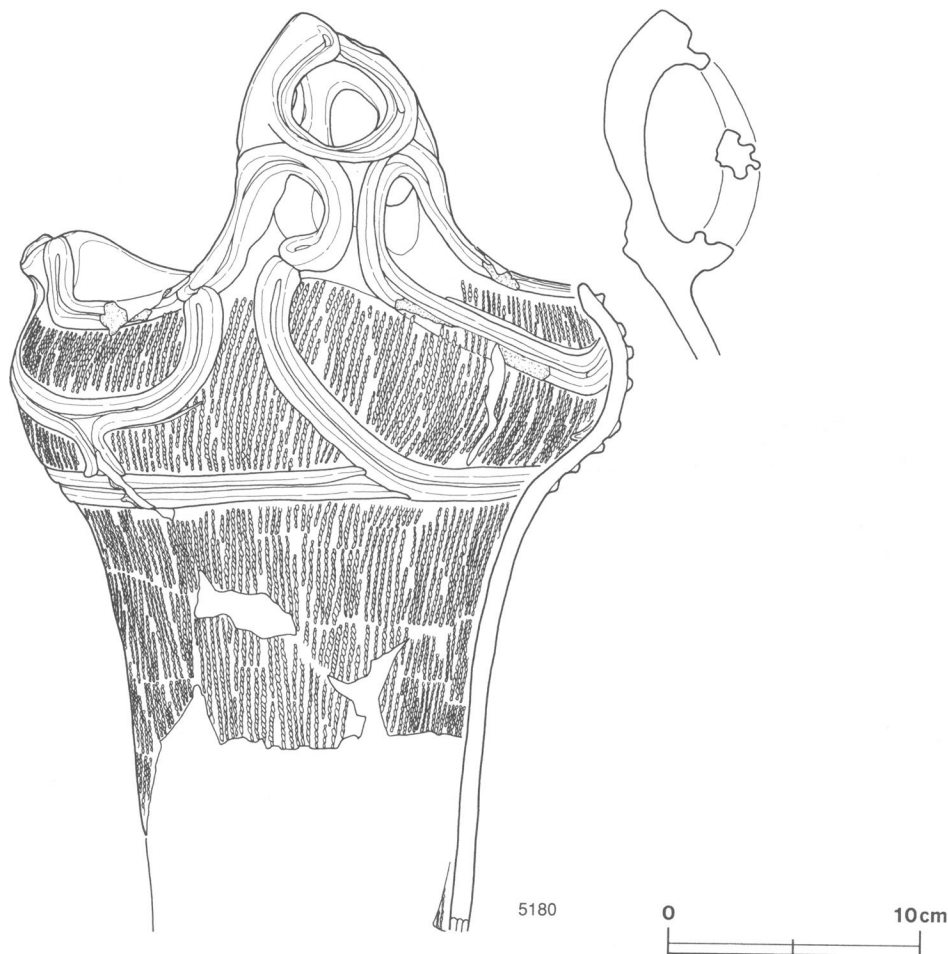
覆土 土層観察用ベルトの設定位置が中心からはずれたため，観察ができなかった。

遺物出土状況 縄文土器片5点が覆土から出土している。遺物は少ないが，5180は深鉢で，覆土下層から出土している。

所見 時期は，覆土下層から出土している5180から中期後葉（加曾利E I式古段階期）と考えられる。



第252図 第1309号土坑実測図



第253図 第1309号土坑出土遺物実測図

第1309号土坑出土遺物観察表 (第253図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5180	縄文土器	深鉢	21.4	(35.9)	—	沈線を有する隆帯で渦巻を描出した把手を有する。口縁部は隆帯で文様描出。撚糸文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土下層	P L47

第1315号土坑 (第254図)

位置 調査2区の北部, C3f5区。土坑墓群と住居跡群に挟まれた区域の中に位置する。

重複関係 第1312号土坑に掘り込まれている。第1316号土坑, 第693号ピットと重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径2.38m, 短径2.32m程度のほぼ円形と推定される。確認面からの深さは94cmである。壁はほぼ直立する。ピットは5か所で, 壁際に位置している。深さは, P1が21cm, P2が44cm, P3が52cm, P4が52cm, P5が40cmである。

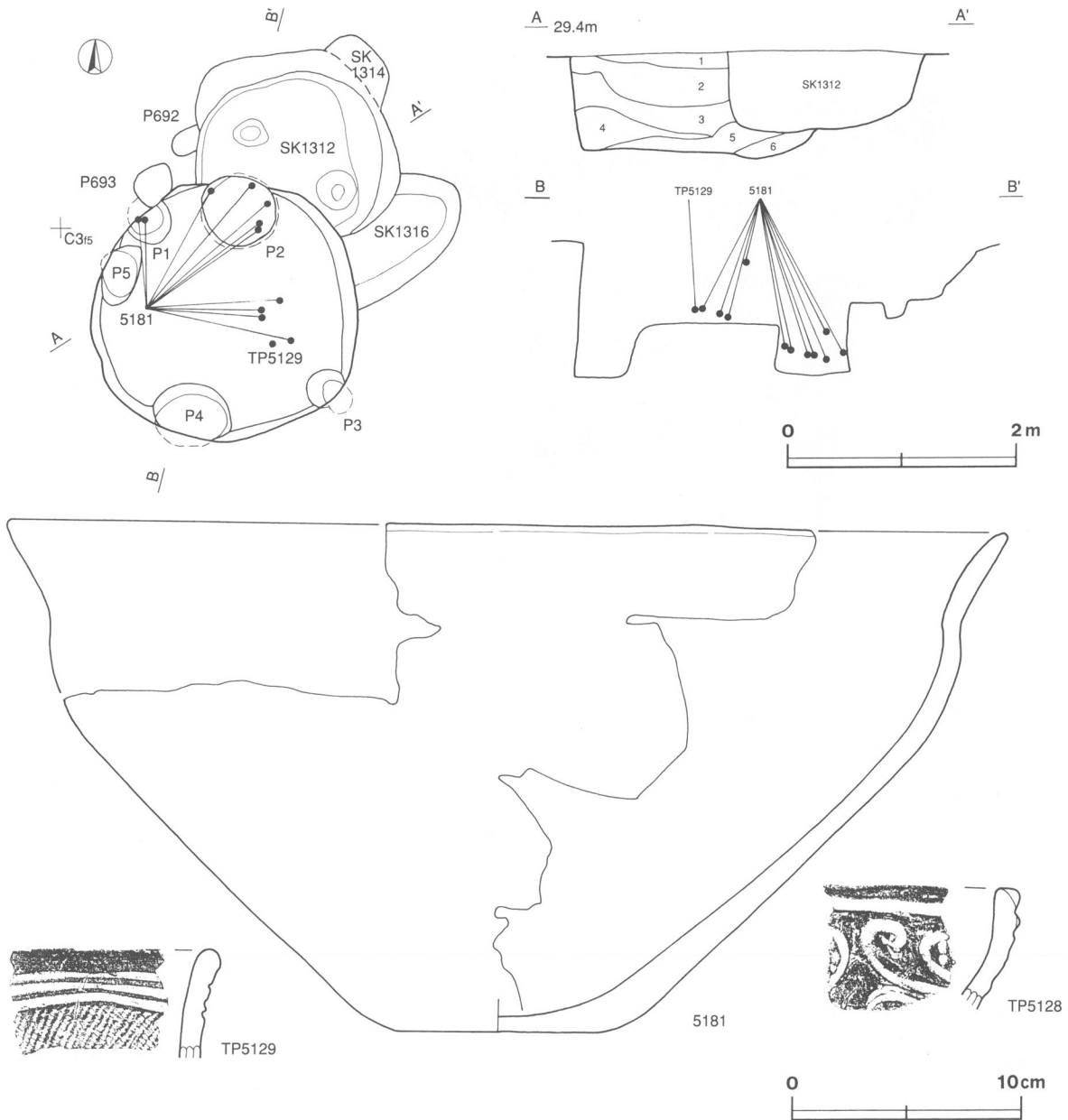
覆土 6層に分層される。ロームブロックを多量に含む土層で, 遺物は覆土下層から底面にかけて廃棄されたような状態で出土していることから, 土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片260点が覆土から出土している。遺物は、覆土下層から底面やピット内にかけて廃棄されたような状態で出土している。5181の鉢は、P1、P2内や覆土下層・底面から出土した土器片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利E I・II式期）と考えられる。



第254図 第1315号土坑・出土遺物実測図

第1315号土坑出土遺物観察表（第254図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5181	縄文土器	鉢	[43.8]	22.2	8.8	器面は無文でよく研磨。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	底面 P1・2内	
TP5128	縄文土器	深鉢	—	(5.3)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯で渦巻文や区画文を描出。区画内には結節沈線文。	長石・石英・赤色粒子	普通	明赤褐	覆土	
TP5129	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	口縁部には3条の沈線が巡る。胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土下層	

第1325号土坑 (第255図)

位置 調査2区の北部, C3g2区。住居跡群域に位置する。

規模と形状 開口部の平面形は、長径1.52m, 短径1.38m程度の不整楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.22m, 短径2.08m程度のはほぼ円形である。確認面からの深さは68cmである。壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり、くびれ部から上位にかけては直立する。南壁にはくびれ部の存在がなく、内傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均51cmである。

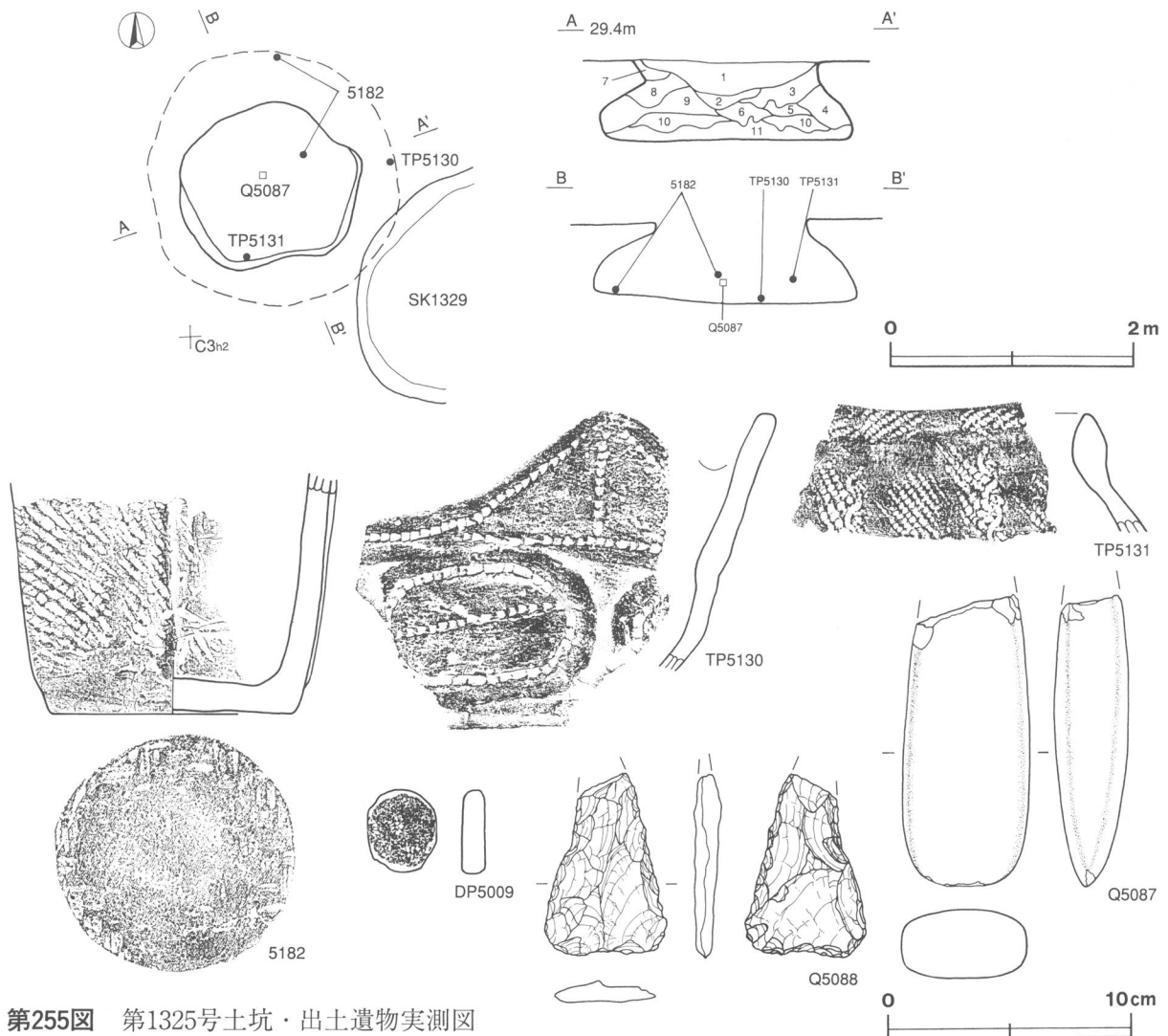
覆土 11層に分層される。第11層は粘性のある褐色土である。第7・11層はロームブロックを多量に含むため壁の崩落土と考えられる。その他は不自然な堆積状況のため人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 11 褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片161点, 打製石斧1点, 磨製石斧1点, 土器片円盤1点, 剥片1点が覆土から出土している。遺物は主に第10・11層から出土している。5182, TP5130は深鉢で、底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土した5182, TP5130などから中期中葉(阿玉台Ⅱ・Ⅲ式期)と考えられる。



第255図 第1325号土坑・出土遺物実測図

第1325号土坑出土遺物観察表（第255図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5182	縄文土器	深鉢	—	(10.0)	(9.8)	胴部には隆帯が4単位垂下。地文はLの無節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	底部網代痕
TP5130	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	口縁部は結節沈線で文様を描出。隆帯による楕円形区画文を描出。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	
TP5131	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	L Rの単節縄文を口唇部直下は横、他は縦方向に施文。さらに縦方向に綾線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい横褐	覆土下層	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
DP5009	土器片円盤	(3.4)	(2.9)	(1.1)	(13.8)	長石・石英・雲母、にぶい黄褐	周縁は荒割り後、部分的に研磨。	P L 59

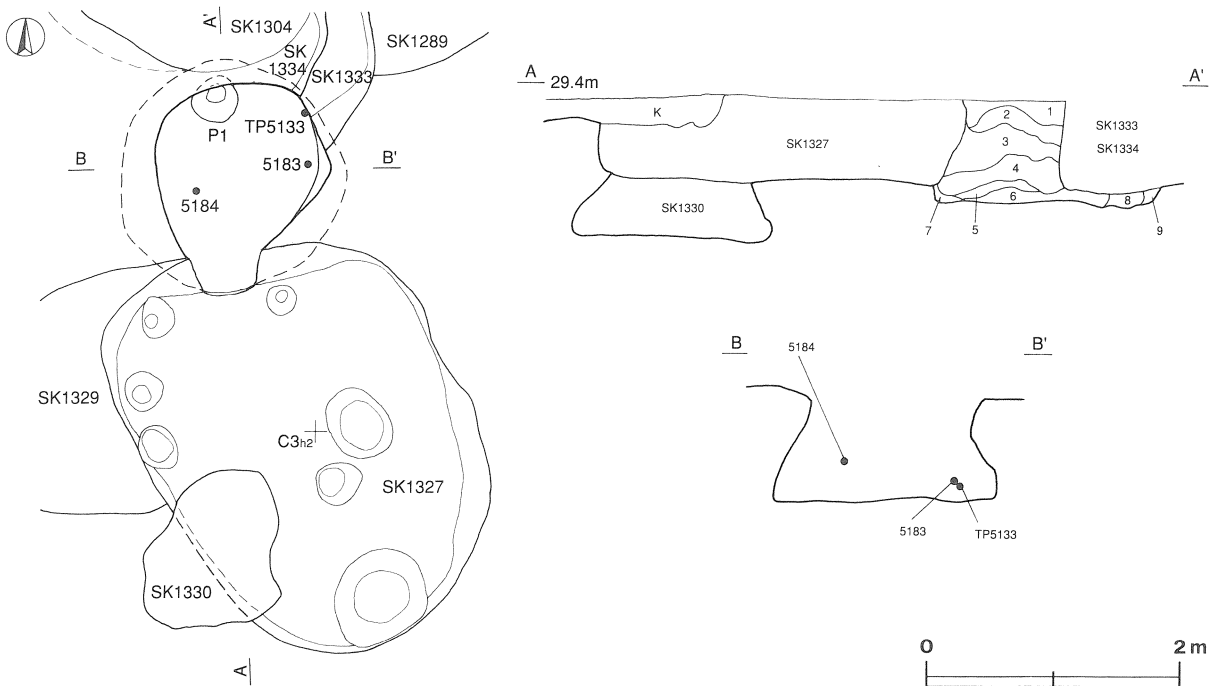
番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q 5087	磨製石斧	(12.0)	5.2	3.1	(329.8)	砂岩	定角式。器体研磨入念。基部欠損。	P L 60
Q 5088	打製石斧	(7.6)	5.0	1.2	(31.2)	チャート	両面調整。基部欠損。	

第1326号土坑（第256～258図）

位置 調査2区の北部、C3g2区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1333・1334・1327号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.54m、短径1.40m程度の不整楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径1.81m、短径1.78m程度の円形である。確認面からの深さは84cmである。壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり、中位から上位にかけては直立する。東壁では中位から上位にかけてやや外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均して53cmである。ピットは1か所で北壁際に位置し、P1は深さ67cmである。



第256図 第1326号土坑実測図

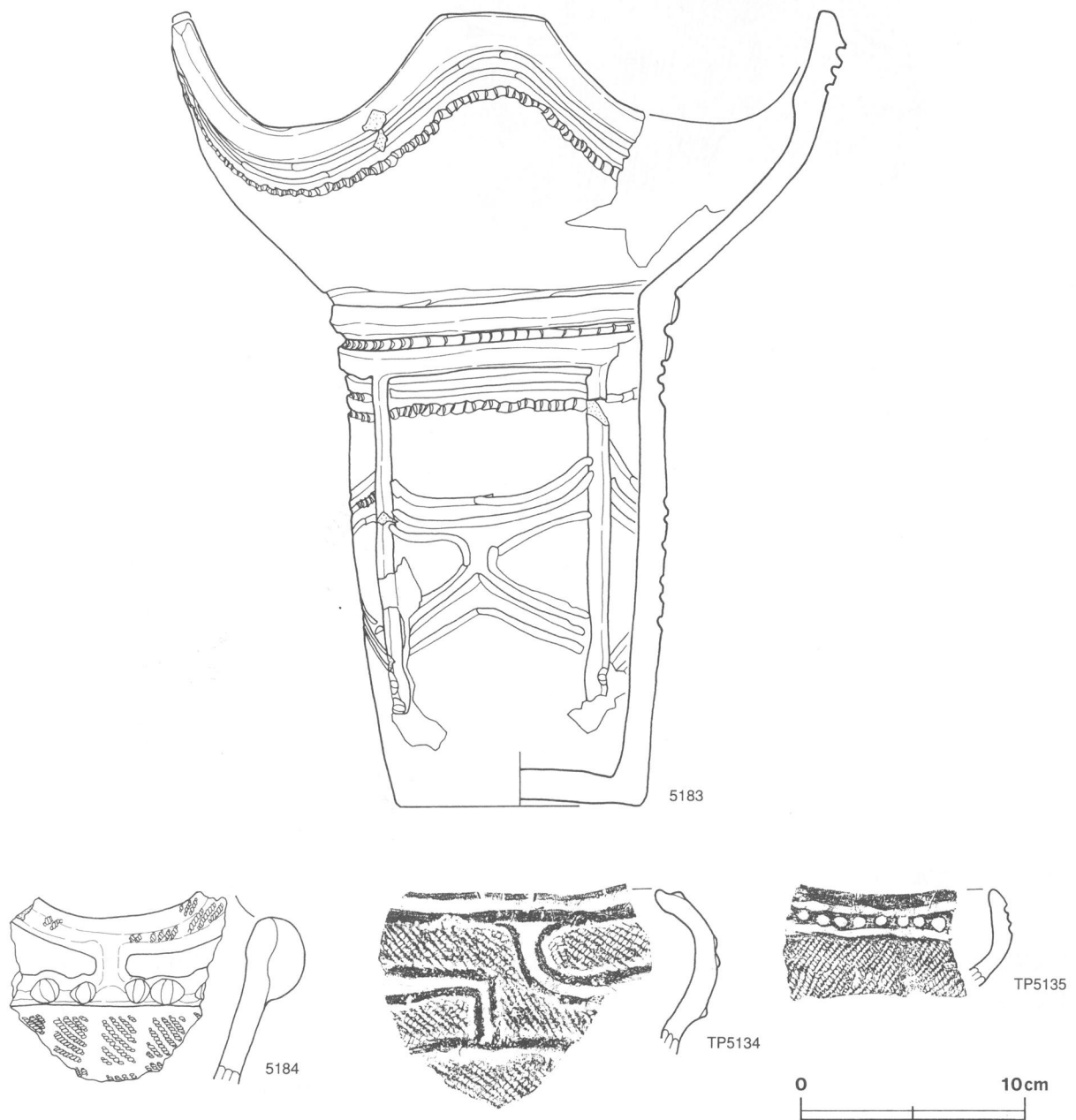
覆土 9層に分層される。全体的にロームブロックを多量に含む褐色土で、特に第4～7層はロームブロックが多く、壁の崩落土と考えられる。堆積状況に乱れがないため自然堆積と考えられる。

土層解説

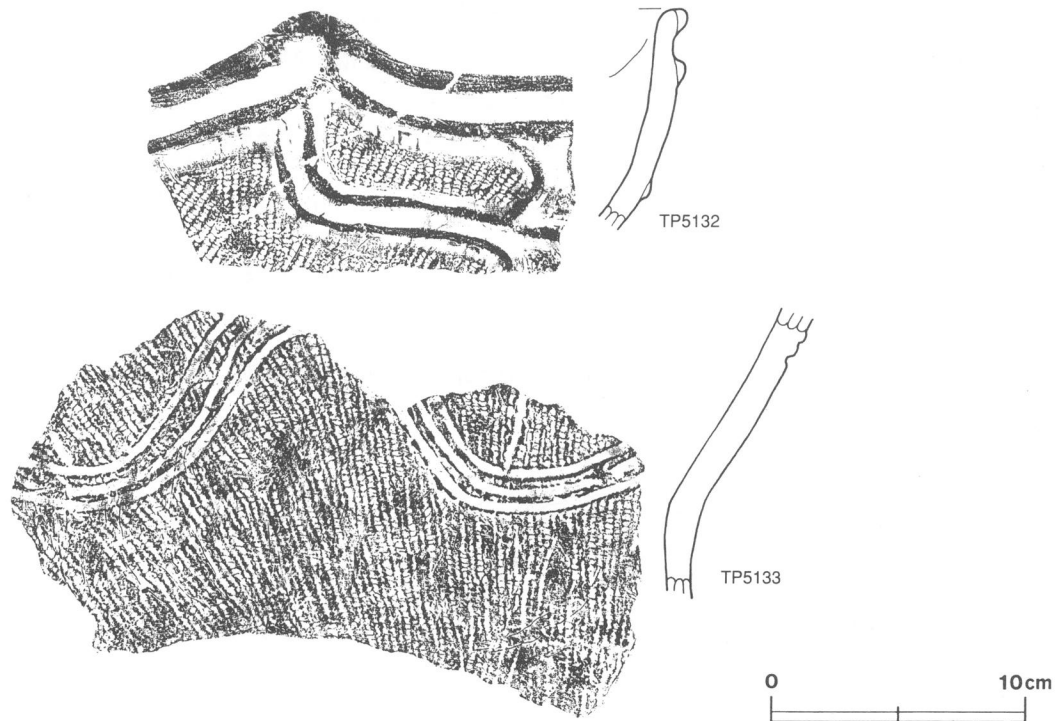
- | | | | |
|-------|------------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミス粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼パミスブロック少量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック中量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片246点, 剥片3点が覆土から出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて出土している。5183は深鉢で, 覆土下層から横位で出土している。

所見 時期は, 覆土下層から出土している5183などから中期中葉(阿玉台Ⅲ式期)と考えられる。



第257図 第1326号土坑出土遺物実測図(1)



第258図 第1326号土坑出土遺物実測図（2）

第1326号土坑出土遺物観察表（第257・258図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5183	縄文土器	深鉢	[28.5]	35.6	10.8	口唇部直下に沈線と結節沈線が巡る。胴部には結節沈線に沿う隆帯が巡る。	長石・石英・雲母	普通	明黄褐	覆土下層	上部ス ス附着, P L47
5184	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	口唇部直下に隆帯、口縁部に指頭押圧された隆帯が巡る。LRの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土中層	
TP5132	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	—	口縁部は隆帯が巡る。2本一組の隆帯で文様描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土	
TP5133	縄文土器	深鉢	—	(11.3)	—	胴部は3条の波状沈線が巡る。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土下層	
TP5134	縄文土器	深鉢	—	(7.3)	—	口縁部は隆帯が巡る。2本一組の隆帯で文様描出。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土	
TP5135	縄文土器	深鉢	—	(4.2)	—	口縁部に沈線が2条巡り、その沈線間に刺突文が巡る。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土	

第1327号土坑（第259図）

位置 調査2区の北部，C3h3区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1326・1330号土坑を掘り込んでいる。第1329号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径3.43m，短径2.43m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは69cmである。壁は外傾して立ち上がる。ピットは7か所で，中央部と壁際に位置している。深さは，P1が22cm，P2が59cm，P3が60cm，P4が17cm，P5が28cm，P6が32cm，P7が38cmである。

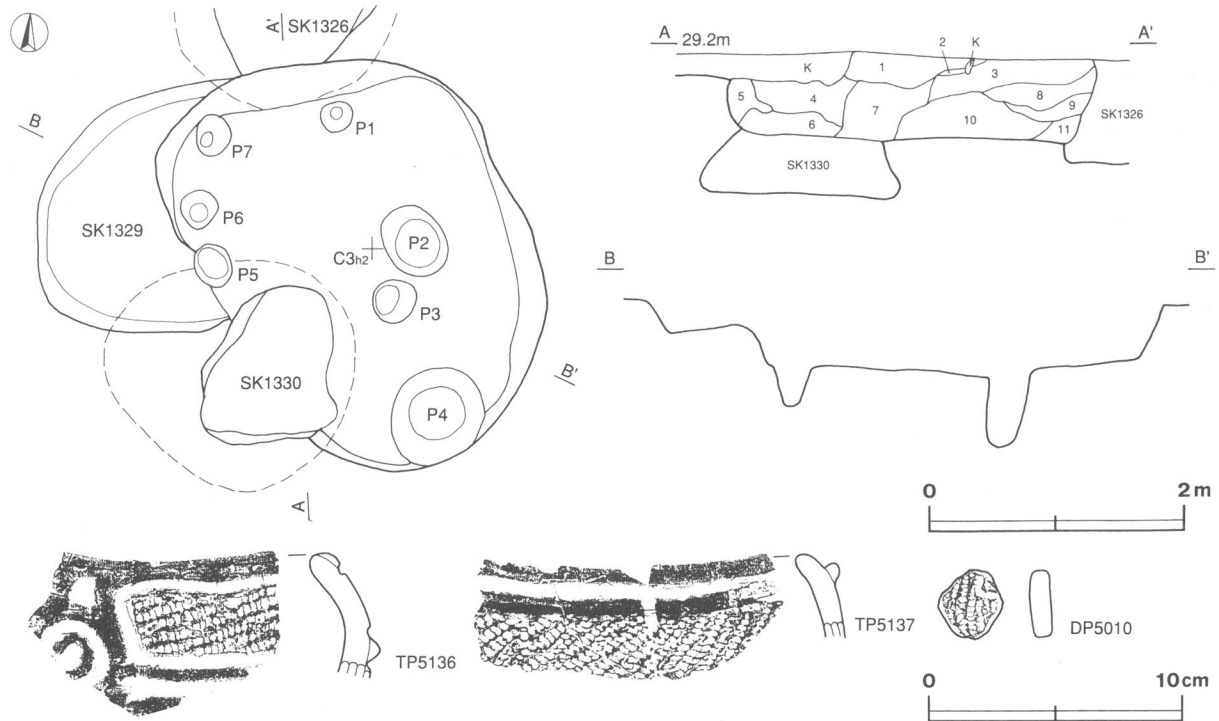
覆土 11層に分層される。全体的にロームブロックを多量に含む土層で，不自然な堆積状況のため人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化物微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片416点, 剥片5点が出土している。多量に出土している土器片は主に細片で, 図化できるものはなかった。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉(加曾利E I式期)と考えられる。



第259図 第1327号土坑・出土遺物実測図

第1327号土坑出土遺物観察表(第259図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5136	縄文土器	深鉢	—	(4.9)	—	口縁部は隆帯による渦巻文と区画文を描出。区画内はLRの単節縄文を施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP5137	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	口縁部に隆帯が巡る。口縁部にはRLRの複節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土	

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
DP5010	土器片円盤	(2.7)	(2.6)	(0.9)	(6.7)	長石・石英, 黒褐	RLの単節縄文。周縁部は荒割り後, 研磨。	

第1332号土坑(第260・261図)

位置 調査2区の北部, C3f2区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第154号住居, 第1250号土坑に掘り込まれている。第1249号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.55m, 短径1.18m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で, 平面形は長径3.07m, 短径2.94m程度のほぼ円形である。確認面からの深さは102cmである。壁は下位から中位に

かけて内傾して立ち上がり，中位から上位にかけては外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均80cmである。ピットは1か所で，P1は深さ37cmである。

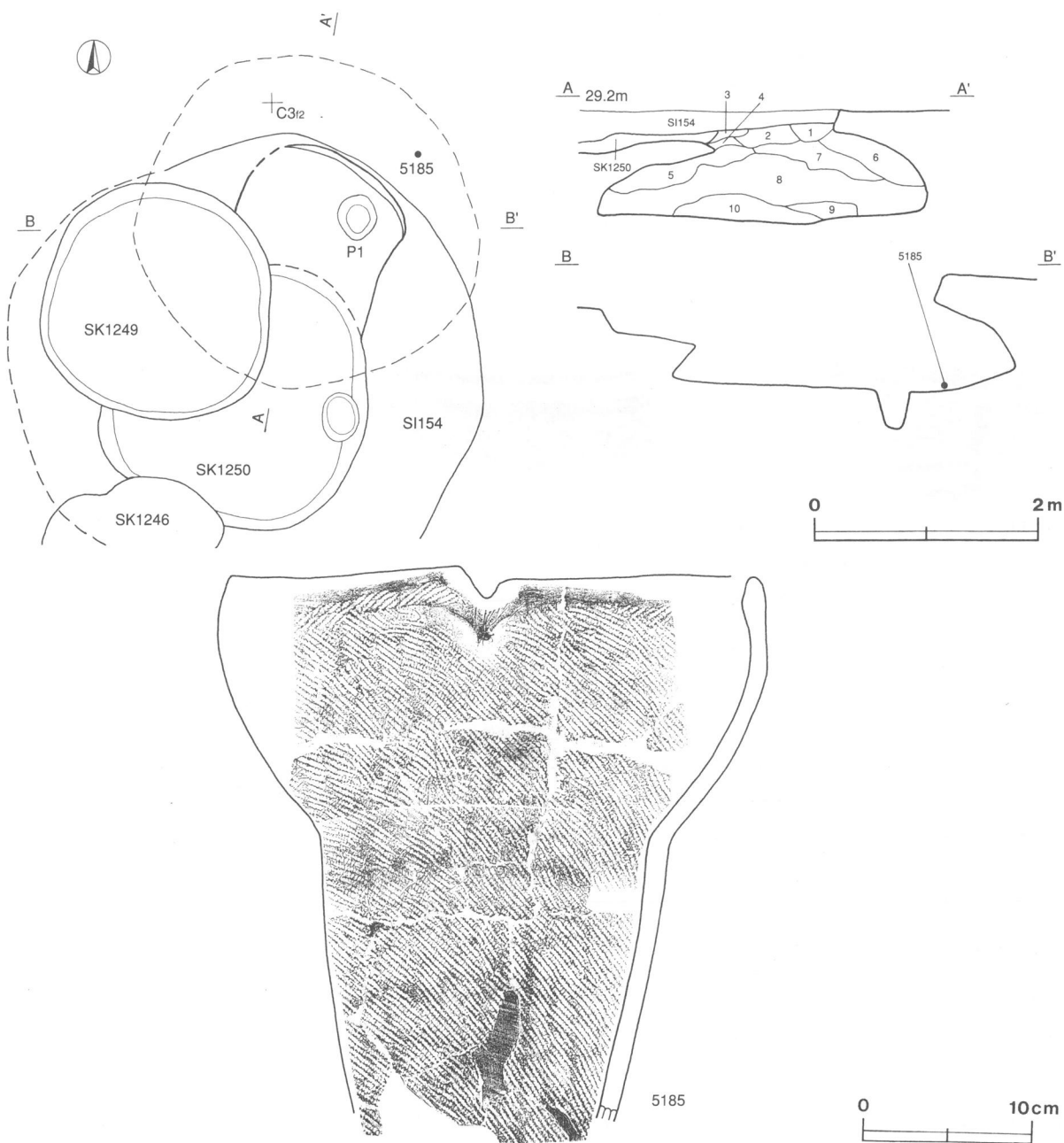
覆土 10層に分層される。第4・8～10層はロームブロックを多量に含み，特に第9・10層は粘性のある褐色土で壁の崩落土と考えられる。それ以外は，不自然な堆積状況と土器が廃棄されたような状態で出土していることから，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

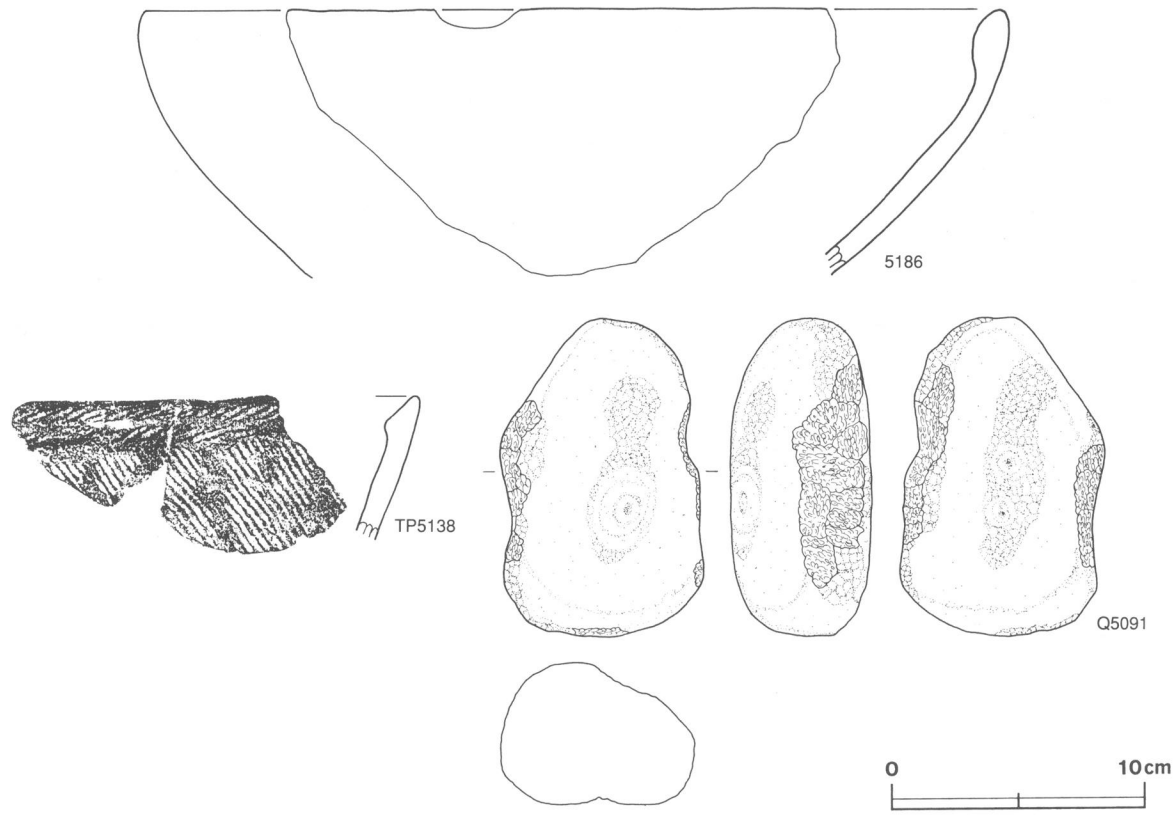
- | | | | |
|--------|----------------------|--------|--------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土粒子・炭化物少量，ロームブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量，鹿沼パミス粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミスブロック少量 |
| 4 褐色 | ロームブロック多量，焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック多量，粘土ブロック中量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子・粘土粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片373点，敲石1点が出土している。5185の深鉢は，底面から横位で出土している。

所見 時期は，底面から出土している5185などから中期中葉（阿玉台IV式期）と考えられる。



第260図 第1332号土坑・出土遺物実測図



第261図 第1332号土坑出土遺物実測図

第1332号土坑出土遺物観察表（第260・261図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5185	縄文土器	深鉢	30.9	(32.8)	—	口縁部にV字状文を2単位描出。胴部はLRの単節縄文を縦、口縁部は横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	PL47
5186	縄文土器	浅鉢	[34.0]	(10.6)	—	器面は無文でよく研磨。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土	
TP5138	縄文土器	深鉢	—	(5.6)	—	地文はLの無節縄文で、胴部には縦方向に、口唇部直下には横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q5091	敲石	12.5	8.1	5.6	831.2	斑励岩	両面中央、両端、両側縁に敲打痕。凹石に併用。	PL61

第1345号土坑（第262・263図）

位置 調査2区の北部，C3il区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1358号土坑を掘り込んでいる。第1359号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.04m，短径0.85m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.75m，短径1.65m程度の円形である。確認面からの深さは94cmである。壁は，下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり，くびれ部から上位にかけては東壁ではほぼ直立し，西壁では外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均48cmである。

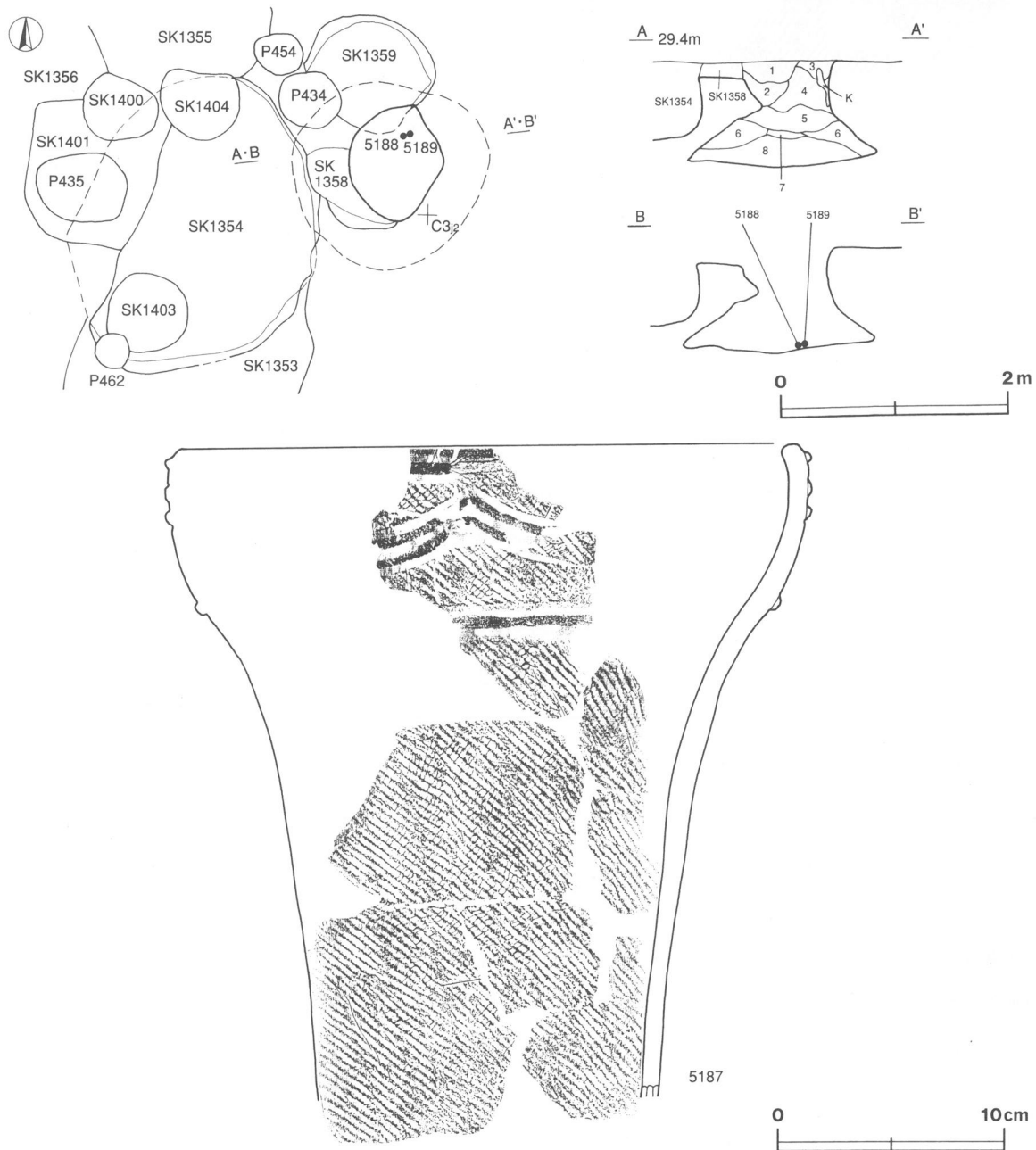
覆土 8層に分層される。全体的にロームブロックを多量に含む土層で、特に第4・6層は壁や開口部の崩落土と考えられる。他は不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

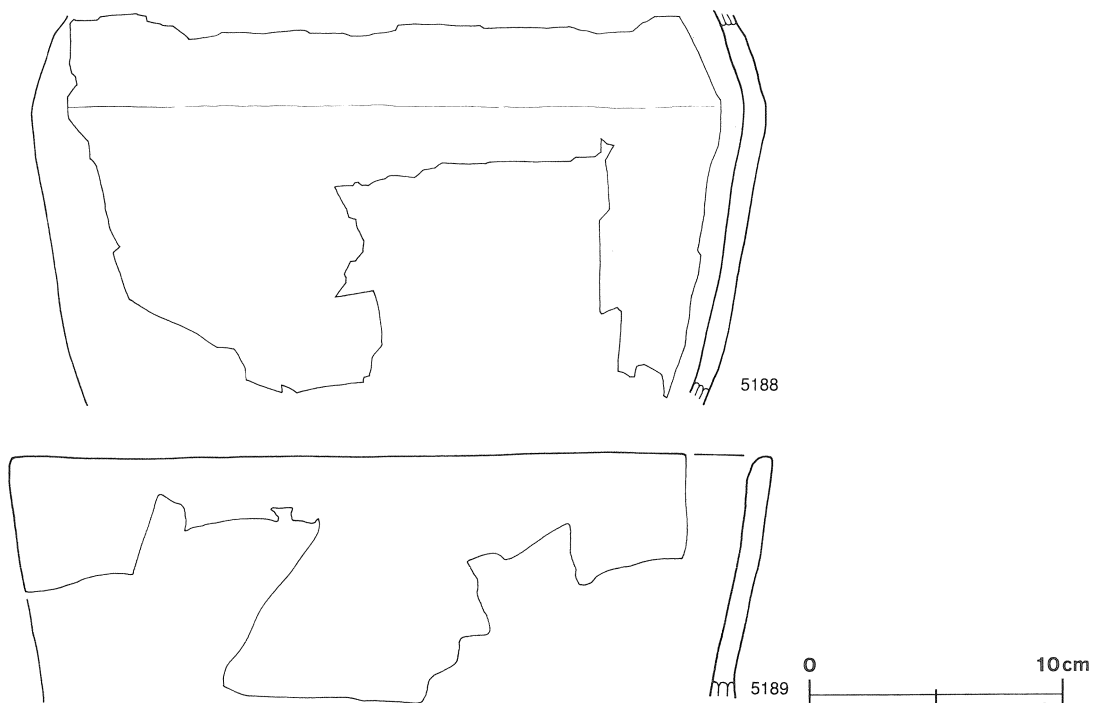
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | 炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量, 鹿沼パミス粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片158点, 剥片1点が覆土から出土している。5188, 5189は深鉢で、それぞれ底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土している5188・5189などから中期中葉（阿玉台Ⅱ・Ⅲ式期）と考えられる。覆土中から出土した5187は、混入したものと考えられる。



第262図 第1345号土坑・出土遺物実測図



第263図 第1345号土坑出土遺物実測図

第1345号土坑出土遺物観察表 (第262・263図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5187	縄文土器	深鉢	[27.0]	(29.0)	—	口縁部に沈線を有する隆帯で文様を描出。地文はLRの単節縄文で、縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
5188	縄文土器	深鉢	—	(15.4)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	
5189	縄文土器	深鉢	[29.8]	(9.6)	—	無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	

第1352号土坑 (第264図)

位置 調査2区の北部, C3j1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1338・1353・1368号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 平面形は長径1.94m, 短径1.68m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは82cmである。壁は、ほぼ直立する。ピットは1か所で、P1は深さ38cmである。

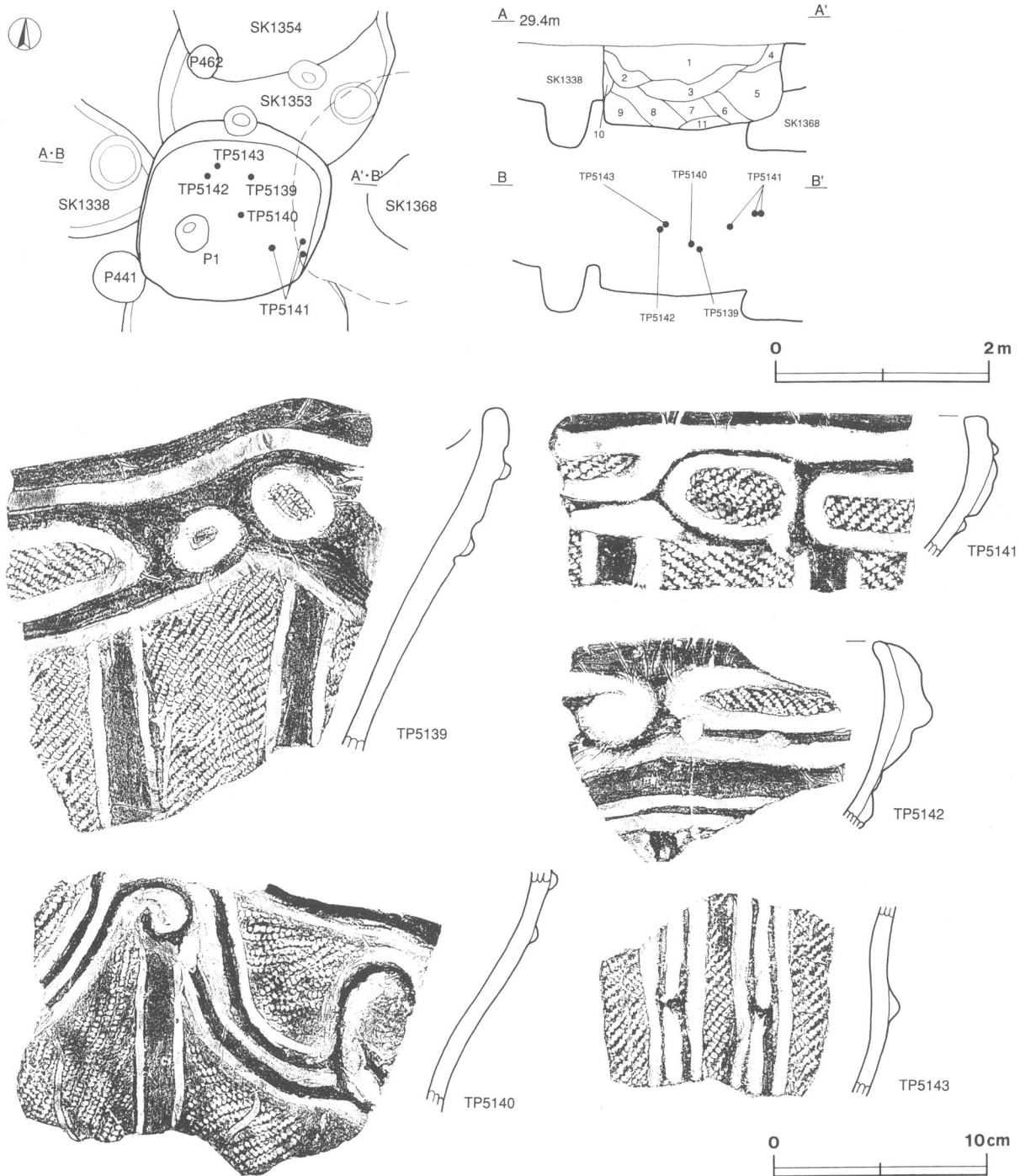
覆土 11層に分層される。全体的にロームブロックを多量に含む土層で、特に第11層は粘性のある暗褐色土である。不自然な堆積状況や遺物が覆土上層に廃棄されたような状態で出土していることから土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|--------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量, 鹿沼バミスブロック中量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片700点, 剥片3点が覆土から出土している。遺物は覆土上層から中層にかけて廃棄されたような状態で出土している。

所見 遺物が覆土上層から集中して出土していることから、本跡が廃絶され、ある程度埋まりかけた時点で土器が廃棄されたと考えられる。そのため、時期を出土土器から判断することは困難であるが、覆土上層の堆積時期は、中期後葉（加曾利 E II～III 式期）と考えられる。



第264図 第1352号土坑・出土遺物実測図

第1352号土坑出土遺物観察表（第264図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5139	縄文土器	深鉢	—	(16.3)	—	口縁部は隆帯による区画文。胴部は懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土中層	
TP5140	縄文土器	深鉢	—	(11.2)	—	口縁部は隆帯による渦卷文。胴部は懸垂文間を磨り消す。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土中層	

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5141	縄文土器	深鉢	—	(6.6)	—	口縁部は隆帯による区画文。胴部は沈線による懸垂文間を磨り消す。LRLの複節縄文。	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土上層	
TP5142	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	口縁部は隆帯による渦巻文と区画文。胴部には沈線が巡る。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土上層	
TP5143	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	胴部には真ん中の沈線に突起を有する3本の沈線が垂下。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土上層	

第1353号土坑 (第265・266図)

位置 調査2区の北部, C3j1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1354・1403号土坑を掘り込み, 第1352号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径2.31m, 短径2.12m程度の円形と推定される。底面はほぼ平坦で, 確認面からの深さは55cmである。壁は外傾して立ち上がる。ピットは4か所で, 深さは, P1が74cm, P2が53cm, P3が30cm, P4が28cmである。

覆土 2層に分層される。水平な堆積状況であることから自然堆積と考えられる。

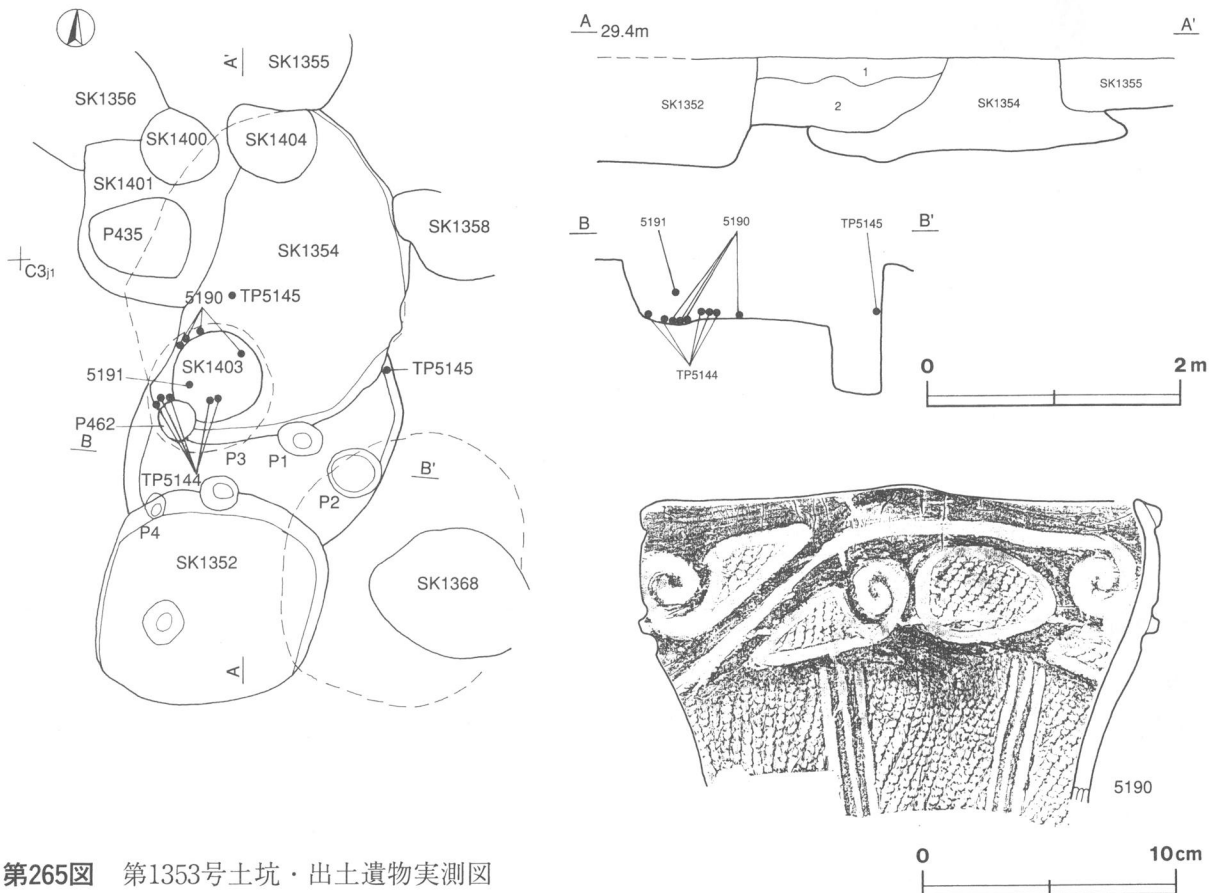
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

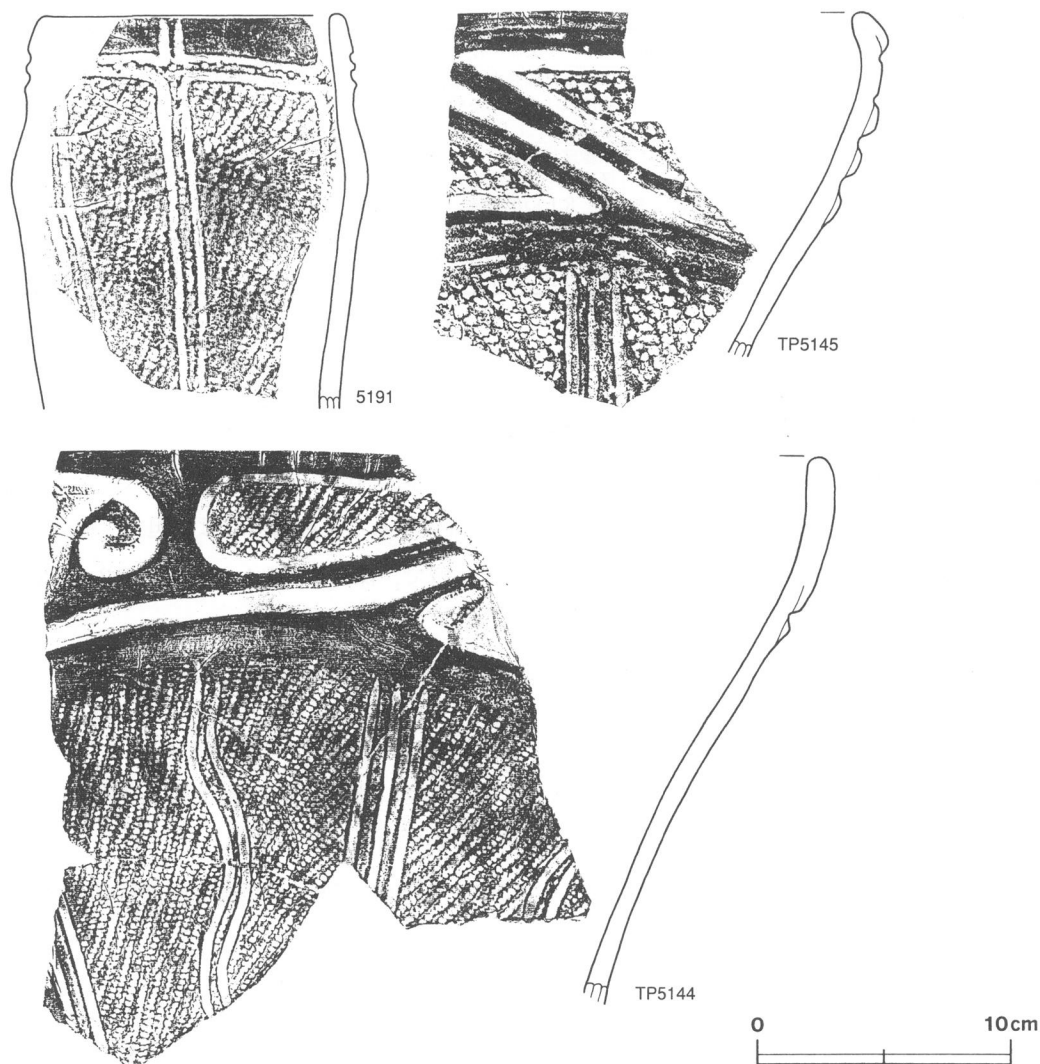
2 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量

遺物出土状況 縄文土器片95点が覆土から出土している。遺物は第2層から主に出土している。5190の深鉢は底面から出土している。TP5144・TP5145は深鉢片で覆土下層から出土している。

所見 時期は, 覆土下層から底面にかけて出土している5190, TP5144・TP5145から中期後葉(加曽利EⅡ式期)と考えられる。



第265図 第1353号土坑・出土遺物実測図



第266図 第1353号土坑出土遺物実測図

第1353号土坑出土遺物観察表（第265・266図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5190	縄文土器	深鉢	[18.6]	(12.4)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯で文様描出。胴部は3条の沈線が垂下。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	底面	
5191	縄文土器	深鉢	[11.4]	(15.5)	—	口縁部に平行沈線文と刺突文が巡る。沈線による懸垂文。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP5144	縄文土器	深鉢	—	(21.7)	—	口縁部は隆帯による区画文と渦巻文。懸垂文と波状沈線文が垂下。RLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	
TP5145	縄文土器	深鉢	—	(13.6)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯で文様描出。胴部は懸垂文間を磨り消す。LRLの複節縄文。	長石・石英	普通	にぶい褐	覆土下層	

第1354号土坑（第267・268図）

位置 調査2区の北部，C3j1区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1403号土坑を掘り込み，第1353・1355・1401号土坑，第435号ピットに掘り込まれている。第1404号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.78m，短径1.53m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.64m，短径2.16m程度の楕円形である。確認面からの深さは82cmで，壁は，西壁では下位からく

びれ部にかけて内傾して立ち上がり、くびれ部から上位にかけては外傾して立ち上がる。その他の壁はほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは平均37cmである。

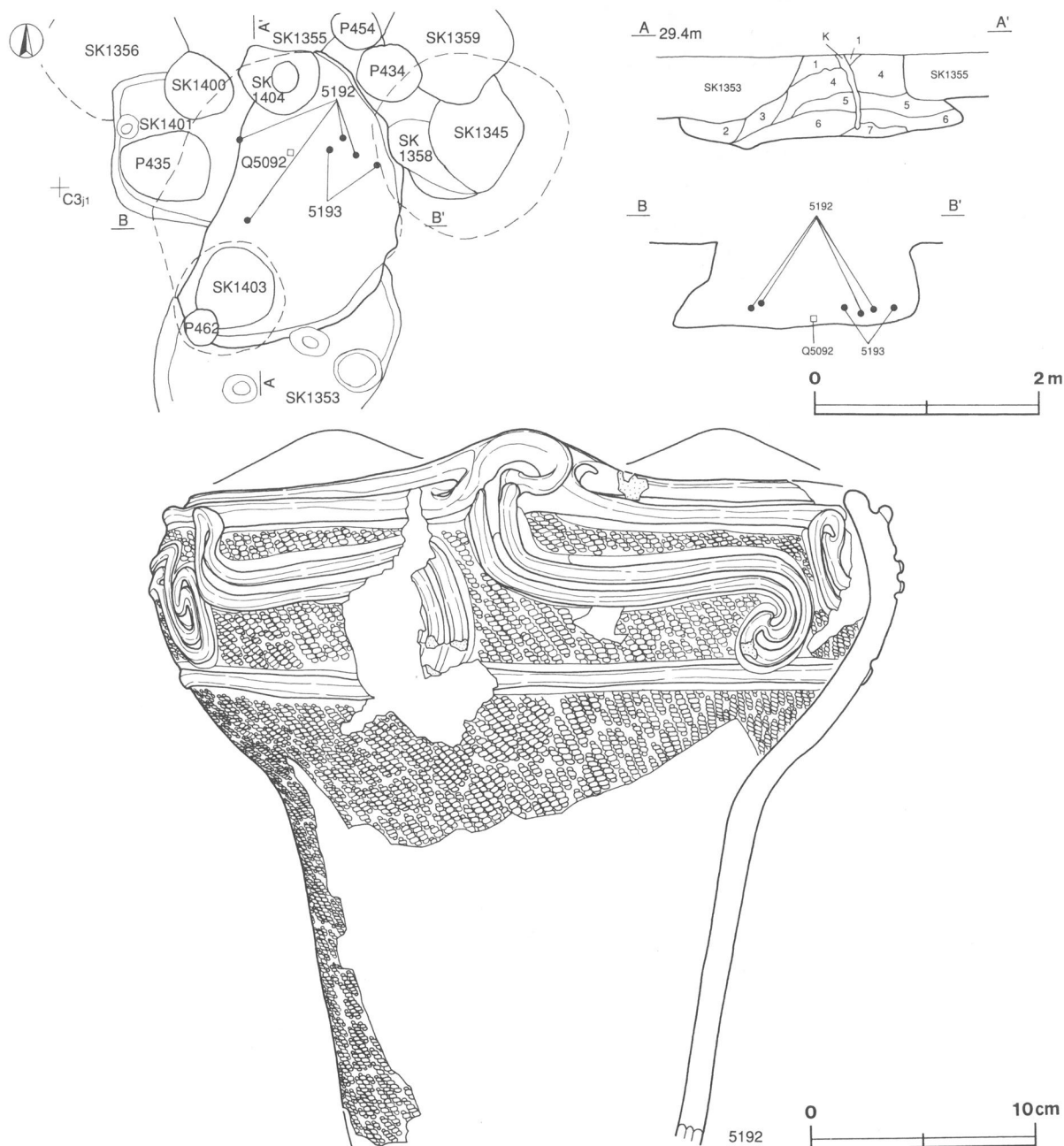
覆土 7層に分層される。全体的にロームブロックを多く含む土層で、特に第3・6・7層は壁の崩落土と考えられる。遺物が覆土下層から廃棄されたような状態で出土していることから、土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

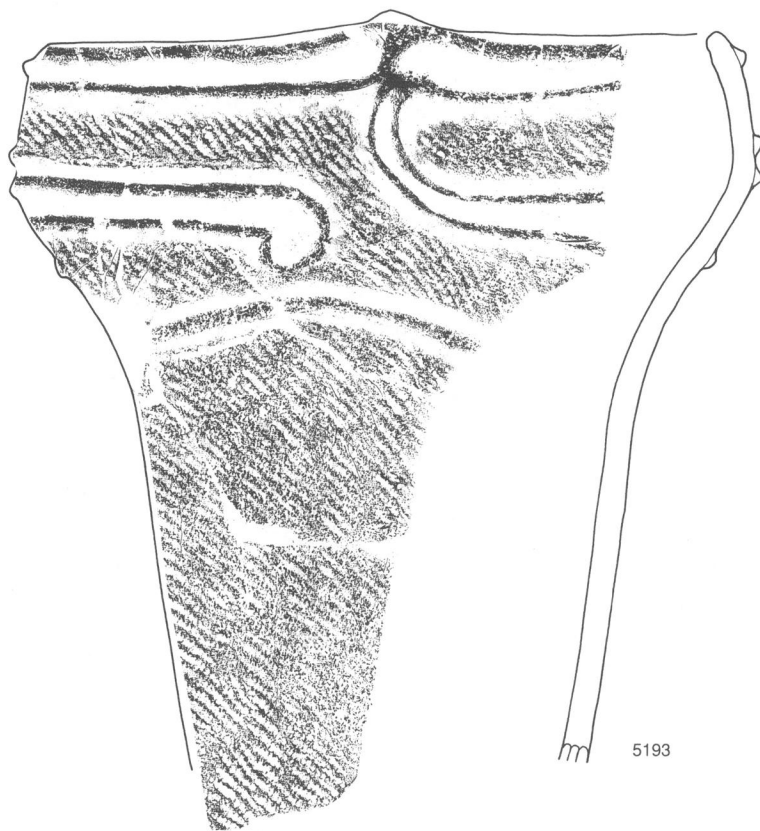
- | | | | |
|-------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量, 炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片469点、磨石1点、剥片1点が出土している。5192, 5193は深鉢で、覆土下層から出土している。

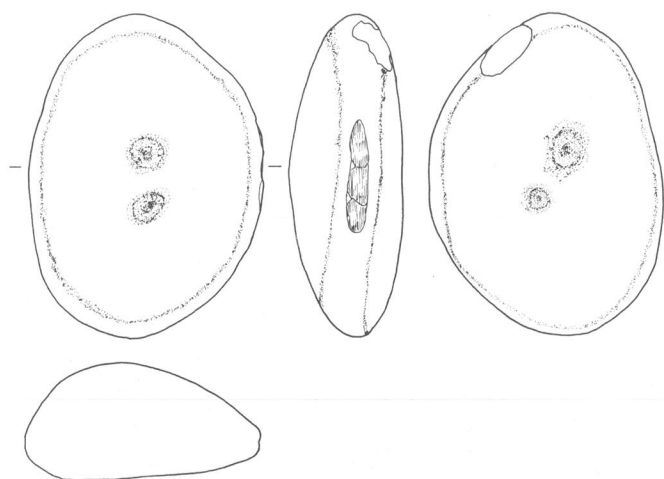
所見 時期は、覆土下層から出土している5192・5193から中期後葉（加曾利E I 式期）と考えられる。



第267図 第1354号土坑・出土遺物実測図



5193



Q5092



第268図 第1354号土坑出土遺物実測図

第1354号土坑出土遺物観察表（第267・268図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5192	縄文土器	深鉢	[29.2]	(32.0)	—	波頂部は隆帯による渦巻文。口縁部は2本の隆帯により文様描出。LRの単節縄文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
5193	縄文土器	深鉢	[26.2]	(28.8)	—	口縁部は2本の隆帯によるクランク文、区画文。LRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	浅黄橙	覆土下層	

番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q5092	磨石	12.8	9.3	4.5	698.0	砂岩	側縁の一端に使用痕。凹石に併用。	P L 61

第1363号土坑（第269・270図）

位置 調査2区の北部，C3g2区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1304号土坑と重複しており，出土土器から第1304号土坑より古いと考えられる。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.02m，短径0.81m程度の楕円形と推定される。底面は平坦で，平面形は長径2.19m，短径1.82m程度の楕円形である。確認面からの深さは97cmである。壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，中位から上位にかけてはほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは平均66cmである。

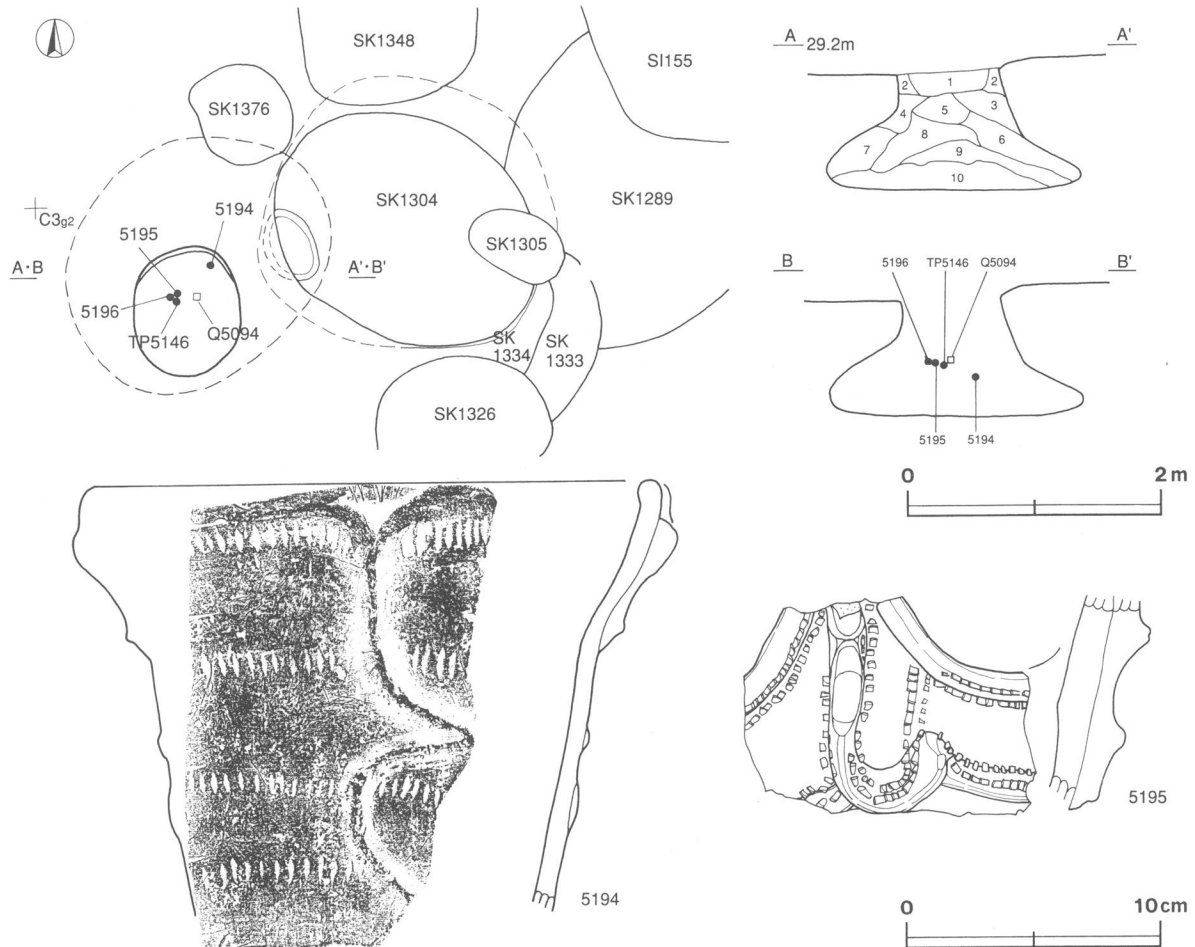
覆土 10層に分層される。第10層はロームブロックを多量に含む土層で，壁の崩落土と考えられる。その他の層は，遺物が覆土中層付近に廃棄されたような状態で出土していることと，不自然な堆積状況から，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

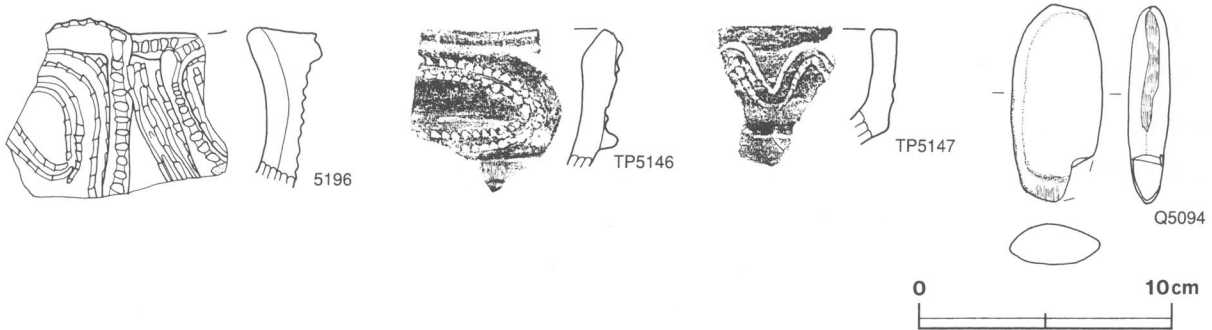
- | | | | |
|-------|------------------|--------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 黒色 | ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 9 黒色 | ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | 炭化粒子少量，ロームブロック微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量，鹿沼バミス粒子中量 |

遺物出土状況 縄文土器片112点，磨製石斧2点，剥片4点が覆土から出土している。遺物は，覆土中層から廃棄されたような状態で出土している。5194・5195・5196は深鉢片で，覆土中層から出土している。Q5094の磨製石斧は覆土中層から出土している。

所見 本跡が廃絶され，壁などの崩落後に土器片が廃棄されたと考えられるため，時期を出土土器から判断することは困難であるが，覆土中層の堆積時期は，出土土器から中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第269図 第1363号土坑・出土遺物実測図



第270図 第1363号土坑出土遺物実測図

第1363号土坑出土遺物観察表（第269・270図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5194	縄文土器	深鉢	[22.0]	(17.0)	—	口縁部に隆帯によるV字状文。V字状文を起点に蛇行隆帯垂下。キザミ目列が巡る。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土中層	内面一部赤彩
5195	縄文土器	深鉢	—	(8.5)	—	波頂部から屈曲した隆帯を垂下。隆帯に沿って複数の結節沈線文を施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
5196	縄文土器	深鉢	—	(7.1)	—	口縁部はキザミを有する隆帯で区画文を描出。区画内には結節沈線で文様を描出。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土中層	
TP5146	縄文土器	深鉢	—	(5.5)	—	口縁部に隆帯による楕円形の区画文を描出。隆帯に沿って複数の結節沈線文を施す。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP5147	縄文土器	深鉢	—	(4.7)	—	口縁部には波状の複数の結節沈線文が巡る。口縁部下位は無文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土	

番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
Q5094	磨製石斧	7.8	3.6	1.7	(82.6)	蛇紋岩	両側縁に研磨痕。刃部付近を局部研磨。刃部欠損。	

第1367号土坑（第271図）

位置 調査2区の北部，D3 a3区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1364・1366号土坑を掘り込み，第158号住居に掘り込まれている。

規模と形状 平面形は長径2.03m，短径1.72m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，確認面からの深さは64cmである。壁はほぼ直立する。ピットは1か所ので中央部に位置し，P1は深さ45cmである。

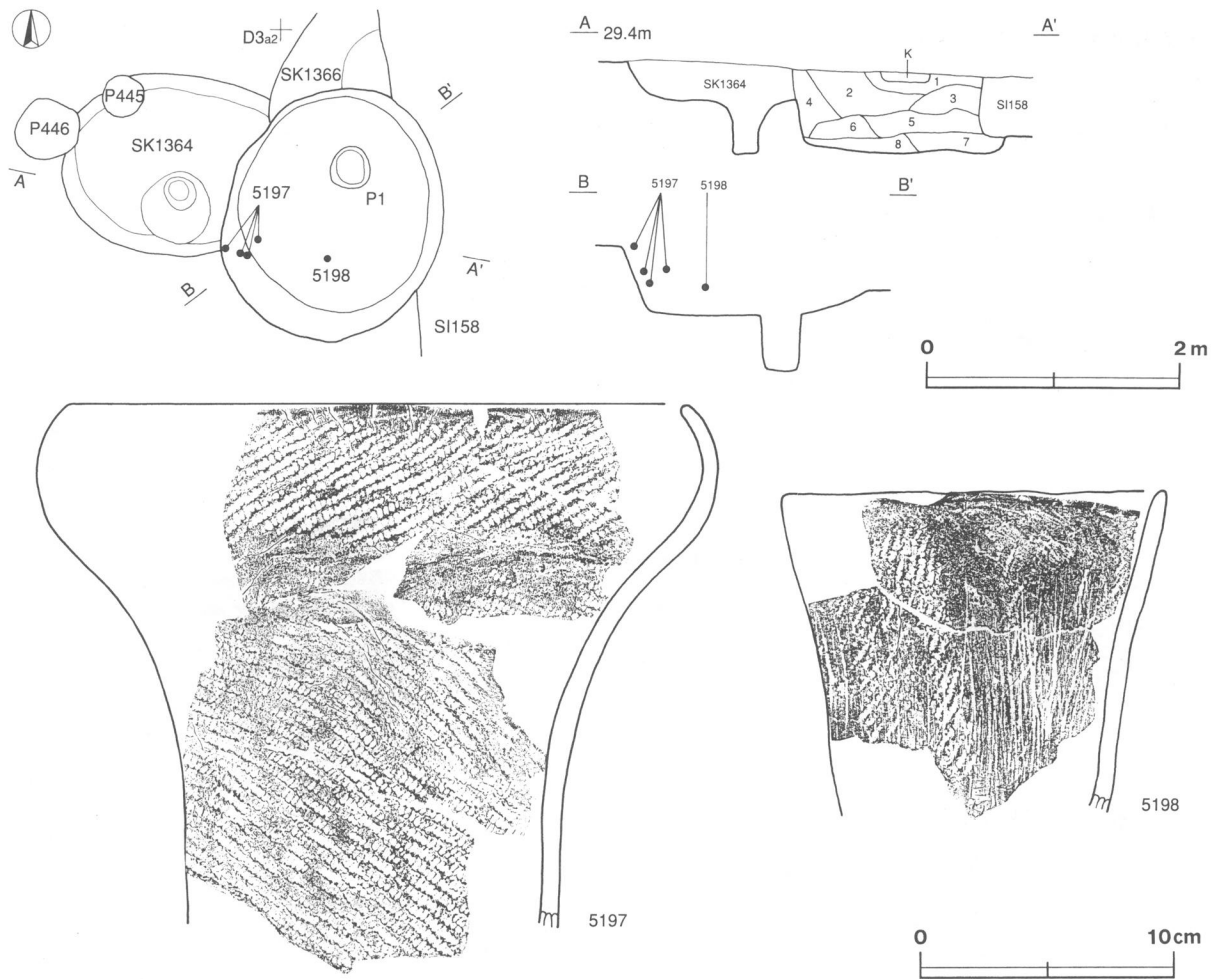
覆土 8層に分層される。遺物が覆土中層から下層にかけて出土していることと，不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------|-------|------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片153点が覆土から出土している。遺物は主に覆土中層から下層にかけて出土している。5197・5198は深鉢片で，それぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から中期後葉（加曽利EI式期）と考えられる。



第271図 第1367号土坑・出土遺物実測図

第1367号土坑出土遺物観察表（第271図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5197	縄文土器	深鉢	[24.0]	(20.5)	—	口縁部はLRの単節縄文を横方向に、胴部は縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土中層	
5198	縄文土器	深鉢	[14.8]	(12.5)	—	口縁部から胴部にかけてRLの単節縄文と櫛歯状工具による縦位の条線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	灰黄褐	覆土中層	上部スス附着

第1379号土坑（第272図）

位置 調査2区の北部，D2b0区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1362号土坑に掘り込まれている。また第1398号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.08m，短径0.94m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径0.93m，短径0.83m程度の楕円形である。確認面からの深さは98cmである。壁は南西側では，下位から上位にかけて内傾して立ち上がるが，他の壁はほぼ直立する。

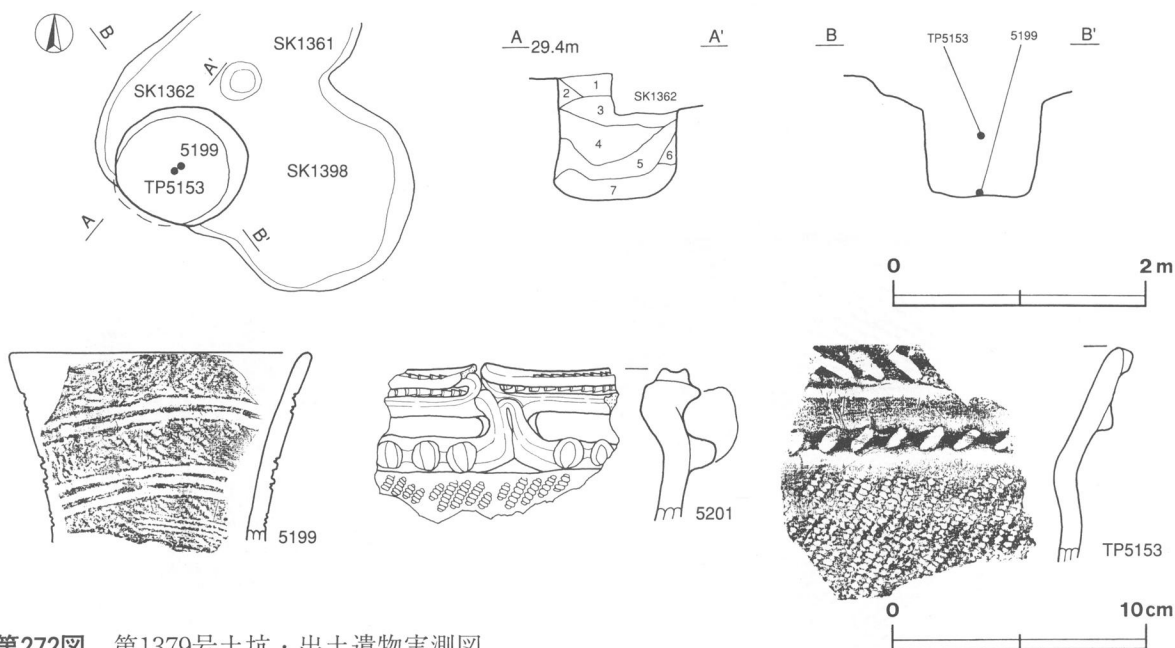
覆土 7層に分層される。第7層はロームブロックや鹿沼パミス粒子を多量に含む粘性のある暗褐色土で，壁の崩落土と考えられる。他の層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 黒色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 黒褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミス粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミス粒子中量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片102点、剥片2点が覆土から出土している。遺物は主に覆土中層から出土している。5199は深鉢で、底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土している5199などから中期中葉（阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期）と考えられる。



第272図 第1379号土坑・出土遺物実測図

第1379号土坑出土遺物観察表（第272図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5199	縄文土器	深鉢	[12.0]	(7.5)	—	口縁部と胴部に2, 3条の沈線が巡る。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母	普通	灰黄褐	底面	
5201	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	口縁部に結節沈線を有する隆帯と押圧文を有する隆帯が巡る。地文はRLの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	
TP5153	縄文土器	深鉢	—	(8.4)	—	口縁部にキザミを有する隆帯が2本巡る。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	赤褐	覆土中層	

第1384号土坑（第273・274図）

位置 調査2区の北部，D3c3区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1385号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.10m，短径1.87m程度の楕円形である。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.35m，短径2.02m程度の楕円形である。確認面からの深さは82cmで、壁は下位から中位にかけては内傾して立ち上がり、中位から上位にかけてはほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは平均48cmである。

覆土 8層に分層される。第5～8層はロームを多量に含む層で、開口部や壁などの崩落土と考えられる。遺物が覆土中層に廃棄されたような状態で出土していることから、土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

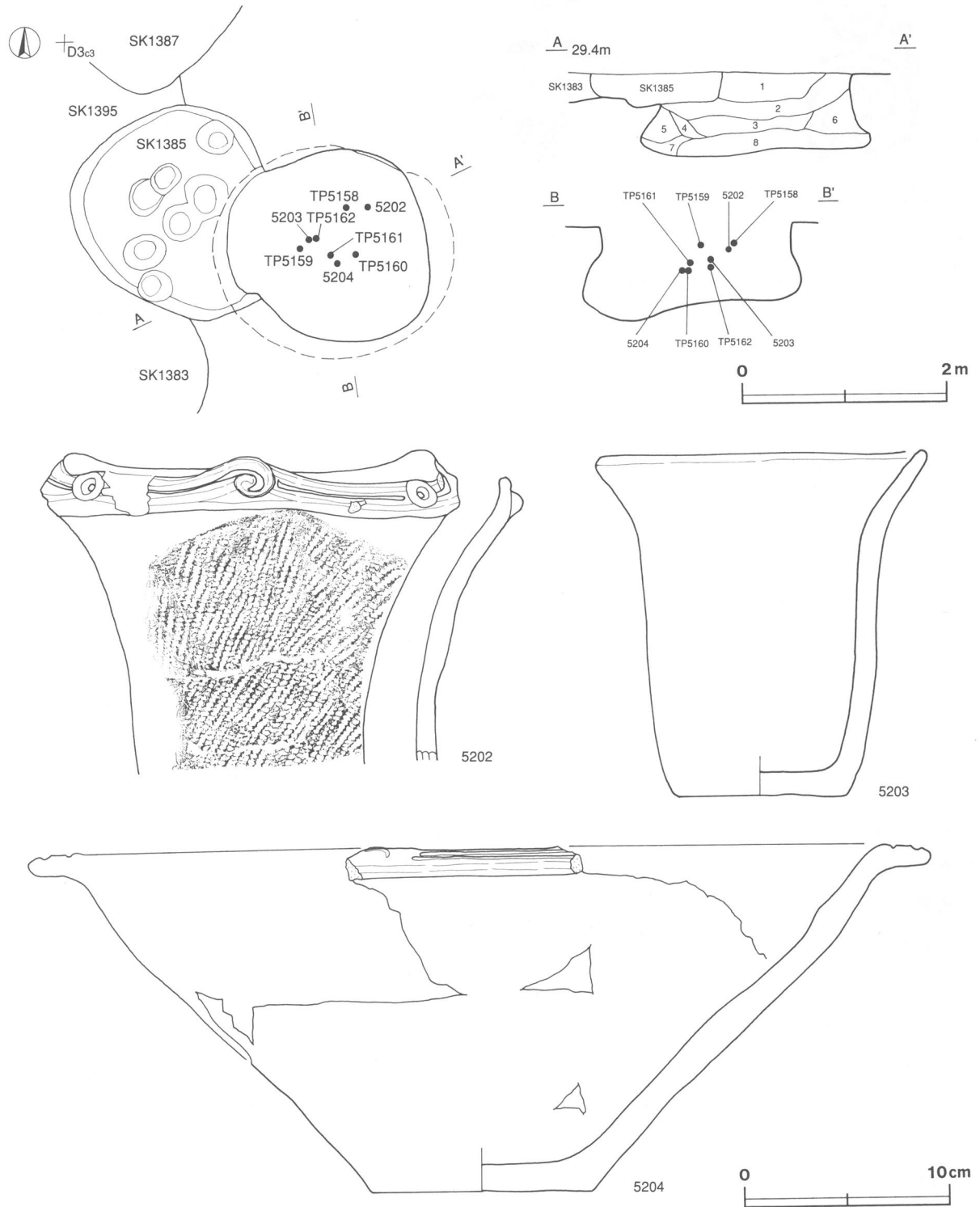
土層解説

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒色 炭化物中量，ローム粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物少量 | 7 褐色 ローム粒子多量，鹿沼バミス粒子少量 |
| 4 極暗褐色 ローム粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・鹿沼バミス粒子少量 |

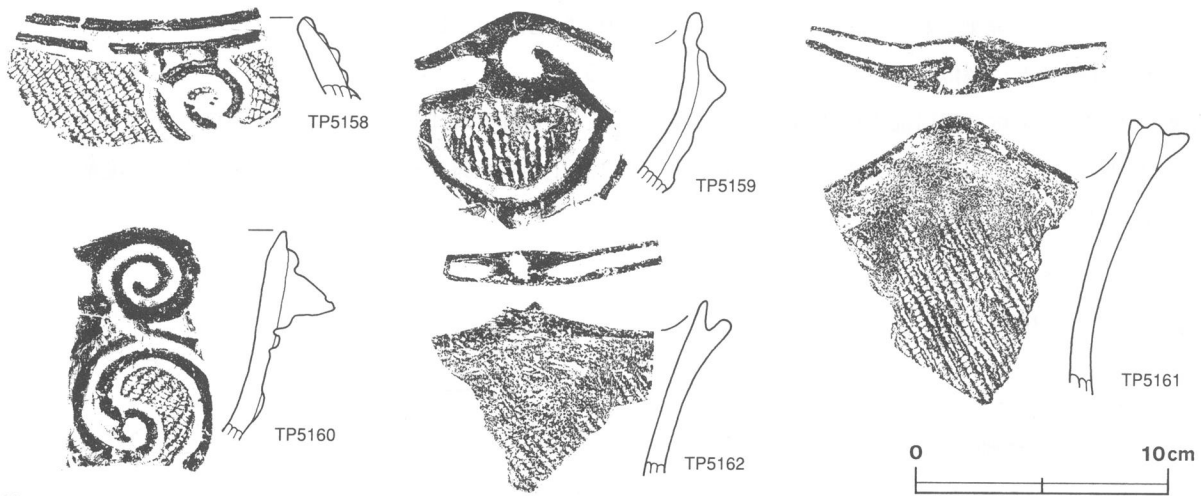
遺物出土状況 縄文土器片255点，打製石斧1点，凹石1点，剥片1点が覆土から出土している。遺物の大部

分は覆土中層から廃棄された状態で出土している。5203は深鉢，5204は浅鉢で，覆土中層から出土している。TP5160，TP5162は深鉢片で，覆土中層から出土している。

所見 本跡は，土坑の開口部や壁の崩落と共に廃絶され，ある程度埋まってから土器が廃棄されたと考えられる。時期を出土土器から判断することは困難であるが，覆土中層の堆積時期は，出土土器から中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第273図 第1384号土坑・出土遺物実測図



第274図 第1384号土坑出土遺物実測図

第1384号土坑出土遺物観察表（第273・274図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5202	縄文土器	深鉢	18.0	(15.2)	—	口唇部には沈線に沿う隆帯で3単位の渦巻文を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土中層	炭化物付着
5203	縄文土器	深鉢	15.9	16.9	8.3	器面は無文で縦方向によく研磨。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土中層	P L 48
5204	縄文土器	浅鉢	[38.0]	16.8	11.0	口唇部に2条の沈線と弧状のモチーフを描出。胴部は無文でよく研磨。	長石・石英	普通	赤	覆土中層	
TP5158	縄文土器	深鉢	—	(3.4)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯で渦巻文を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土上層	
TP5159	縄文土器	深鉢	—	(7.2)	—	口縁部は隆帯による渦巻文と区画文。区画内はLの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	覆土上層	
TP5160	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	—	口唇部に隆帯による渦巻文。口縁部には沈線に沿う隆帯による渦巻文。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP5161	縄文土器	深鉢	—	(10.7)	—	口唇部に隆帯による渦巻文を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土中層	
TP5162	縄文土器	深鉢	—	(6.9)	—	口唇部に孔を有する。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐	覆土中層	

第1387号土坑（第275・276図）

位置 調査2区の北部，D 3 b3区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1389・1413号土坑に掘り込まれている。第167号住居と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，長径2.13m，短径1.88m程度の不整楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.45m，短径2.25m程度の円形である。確認面からの深さは76cmで，壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，上位では掘り込まれているため不明である。ピットは2か所で，深さは，P1が42cm，P2が34cmである。

覆土 15層に分層される。第14・15層はロームを多量に含む土層で，壁の崩落土と考えられる。遺物が廃棄されたような状態で出土していることから，第13層から上層は，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

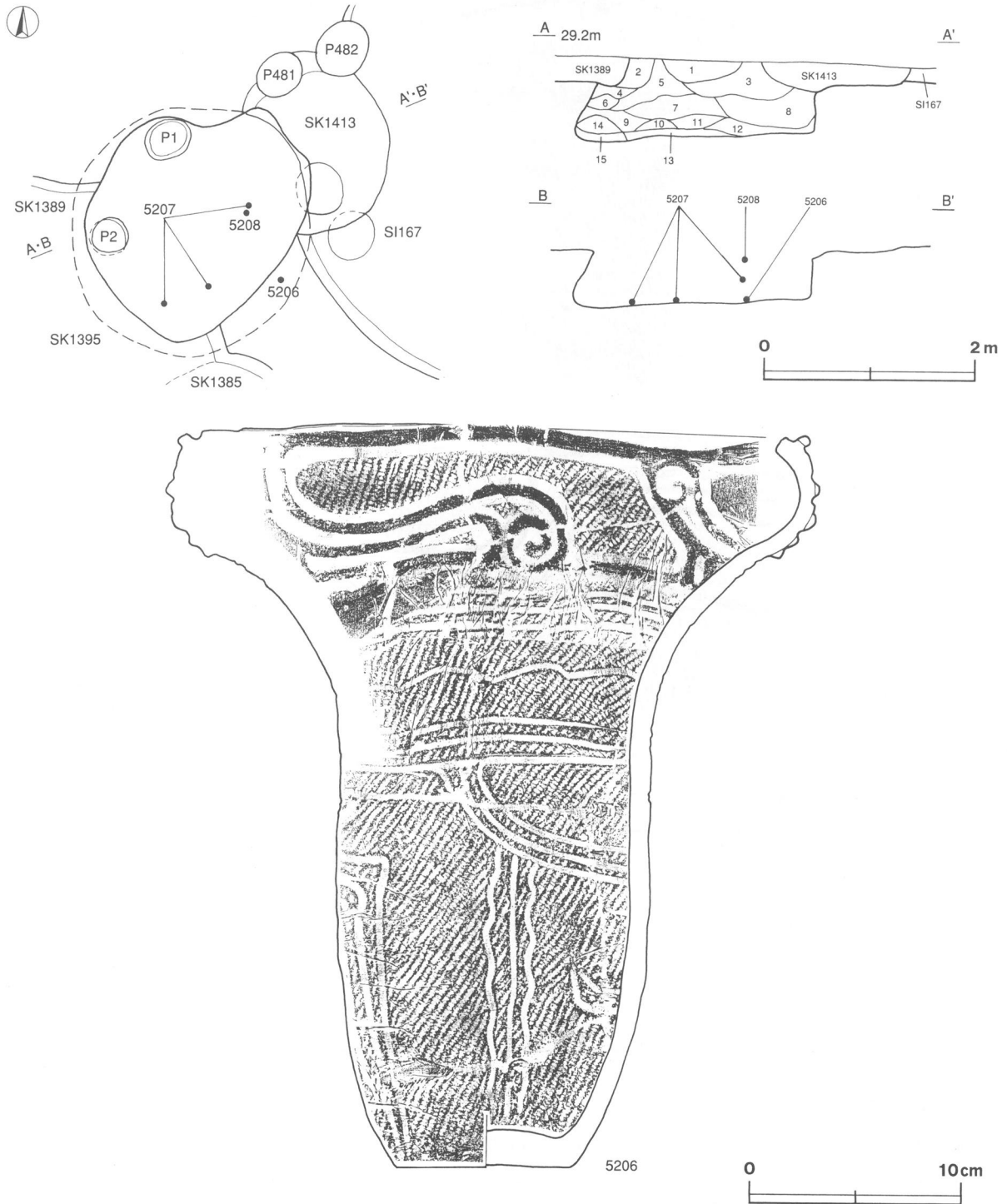
- | | |
|-----------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子少量・ローム粒子微量 | 5 極暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子中量 | 6 褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 炭化物少量，ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量 | 8 暗褐色 ローム粒子中量，炭化物少量 |

- 9 暗褐色 ロームブロック中量
- 10 褐色 ローム粒子多量
- 11 黒褐色 鹿沼バミス粒子少量・ローム粒子微量
- 12 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子少量

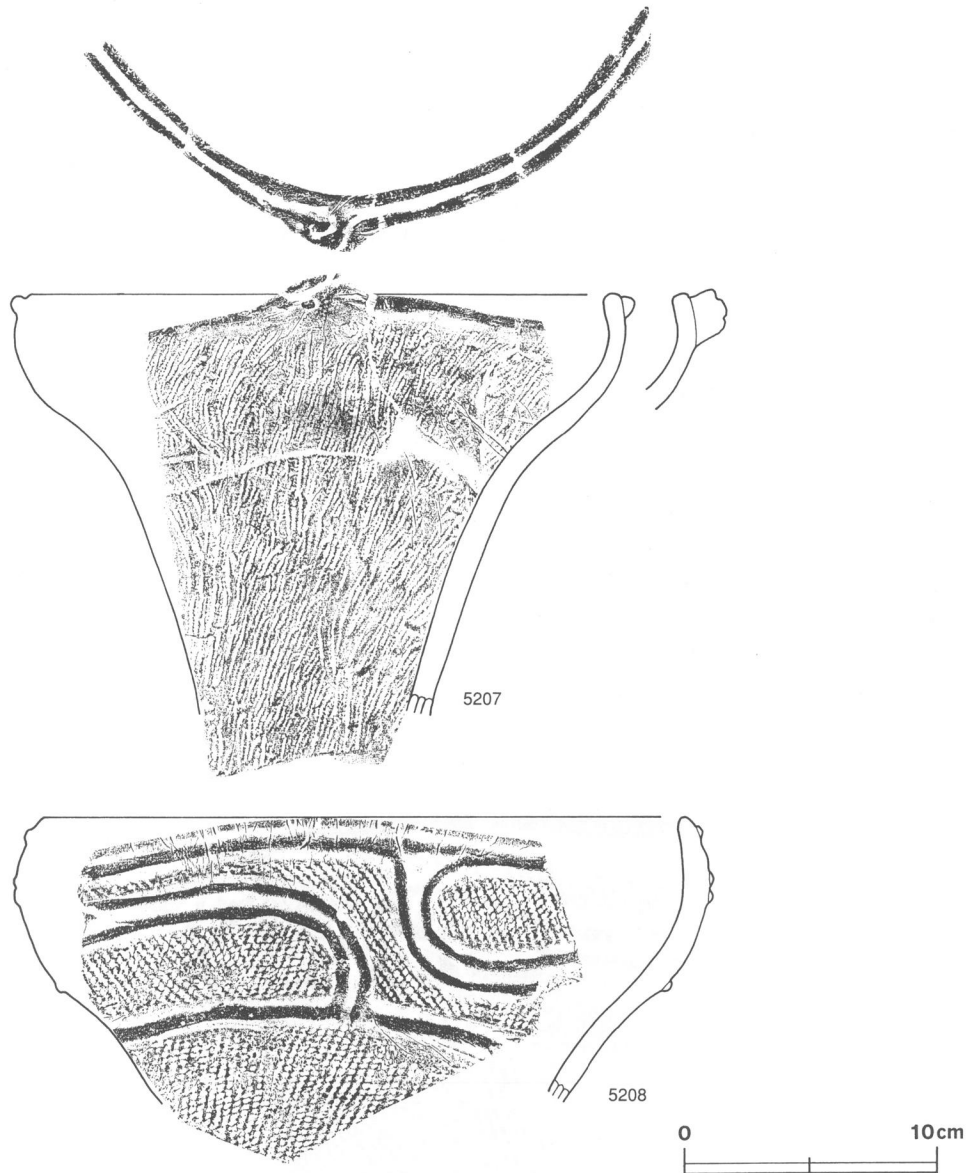
- 13 暗褐色 ローム粒子中量, 鹿沼バミス粒子少量, 炭化物微量
- 14 褐色 ロームブロック多量, 鹿沼バミス粒子微量
- 15 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子・鹿沼バミス中量, ブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片301点, 剥片3点が覆土から出土している。遺物は主に覆土下層の壁際から出土している。5206・5207は深鉢で, 底面から出土している。

所見 時期は, 底面から出土している5206・5207などから中期後葉(加曾利E I 式期)と考えられる。



第275図 第1387号土坑・出土遺物実測図



第276図 第1387号土坑出土遺物実測図

第1387号土坑出土遺物観察表（第275・276図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5206	縄文土器	深鉢	[27.4]	34.9	8.2	口縁部は沈線が沿う隆帯で、胴部は沈線で文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	P L 48
5207	縄文土器	深鉢	24.3	(16.7)	—	口唇部に隆帯が巡り、1単位の渦巻文を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・パミス	普通	にぶい黄橙	底面	
5208	縄文土器	深鉢	[25.3]	(11.3)	—	口縁部には2本一組の隆帯により文様描出。胴部にはR Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	浅黄橙	覆土中層	

第1392号土坑（第277・278図）

位置 調査2区の北部、D3 b2区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第165号住居跡、第1391・1423号土坑を掘り込み、第1410号土坑に掘り込まれている。また第1424号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径2.15m、短径1.76m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、確認面からの

深さは46cmである。壁は外傾して立ち上がる。ピットは1か所で、P1は深さ40cmである。

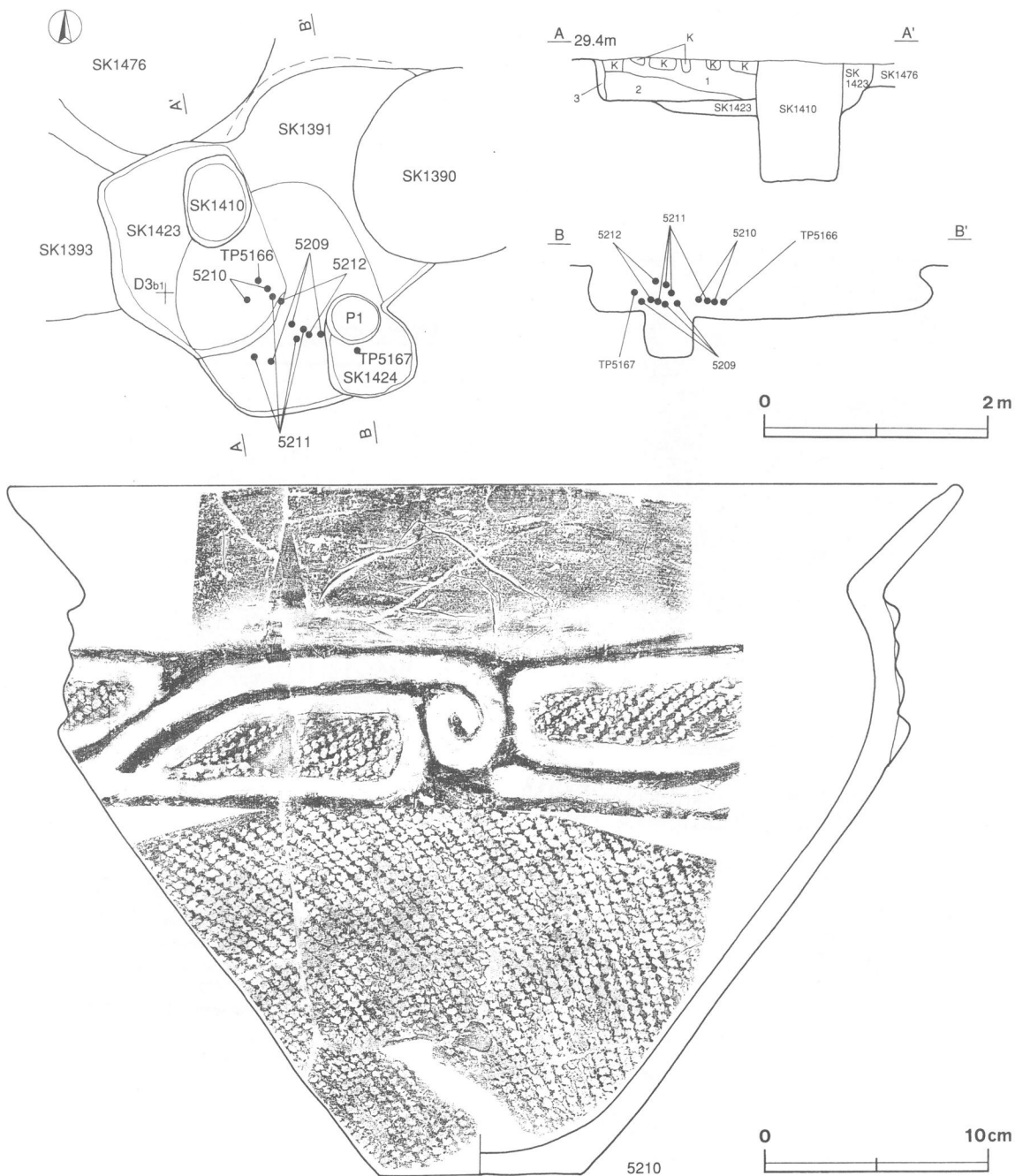
覆土 3層に分層される。不自然な堆積状況のため人為堆積と考えられる。

土層解説

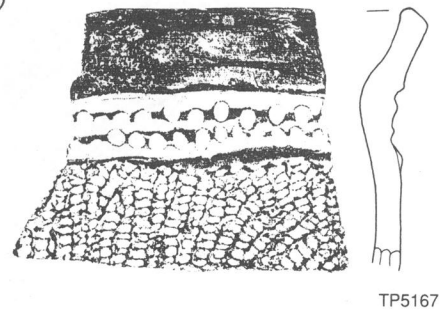
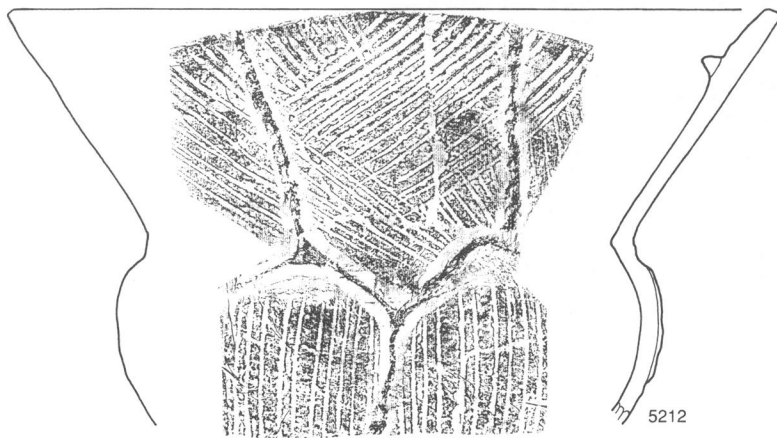
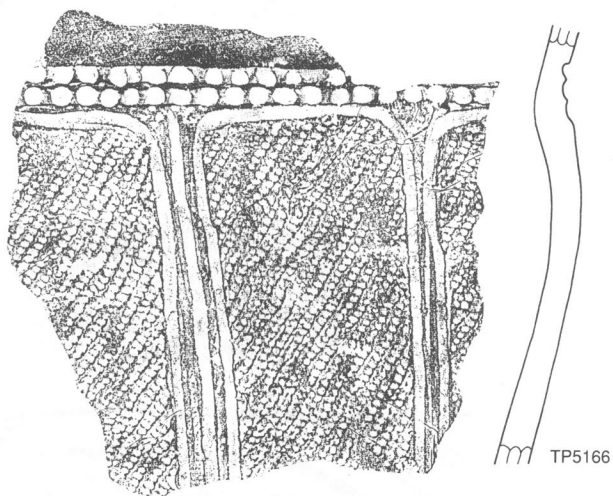
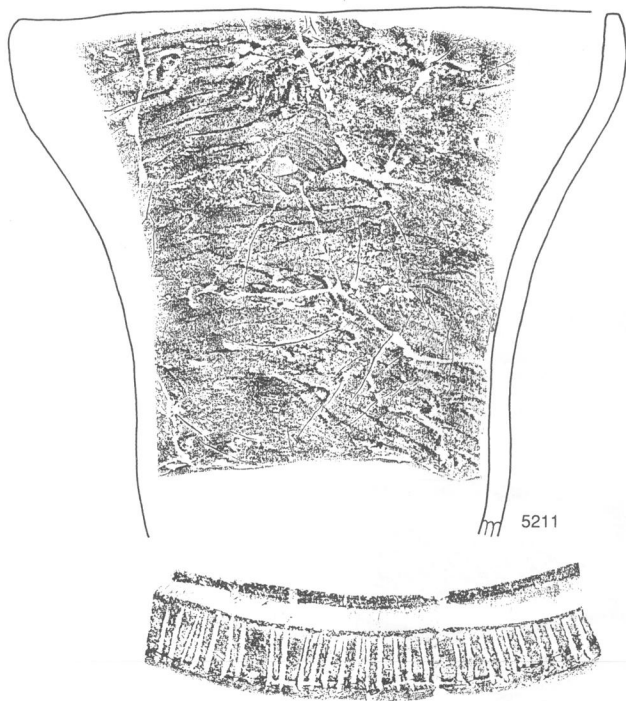
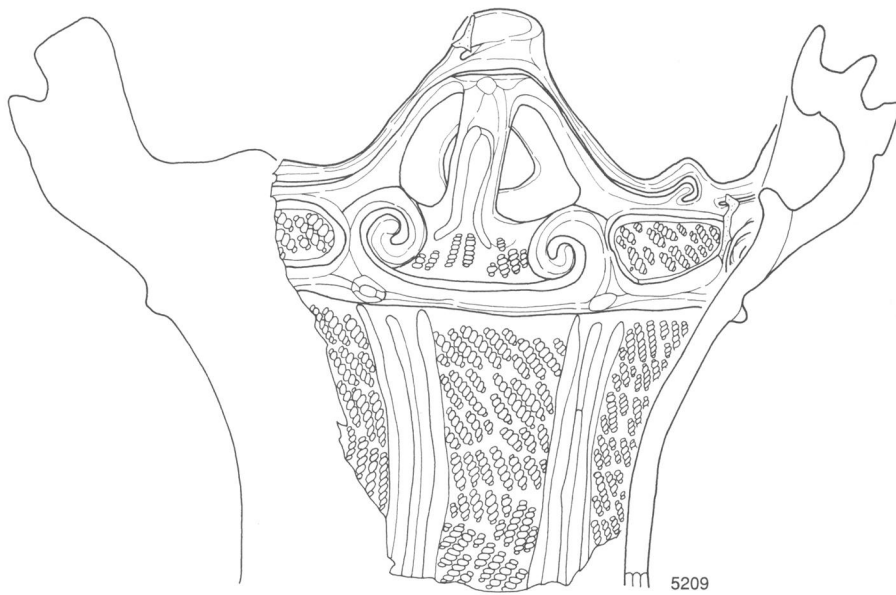
- | | | | |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片405点、磨製石斧1点、剥片1点が覆土から出土している。5209は深鉢，5210は鉢で、覆土下層から出土している。

所見 時期は、覆土下層から出土している5209・5210などから中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。



第277図 第1392号土坑・出土遺物実測図



第278图 第1392号土坑出土遺物実測図

第1392号土坑出土遺物観察表（第277・278図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5209	縄文土器	深鉢	[28.7]	(23.0)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯で渦巻文描出。胴部は懸垂文間を磨り消す。R Lの単節縄文。	長石・石英	普通	褐	覆土下層	
5210	縄文土器	鉢	[42.6]	31.0	9.0	口縁部無文。胴部上位に隆帯による渦巻文と区画文を描出。L R Lの複節縄文。	長石・石英	普通	浅黄橙	覆土下層	P L 48
5211	縄文土器	深鉢	23.9	(20.8)	—	R Lの単節縄文を縦方向に施文後、研磨。大部分は無文。	長石・石英	普通	橙	覆土下層	
5212	縄文土器	深鉢	[29.8]	(16.5)	—	口唇部から隆帯が垂下し、頸部で隆帯が巡る。半截竹管による平行沈線文を施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP5166	縄文土器	深鉢	—	(17.3)	—	胴部上位に交互刺突文が巡る。懸垂文間を磨り消す。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	明黄褐	覆土下層	
TP5167	縄文土器	深鉢	—	(10.2)	—	口縁部無文。交互刺突文が巡る。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	

第1415号土坑（第279・280図）

位置 調査2区の北部，D3a4区。住居跡群域に位置する。

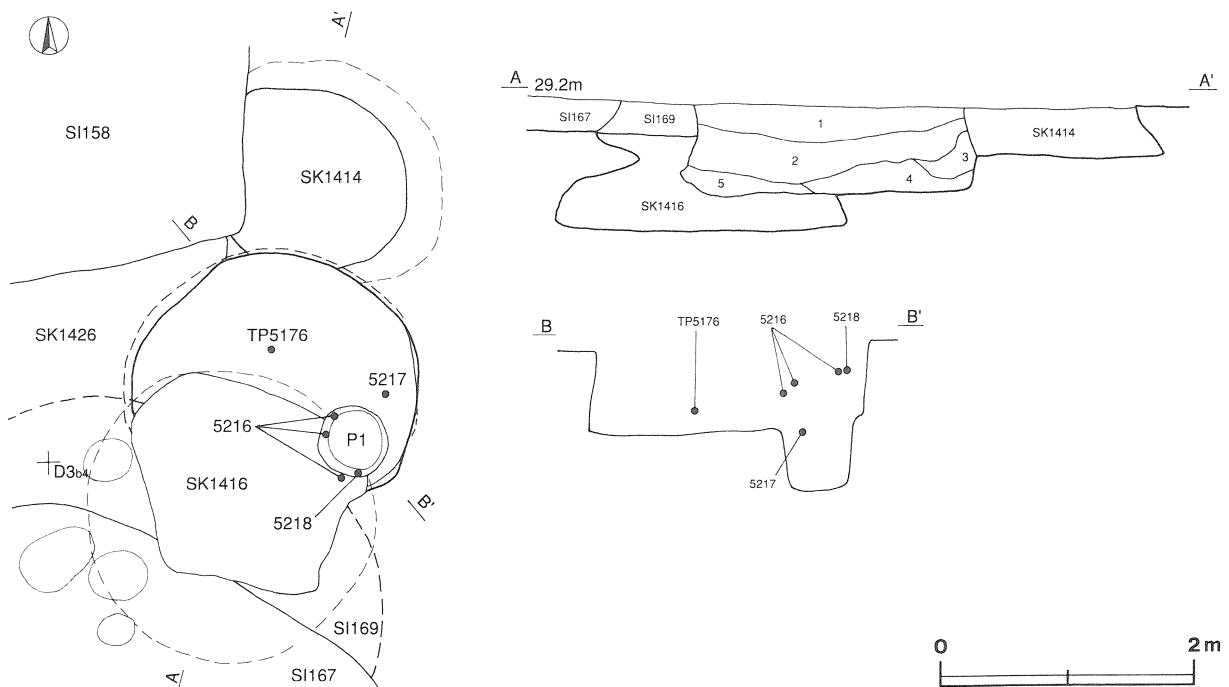
重複関係 第169号住居跡，第1414・1416号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.25m，短径2.13m程度のはほぼ円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.30m，短径2.26m程度のはほぼ円形である。確認面からの深さは72cmである。壁は，下位から上位にかけて内傾して立ち上がる。くびれ部は存在しない。ピットは1か所で，P1は深さ58cmである。

覆土 5層に分層される。第3層から第5層にかけては，ロームブロックを多量に含んでいるため壁の崩落土と考えられる。その他はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

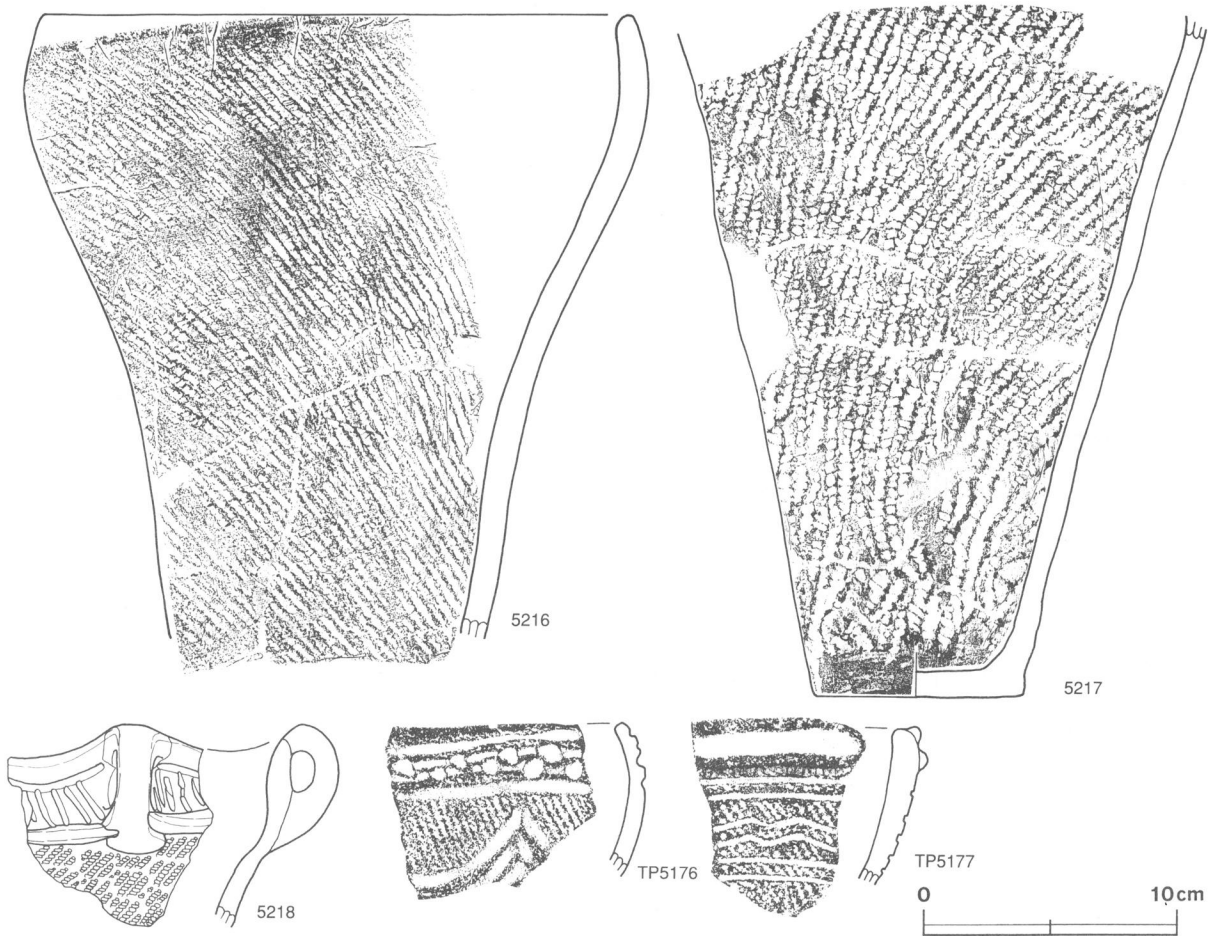
- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量 | | |



第279図 第1415号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片320点，剥片2点覆土から出土している。遺物は主に第1・2層から出土している。5217は深鉢で，底面から出土している。

所見 時期は，底面から出土している5217などから中期後葉（加曾利EI・II式期）と考えられる。



第280図 第1415号土坑出土遺物実測図

第1415号土坑出土遺物観察表（第280図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5216	縄文土器	深鉢	[23.2]	(24.8)	—	口縁部から胴部にかけてLの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
5217	縄文土器	深鉢	—	(26.9)	8.4	胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石	普通	明赤褐	底面	炭化物付着
5218	縄文土器	深鉢	—	(8.0)	—	口縁部は隆帯で区画し，区画内には沈線文。胴部にはRLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土中層	
TP5176	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	—	口縁部には交互刺突文が巡る。沈線により文様を描出。胴部には燃糸文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	
TP5177	縄文土器	深鉢	—	(6.4)	—	口縁部には平行沈線文や波状沈線文が巡る。胴部にはLRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土	

第1416号土坑（第281図）

位置 調査2区の北部，D3b4区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第167・169号住居，第1415号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は長径1.95m、短径1.53m程度の不整楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.32m、短径2.28m程度の円形である。確認面からの深さは75cmである。壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり、中位から上位にかけては外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均56cmである。

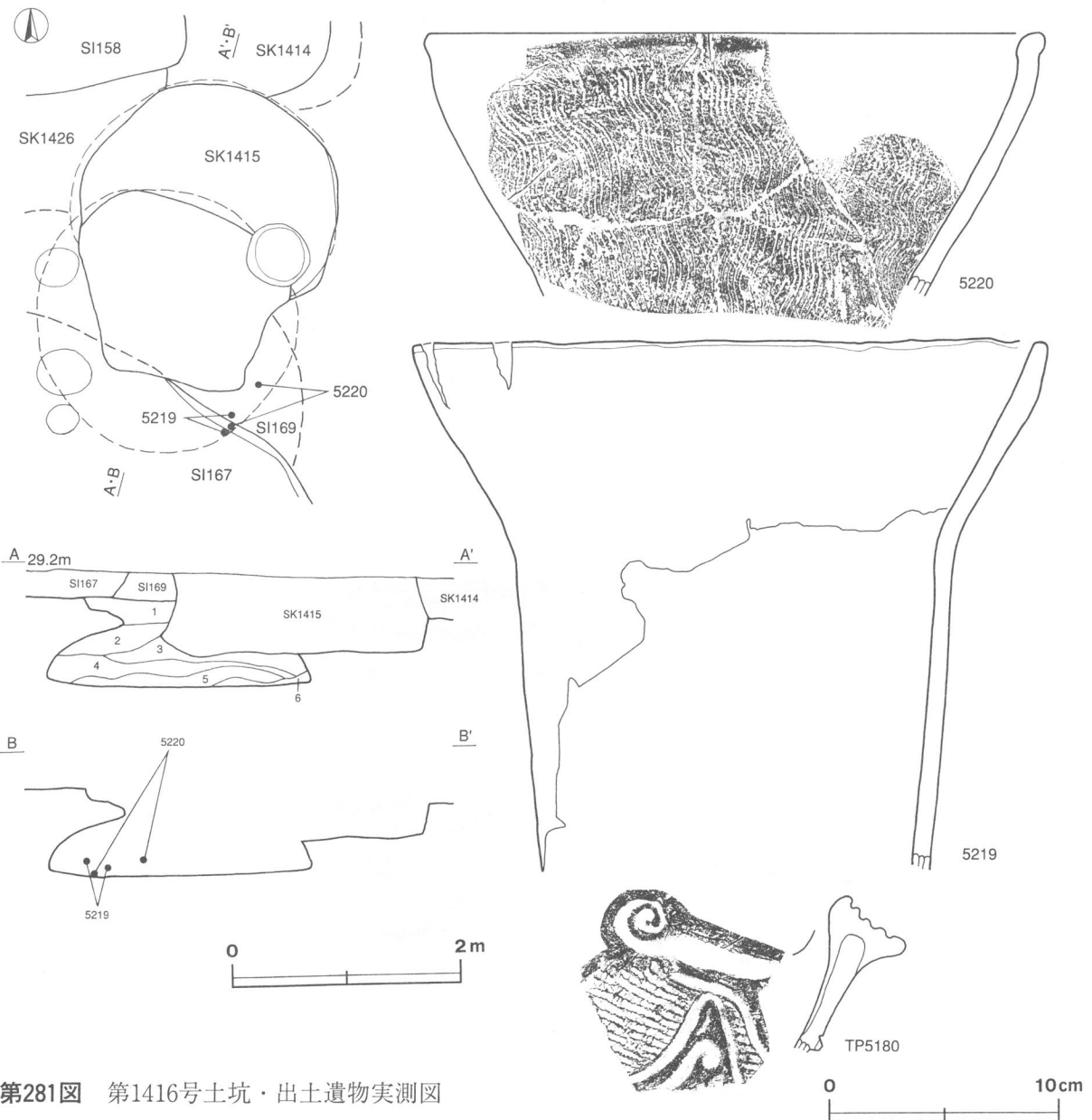
覆土 6層に分層される。第4～6層は、ロームブロックを多く含んでいるため壁の崩落土と考えられる。遺物が覆土下層に廃棄されたような状態で出土していることから土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片358点が覆土から出土している。5219は深鉢で覆土下層から、5220は深鉢で底面から横位で出土している。

所見 時期は、覆土下層や底面から出土している5219, 5220などの土器から中期中葉（阿玉台Ⅲ・Ⅳ式期）と考えられる。TP5180は混入したものと考えられる。



第281図 第1416号土坑・出土遺物実測図

第1416号土坑出土遺物観察表（第281図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5219	縄文土器	深鉢	[27.2]	(23.8)	—	器面は無文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	覆土下層	
5220	縄文土器	深鉢	[26.8]	(11.5)	—	地文は櫛歯状工具による波状条線文で、縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐色	底面	
TP5180	縄文土器	深鉢	—	(7.4)	—	口唇部に隆帯による渦巻文。口縁部には沈線が沿う隆帯で文様描出。LRの単節縄文。	長石・石英	普通	明赤褐色	覆土	スス、炭化物付着

第1421号土坑（第282図）

位置 調査2区の北部，C3c8区。土坑墓群と住居群に挟まれた区域に位置する。

重複関係 第214号土坑墓と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は長径2.70m，短径2.35m程度の楕円形と推定される。底面は平坦で，確認面からの深さは60cmである。壁はほぼ直立する。ピットは3か所で北西壁際，中央部，南東部に位置する。深さは，P1が76cm，P2が56cm，P3が38cmである。

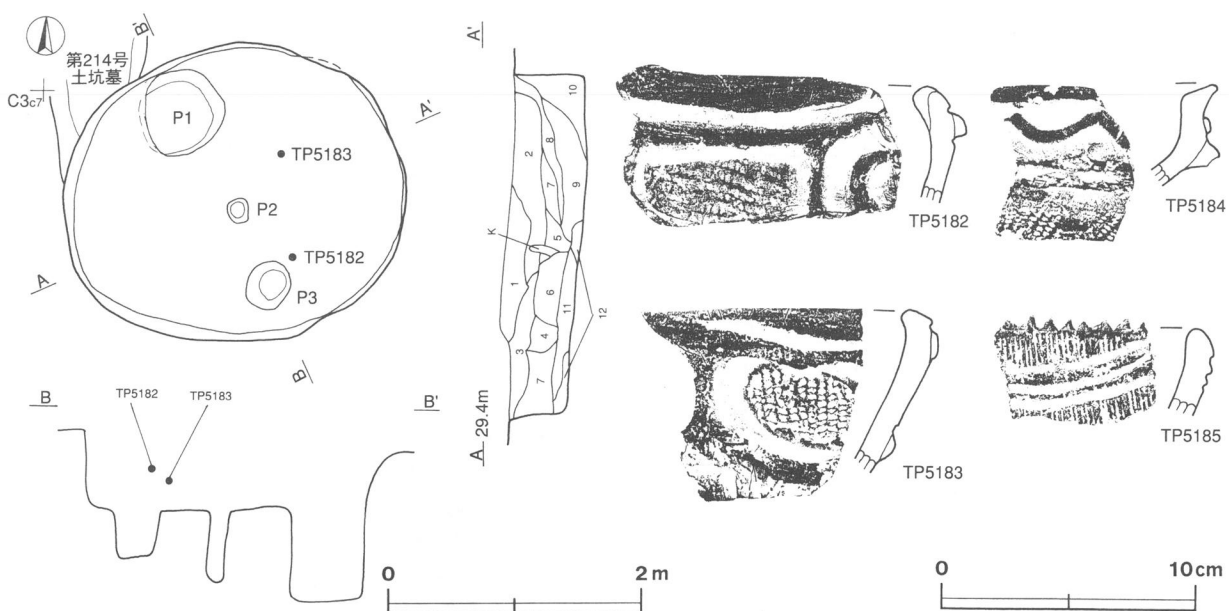
覆土 12層に分層される。第12層は粘性があり，第8層は締まりのある暗褐色土である。覆土下層はロームブロックを多量に含む土層である。遺物は中層から下層にかけて廃棄された状態で出土しているため，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物少量，ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 炭化物中量，ロームブロック微量 | 8 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 9 極暗褐色 ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量 | 10 極暗褐色 ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック少量 | 11 褐色 ロームブロック・鹿沼バミスブロック中量 |
| 6 暗褐色 ロームブロック多量 | 12 暗褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片910点，剥片1点が覆土から出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて廃棄された状態で満遍なく出土している。土器は細片が多く，接合できるものはなかった。TP5182，TP5183は深鉢片で，覆土中層から出土している。

所見 覆土中層の堆積時期は，出土土器から中期後葉（加曾利EI・II式期）と考えられる。



第282図 第1421号土坑・出土遺物実測図

第1421号土坑出土遺物観察表（第282図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5182	縄文土器	深鉢	—	(4.5)	—	口縁部には隆帯による区画文と渦巻文。区画内にはR Lの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐	覆土中層	
TP5183	縄文土器	深鉢	—	(6.5)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯で区画文を描出。胴部は懸垂文。区画内はR Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土中層	
TP5184	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	—	口縁部には粘土紐による波状隆帯が巡る。胴部にはR Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土	
TP5185	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	—	口唇部にキザミを有する。3条の沈線が巡る。地文は櫛歯状工具による条線文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土	

第1431号土坑（第283・284図）

位置 調査2区の北部，C3i3区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1432号土坑に掘り込まれている。第1408号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は，長径1.80m，短径1.75m程度のほぼ円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.02m，短径1.95m程度の円形である。確認面からの深さは45cmである。壁は西側で外傾するが，その他の壁は下位からくびれ部にかけて内傾して立ち上がり，くびれ部から上位にかけては外傾する。底面からくびれ部までの高さは平均37cmである。ピットは4か所で，それぞれ壁際に位置する。深さは，P1が77cm，P2が58cm，P3が63cm，P4が60cmである。

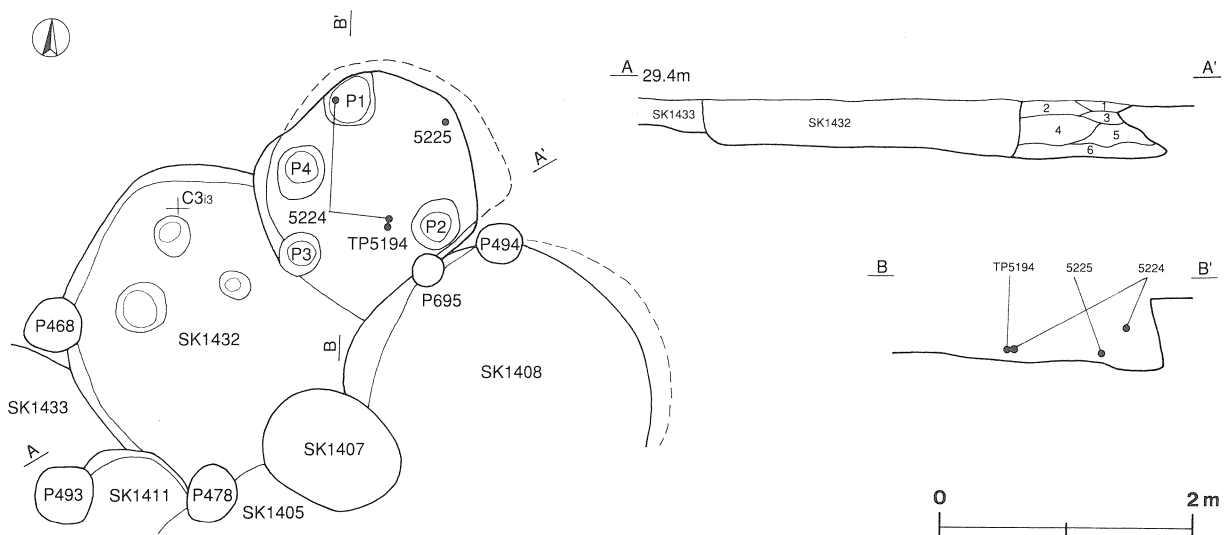
覆土 6層に分層される。第6層はロームブロックを多量に含んでいるため，壁の崩落土と考えられる。第5層から上層は，堆積状況に乱れないため自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | 炭化物少量，ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片133点，剥片1点が覆土から出土している。遺物は覆土中層から下層にかけて出土している。5224・5225は深鉢で，覆土下層から出土している。5225の鉢は，第1218号土坑の覆土下層から出土した5101と接合している。

所見 時期は，覆土下層から出土した5224・5225などから中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第283図 第1431号土坑実測図



第284図 第1431号土坑出土遺物実測図

第1431号土坑出土遺物観察表（第284図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5224	縄文土器	深鉢	[18.5]	(30.8)	10.0	口縁部には半截竹管による5組の平行沈線が巡る。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
5225	縄文土器	鉢	[17.0]	(11.4)	—	口縁部には半截竹管による平行沈線で渦巻文を描出。L Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土下層	外面一部赤彩痕
TP5194	縄文土器	深鉢	—	(7.5)	—	口縁部は沈線により文様を描出。胴部にはL Rの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	覆土下層	

第1432号土坑（第285図）

位置 調査2区の北部，C3j3区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1431・1433号土坑を掘り込んでいる。第1405・1407・1408・1411号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 平面形は、径2.45m程度の円形と推定される。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは44cmである。壁はほぼ直立する。ピットは3か所で北側に位置し、深さは、P1が63cm，P2が62cm，P3が35cmである。

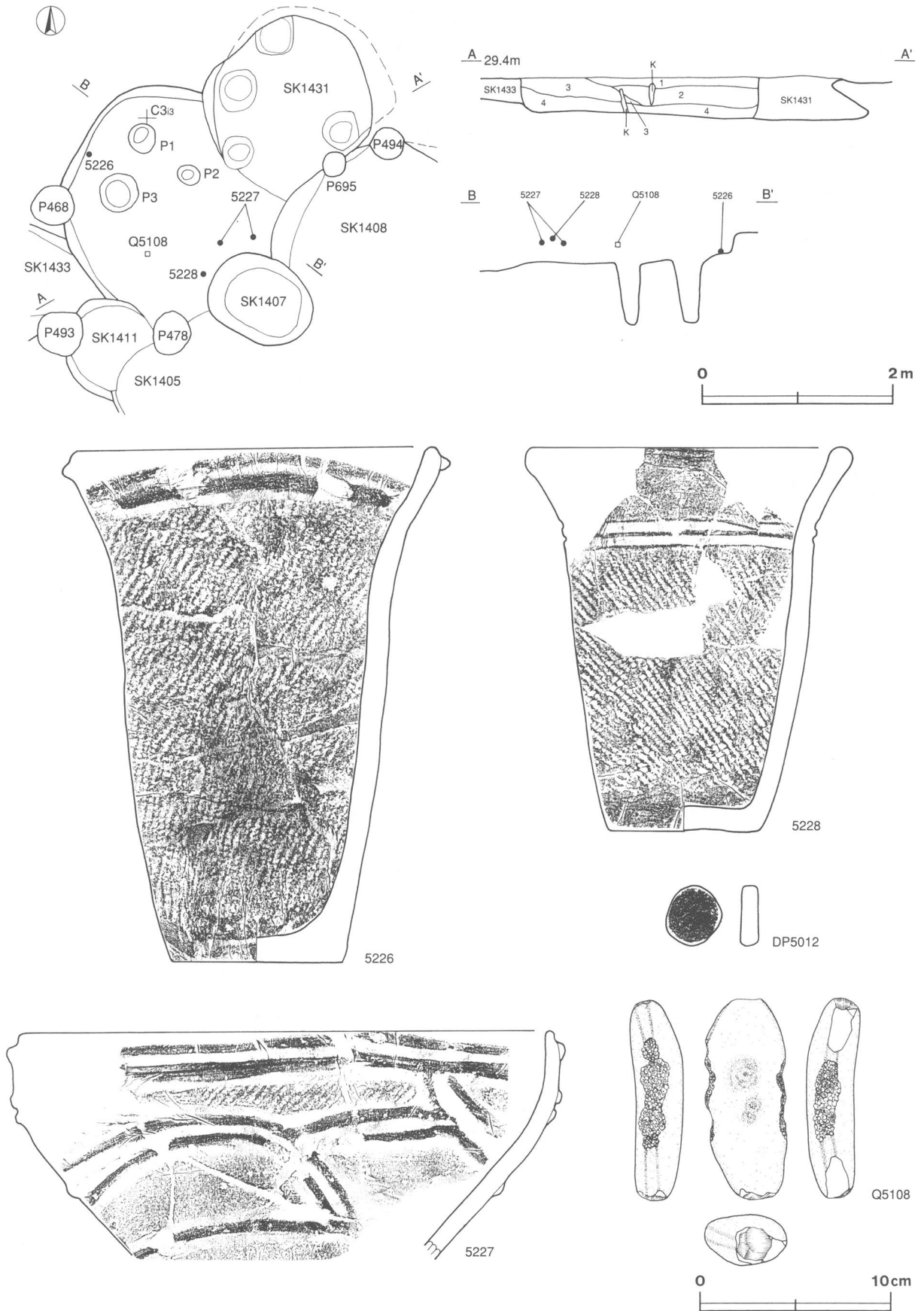
覆土 4層に分層される。堆積状況に乱れないため自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化物少量，ロームブロック微量 | 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量 |
| 2 黒褐色 炭化物中量，焼土粒子少量，ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量，炭化粒子少量 |

遺物出土状況 縄文土器片70点，敲石1点，土器片円盤1点，剥片1点が覆土中層から下層にかけて出土している。5226は深鉢で、底面から横位で出土している。5228は深鉢で、覆土中層から横位で出土している。DP5012はP3内から出土している。

所見 時期は、底面から出土している5226などから中期後葉（加曾利 E I 式期）と考えられる。



第285図 第1432号土坑・出土遺物実測図

第1432号土坑出土遺物観察表（第285図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5226	縄文土器	深鉢	18.7	27.2	9.0	口唇部直下に隆帯が巡る。胴部にはR Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黄橙	底面	P L 48
5227	縄文土器	深鉢	[27.6]	(11.9)	—	口縁部は2本一組の隆帯によって文様を描出。R Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	褐灰	覆土中層	
5228	縄文土器	深鉢	[17.0]	20.2	7.7	口縁部無文。2条の沈線が巡る。胴部にはLの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	スス付着 底部網 代痕

番号	器種	計測値				胎土・色調	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
DP5012	土器片円盤	(3.2)	(3.0)	(1.0)	(11.3)	長石・雲母, 褐	ほぼ円形で無文。周縁部をていねいに研磨。	P 3 覆土	P L 59

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5108	敲石	10.5	4.3	2.8	174.9	黒雲母片岩	両側縁に敲打痕。長軸側の両端部に擦痕。凹石に併用。	覆土中層	

第1435号土坑（第286・287図）

位置 調査2区の北部，C3h4区。住居跡群域に位置する。

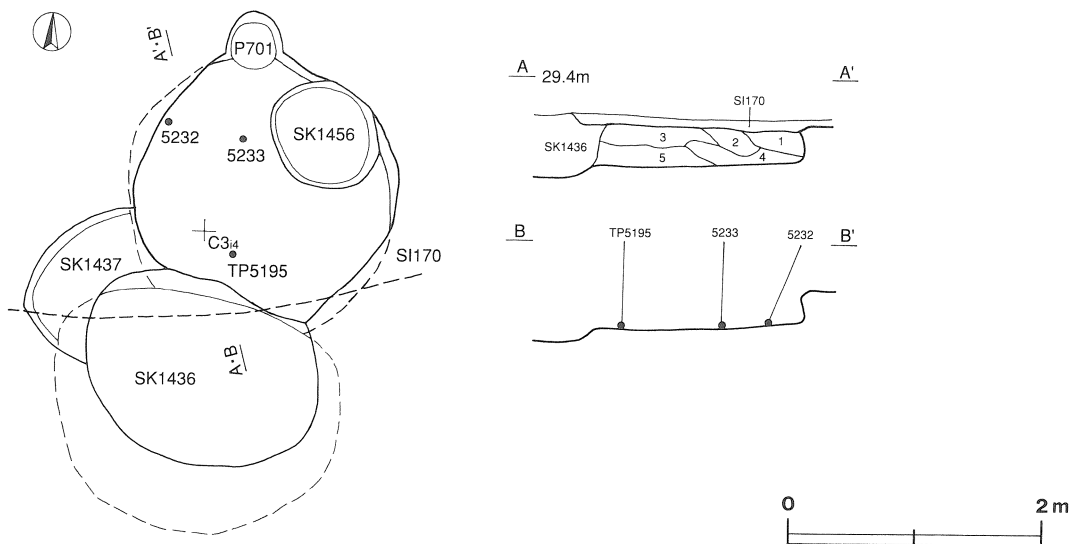
重複関係 第170号住居，第1436・1437号土坑，第701号ピットに掘り込まれている。第1456号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は径2.05m程度の円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.17m，短径2.04m程度のほぼ円形である。確認面からの深さは37cmである。壁は南東側，西側では下位から中位にかけて内傾し，中位から上位にかけては第170号住居に掘り込まれているため不明である。北壁は外傾する。底面からくびれ部までの高さは平均28cmである。

覆土 5層に分層される。第5層はロームブロックを多量に含む土層のため，壁の崩落土と考えられる。遺物が下層から廃棄されたような状態で出土していることと，不自然な堆積状況などから人為堆積と考えられる。

土層解説

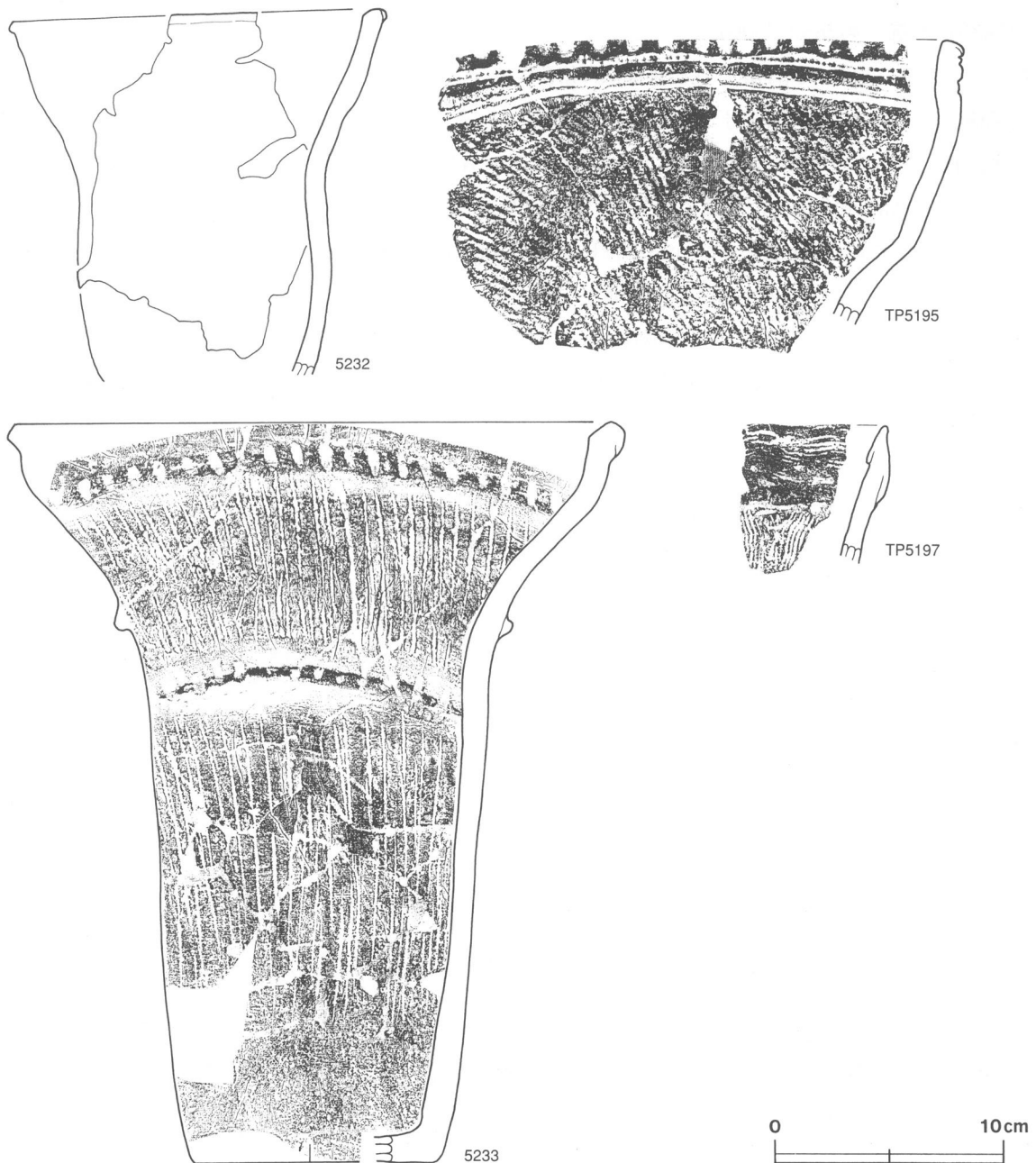
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ロームブロック中量，炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 ロームブロック多量，炭化物微量



第286図 第1435号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片204点が出土している。遺物は、主に覆土下層から出土している。5232, 5233は深鉢で、底面から横位で出土している。TP5195は深鉢片で、底面から出土している。

所見 時期は、底面から出土している5232・5233, TP5195などから中期前葉から中葉（阿玉台Ⅱ・Ⅲ式期）と考えられる。



第287図 第1435号土坑出土遺物実測図

第1435号土坑出土遺物観察表（第287図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5232	縄文土器	深鉢	[16.0]	(16.9)	—	口唇部直下に隆帯が巡る。胴部は無文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	上部スス附着
5233	縄文土器	深鉢	26.0	32.6	[10.7]	口唇部直下と胴部に押圧文を有する隆帯が巡る。地文は半截竹管による平行沈線文。	長石・石英・雲母	普通	暗褐橙	底面	P L 48

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5195	縄文土器	深鉢	—	(12.4)	—	口縁部には半截竹管による結節沈線文と平行沈線文が巡る。Lの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	暗赤褐	底面	
TP5197	縄文土器	深鉢	—	(6.0)	—	口唇部直下内外面を肥厚。地文は櫛歯状工具による条線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土	スス、炭化物付着

第1439号土坑（第288～290図）

位置 調査2区の北部，C3i4区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第170号住居，第470号ピットに掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，長径1.18m，短径0.98m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.20m，短径1.70m程度の楕円形である。確認面からの深さは75cmである。壁は，下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，中位から上位にかけてはほぼ直立する。底面からくびれ部までの高さは平均56cmである。ピットは1か所で中央部に位置し，P1は深さ37cmである。

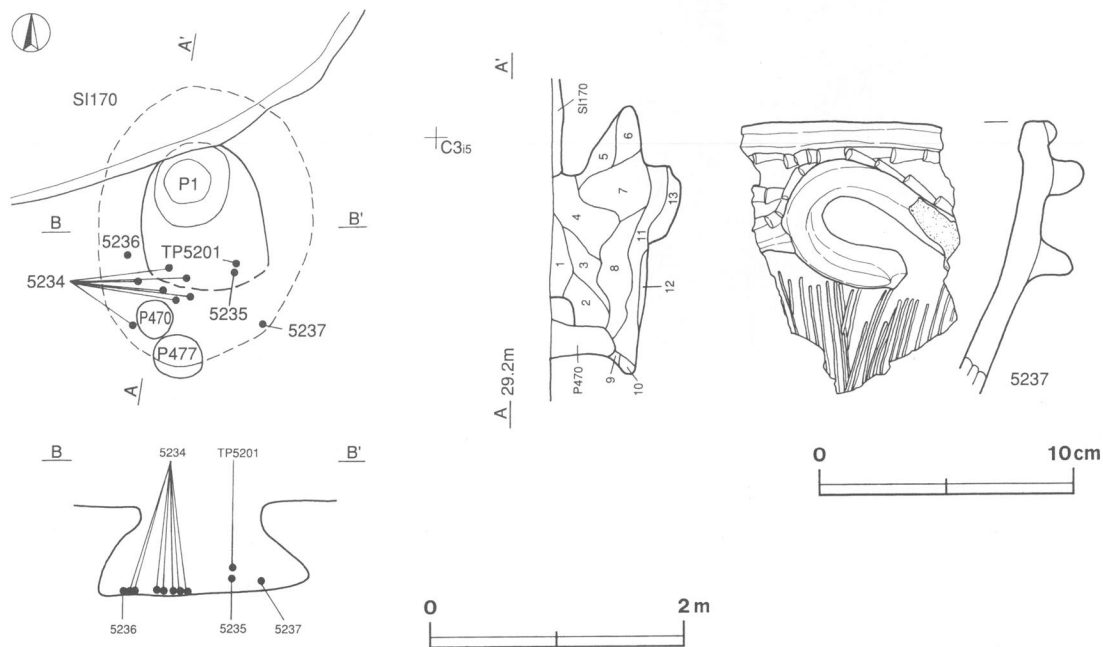
覆土 13層に分層される。第6・8・10層はロームブロックを多量に含む層で，壁の崩落土と考えられる。それ以外は，不自然な堆積状況と土器が廃棄されたような状態で出土していることから，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

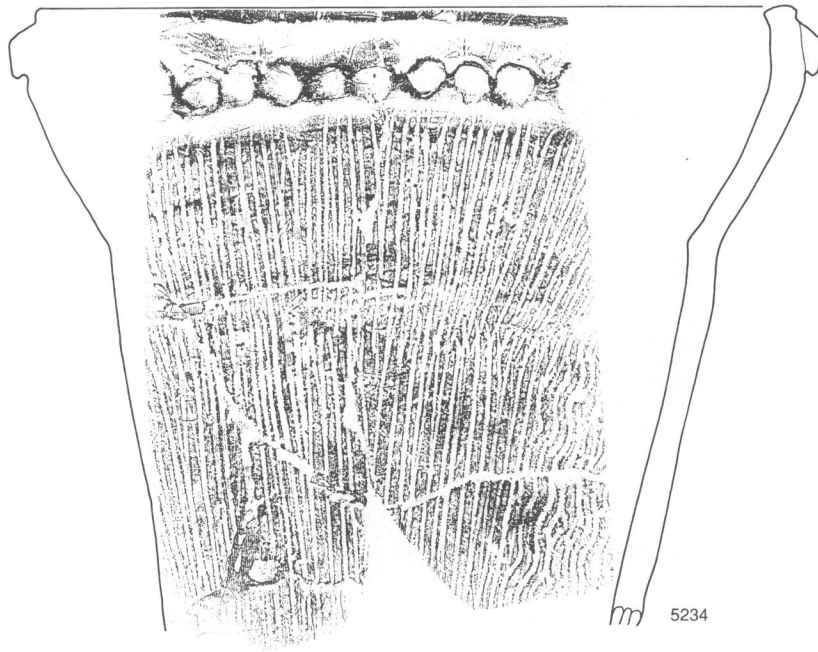
- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック・鹿沼バミスブロック微量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子・鹿沼バミス |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量，鹿沼バミスブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・砂質粘土ブロック微量 | 10 褐色 | ロームブロック多量，鹿沼バミスブロック微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック少量，鹿沼バミス粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量 | 12 褐色 | ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 |
| | | 13 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片454点が覆土から出土している。5234，5236は深鉢で，底面から逆位で出土している。5235，5237は深鉢で，覆土下層から出土している。

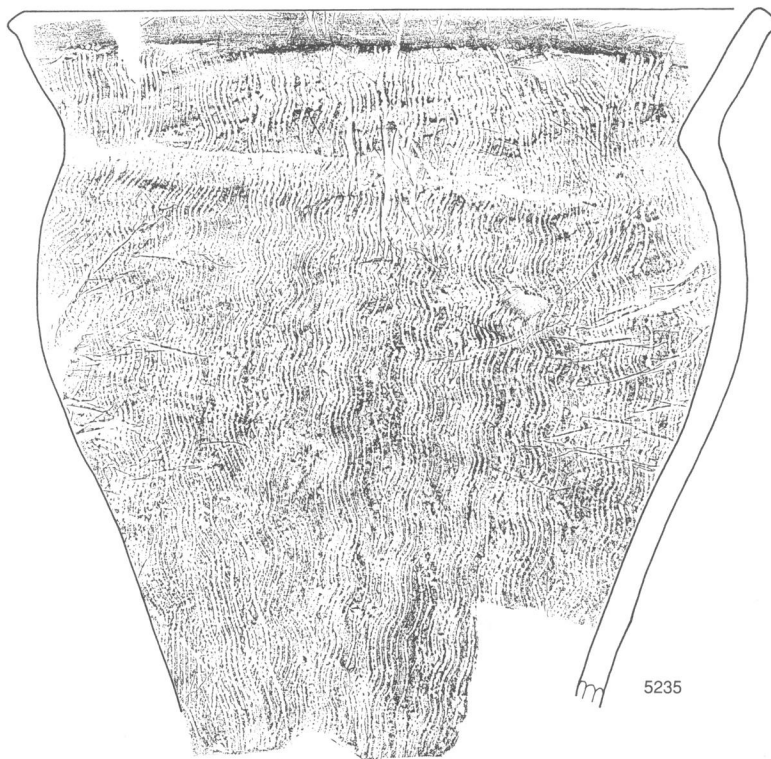
所見 時期は，底面から出土している5234，5236などから中期中葉（阿玉台Ⅲ式期）と考えられる。



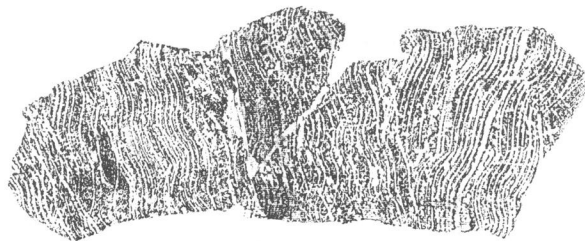
第288図 第1439号土坑・出土遺物実測図



5234



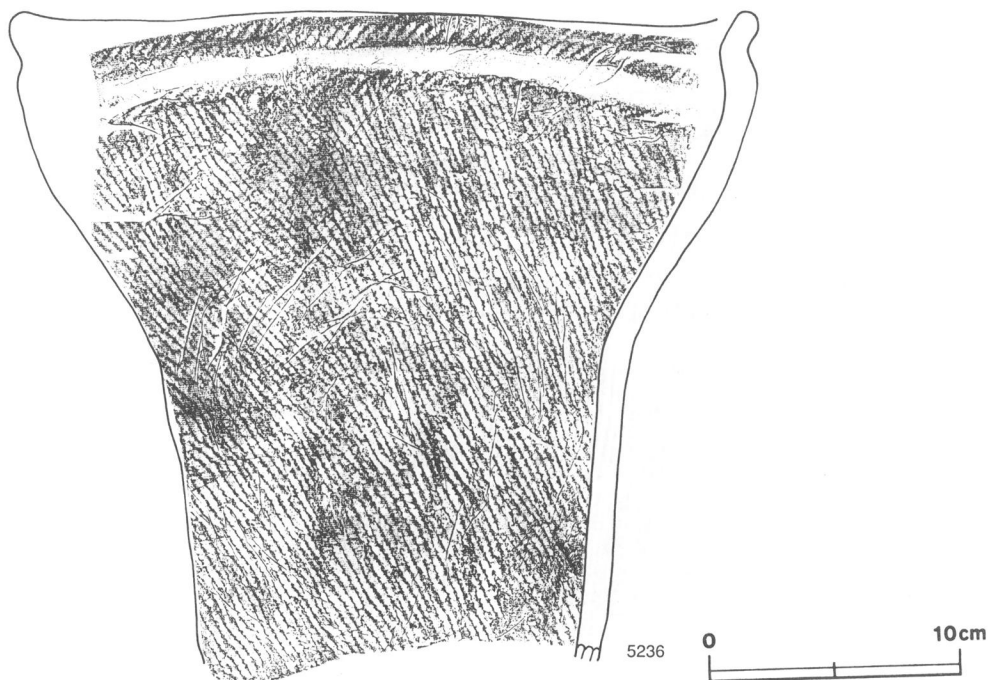
5235



TP5201



第289图 第1439号土坑出土遺物実測図(1)



第290図 第1439号土坑出土遺物実測図(2)

第1439号土坑出土遺物観察表(第288~290図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5234	縄文土器	深鉢	[29.1]	(24.7)	—	口縁部に押圧文を有する隆帯が巡る。地文は半截竹管による平行沈線文と波状沈線文。	長石・雲母・赤色粒子	普通	にぶい橙	底面	
5235	縄文土器	深鉢	[28.8]	(27.7)	—	地文は櫛歯状工具による波状沈線文で、縦方向に施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	にぶい褐	覆土下層	
5236	縄文土器	深鉢	28.6	(26.3)	—	地文はLRの単節縄文で、口唇部直下には縄文を横方向に施文後、沈線が巡る。	長石・石英・雲母	普通	にぶい赤褐	底面	
5237	縄文土器	深鉢	—	(10.8)	—	隆帯による横S字状文。口唇部直下に結節沈線文が巡る。櫛歯状工具による条線文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい褐	覆土下層	
TP5201	縄文土器	深鉢	—	(7.9)	—	胴部には櫛歯状工具による波状の条線文を垂下。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	

第1440号土坑(第291・292図)

位置 調査2区の北部、C3g4区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1441号土坑を掘り込んでいる。第1443号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.35m、短径1.95m程度の不整楕円形と推定される。底面は平坦で、平面形は長径2.42m、短径1.78m程度の楕円形である。確認面からの深さは61cmである。壁は東側では下位から中位にかけて内傾して立ち上がり、上位では外傾する。他の壁は外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均42cmである。

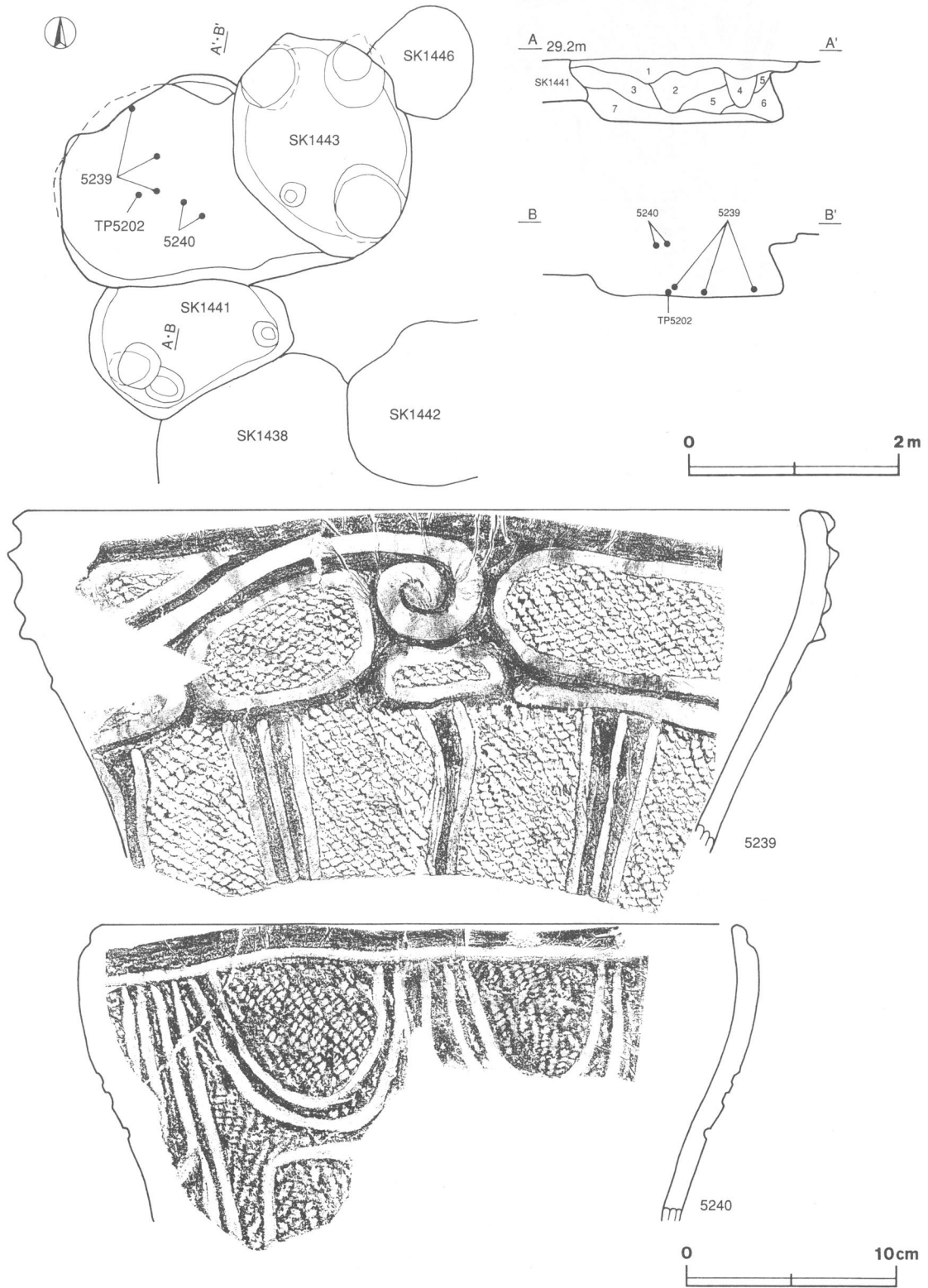
覆土 7層に分層される。遺物が上層から下層にかけて廃棄された状態で出土していることと、不自然な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

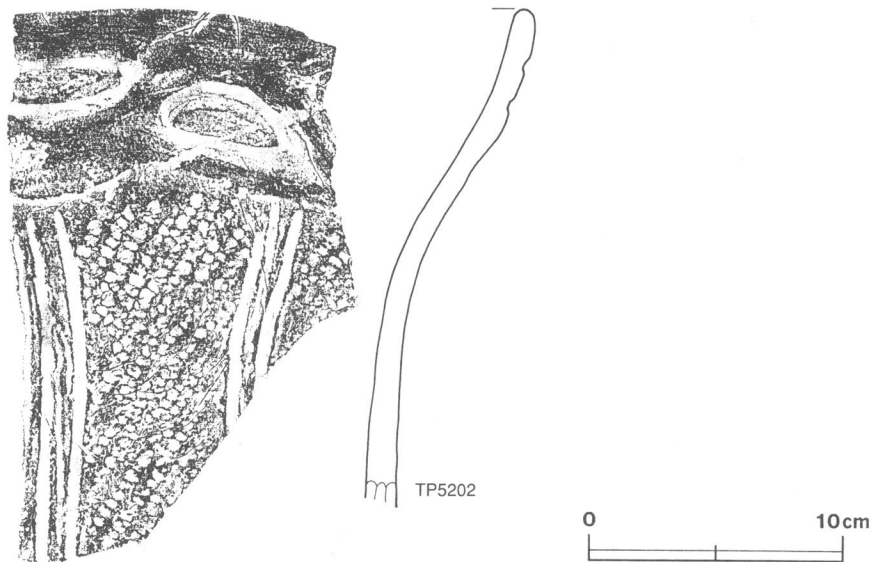
- | | | | |
|--------|-------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片129点，磨石1点が覆土から出土している。5239は深鉢で，覆土下層から，TP5202は深鉢片で，底面から出土している。

所見 時期は，覆土下層から底面にかけて出土している5239，TP5202などから中期後葉（加曾利 E II～III 期）と考えられる。



第291図 第1440号土坑・出土遺物実測図



第292図 第1440号土坑出土遺物実測図

第1440号土坑出土遺物観察表 (第291・292図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5239	縄文土器	深鉢	[37.2]	(16.6)	—	口縁部は隆帯による渦巻文と区画文。胴部は懸垂文間を磨り消す。L R Lの複節縄文。	長石・石英	普通	にぶい黄褐	覆土下層	
5240	縄文土器	深鉢	[30.2]	(14.1)	—	口縁部は沈線で文様を描出。胴部はR Lの単節縄文を縦方向、口縁部は横方向に施文。	長石・石英・赤色粒子	普通	黒褐	覆土上層	
TP5202	縄文土器	深鉢	—	(19.6)	—	口縁部を肥厚し、沈線で区画文を描出。胴部は懸垂文間を磨り消す。R Lの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	底面	炭化物付着

第1442号土坑 (第293図)

位置 調査2区の北部，C3g5区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1438号土坑と重複しているが，新旧関係は不明である。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.02m，短径1.55m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径1.97m，短径1.78m程度の楕円形である。確認面からの深さは74cmである。壁は東西の壁はほぼ直立するが，他は下位から上位にかけて内傾して立ち上がる。ピットは3か所で南壁際に位置している。深さは，P1が26cm，P2が47cm，P3が12cmである。

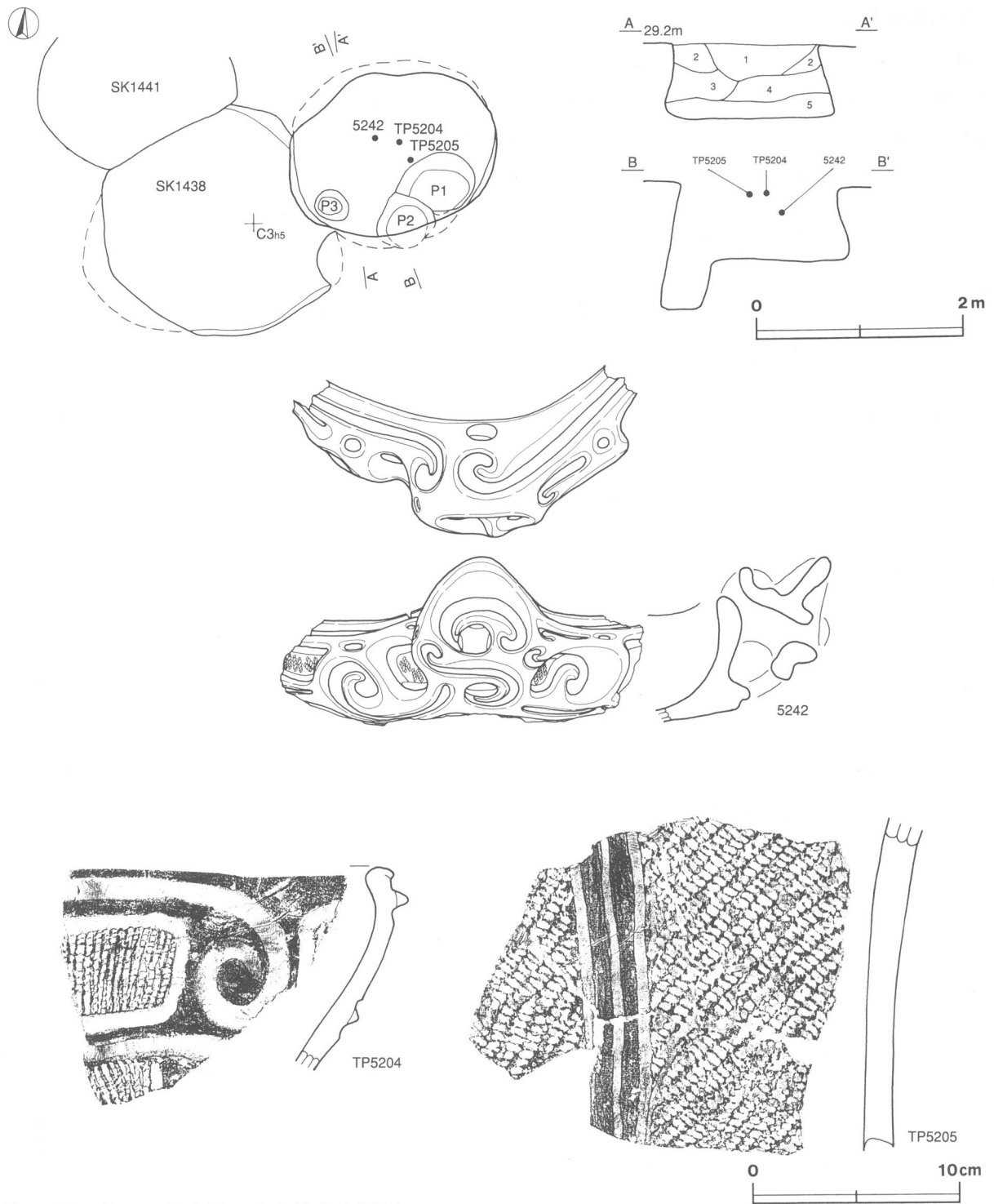
覆土 5層に分層される。第5層はロームブロックを多く含む粘性の強い暗褐色土で，壁などの崩落土と考えられる。他の層は水平な堆積状況のため自然堆積と考えられる。遺物が上層の第1層に集中して廃棄されたような状態で出土していることから，第1層は土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・鹿沼パミスブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子・鹿沼パミスブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片851点が覆土から出土している。遺物は覆土上層から廃棄された状態で出土している。

所見 本跡が廃絶され，壁などの崩落後ある程度埋没してから土器片が廃棄されたと考えられるため，時期を出土土器から判断することは困難であるが，覆土上層の堆積時期は中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。



第293図 第1442号土坑・出土遺物実測図

第1442号土坑出土遺物観察表（第293図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5242	縄文土器	深鉢	—	(8.1)	—	口縁部には隆帯による渦巻文をモチーフとした把手を有する。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄褐	覆土中層	
TP5204	縄文土器	深鉢	—	(9.8)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯で渦巻文や区画文を描出。地文は撚糸文で、縦方向に施文。	長石・石英	普通	明赤褐	覆土上層	
TP5205	縄文土器	深鉢	—	(15.6)	—	胴部は沈線による懸垂文間を磨り消している。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい黄橙	覆土上層	

第1445号土坑（第294～296図）

位置 調査2区の北部，C3g4区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第170号住居，第1444号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は長径2.45m，短径2.05m程度の不整楕円形と推定される。底面は平坦で，平面形は長径2.82m，短径2.60m程度の円形である。確認面からの深さは97cmである。壁は下位から中位にかけて内傾して立ち上がり，中位から上位にかけては外傾して立ち上がる。北壁は第1444号土坑に掘り込まれているため不明である。底面からくびれ部までの高さは平均77cmである。

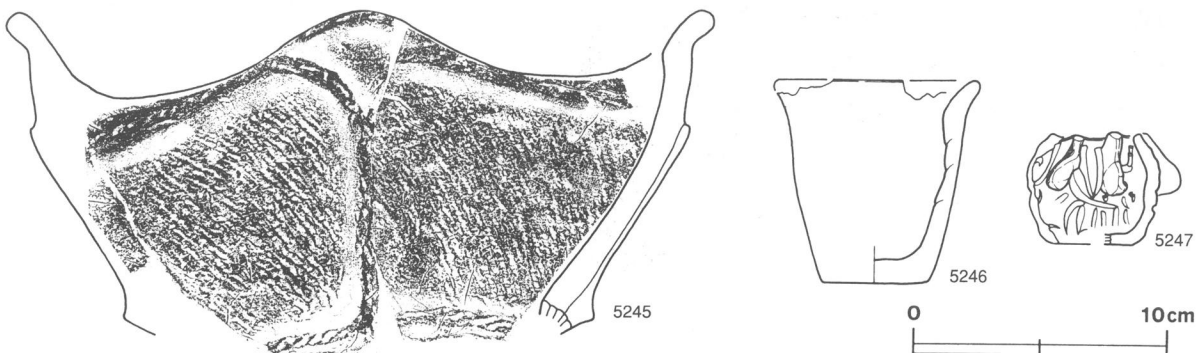
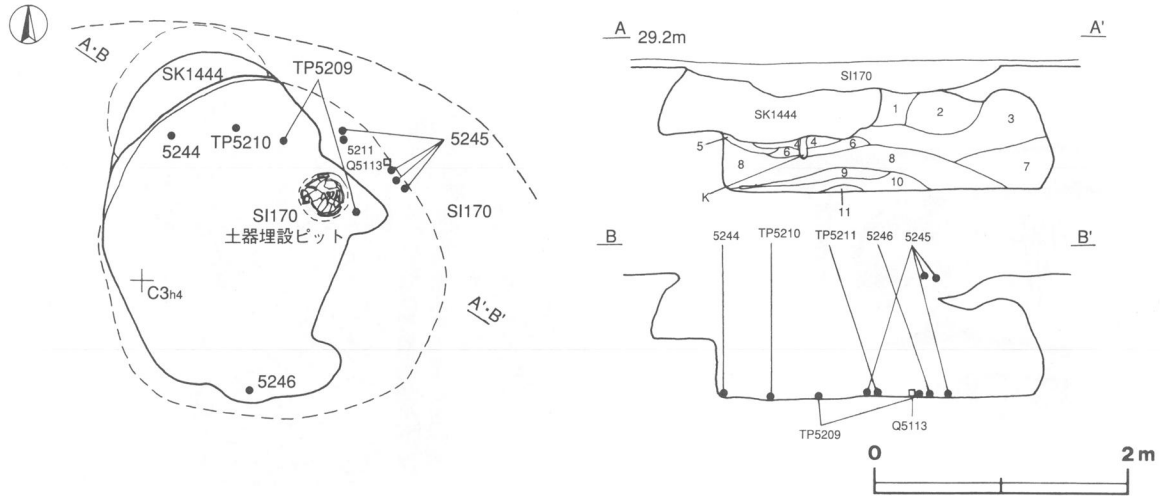
覆土 11層に分層される。第11層はロームブロックを多量に含む粘性の強い土層で，壁の崩落土と考えられる。第4層は第1444号土坑の下部にあり，しまりのある暗褐色土である。遺物が底面から覆土下層にかけて廃棄された状態で出土していることと不自然な堆積状況から，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

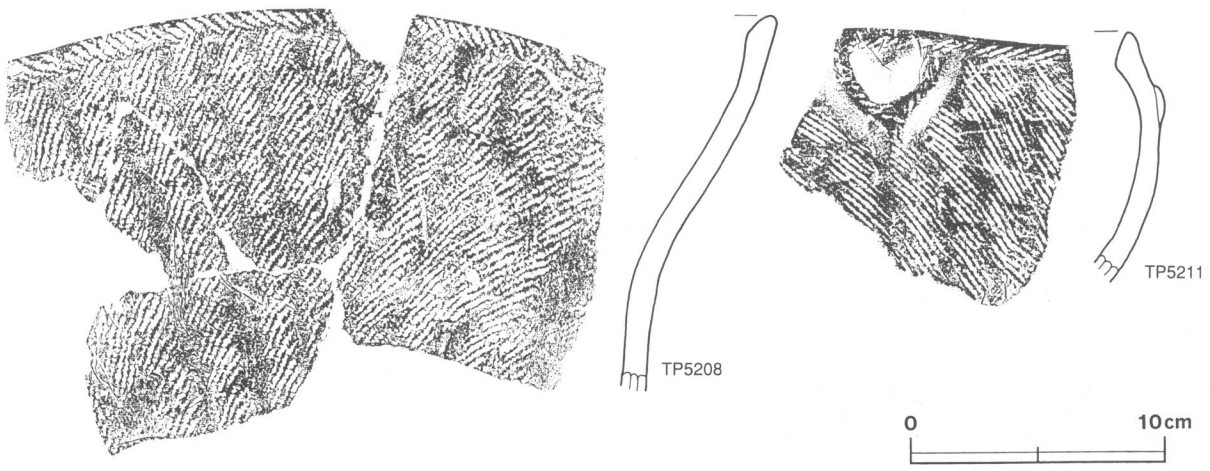
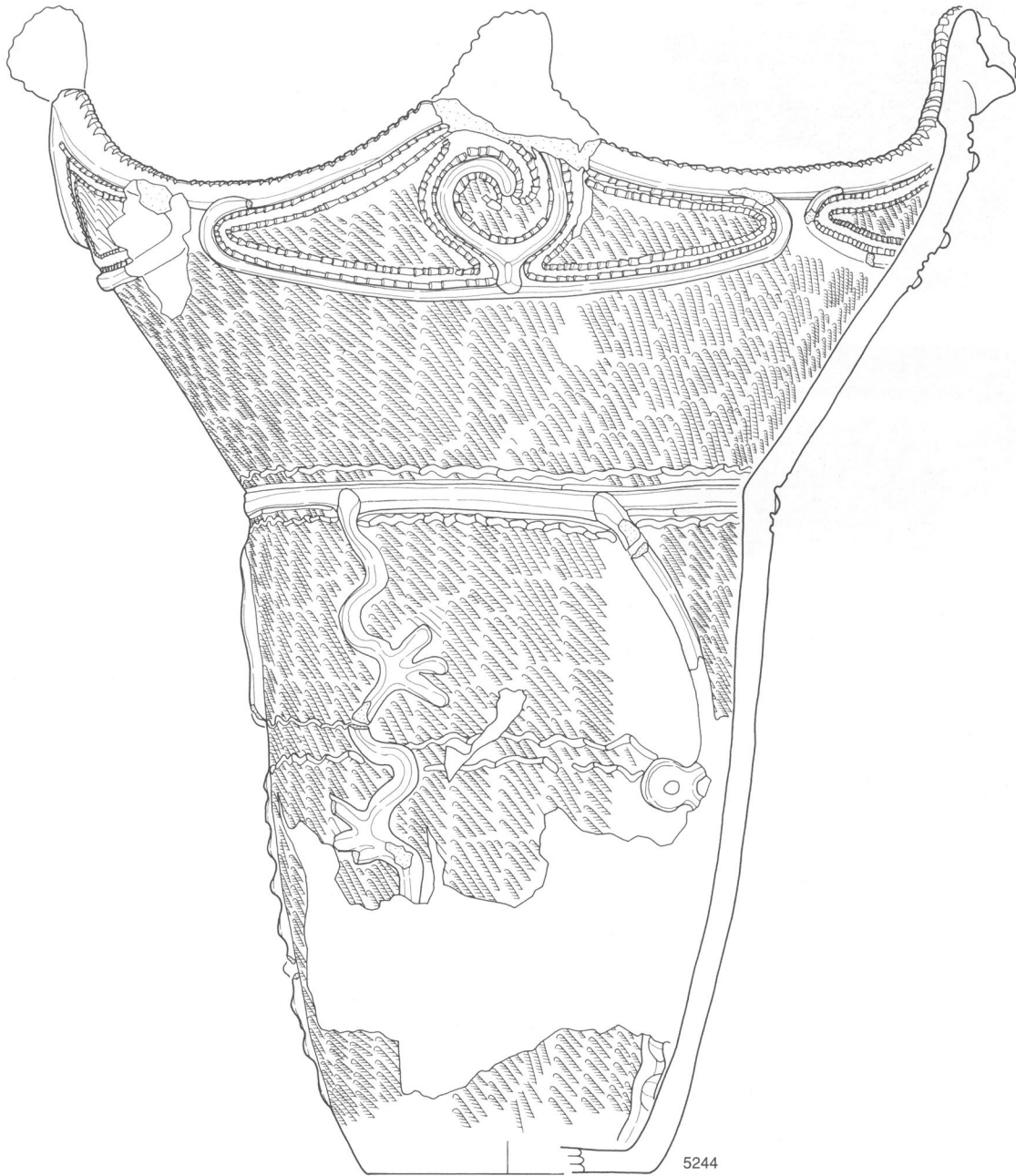
- | | | | |
|-------|------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量 | 8 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック多量，鹿沼パミス粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量 | 10 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒色 | 炭化物少量，ロームブロック微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片473点，敲石1点，凹石1点，剥片5点が覆土から出土している。遺物は，底面から覆土下層にかけて廃棄されたような状態で出土している。5244・5245は深鉢で，底面から横位で出土している。5246はミニチュア土器，Q5113は凹石で，底面から出土している。

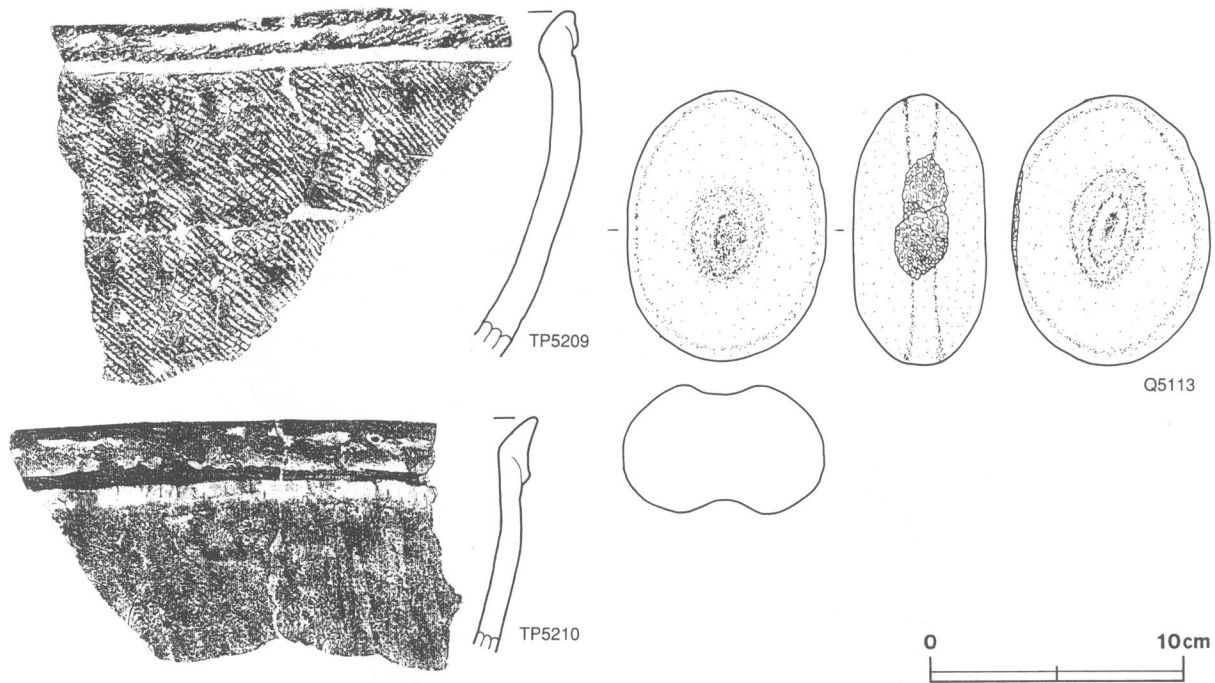
所見 本跡は，ミニチュア土器が2点出土していることに特徴がある。時期は，底面から出土している5244，5245などから中期前葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。



第294図 第1445号土坑・出土遺物実測図



第295图 第1445号土坑出土遺物実測図（1）



第296図 第1445号土坑出土遺物実測図(2)

第1445号土坑出土遺物観察表(第294~296図)

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5244	縄文土器	深鉢	[38.8]	50.3	[12.4]	口縁部は複数の結節沈線が沿う隆帯による区画文。胴部は隆帯で文様描出。地文はLの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	P L49
5245	縄文土器	深鉢	[27.0]	(12.8)	—	波頂部から隆帯によるY字状文が垂下。胴部上位に隆帯が巡る。地文はLの無節縄文。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	底面	
5246	縄文土器	ミニチュア	[7.8]	8.0	4.2	器面は無文でよく研磨。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	底面	内面輪積み痕
5247	縄文土器	ミニチュア	[3.4]	4.4	[3.0]	双耳状の突起を有する。沈線や結節沈線で文様を描出。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土	
TP5208	縄文土器	深鉢	—	(14.7)	—	胴部はRLの単節縄文を縦方向に、口唇部直下には横方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土	
TP5209	縄文土器	深鉢	—	(13.6)	—	口唇部直下を肥厚し、棒状工具による沈線が巡る。Lの無節縄文を縦方向に施文。	長石・雲母	普通	暗赤褐	底面	
TP5210	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	器面は無文でよく研磨。	長石・石英・雲母	普通	黒褐	底面	
TP5211	縄文土器	深鉢	—	(9.7)	—	口唇部直下に隆帯によるY字状文を描出。地文はLの無節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	底面	

番号	器種	計測値				材質	特徴	出土位置	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
Q5113	凹石	10.7	7.8	5.3	646.0	砂岩	両面にくぼみを有する。長軸方向の両側縁に敲打痕。	底面	P L61

第1449号土坑(第297図)

位置 調査2区の北部, C3i3区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1450号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部の平面形は、長径2.18m, 短径1.95m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で、平面形は長径2.38m, 短径2.20m程度のほぼ円形である。確認面からの深さは102cmである。壁は下位から中位

にかけて内傾して立ち上がり，中位から上位にかけてはほぼ直立する。西壁は崩落しているため外傾して立ち上がる。ピットは3か所で壁際に位置し，深さは，P1が43cm，P2が17cm，P3が41cmである。

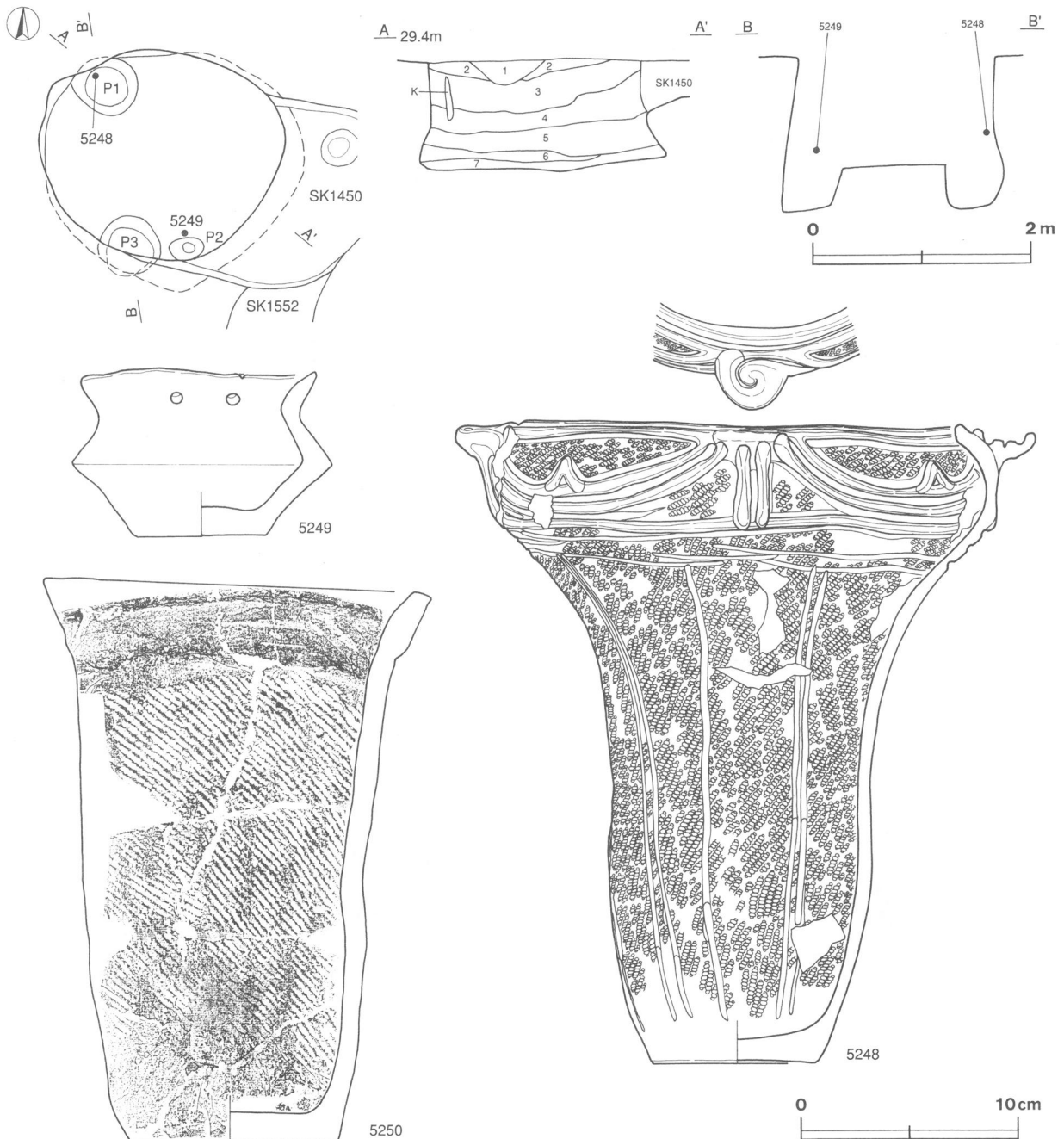
覆土 7層に分層される。全体的にロームブロックを多量に含んでいるが，堆積状況に乱れなどがないため自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|----------------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子・鹿沼バミスブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化物微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片352点が主に覆土下層から出土している。5248はほぼ完形の深鉢で，覆土下層の壁際から押しつぶされたような状態で横位で出土している。5249は鉢で，覆土下層から正位で出土している。

所見 時期は，覆土下層から出土している5248・5249などから中期後葉（加曾利E I式期）と考えられる。



第297図 第1449号土坑・出土遺物実測図

第1449号土坑出土遺物観察表（第297図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5248	縄文土器	深鉢	26.7	39.8	9.8	口縁部は2本の隆帯で文様描出。胴部は沈線により文様描出。LRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	橙	覆土下層	PL49
5249	縄文土器	鉢	10.5	7.7	6.0	対になる円孔を有す。器面は無文でよく研磨。	長石・石英・雲母	普通	赤	覆土下層	漆附着赤彩, PL48
5250	縄文土器	深鉢	[16.8]	25.9	9.4	口唇部直下無文。胴部はLRの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土	

第1455号土坑（第298～300図）

位置 調査2区の北部，C3h6区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1465号土坑に掘り込まれている。

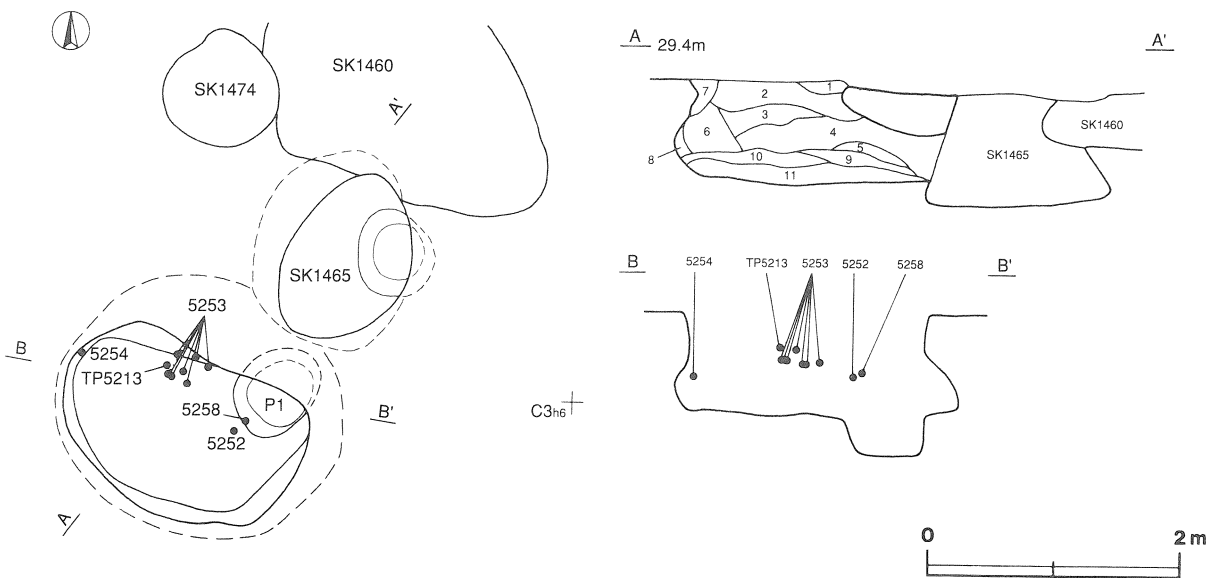
規模と形状 開口部の平面形は，長径1.98m，短径1.27m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.33m，短径1.97m程度の楕円形である。確認面からの深さは84cmである。壁は下位から上位にかけて内傾して立ち上がり，中位から上位にかけては外傾して立ち上がる。底面からくびれ部までの高さは平均42cmである。ピットは1か所で，P1の深さは28cmである。

覆土 11層に分層される。第11層はロームブロックを多量に含む褐色土で，西壁の崩落土と考えられる。第10層は焼土ブロックを多く含む暗赤褐色土で，焼土の性格は不明である。遺物が覆土中層から下層にかけて廃棄されたように出土していることと，不自然な堆積状況から，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。

土層解説

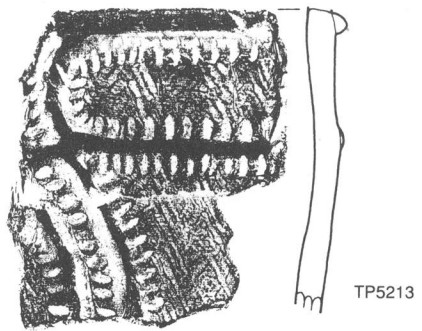
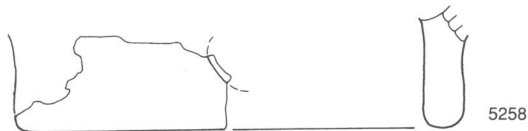
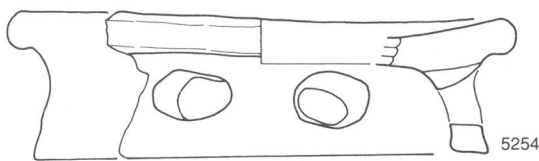
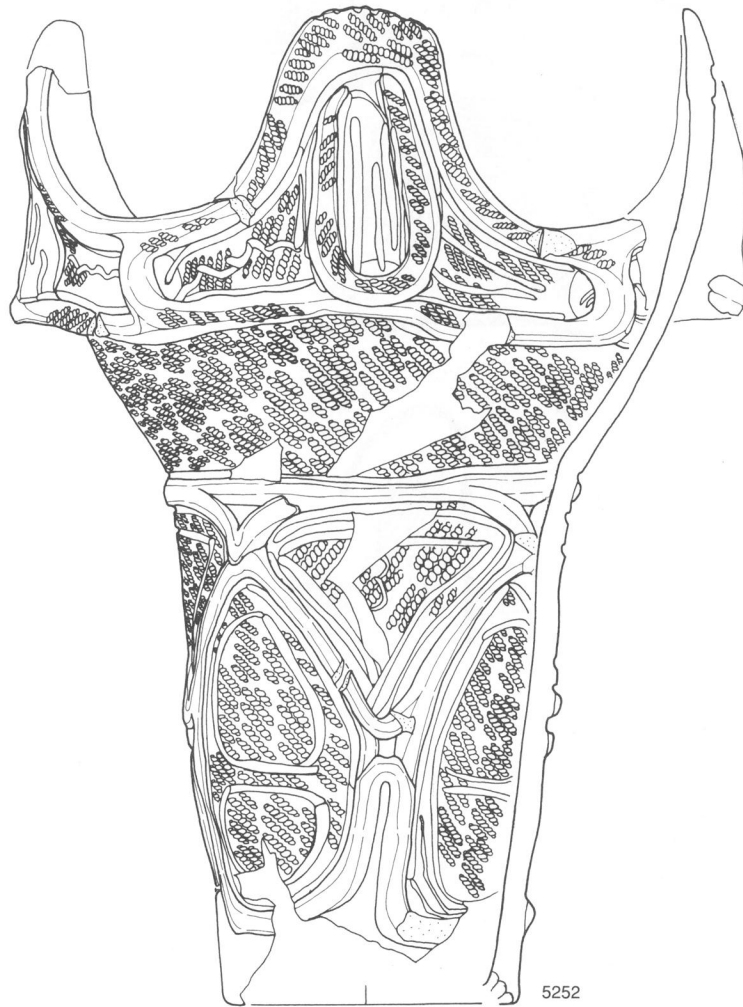
- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック中量，炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 10 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量，炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・炭化物微量 | 11 褐色 | ロームブロック多量，鹿沼バミスブロック少量 |
| 6 黒褐色 | ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片159点，剥片2点が覆土中層から下層にかけて廃棄された状態で出土している。5252は深鉢で，覆土下層から横位で出土している。5253は深鉢で，覆土中層から出土している。5254と5258の器台は，覆土下層から出土している。5254は，第1246号土坑の覆土中層から出土した5139と接合している。

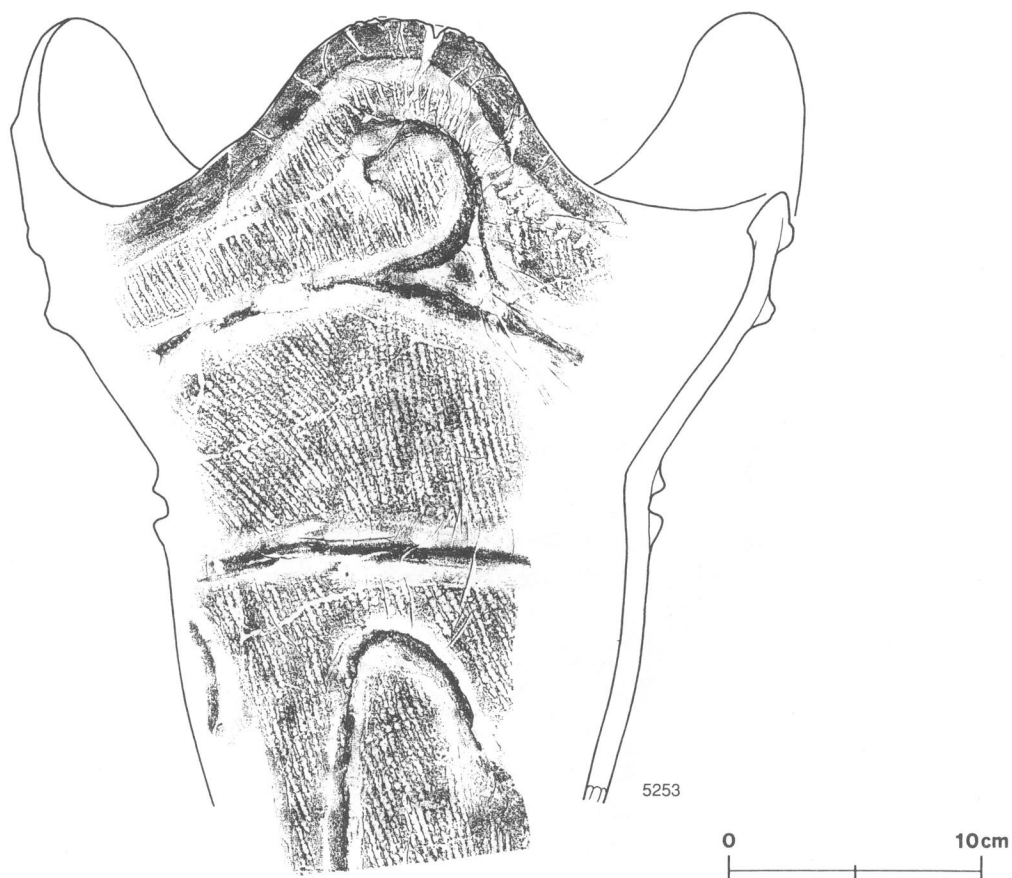


第298図 第1455号土坑実測図

所見 本跡は、器台が2点出土している点に特徴がある。遺物が覆土中層から出土していることから本跡が廃絶され、ある程度埋まりかけた時点で土器が廃棄されたと考えられる。そのため、時期を出土土器から判断することは困難であるが、覆土中層の堆積時期は、中期中葉（阿玉台Ⅲ～Ⅳ式期）と考えられる。



第299図 第1455号土坑出土遺物実測図（1）



第300図 第1455号土坑出土遺物実測図（2）

第1455号土坑出土遺物観察表（第299・300図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5252	縄文土器	深鉢	[25.4]	(39.1)	[11.3]	口縁部は沈線が沿う隆帯により文様描出。胴部はV字状文や区画文。LRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	明赤褐	覆土下層	P L 49
5253	縄文土器	深鉢	[32.5]	(31.2)	—	口縁部は隆帯による渦巻文・区画文内に縦位の集合沈線文。地文はLRの単節縄文。	長石・石英・雲母	普通	灰褐	覆土中層	
5254	縄文土器	器台	[19.0]	5.9	[17.8]	対になる円孔を有す。器面は無文でよく研磨。	長石・石英・雲母	普通	にぶい橙	覆土下層	P L 48
5258	縄文土器	器台	—	(4.7)	[17.6]	円孔を有す。	長石・石英・雲母	不良	にぶい赤褐	覆土下層	
TP5213	縄文土器	深鉢	—	(11.9)	—	口縁部は隆帯により区画文描出。隆帯に爪形文が沿う。地文はLの無節縄文。	長石・雲母	普通	褐	覆土中層	

第1459号土坑（第301図）

位置 調査2区の北部，C3g6区。住居跡群域に位置する。

重複関係 第1458・1460・1474号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，長径2.15m，短径1.85m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.12m，短径2.05m程度の円形である。確認面からの深さは106cmである。壁は掘り込まれているため不明瞭であるが，土層観察からは下位から上位にかけて内傾して立ち上がることが確認されている。くびれ部は存在しない。

覆土 4層に分層される。第4層はロームブロックを多量に含む暗褐色土で，開口部や壁などの崩落土と考え

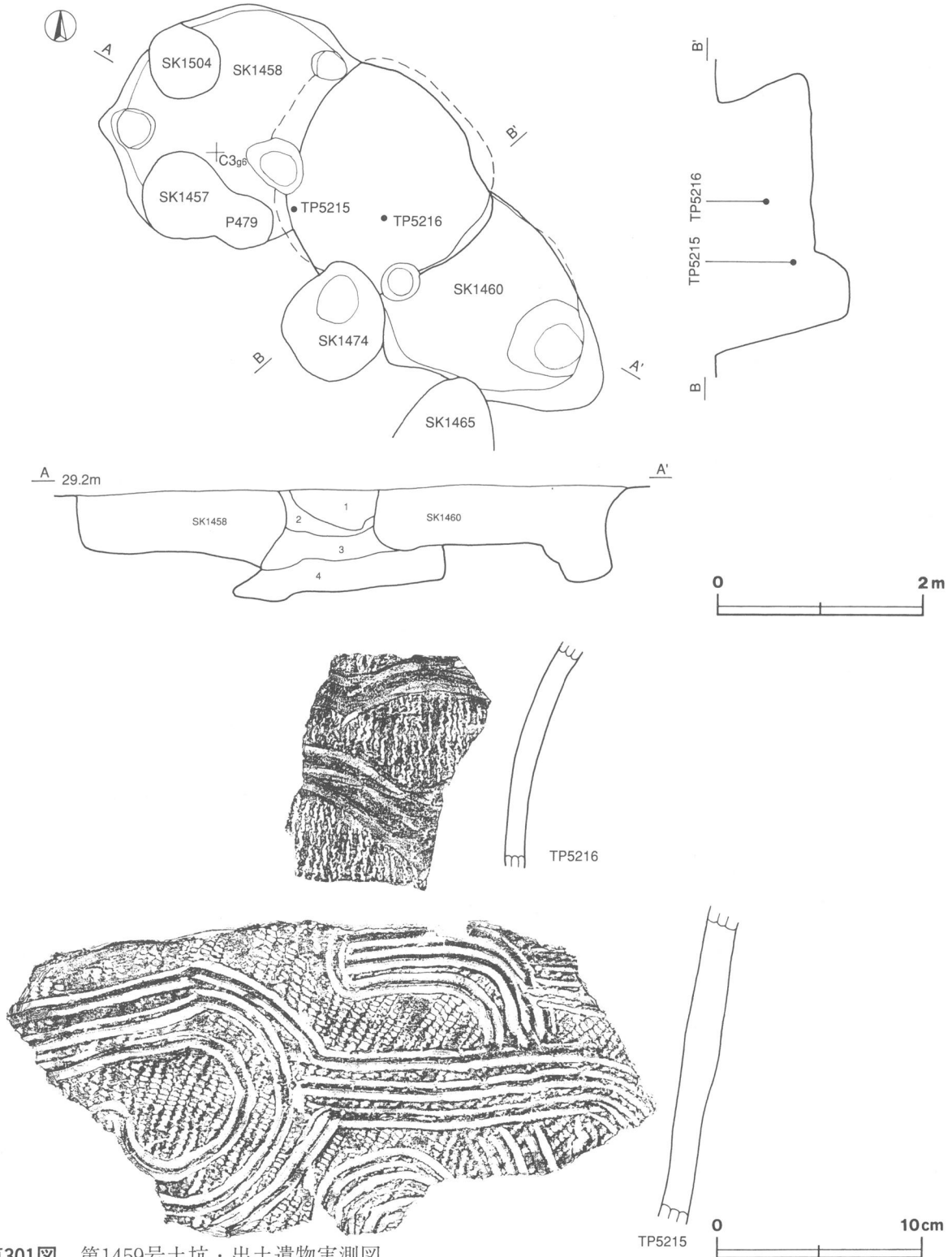
られる。第4層から上層は、堆積状況に乱れがないため自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------|-------|------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・炭化物微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化物少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片69点, 石皿1点が主に覆土中層から出土している。

所見 出土土器が少ないため, 時期を出土土器から判断することは困難であるが, 覆土中層の堆積時期は, 中期後葉(加曾利I~II式期)と考えられる。



第301図 第1459号土坑・出土遺物実測図

第1459号土坑出土遺物観察表（第301図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
TP5215	縄文土器	深鉢	—	(14.5)	—	胴部は半截竹管による平行沈線で文様描出。胴部にはR Lの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英・雲母	普通	にぶい黄橙	覆土下層	
TP5216	縄文土器	深鉢	—	(10.4)	—	胴部には波状沈線が巡る。地文は撚糸文を施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	スス付着

第1460号土坑（第302・303図）

位置 調査2区の北部，C3g6区。住居跡群の中に位置する。

重複関係 第1459・1465号土坑を掘り込み，第1474号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 開口部の平面形は，長径2.62m，短径1.92m程度の楕円形と推定される。底面はほぼ平坦で，平面形は長径2.08m，短径1.82m程度の楕円形である。確認面からの深さは56cmである。壁はほとんど外傾しているが，土層観察からは，下位から上位にかけて内傾して立ち上がることが確認されている。くびれ部は存在しない。ピットは2か所で，深さは，P1が38cm，P2が60cmである。

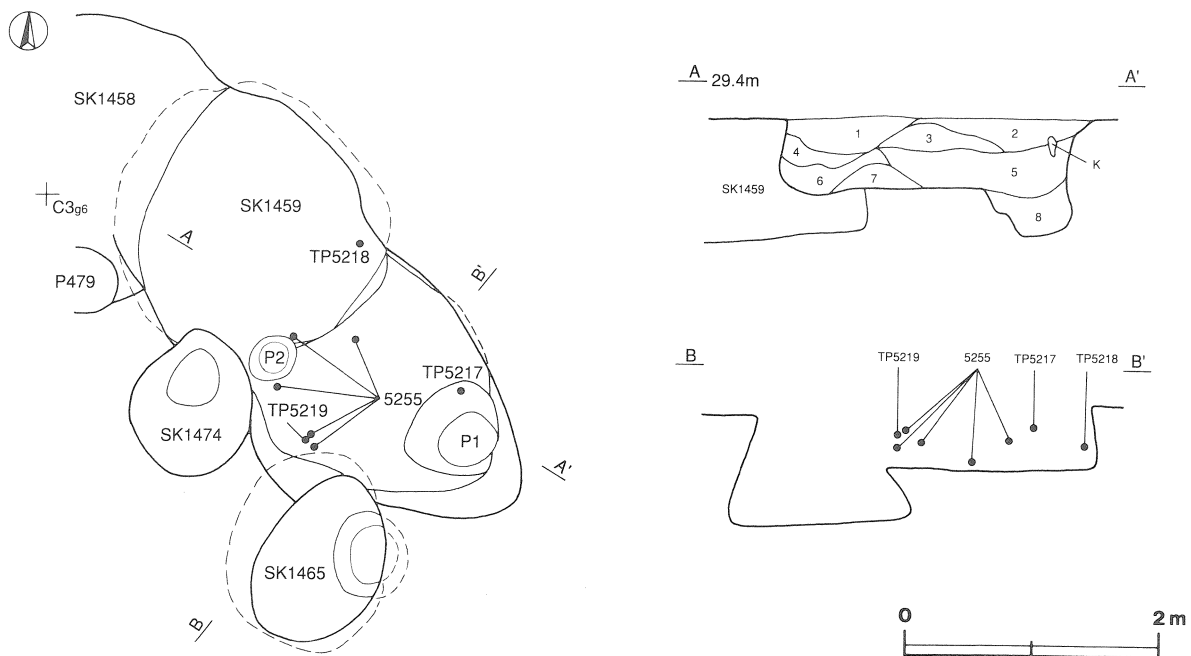
覆土 8層に分層される。第5・6層はロームブロックを多量に含む土層で，壁の崩落土と考えられる。遺物が廃棄されたような状態で満遍なく出土していることから，土器の廃棄活動に伴う人為堆積と考えられる。第8層はP1の覆土である。

土層解説

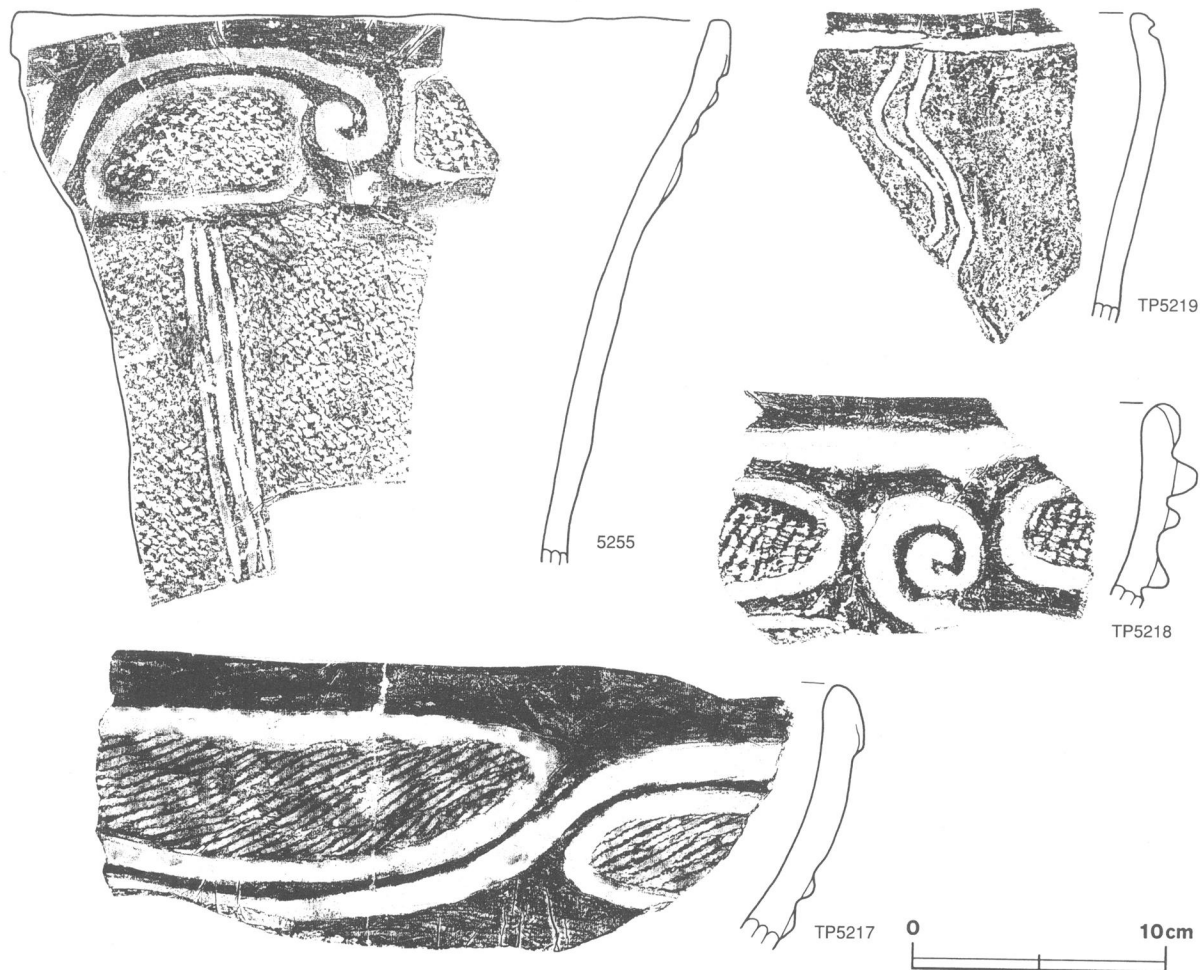
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 黒褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量 | 7 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量，炭化物微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック多量，炭化物微量 |

遺物出土状況 縄文土器片345点，剥片1点が，主に覆土中層から下層にかけて出土している。5255は深鉢で，覆土下層から中層にかけて出土している。

所見 時期は，覆土下層から中層にかけて出土している5255などから中期後葉（加曽利EⅡ式期）と考えられる。



第302図 第1460号土坑実測図



第303図 第1460号土坑出土遺物実測図

第1460号土坑出土遺物観察表（第303図）

番号	種別	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	文様の特徴	胎土	焼成	色調	出土位置	備考
5255	縄文土器	深鉢	[27.6]	(21.7)	—	口縁部は隆帯により渦巻文や区画文を描出。胴部は懸垂文。地文はLRLの複節縄文。	長石・石英	普通	にぶい橙	覆土下層	
TP5217	縄文土器	深鉢	—	(11.1)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯で文様を描出。区画内にはRLの単節縄文を横方向に施文。	長石・石英	普通	橙	覆土中層	
TP5218	縄文土器	深鉢	—	(8.1)	—	口縁部は沈線に沿う隆帯により渦巻文と区画文を描出。RLの単節縄文を縦方向に施文。	長石・石英	普通	にぶい赤褐	覆土下層	
TP5219	縄文土器	深鉢	—	(12.1)	—	口唇部直下に沈線が巡る。胴部には2本一組の波状沈線が垂下。	長石・石英	普通	暗赤褐	覆土中層	

茨城県教育財団文化財調査報告第240集

宮 後 遺 跡 2

やさしさのまち「桜の郷」整備事業
に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

上 巻

平成17(2005)年3月22日 印刷
平成17(2005)年3月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
T E L 029-225-6587

印刷 株式会社 イセブ
〒305-0005 茨城県つくば市天久保2丁目11-20
T E L 029-851-2515